

# 四街道市男女共同参画市民意識調査 報告書

平成30年3月

四 街 道 市



## 【目次】

<b>序. 調査の概要</b>	<b>1</b>
1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査項目	1
4. 回収率と回収サンプル数	1
5. 報告書を読む際の注意事項	2
6. 標本誤差について	2
7. 比較分析に使用した「内閣府男女共同参画社会に関する世論調査」の概要	3
<b>I. 調査結果</b>	<b>4</b>
1. 回答者属性	4
(1) 性別	4
(2) 年代	4
(3) 職業	5
(4) 性別×職業	5
(5) 配偶者等パートナー	6
2. 男女平等に対する考え方について	7
(1) 男女の地位の平等【問1】	7
①社会全体として	9
②家庭生活の中で	11
③職場で	13
④教育の中で	15
⑤政治の場で	17
⑥法律や制度の上で	19
⑦社会通念・慣習・しきたり等において	21
⑧区・自治会、PTAなどの地域活動の場で	23
(2) 男は仕事、女は家庭という考え方【問2】	24
3. 男女共同参画の取り組みについて	27
(1) 男女共同参画社会実現に対する評価について【問3 (1)】	27
(2) 男女共同参画社会の実現に必要なこと【問3 (2)】	29
4. ワーク・ライフ・バランスについて	31
(1) 「ワーク・ライフ・バランス」の認知【問4】	32
(2) 仕事・家庭・地域との関わり方【問5 (1)】	34
(3) 「家庭等の個人生活」のための時間【問5 (2)】	37
(4) 働きやすい環境づくり【問6】	39
(5) 家事等の分担【問7 (1) (2)】	41
①食事の支度・後片付け	45
②掃除・洗濯	47

③食料品・日用品等の買物	49
④不動産等高価な買物	51
⑤家計費の管理	53
⑥乳児・幼児の世話	55
⑦子どもの学校行事等への参加	57
⑧介護や看護を要する家族の世話	59
⑨自治会や地域活動への参加	61
⑩自治会や地域活動の役員、責任者	63
<b>5. 防災・災害復興対策について</b>	<b>65</b>
(1) 女性の視点での防災・災害復興対策【問8】	65
<b>6. 女性の就業のあり方や現状について</b>	<b>67</b>
(1) 女性の就業のあり方【問9】	67
①理想の働き方	69
②現実の働き方	70
③これからの女性の働き方	71
(2) 女性の就業のあり方の時系列比較	72
(3) 職場における性別による格差【問10】	73
<b>7. 子どもの性別による子育てのあり方について</b>	<b>76</b>
(1) 子どもの性別と子育てのあり方【問11】	76
①男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい	78
②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい	80
③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい	82
④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい	84
⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい	86
<b>8. 女性の人権について</b>	<b>88</b>
(1) 女性の人権が侵害されていると感じるとき【問12】	88
(2) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無【問13】	92
①不必要に身体を触られた	94
②交際や性的関係を迫られた	94
③交際や性的関係を拒否して、不当な扱いや嫌がらせを受けた	95
④宴会でお酌やデュエットを強要された	95
⑤ヌード写真等を故意に見せられた	96
⑥性的なうわさを流された	96
⑦しつこく容姿のことを言われた	97
⑧異性との交際関係や結婚、出産について度々聞かれた	97
⑨性的な冗談や会話につき合わされた	98
⑩メールに「かわいいね」や「食事に付き合っ」などが送られてきた	98

(3) ドメスティック・バイオレンス (DV) の経験の有無【問 14】	99
①精神的な暴力	100
②肉体的な暴力	101
③性的な暴力	102
④経済的な暴力	103
9. 男女共同参画に関する法律やことば等について	104
(1) 男女共同参画に関する法律やことば等の認知【問 15】	104
<b>II. その他意見・自由意見</b>	<b>107</b>
◆各設問のその他回答一覧	
問 3 (2) その他意見	107
問 6. その他意見	108
問 8. その他意見	108
問 9 ①その他意見	109
問 9 ②その他意見	109
問 9 ③その他意見	110
問 12. その他意見	111
◆自由意見	112
<b>【調査票】</b>	<b>120</b>



# 序. 調査の概要

## 1. 調査の目的

第3次四街道市男女共同参画推進計画の達成度を把握するとともに、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、今後の男女共同参画施策の参考とすることを目的とする。

## 2. 調査方法

- ・調査地域 : 四街道市全域
- ・調査対象 : 市内に居住する満18歳以上の男女(平成29年10月1日現在)
- ・対象者数 : 2,000人(男女各1,000人)
- ・抽出方法 : 住民基本台帳による無作為抽出
- ・調査方法 : 郵送配布・郵送回収法
- ・調査時期 : 平成29年10月27日～11月17日

## 3. 調査項目

- 男女平等に対する考え方について(問1～問2)
- 男女共同参画の取り組みについて(問3)
- ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について(問4～問7)
- 防災・災害復興対策について(問8)
- 女性の就業のあり方や現状について(問9～問10)
- 子供の性別による子育てのあり方について(問11)
- 女性の人権について(問12～問14)
- 男女共同参画に関する法律やことば等について(問15)

## 4. 回収率と回収サンプル数

- ・配布数 : 2,000人
- ・有効回答者数 : 868人
- ・有効回答率 : 43.4%

## 5. 報告書を読む際の注意事項

- ① アンケート集計は、各設問の単純集計と性別集計、性別×年代別（※設問により性別×配偶者を追加）のクロス集計を行った。
- ② 分析では、平成19年度、24年度に行った調査と共通の質問があるものについては経年比較を行った。（問1～問3（1）、問4、問5（1）、問5（2）、問7（1）、問7（2）、問9～問15）
- ③ 内閣府世論調査「男女共同参画社会に関する調査」（平成24年10月実施及び平成28年9月実施）の共通の質問があるものについては比較を行った。（問1、問2、問5（1）、問9）
- ④ 回収されたサンプルは性別と年代別の割合に偏りが見られる。そのため、全体値の見方に注意が必要である。
- ⑤ 表中の比率（％）は、全て回答者数を母数として算出しており、その都度表示している。表示は小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計値が100％にならない場合がある。
- ⑥ 複数回答は質問の特性上、回答者数を母数とし、比率を算出している。したがって、比率の合計値は100％にならない場合がある。

## 6. 標本誤差について

今回の無作為抽出法による調査の場合は、ここで出された数値（％）をそのまま18歳以上の全市民の回答として単純に置き換えると、多少の誤差が生じる。統計学的には、次式で標本誤差を計算して、18歳以上の全市民の回答を推測する。（信頼度95％）

図1 標本誤差の算定式

$$b = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差                      N = 母集団数 (77,869 人\*)  
n = 比率算出の基数              P = 回答比率

\*平成29年10月1日現在の18歳以上住民基本台帳人口

表1 今回の意識調査（n=868）における回答比率別標本誤差

回答比率	標本誤差
10%または90%	±2.0
20%または80%	±2.7
30%または70%	±3.1
40%または60%	±3.3
50%	±3.4



## 7. 比較分析に使用した「内閣府男女共同参画社会に関する世論調査」の概要

内閣府 男女共同参画社会に関する世論調査

### (1) 調査対象

- ① 母集団：全国18歳以上の日本国籍を有する者
- ② 標本数：5,000人
- ③ 抽出方法：層化2段無作為抽出法

### (2) 調査時期

平成28年8月25日～9月11日

### (3) 調査方法

調査員による個別面接聴取法

### (4) 回収結果

- ①有効回収数（率）：3,059人（61.2%）
- ②調査不能数（率）：1,941人（38.8%）

# I. 調査結果

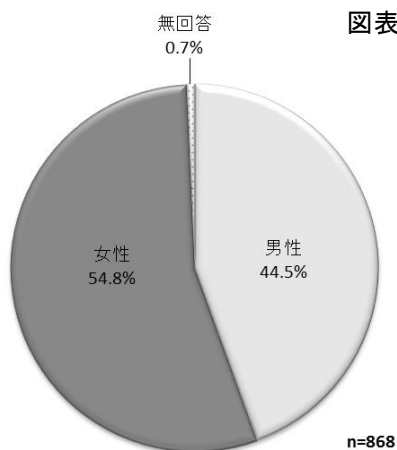
## 1. 回答者属性

有効回収数は868票であり、集計分析に十分な数の回答が得られた。

回収されたサンプルは性別では女性が54.8%となっている。年代別では60歳代以上で48.5%となっており、年代の偏りがみられた。

### (1) 性別

回答者の性別は、男性が44.5%（386人）に対し、女性が54.8%（476人）となっている。

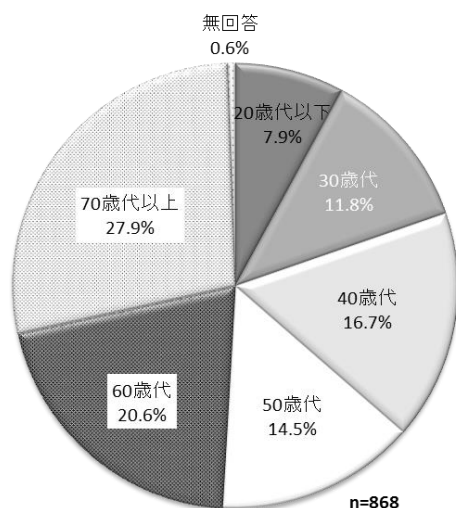


図表 1-1 回答者の性別

性別	回答数(件)	構成比
男性	386	44.5%
女性	476	54.8%
無回答	6	0.7%
サンプル数(n)	868	100.0%

### (2) 年代

回答者の年代は、70歳代以上が27.9%（242人）と最も多く、次いで60歳代の20.6%（179人）であり、60歳以上でほぼ半数を占めている。20歳代以下が7.9%（69人）と最も少なかった。



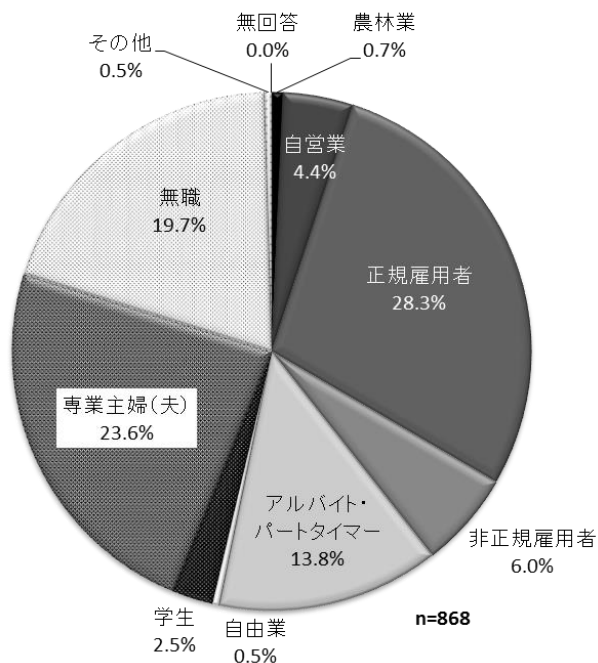
図表 1-2 回答者の年代

年代	回答数(件)	構成比
20歳代以下	69	7.9%
30歳代	102	11.8%
40歳代	145	16.7%
50歳代	126	14.5%
60歳代	179	20.6%
70歳代以上	242	27.9%
無回答	5	0.6%
サンプル数(n)	868	100.0%

(3) 職業

回答者の職業は、正規雇用者が 28.3% (246 人) と最も多く、専業主婦 (夫) 23.6% (205 人)、無職 19.7% (171 人) と続き、約 7 割を占めている。他に、アルバイト・パートタイマーが 13.8% (120 人) などとなっている。

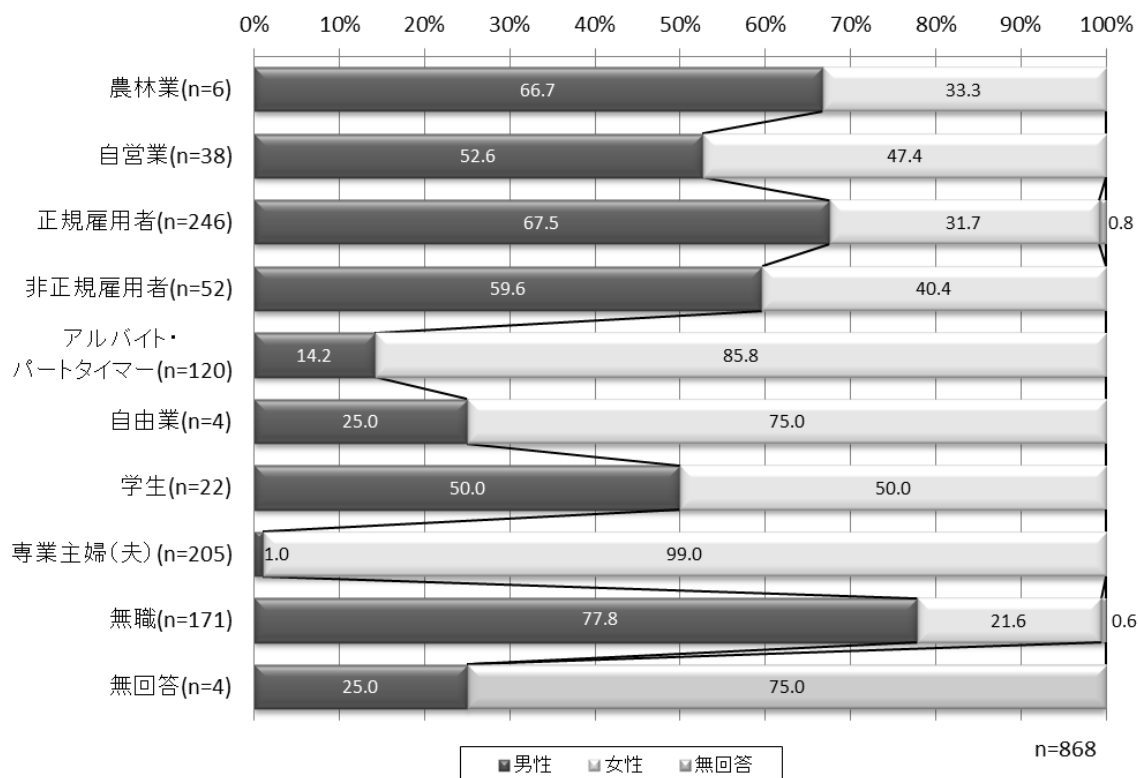
図表 1-3 回答者の職業



職業	回答数(件)	構成比
農林業	6	0.7%
自営業	38	4.4%
正規雇用者	246	28.3%
非正規雇用者	52	6.0%
アルバイト・パートタイマー	120	13.8%
自由業	4	0.5%
学生	22	2.5%
専業主婦(夫)	205	23.6%
無職	171	19.7%
その他	4	0.5%
無回答	0	0.0%
サンプル数(n)	868	100.0%

(4) 性別×職業

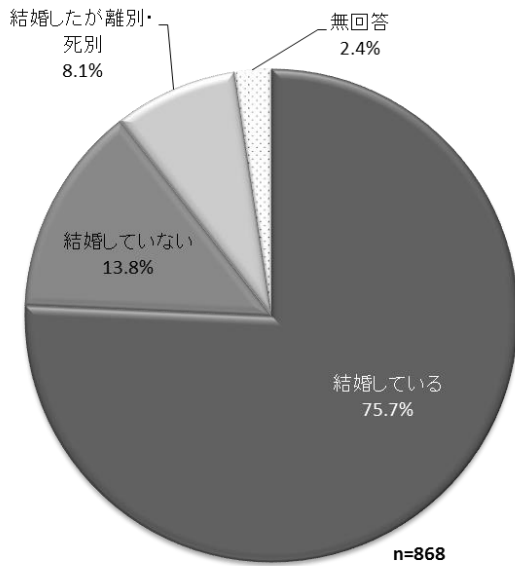
図表 1-4 回答者の性別・職業



(5) 配偶者等パートナー

回答者の婚姻等の状況は、結婚している（パートナーあり）が、75.7%（657人）と最も多くなっている。

図表 1-5 回答者の配偶者等パートナーの状況



配偶者	回答数(件)	構成比
結婚している	657	75.7%
結婚していない	120	13.8%
結婚したが離別・死別	70	8.1%
無回答	21	2.4%
サンプル数(n)	868	100.0%

## 2. 男女平等に対する考え方について

- ・【問1】それぞれの場面において男女の地位は平等になっていると思いますか。
- ・【問2】「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。

### 要約

男女の地位の平等に対する考え方として、多くの場面で未だに男性が優遇されていると回答した人の割合が高い状況にあり、調査した①から⑧の項目の分野で、「平等」と感じる人の割合が過半数となったのは「④教育の中で」のみであった。

また、「②家庭生活の中で」において、「平等」の割合が比較的高く、経年で徐々に割合が高くなっている。

一方、「男は仕事、女は家庭」については、『否定的（＝どちらかといえば反対＋反対）』が、『肯定的（＝賛成＋どちらかといえば賛成）』を上回っているが、年代を問わず「どちらともいえない」を選択した人が最も多くなっている。

### (1) 男女の地位の平等

【問1】それぞれの場面において男女の地位は平等になっていると思いますか...

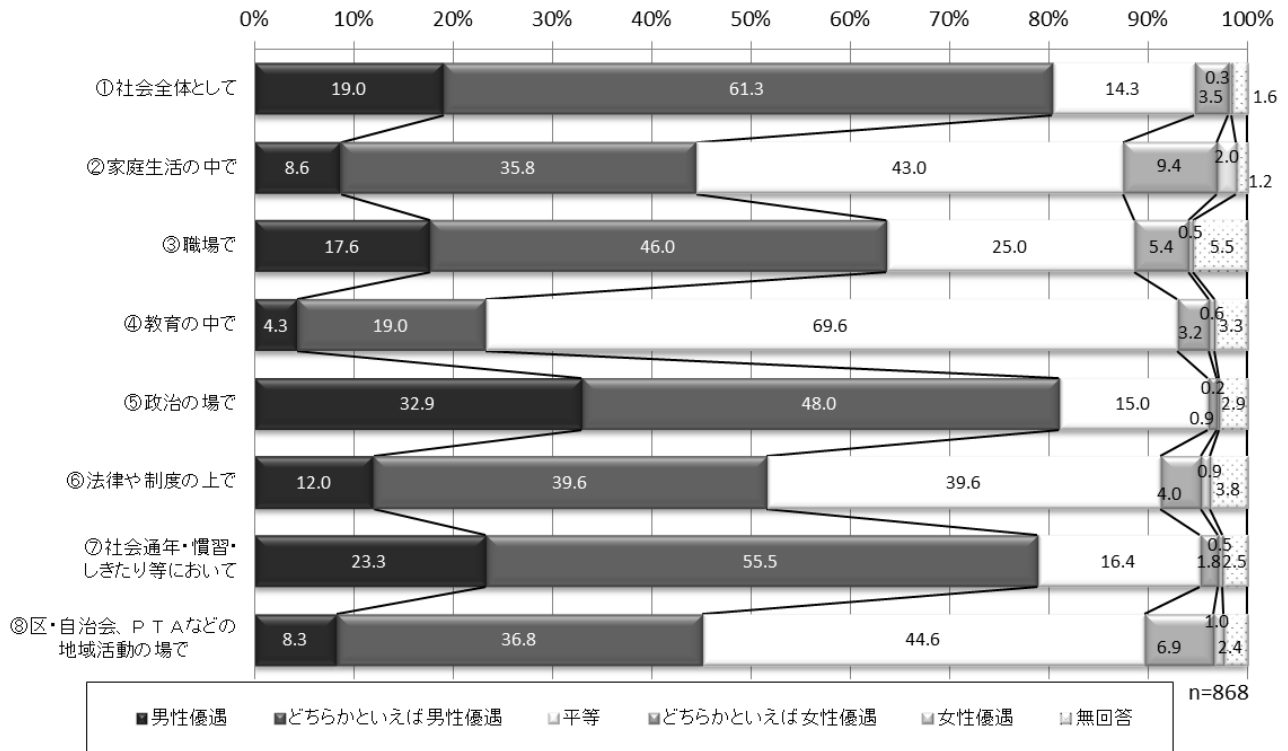
調査した①から⑧の項目すべてにおいて、『男性の方が優遇されている（＝男性優遇＋どちらかといえば男性優遇）』と回答した人の割合が、『女性の方が優遇されている（＝女性優遇＋どちらかといえば女性優遇）』という回答を上回っている。また、8つの項目のうち、男女の地位が「平等」と回答した人の割合は、「④教育の中で」（69.6%）が最も高く、次いで「⑧区・自治会、PTAなど地域活動の場で」（44.6%）、「②家庭生活の中で」（43.0%）となっている。

性別では、①から⑧の項目すべてにおいて、男性が優遇されていると回答したのは男性よりも女性に多い傾向がみられた。

一方、年代別では、概ね年代が高くなるにつれて、男性が優遇されていると回答した人の割合が高くなっている。

経年比較すると、「②家庭生活の中で」において「平等」と感じる人の割合が徐々に高くなっている。また、「④教育の中で」において、前回調査（平成24年度）より3.6ポイント高く69.6%となっている。

図表 2-1 男女の地位の平等について（全体）



※「④教育の中で」は、前回調査までは「学校教育の場で」として調査

場面	項目	男性優遇	どちらかといえば男性優遇	平等	どちらかといえば女性優遇	女性優遇	無回答	サンプル数(n)
①社会全体として	回答数(件)	165	532	124	30	3	14	868
	構成比	19.0%	61.3%	14.3%	3.5%	0.3%	1.6%	100.0%
②家庭生活の中で	回答数(件)	75	311	373	82	17	10	868
	構成比	8.6%	35.8%	43.0%	9.4%	2.0%	1.2%	100.0%
③職場で	回答数(件)	153	399	217	47	4	48	868
	構成比	17.6%	46.0%	25.0%	5.4%	0.5%	5.5%	100.0%
④教育の中で	回答数(件)	37	165	604	28	5	29	868
	構成比	4.3%	19.0%	69.6%	3.2%	0.6%	3.3%	100.0%
⑤政治の場で	回答数(件)	286	417	130	8	2	25	868
	構成比	32.9%	48.0%	15.0%	0.9%	0.2%	2.9%	100.0%
⑥法律や制度の上で	回答数(件)	104	344	344	35	8	33	868
	構成比	12.0%	39.6%	39.6%	4.0%	0.9%	3.8%	100.0%
⑦社会通年・慣習・しきたり等において	回答数(件)	202	482	142	16	4	22	868
	構成比	23.3%	55.5%	16.4%	1.8%	0.5%	2.5%	100.0%
⑧区・自治会、PTAなどの地域活動の場で	回答数(件)	72	319	387	60	9	21	868
	構成比	8.3%	36.8%	44.6%	6.9%	1.0%	2.4%	100.0%

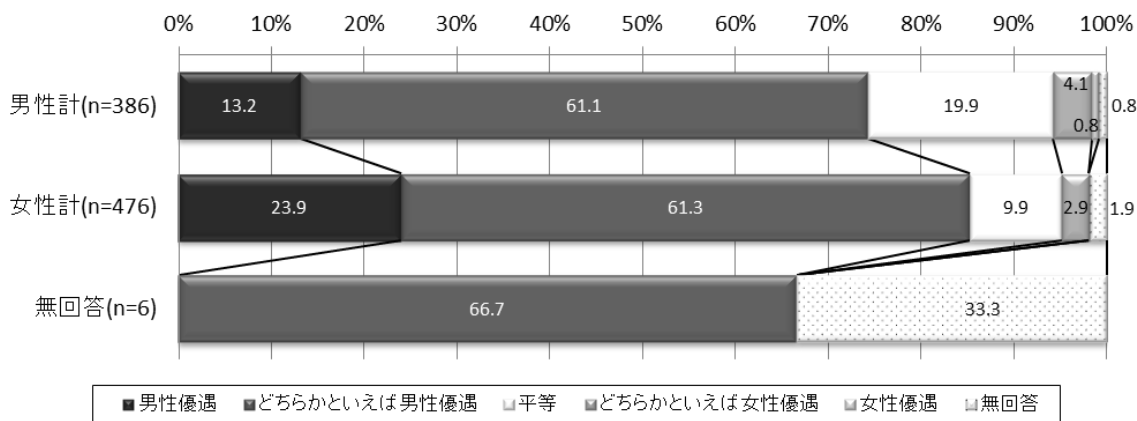
①社会全体として

社会全体の男女平等意識では、『男性の方が優遇されている』が80.3%と高く、『女性の方が優遇されている』の3.8%を大幅に上回っている。一方、「平等」は14.3%となっている。

1) 性別

性別では、『男性の方が優遇されている』と回答した人の割合が男女ともに高く、男性は74.3%、女性は85.2%で、女性が10.9ポイント高くなっている。

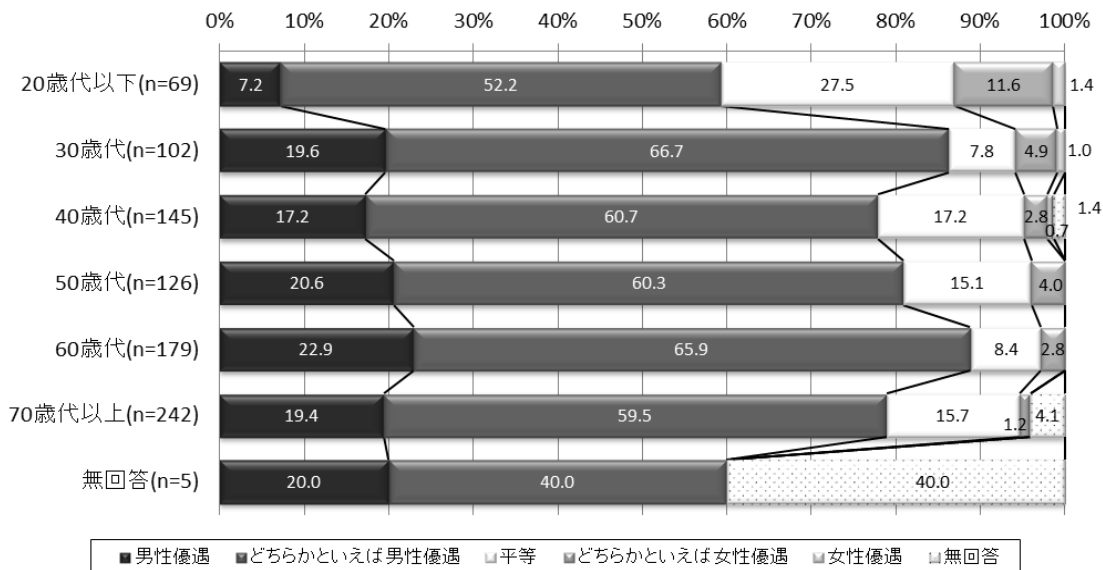
図表 2-2 ①社会全体として（性別）



2) 年代別

年代別では、『男性の方が優遇されている』と回答した人の割合は、30歳代が86.3%、60歳代が88.8%と他の年代と比べて高くなっているが、20歳代以下では59.4%となっている。また、20歳代以下では、「平等」が27.5%であり、他の年代と比べて高くなっている。

図表 2-3 ①社会全体として（年代別）

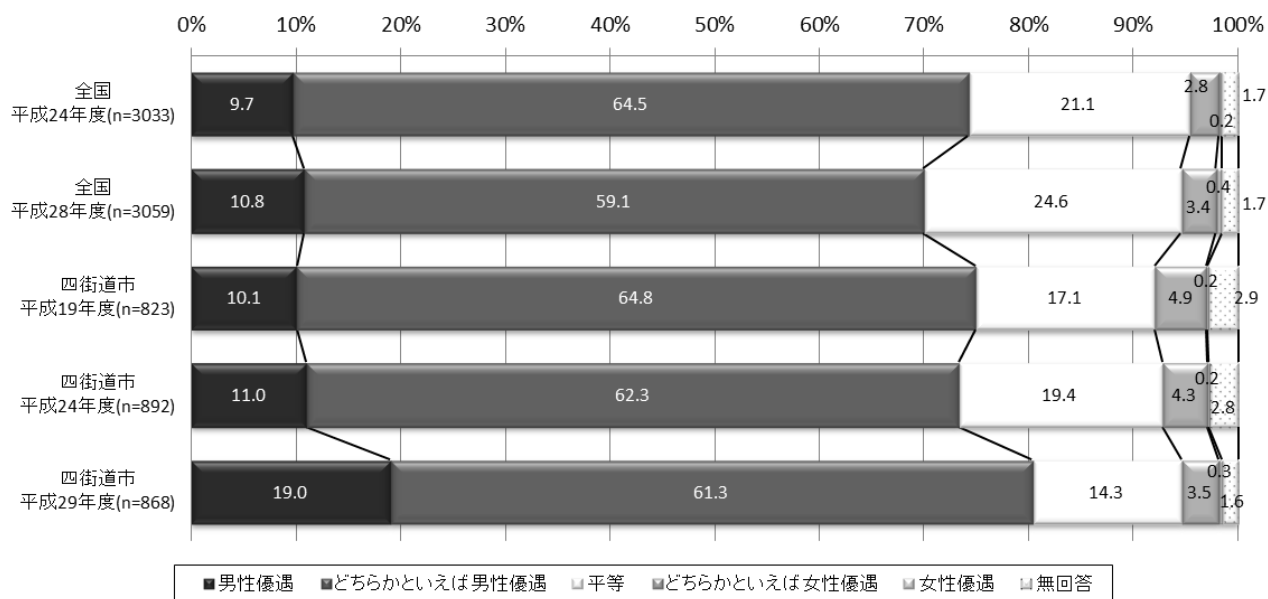


### 3) 経年比較

前回調査（平成 24 年度）と比較すると、「男性優遇」が 8.0 ポイント増加し、19.0%となっている。また、「平等」と回答した人の割合は 5.1 ポイント減少し、14.3%となっている。

全国調査（平成 28 年度）と比較すると、『男性が優遇されている』が 10.4 ポイント高くなっている。

図表 2-4 ①社会全体として（経年比較）



※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したものである。



## ②家庭生活の中で

家庭生活の中での男女平等意識では、『男性の方が優遇されている（男性優遇 8.6%+どちらかといえば男性優遇 35.8%）』が 44.4%となっている。

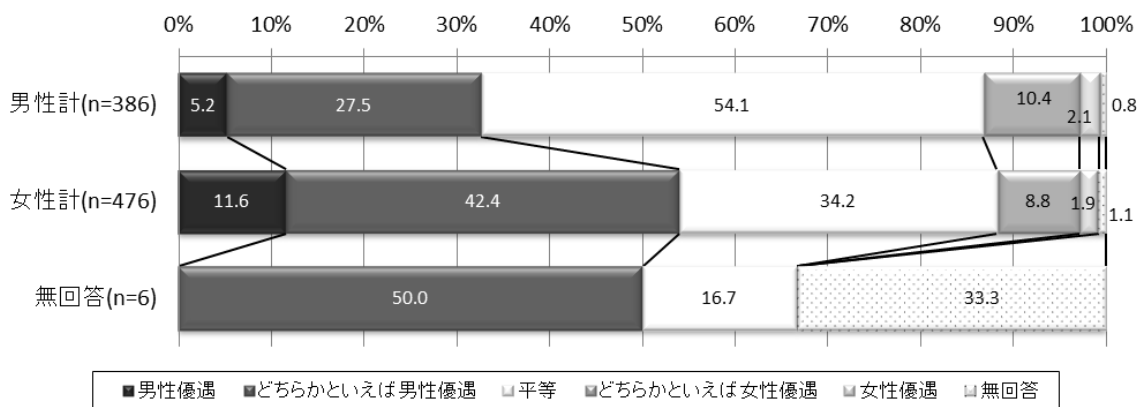
一方で、『女性の方が優遇されている（女性優遇 2.0%+どちらかといえば女性優遇 9.4%）』が 11.4%となっている。

また、「平等」は 43.0%となっており、構成比の中で最も高くなっている。

### 1) 性別

性別では、『男性の方が優遇されている』と回答した人の割合は、男性 32.7%に対し、女性では 54.0%と半数を超えている。一方、「平等」では男性が 54.1%と半数を超えているが、女性は 34.2%となっており、19.9ポイント低くなっている。

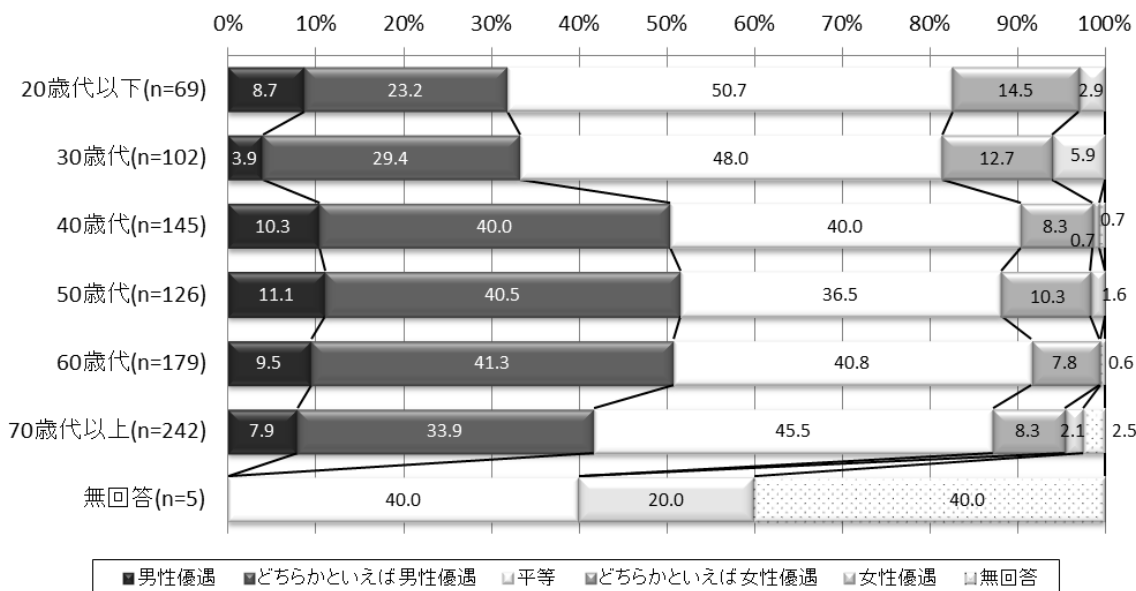
図表 2-5 ②家庭生活の中で（性別）



### 2) 年代別

年代別では、30歳代以下は『男性の方が優遇されている』と回答した人の割合は 33.3%であるが、40歳代から 60歳代においては 50%を超えている。一方、「平等」が 30歳代以下で 50%程度となっているのに対し、40歳代から 60歳代では 40%程度にとどまっている。

図表 2-6 ②家庭生活の中で（年代別）

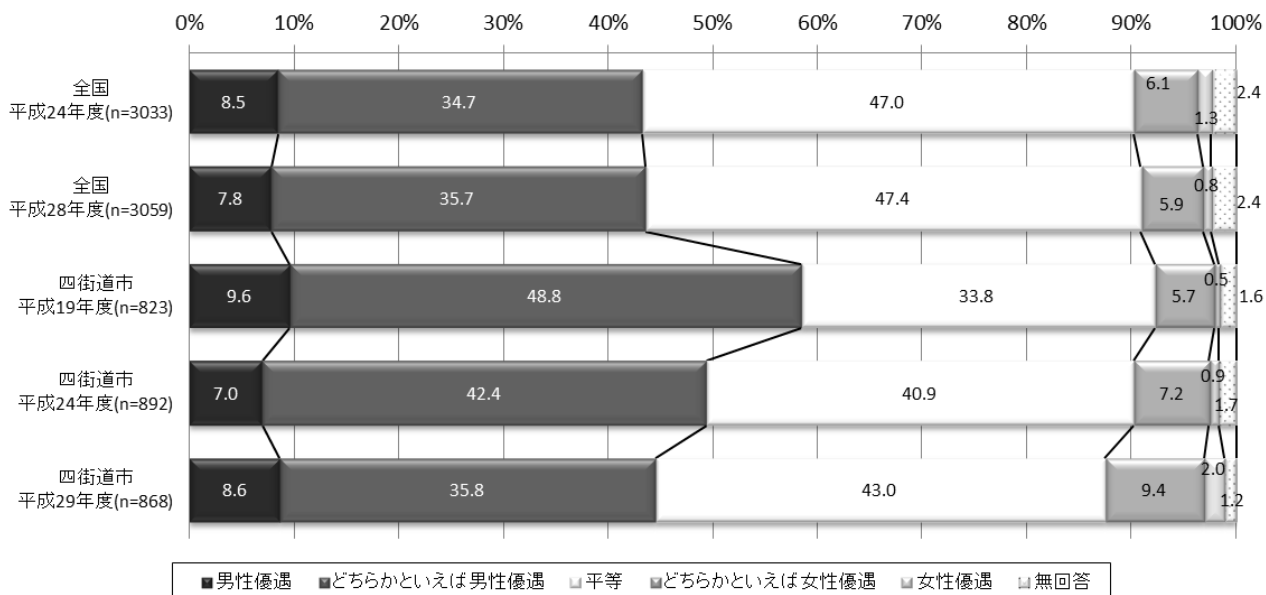


### 3) 経年比較

経年比較では、前々回調査（平成 19 年度）から徐々に『男性の方が優遇されている』と感じる人の割合が減少し、「平等」と感じる人が増加している。

全国調査（平成 28 年度）と比較しても、『男性が優遇されている』と感じる人の割合に差は見られなかった。

図表 2-7 ②家庭生活の中で（経年比較）



※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したものである。

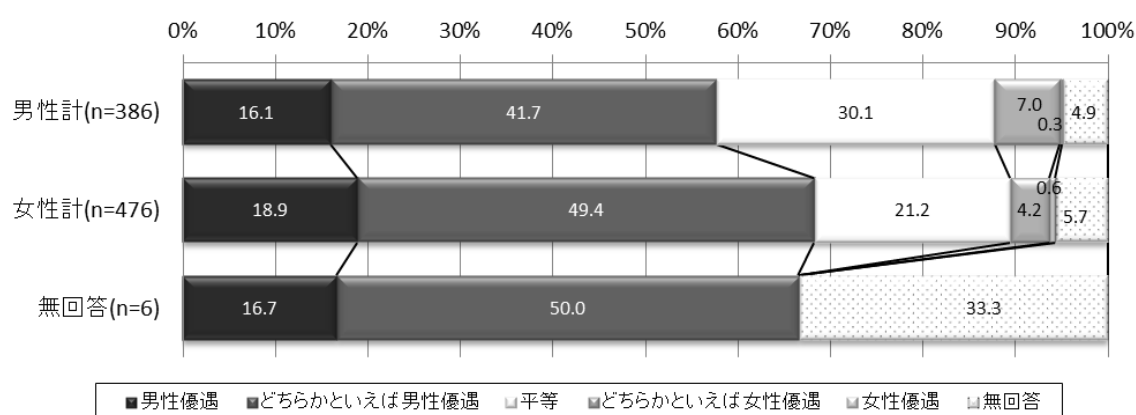
### ③職場で

職場での男女平等意識では、『男性の方が優遇されている（男性優遇 17.6%+どちらかといえば男性優遇 46.0%）』が 63.6%と高く、『女性の方が優遇されている（女性優遇 0.5%+どちらかといえば女性優遇 5.4%）』の 5.9%を大幅に上回っている。一方、「平等」は 25.0%となっている。

#### 1) 性別

性別では、『男性の方が優遇されている』と回答した人の割合は、男性で 57.8%となっているが、女性では 68.3%と 10.5 ポイント上回っている。一方、「平等」と考える人の割合は、男性が 30.1%、女性は 21.2%となっている。

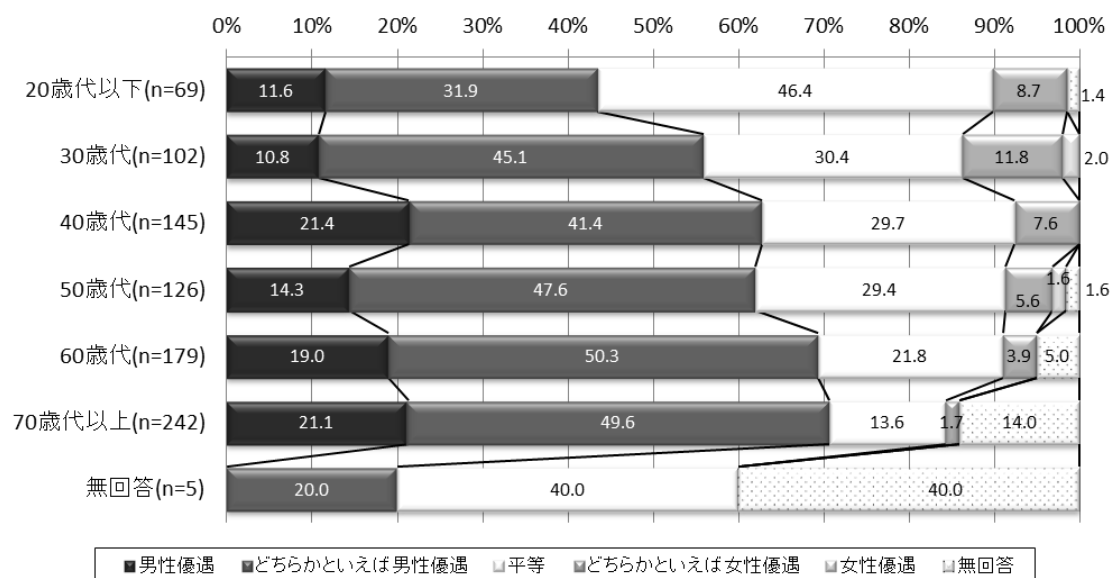
図表 2-8 ③ 職場で（性別）



#### 2) 年代別

年代別では、年代が高くなるにつれて、『男性の方が優遇されている』と回答した人の割合が高くなる傾向がみられ、20 歳代以下で 43.5%であるのに対し、70 歳代以上では 27.2 ポイント高い 70.7%となっている。一方、「平等」と考える人の割合は、年代が高くなるにつれて低くなっており、20 歳代以下で 46.4%であるのに対し、70 歳代以上では 32.8 ポイントも低い 13.6%となっている。

図表 2-9 ③ 職場で（年代別）

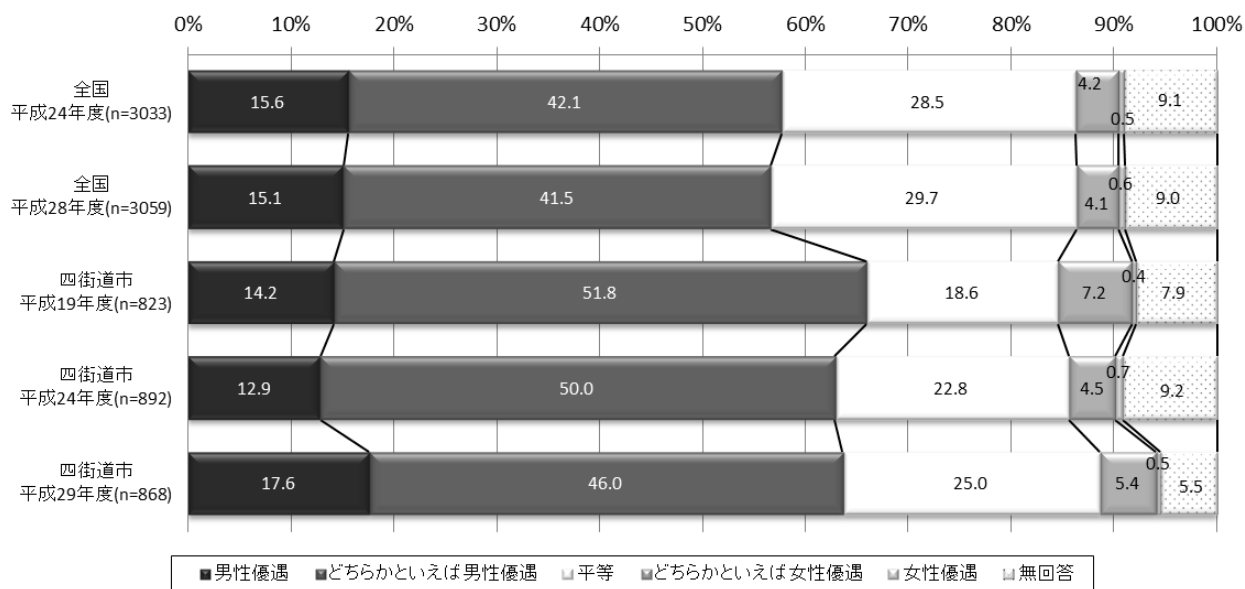


### 3) 経年比較

経年比較では、前々回調査（平成 19 年度）から徐々に「平等」と感じる人の割合が高くなっており、全国調査においても同様の傾向がみられる。

一方、全国調査（平成 28 年度）と比較すると、『男性が優遇されている』が 7.0 ポイント高い 63.6% となっている。

図表 2-10 ③職場で（経年比較）



※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したものである。

④教育の中で

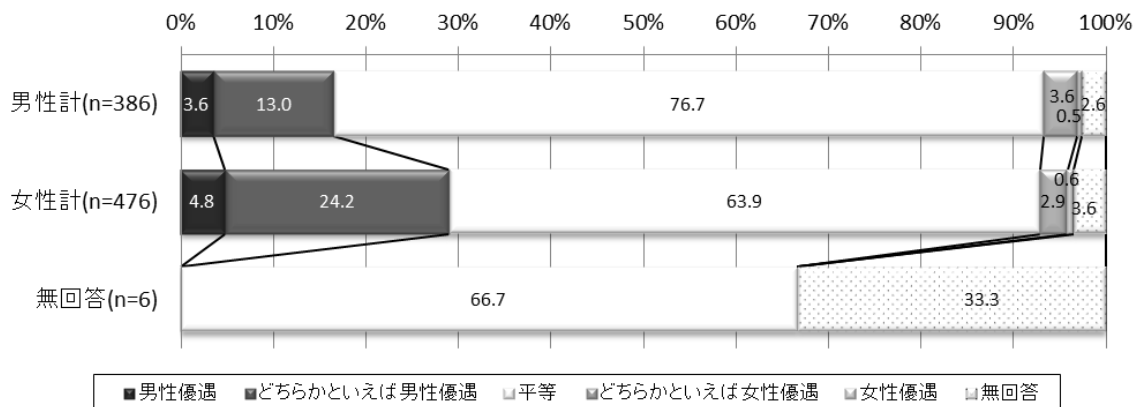
教育の中での男女平等意識では、「平等」という意識が 69.6%と、調査した①から⑧の 8 項目のうち、最も高くなっている。

また、『男性の方が優遇されている（男性優遇 4.3%+どちらかといえば男性優遇 19.0%）』と回答した人の割合は 23.3%と調査 8 項目のうち最も低くなっている。

1) 性別

性別では、「平等」と回答した人の割合は、男性が 76.7%、女性は 63.9%となっており、男性が 12.8 ポイント高くなっている。『男性の方が優遇されている』と回答した人の割合は、男性が 16.6%に対し、女性では 29.0%となっている。

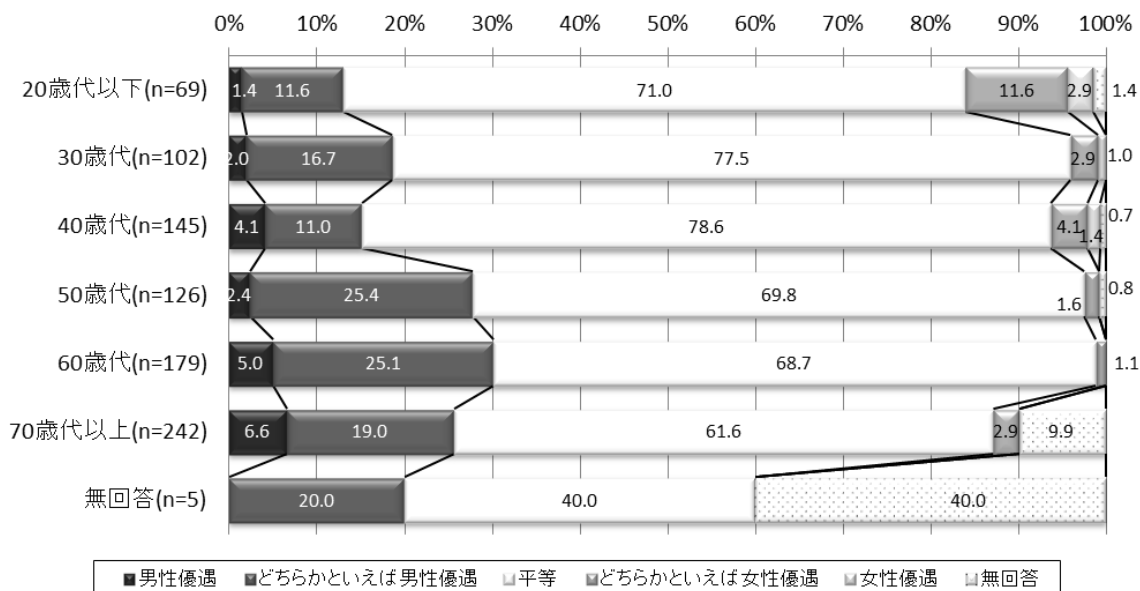
図表 2-1 1 ④教育の中で（性別）



2) 年代別

年代別では、「平等」と回答した人の割合は、40 歳代で最も高い 78.6%となっており、最も低い 70 歳代でも 61.6%と高くなっている。

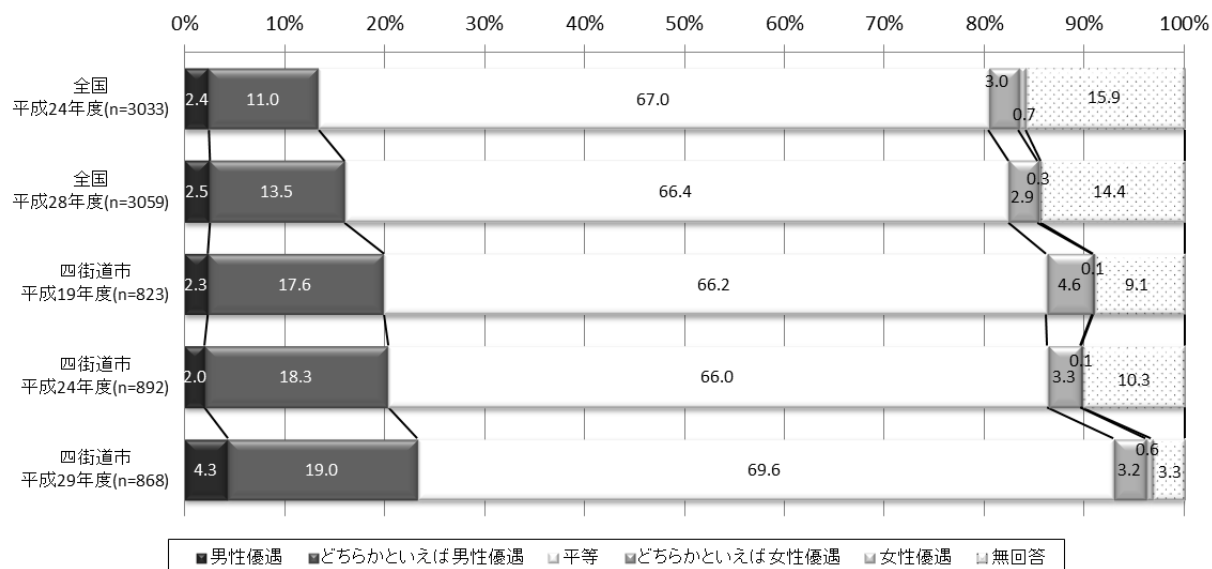
図表 2-1 2 ④教育の中で（年代別）



### 3) 経年比較

経年比較では、前回調査（平成 24 年度）と比較すると、「平等」と回答した人の割合は 3.6 ポイント増加して 69.6% となっており、また、全国調査（平成 28 年度）と比較しても、「平等」と回答した人の割合は 3.2 ポイント高くなっている。

図表 2-13 ④教育の中で（経年比較）



※内閣府が実施した全国平成 24 年度調査・平成 28 年度調査では、「学校教育の場」、四街道市平成 24 年度調査では、「学校教育の場で」として調査

※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したものである。

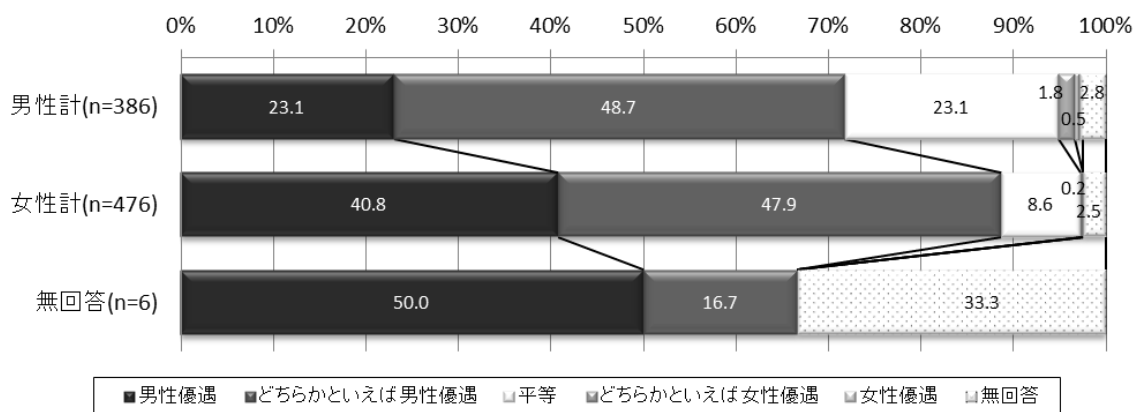
⑤政治の場で

政治の場での男女平等意識では、『男性の方が優遇されている（男性優遇 32.9%+どちらかといえば男性優遇 48.0%）』が 80.9%と調査 8 項目で最も高く、『女性の方が優遇されている（女性優遇 0.2%+どちらかといえば女性優遇 0.9%）』は 1.1%と大幅に下回っている。一方、「平等」と回答した人の割合は 15.0%となっている。

1) 性別

性別では、『男性の方が優遇されている』と回答した人の割合は、男性で 71.8%、女性では 88.7%となっており、女性が 16.9 ポイント高くなっている。また、「平等」と回答した人の割合は男性で 23.1%、女性では 8.6%と低くなっている。

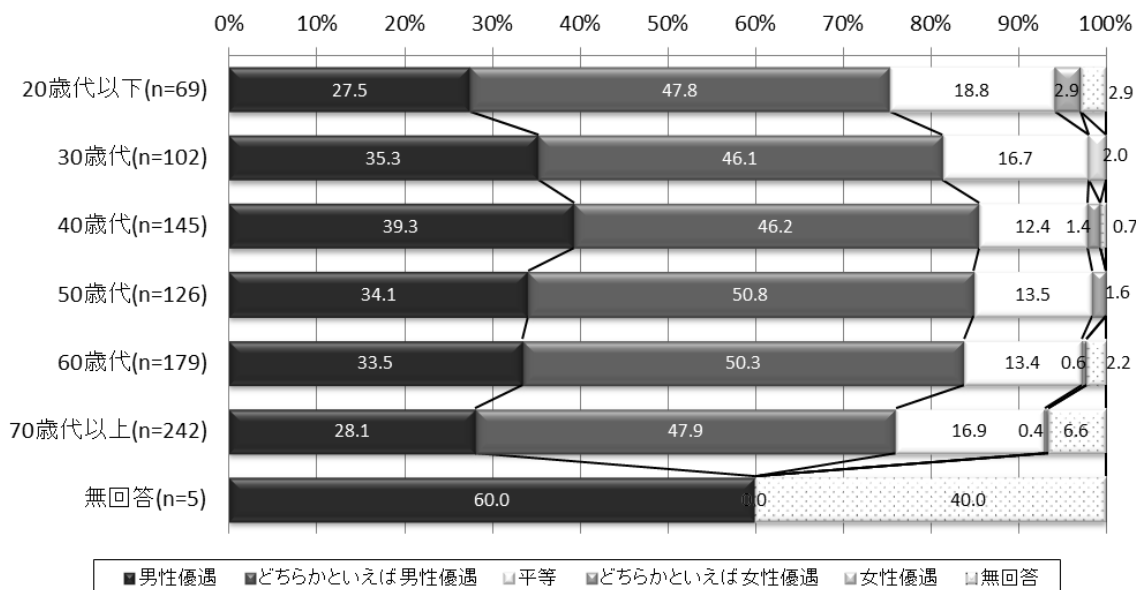
図表 2-14 ⑤政治の場で（性別）



2) 年代別

年代別では、ほぼどの年代においても『男性の方が優遇されている』が 80%前後と高くなっている。

図表 2-15 ⑤政治の場で（年代別）

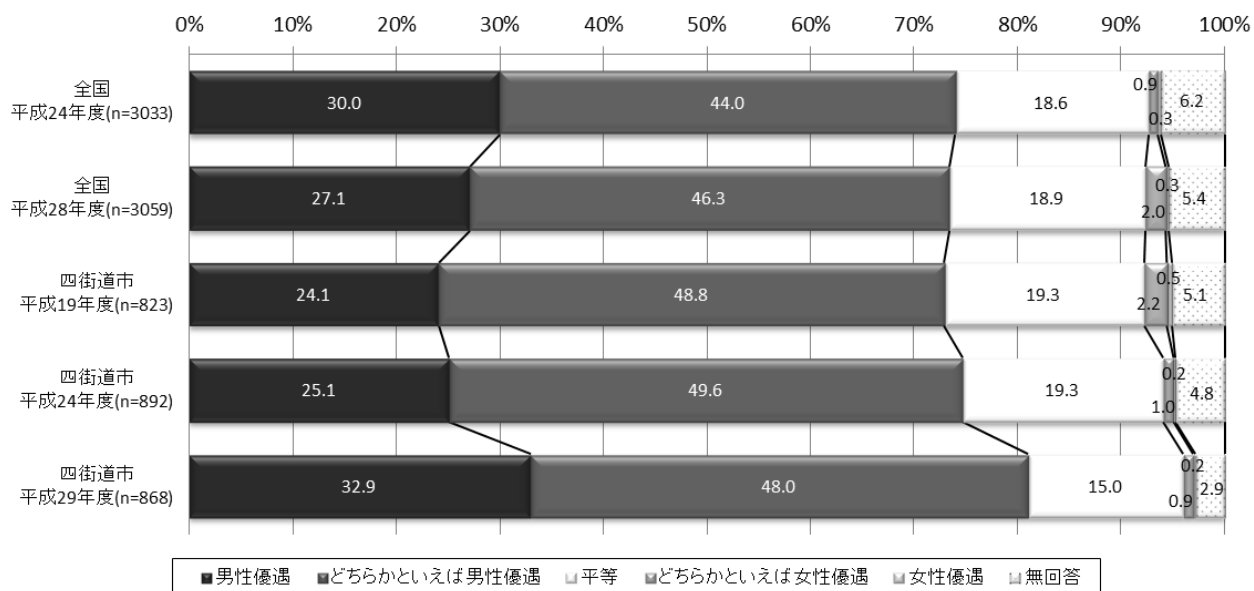


### 3) 経年比較

経年比較では、前回調査（平成 24 年度）と比較すると、『男性の方が優遇されている』が 7.8 ポイント増加し、32.9%となっており、今回調査において高くなっている。

また、全国調査（平成 28 年度）と比較すると、「男性優遇」が 5.8 ポイント高くなっている。

図表 2-16 ⑤政治の場で（経年比較）



※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したものである。



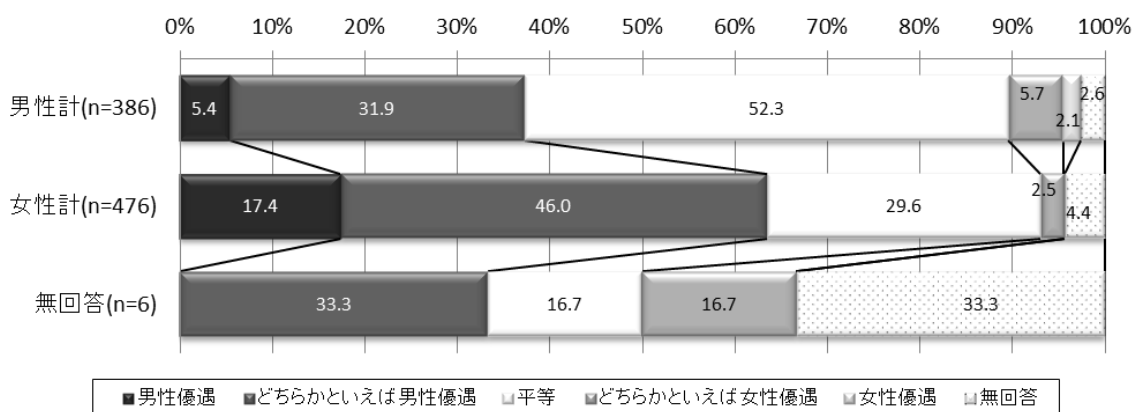
⑥法律や制度の上で

法律や制度の上での男女平等意識では、『男性の方が優遇されている（男性優遇 12.0%+どちらかといえば男性優遇 39.6%）』は 51.6%、「平等」は 39.6%、『女性の方が優遇されている（女性優遇 0.9%+どちらかといえば女性優遇 4.0%）』は 4.9%となっている。

1) 性別

性別では、「平等」と回答した人の割合は、男性は 52.3%と過半数を占めているが、女性は 29.6%と男性に比べて 22.7 ポイント低くなっている。『男性の方が優遇されている』と回答した人の割合が、男性が 37.3%に対し、女性では男性より 26.1 ポイント高い 63.4%と高くなっている。

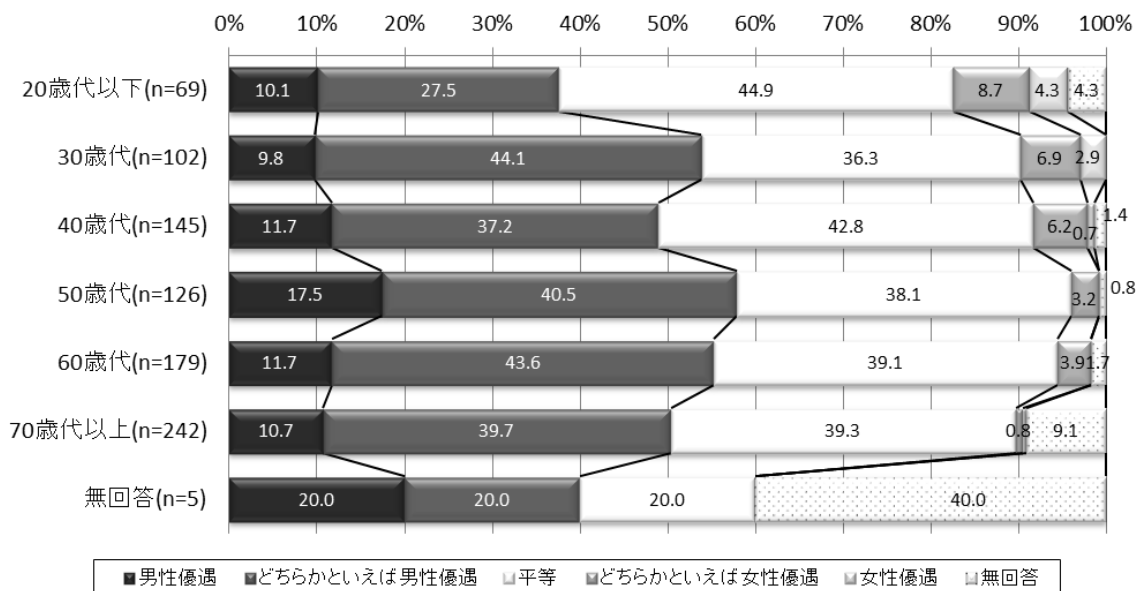
図表 2-17 ⑥法律や制度の上で（性別）



2) 年代別

年代別では、「平等」と回答した人の割合は、どの年代においても 40%前後となっている。『男性の方が優遇されている』は 50 歳代が 58.0%と最も高く、60 歳代 55.3%、30 歳代 53.9%の順となっており、20 歳代以下で 37.6%と最も低くなっている。

図表 2-18 ⑥法律や制度の上で（年代別）

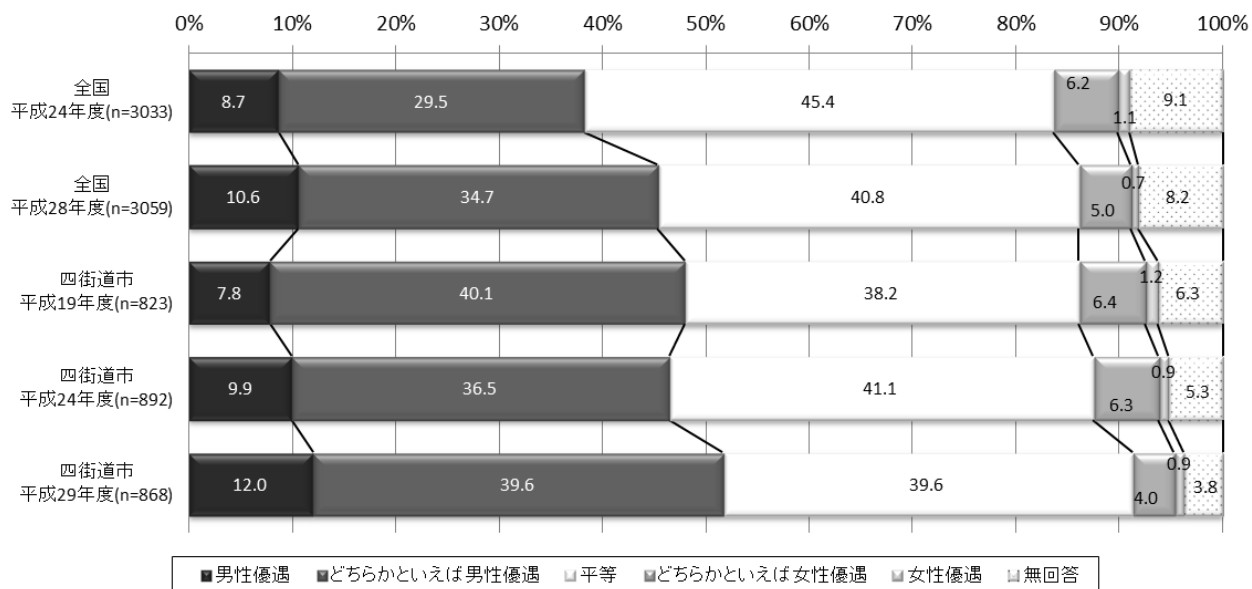


### 3) 経年比較

経年比較では、前回調査（平成 24 年度）と比較すると、『男性の方が優遇されている』が 5.2 ポイント増加し、51.6%となっている。

全国調査（平成 28 年度）と比較すると、「平等」と考える人の割合はほぼ同程度だが、『男性が優遇されている』は 6.3 ポイント高い 51.6%となっている。

図表 2-19 ⑥法律や制度の上で（経年比較）



※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したものである。

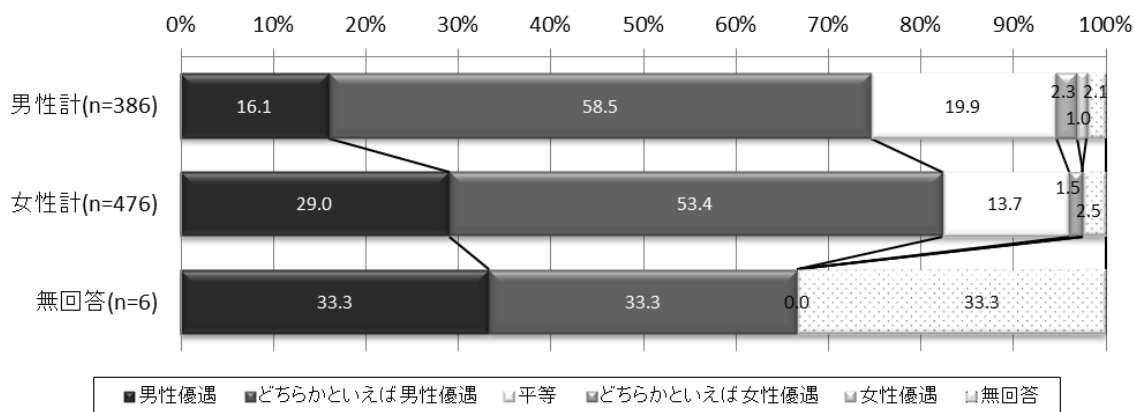
⑦社会通念・慣習・しきたり等において

社会通念・慣習・しきたり等における男女平等意識では、『男性の方が優遇されている（男性優遇 23.3%+どちらかといえば男性優遇 55.5%）』が 78.8%を占め、『女性の方が優遇されている（女性優遇 0.5%+どちらかといえば女性優遇 1.8%）』の 2.3%を大幅に上回っている。一方、「平等」は 16.4%となっている。

1) 性別

性別では、「男性優遇」と回答した人の割合が、女性は、男性と比べて 12.9 ポイント高い 29.0%となっている。

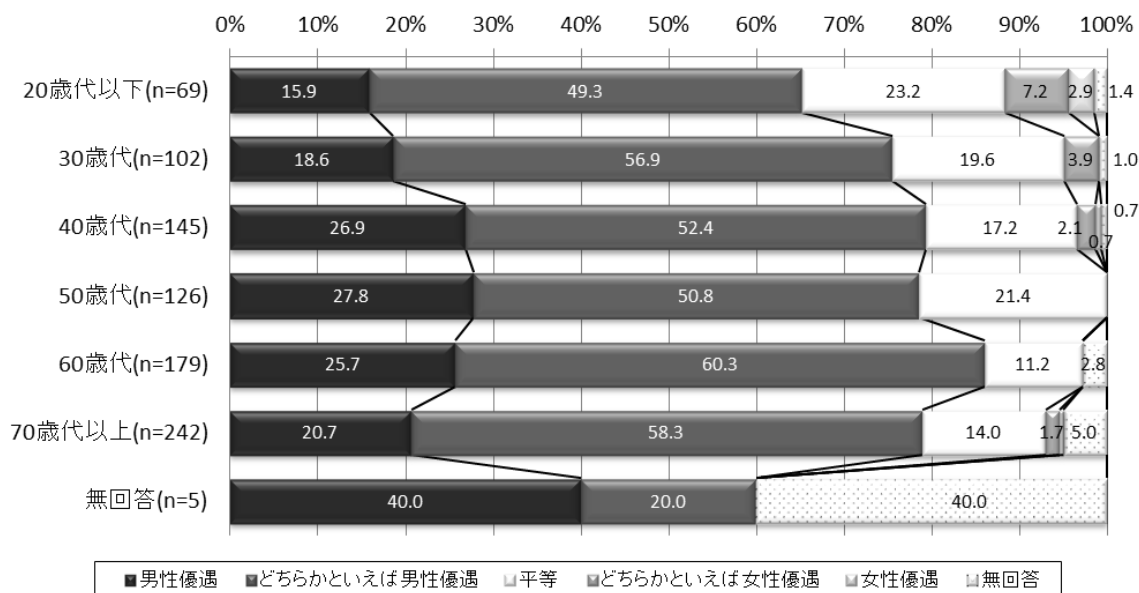
図表 2-20 ⑦社会通念・慣習・しきたり等において（性別）



2) 年代別

年代別では、30歳代以上で『男性の方が優遇されている』がそれぞれ 80%前後であるが、20歳代以下では 65.2%となっている。

図表 2-21 ⑦社会通念・慣習・しきたり等において（年代別）

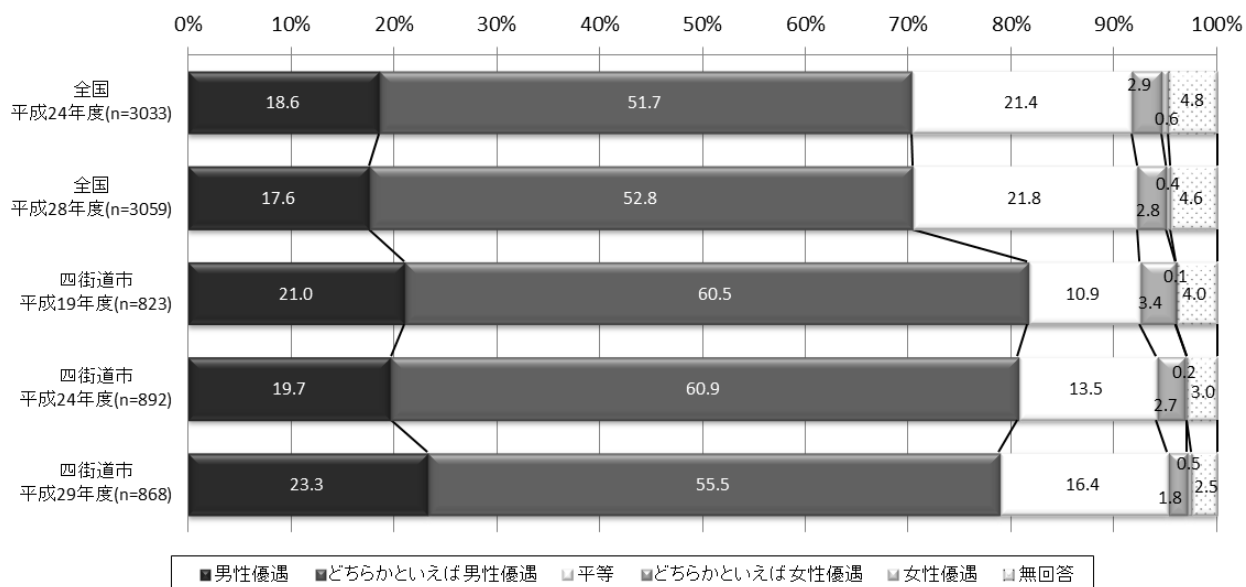


### 3) 経年比較

経年比較では、「平等」と感じる人の割合が、前々回調査（平成19年度）、前回調査（平成24年度）から徐々に高くなり、16.4%となっている。

一方、全国調査（平成28年度）と比較すると、8.4ポイント高い78.8%となっている。

図表2-22 ⑦社会通念・習慣・しきたり等において（経年比較）



※内閣府が実施した調査は面接調査のため、「無回答」は「わからない」と回答したものである。

⑧区・自治会、PTAなどの地域活動の場で

区・自治会、PTAなどの地域活動の場での男女平等意識では、『男性の方が優遇されている（男性優遇 8.3%+どちらかといえば男性優遇 36.8%）』は 45.1%となっている。

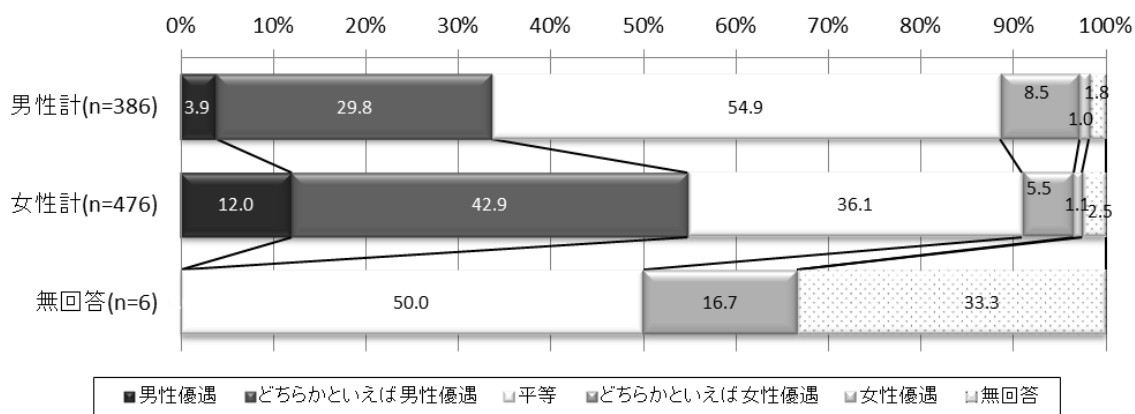
一方、『女性の方が優遇されている（女性優遇 1.0%+どちらかといえば女性優遇 6.9%）』は 7.9%となっている。

また、「平等」と回答した人の割合は 44.6%となっている。

1) 性別

性別では、男性は「平等」と回答した人の割合は 54.9%と過半数を占めているが、女性は 36.1%となっている。『男性の方が優遇されている』と回答した人の割合が、男性が 33.7%に対し、女性では 54.9%と高くなっている。

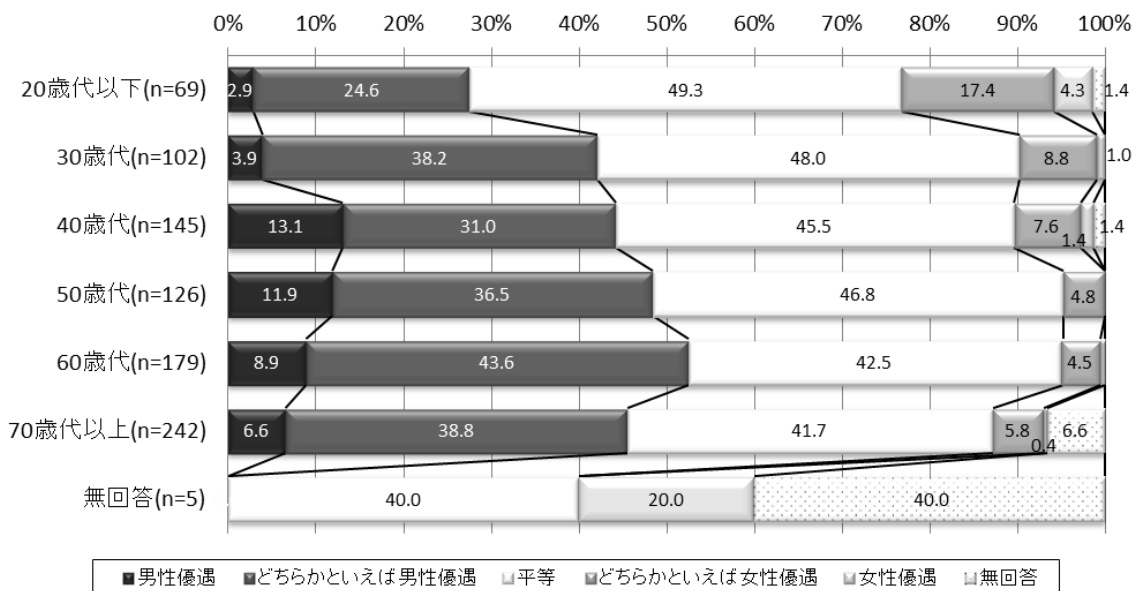
図表 2-2 3 ⑧区・自治会、PTAなどの地域活動の場で（性別）



2) 年代別

年代別では、「平等」と回答した人の割合は 20 歳代で最も高い 49.3%となっている。一方、30 歳代以上で『男性の方が優遇されている』が 40%以上となっている。

図表 2-2 4 ⑧区・自治会、PTAなどの地域活動の場で（年代別）



(2) 男は仕事、女は家庭という考え方

【問2】「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「どちらともいえない」(37.8%)が最も多く、次いで『否定的』(35.2%)、『肯定的』(26.3%)の順となっている。

性別では、男性は『肯定的』の割合が高く、女性は『否定的』を2倍程度上回っている。

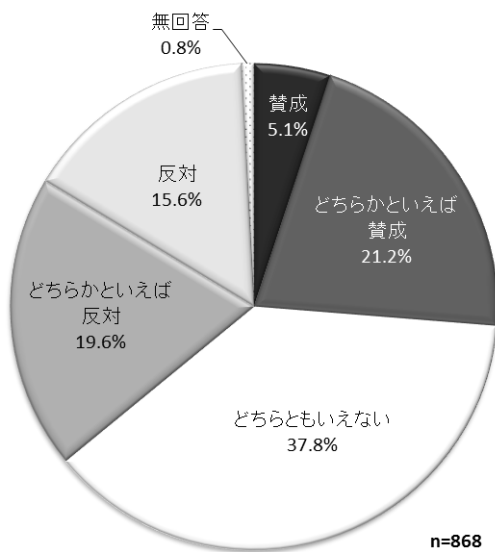
年代別では、『肯定的』の割合が、60歳代以下は概ね20%程度となっているが、70歳代以上で35.9%と高くなっている。また、『否定的』は、30歳代が最も高く、46.0%であった。

配偶者等パートナー別には、既婚者では『肯定的』が27.4%、『否定的』が36.1%と意見が割れている。未婚者では『肯定的』が20.9%と低くなっている。

経年比較すると、『否定的』が、前々回調査(平成19年度)及び前回調査(平成24年度)と比べて高く、『肯定的』の割合は低くなっている。

「男は仕事、女は家庭」という考え方は、『否定的』35.2%、『肯定的』26.3%となっている。「どちらともいえない」は37.8%となっている。

図表2-25 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

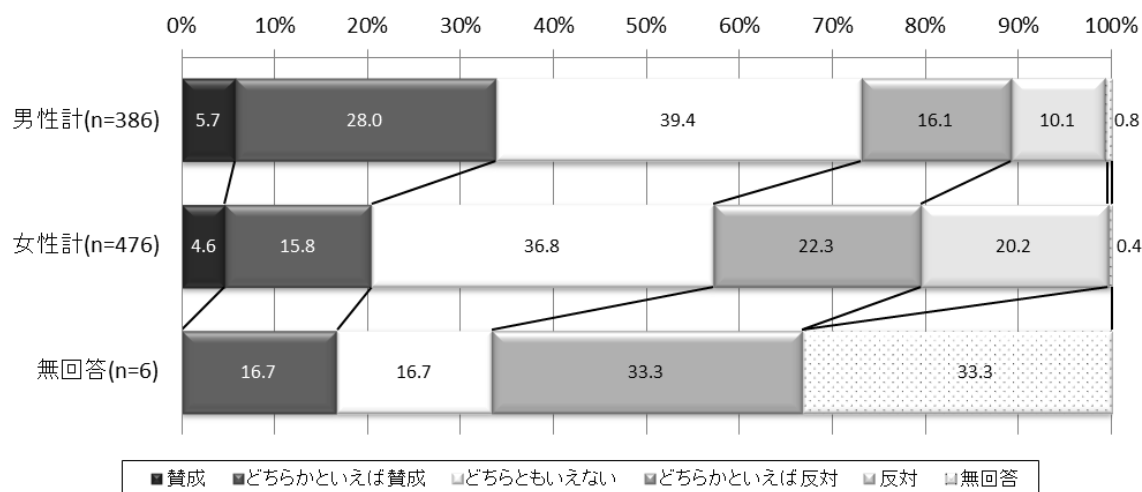


項目	回答数(件)	構成比
賛成	44	5.1%
どちらかといえば賛成	184	21.2%
どちらともいえない	328	37.8%
どちらかといえば反対	170	19.6%
反対	135	15.6%
無回答	7	0.8%
サンプル数(n)	868	100.0%

1) 性別

性別では、男性は『肯定的』(33.7%)が『否定的』(26.2%)より割合が高く、女性は『否定的』(42.5%)が『肯定的』(20.4%)を2倍程度上回っている。また、「どちらともいえない」は、男性が39.4%となり、女性36.8%をやや上回った。

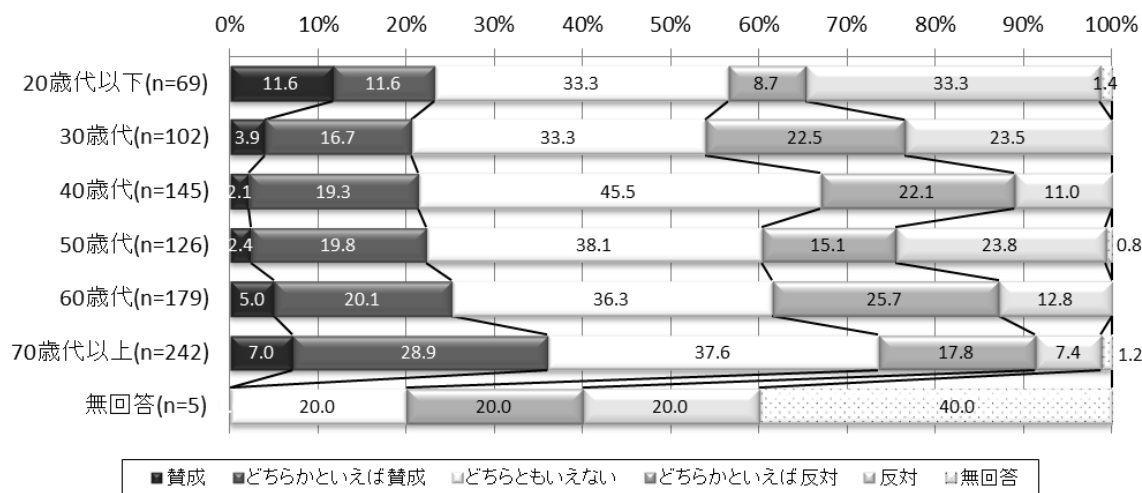
図表 2-2 6 「男は仕事、女は家庭」という考え方 (性別)



2) 年代別

年代別では、『肯定的』が70歳代以上で35.9%と高く、『否定的』は30歳代が46.0%と最も高かった。

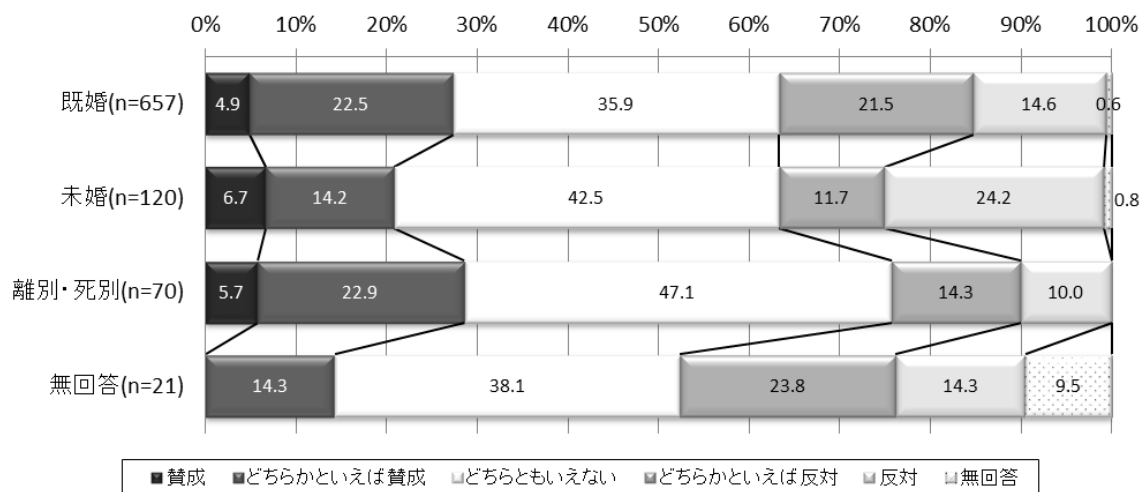
図表 2-2 7 「男は仕事、女は家庭」という考え方 (年代別)



### 3) 配偶者等パートナー別

配偶者パートナー別では、「どちらともいえない」が既婚者で35.9%と少なく、『肯定的』が27.4%、『否定的』が36.1%と意見が割れている。未婚者では『肯定的』が20.9%と低くなっている。

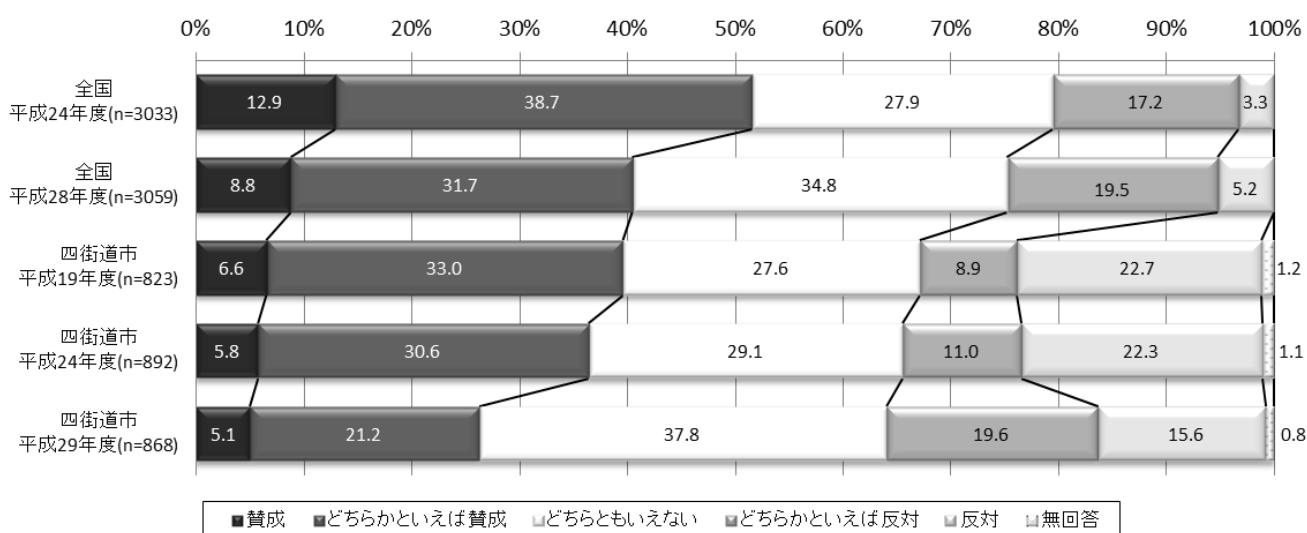
図表 2-28 「男は仕事、女は家庭」という考え方（配偶者等パートナー別）



### 4) 経年比較

経年比較では、今回調査が全国の2時点、四街道市の2時点と比較して、『否定的』が35.2%と最も高く、『肯定的』の割合も最も低い26.3%となっている。

図表 2-29 「男は仕事、女は家庭」という考え方（経年比較）



※内閣府が実施した全国調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」として調査



### 3. 男女共同参画の取り組みについて

- ・【問3(1)(2)】市の男女共同参画推進計画でめざしている「性別にかかわらず、だれもが個人として尊重され、個性を發揮できる社会」の実現についてどのように思いますか。／＜複数回答＞(問3(1)で1～3を選んだ方)男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

#### 要約

男女共同参画社会の実現については「とても良いことだ」55.0%と「まあ良いことだ」34.2%を合わせると89.2%という結果であり、実現に向けた理解は得られているものと考えられる。一方、極めて少数ではあるが、「あまり良いことだと思わない」(1.3%)もみられた。

実現に向けた取り組みとして、「子育て支援の推進と保育サービスの充実」(61.0%)や「学校教育において男女平等の教育を推進」(50.6%)が多く選択されており、これらの取り組みへの期待が大きいといえる。また「事業所への意識啓発」(49.4%)も多くの人から回答があり、子育てや介護、家事などに対する事業主や経営者の理解が必要であると思われる。

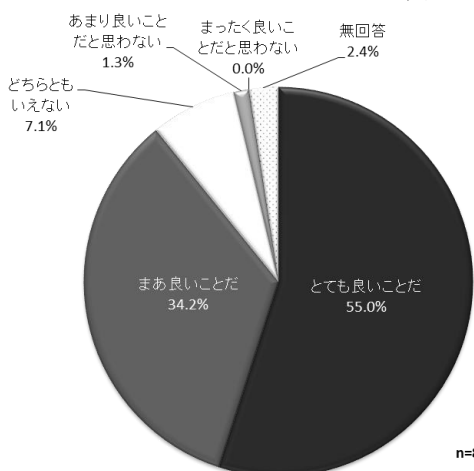
#### (1) 男女共同参画社会実現に対する評価について

【問3(1)】市の男女共同参画推進計画でめざしている「性別にかかわらず、だれもが個人として尊重され、個性を發揮できる社会」の実現についてどのように思いますか。

男女共同参画社会の実現を「とても良いことだ」と回答した人の割合は55.0%となっており、「まあ良いことだ」(34.2%)と合わせると、89.2%と非常に高くなっている。

前回調査(平成24年度)と比較すると、『良いことだと思う(=とても良いことだ+まあ良いことだ)』の割合は1.8ポイント低くなっている。

図表3-1 男女共同参画社会の実現について



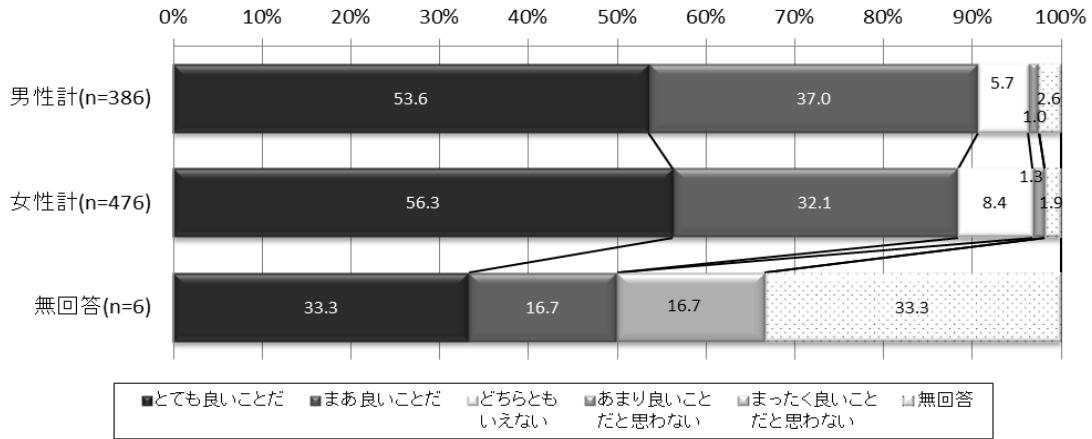
項目	回答数(件)	構成比
とても良いことだ	477	55.0%
まあ良いことだ	297	34.2%
どちらともいえない	62	7.1%
あまり良いことだと思わない	11	1.3%
まったく良いことだと思わない	0	0.0%
無回答	21	2.4%
サンプル数(n)	868	100.0%

1) 性別・年代別

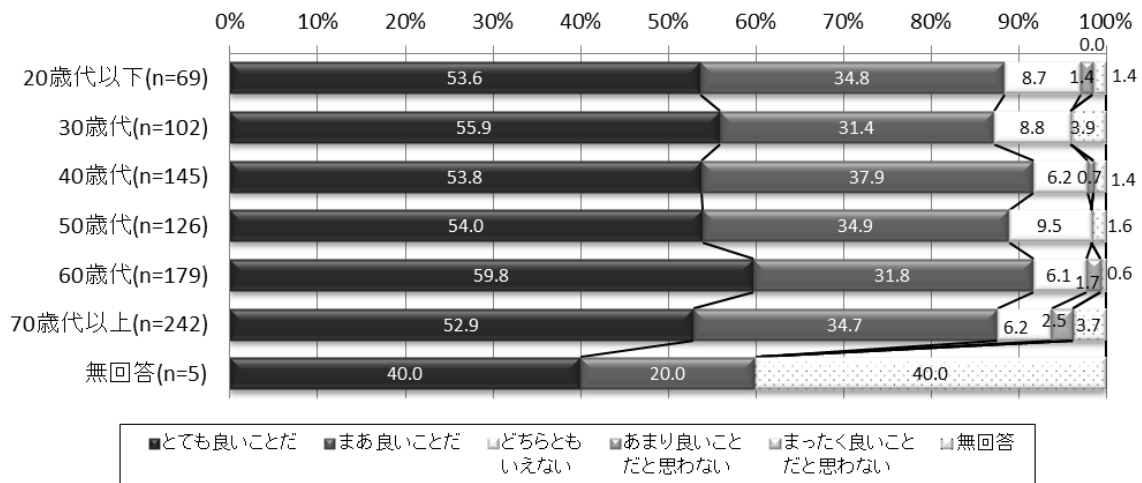
性別・年代別では、男女共同参画社会の実現を『良いことだと思う』と回答した人は、男性(90.6%)、女性(88.4%)とも割合が高くなっている。

また、どの年代も『良いことだと思う』が90%前後と、高くなっている。

図表 3-2 男女共同参画社会の実現について (性別)



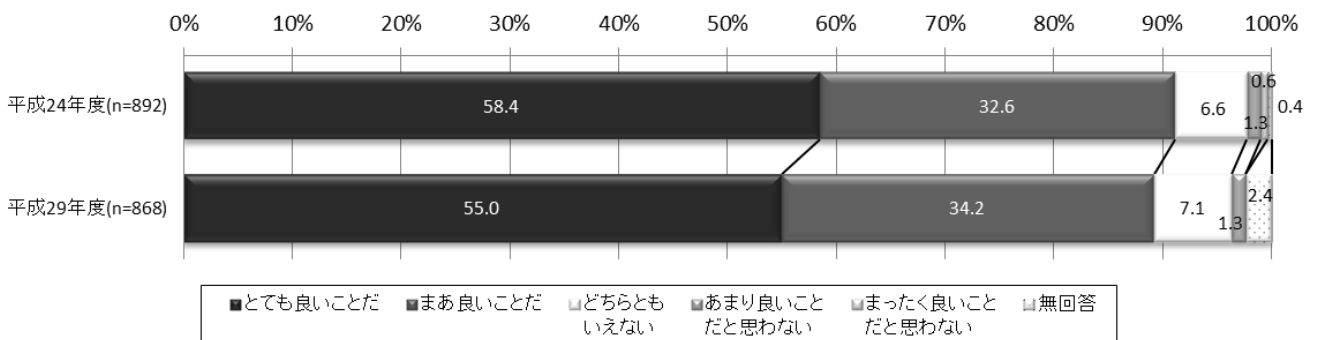
図表 3-3 男女共同参画社会の実現について (年代別)



2) 経年比較

経年比較では、前回調査(平成24年度)よりも『良いことだと思う』の割合が1.8ポイント減少して89.2%となっている。

図表 3-4 男女共同参画社会の実現について (経年比較)



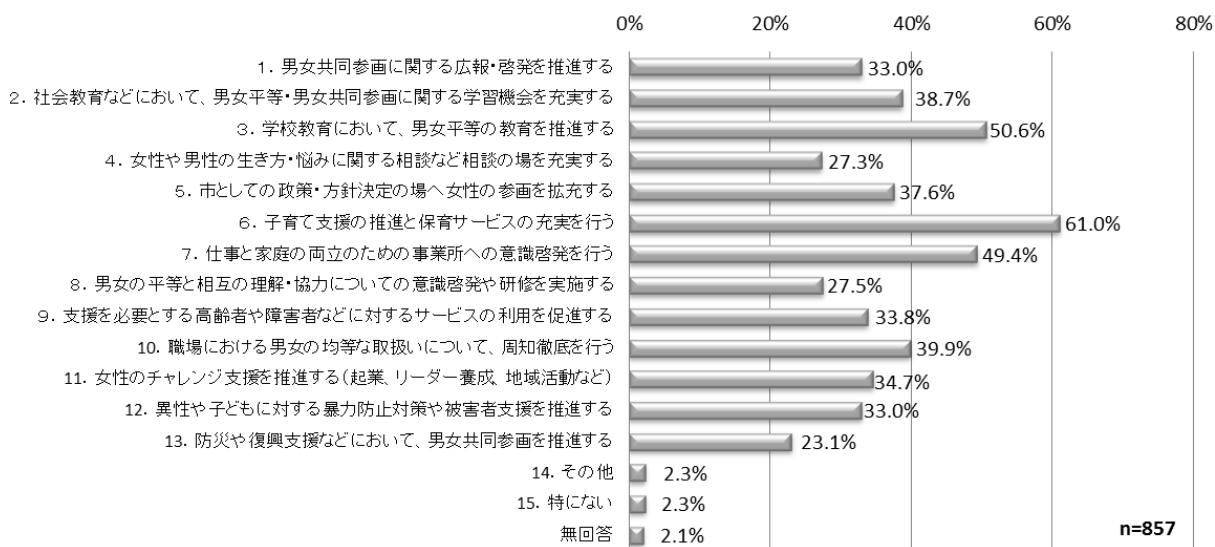
(2) 男女共同参画社会の実現に必要なこと

【問3 (2)】問3(1)で1～3を選んだ方に伺います。男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

男女共同参画社会を実現するために必要なことは、「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」(61.0%)、「学校教育において、男女平等の教育を推進する」(50.6%)、「仕事と家庭の両立のための事業所への意識啓発を行う」(49.4%)が上位3項目であった。

年代別では、20歳代以下と40歳代で「職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底を行う」が3位となっている。

図表3-5 男女共同参画社会の実現に向けて



※問3(1)で「あまり良いことだと思わない」11サンプルを除く

1) 性別・年代別

性別では、上位3項目において男女とも全体と同じ傾向であるが、女性は2位と3位が逆転し、2位が「仕事と家庭の両立のための事業所への意識啓発を行う」53.8%、3位が「学校教育において、男女平等の教育を推進する」51.7%の順であった。

一方、年代別には、全体で4位の「職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底を行う」が20歳代以下と40歳代で3位となっている。

図表3-6 男女共同参画社会の実現に向けて（性別・年代別）

	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.	11.	12.	13.	14.	15.	16.		
回答者数	男女共同参画に関する広報・啓発を推進する	女平等・男女共同参画に関する学習機会を充実する	学校教育において、男女平等の教育を推進する	女性や男性の生き方・悩みに関する相談など相談の場を充実する	市としての政策・方針決定の場へ女性の参画を拡充する	子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う	仕事と家庭の両立のための事業所への意識啓発を行う	男女の平等と相互の理解や研修を実施する	障害者などに対する高齢者やサビの利用を促進する	支援を必要とする高齢者や被害者などに対するサビの取扱いについて、周知徹底を行う	職場における男女の均等な取扱いについて、周知徹底を行う	女性のチャレンジ支援を推進する（起業、リーダーシップなど）	防止対策や被害者支援を推進する	異性や子どもに対する暴力防止対策や被害者支援を推進する	防災や復興支援などにおいて、男女共同参画を推進する	その他	特になし	無回答
全体	857	283	332	434	234	322	423	236	290	342	297	283	198	20	20	18		
	100.0	33.0	38.7	50.6	27.3	37.6	61.0	49.4	27.5	33.8	39.9	34.7	33.0	23.1	2.3	2.3	2.1	
1. 20歳代以下	68	11.8	22.1	52.9	29.4	22.1	69.1	36.8	22.1	13.2	41.2	33.8	36.8	13.2	2.9	5.9	0.0	
2. 30歳代	102	14.7	36.3	46.1	29.4	21.6	65.7	53.9	13.7	27.5	36.3	38.2	31.4	14.7	0.0	2.0	2.9	
3. 40歳代	144	22.2	33.3	38.9	22.9	26.4	56.9	51.4	29.9	24.3	38.9	25.7	26.4	14.6	3.5	3.5	0.0	
4. 50歳代	126	27.8	39.7	44.4	20.6	29.4	59.5	52.4	20.6	31.0	41.3	31.0	25.4	16.7	6.3	2.4	1.6	
5. 60歳代	176	43.2	40.3	55.1	29.5	49.4	64.8	50.0	32.4	39.8	36.4	43.2	36.4	27.8	0.6	1.7	0.6	
6. 70歳代以上	236	48.3	45.8	58.9	29.7	51.3	57.6	47.5	33.1	45.8	43.2	34.3	38.6	33.9	1.7	1.3	4.2	
7. 無回答	5	60.0	60.0	60.0	60.0	40.0	40.0	60.0	60.0	20.0	60.0	40.0	20.0	60.0	0.0	0.0	40.0	
男性計	382	36.9	39.8	49.5	24.3	37.2	59.9	44.0	28.5	26.4	34.8	32.5	32.7	24.9	3.7	2.9	2.1	
1. 20歳代以下	26	11.5	23.1	38.5	23.1	19.2	46.2	19.2	30.8	7.7	26.9	11.5	34.8	7.7	7.7	11.5	0.0	
2. 30歳代	38	21.1	39.5	42.1	21.1	10.5	55.3	39.5	15.8	18.4	23.7	31.6	26.3	13.2	0.0	5.3	5.3	
3. 40歳代	61	24.6	26.2	34.4	26.2	21.3	57.4	49.2	21.3	19.7	29.5	34.4	24.6	16.4	4.9	1.6	0.0	
4. 50歳代	50	24.0	38.0	36.0	14.0	26.0	60.0	36.0	18.0	20.0	26.0	16.0	24.0	18.0	10.0	2.0	4.0	
5. 60歳代	87	46.0	41.4	56.3	26.4	49.4	65.5	46.0	34.5	31.0	33.3	42.5	34.5	27.6	1.1	2.3	0.0	
6. 70歳代以上	119	52.1	49.6	62.2	26.9	53.8	62.2	49.6	35.3	36.1	47.1	36.1	41.2	37.0	2.5	1.7	3.4	
7. 無回答	1	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
女性計	470	29.8	37.9	51.7	29.8	37.9	62.1	53.8	26.6	40.0	44.0	36.4	33.6	21.7	1.3	1.9	1.7	
1. 20歳代以下	42	11.9	21.4	61.9	33.3	23.8	83.3	47.6	16.7	16.7	50.0	47.6	38.1	16.7	0.0	2.4	0.0	
2. 30歳代	64	10.9	34.4	48.4	34.4	28.1	71.9	62.5	12.5	32.8	43.8	42.2	34.4	15.6	0.0	0.0	1.6	
3. 40歳代	82	20.7	39.0	42.7	20.7	30.5	57.3	53.7	36.6	28.0	45.1	19.5	28.0	13.4	2.4	4.9	0.0	
4. 50歳代	76	30.3	40.8	50.0	25.0	31.6	59.2	63.2	22.4	38.2	51.3	40.8	26.3	15.8	3.9	2.6	0.0	
5. 60歳代	89	40.4	39.3	53.9	32.6	49.4	64.0	53.9	30.3	48.3	39.3	43.8	38.2	28.1	0.0	1.1	1.1	
6. 70歳代以上	116	44.0	41.4	55.2	32.8	48.3	52.6	44.8	30.2	55.2	39.7	31.9	36.2	31.0	0.9	0.9	5.2	
7. 無回答	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
性別無回答	5	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	20.0	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	
3. 40歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
6. 70歳代以上	1	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
7. 無回答	3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	

1位 2位 3位

## 4. ワーク・ライフ・バランスについて

- ・【問4】「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。
- ・【問5(1)(2)】あなたの現在の日常生活の中で、「仕事・学業」「家庭等の個人生活」「地域・ボランティア等の活動(地域活動)」への関わり方は、次のうちどれですか。／現在「家庭等の個人生活」のための時間は十分とれていると思いますか。
- ・【問6<複数回答>】一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境づくりが必要だと思いますか。
- ・【問7(1)実態、(2)理想】次の①～⑩の家事等をどなたがしていますか。

### 要約

「ワーク・ライフ・バランス」について「言葉も内容も知っている」と回答した人の割合は24.9%となり、「言葉は知っているが、内容までは知らない」33.5%を加えると、58.4%の人がこの言葉を聞いたことがある。「言葉も内容も知っている」を前回調査(平成24年度)と比較すると、5.6ポイント上昇し、24.9%となっている。しかし「言葉は知っているが、内容までは知らない」「言葉も内容も知らない」を合わせると71.2%となるため、今後「ワーク・ライフ・バランス」の内容について周知を図ることも重要と思われる。

実際の家庭・仕事・地域との関わり方をみると、男性では『主に仕事・学業をしている(=ほぼ「仕事・学業」に専念している+「家庭等の個人生活」「地域活動」にも携わっているが、「仕事・学業」を優先させている)』が53.1%であったが、女性は28.3%となっている。また、女性が男性よりも目立って多かった回答は『「仕事・学業」にも携わっているが、『家庭等の個人生活』『地域活動』を優先させている』であった。

「家庭等の個人生活」のための時間については、多くの人が『取れている(十分取れている+まあ取れている)』と回答したものの、経年比較では『取れている』割合が若干減少し、『取れていない(=あまり取れていない+全くとれていない)』がやや多くなっている。

仕事と家庭の両立に必要な環境として、「育児・介護休業中の代替要員の確保など制度を利用しやすい職場環境の整備」「保育施設の整備、幼稚園等での保育時間の延長など保育内容の充実」に多くの回答があり、育児に関連する環境改善が望まれていることがわかる。また、「家族など周囲の理解と協力があること」が3番目に多くの回答を集めており、仕事と家庭の両立には、職場改善に関する事と周囲の理解・協力が必要であると考えられる。

家事等の分担では、実態の多くで妻の割合が高く、夫の割合が低い結果であった。一方、理想としている家事等の分担では「夫婦とも同じ程度」が多く、家庭生活における男女平等の尺度は家事等の分担がどれだけ公平と感じるかが重要だと言える。

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知

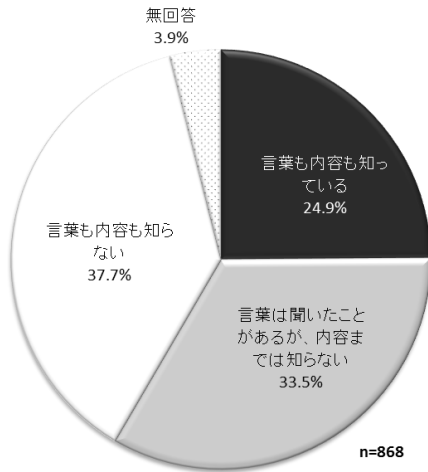
【問4】「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。

「ワーク・ライフ・バランス」の認知度については、「言葉も内容も知らない」(37.7%)、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」(33.5%)、「言葉も内容も知っている」(24.9%)の順となっており、「言葉を知っている(=言葉も内容も知っている+言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない)」割合は58.4%となっている。

年代別には、「言葉も内容も知っている」は20歳代以下では23.2%に留まり、30歳代から年代が高くなるにつれて低くなる傾向にある。

前回調査(平成24年度)と比較すると「言葉も内容も知っている」が5.6ポイント増加し、24.9%となった。

図表4-1 ワーク・ライフ・バランスの認知度

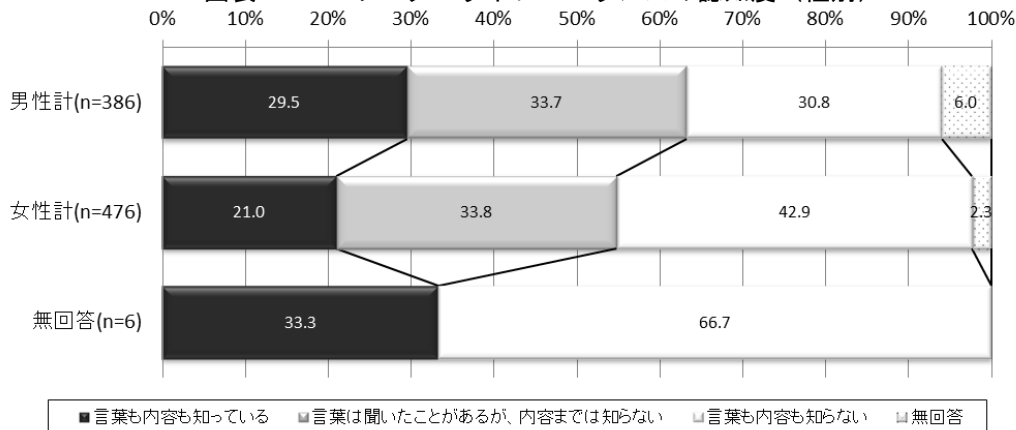


項目	回答数(件)	構成比
言葉も内容も知っている	216	24.9%
言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	291	33.5%
言葉も内容も知らない	327	37.7%
無回答	34	3.9%
サンプル数(n)	868	100.0%

1) 性別

性別では、「言葉も内容も知っている」は、男性が29.5%で、女性21.0%よりも高くなっており、「言葉も内容も知らない」は女性が42.9%と男性よりも12.1ポイント高かった。

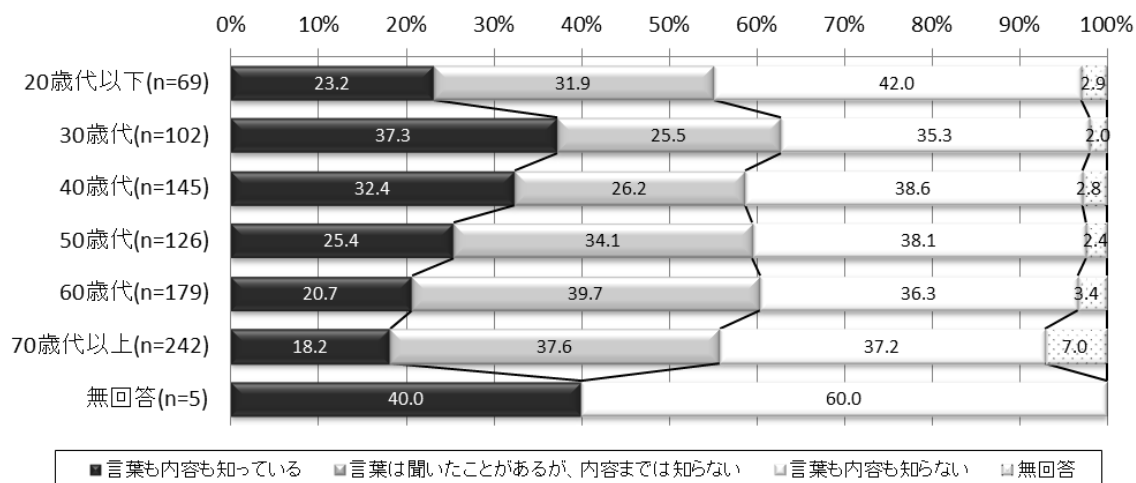
図表4-2 ワーク・ライフ・バランスの認知度(性別)



## 2) 年代別

年代別では、20歳代以下では「言葉も内容も知らない」が42.0%と他の年代よりも高く、「言葉も内容も知っている」は23.2%であった。30歳代から年代が高くなるにつれて「言葉も内容も知っている」が低くなる傾向にある。

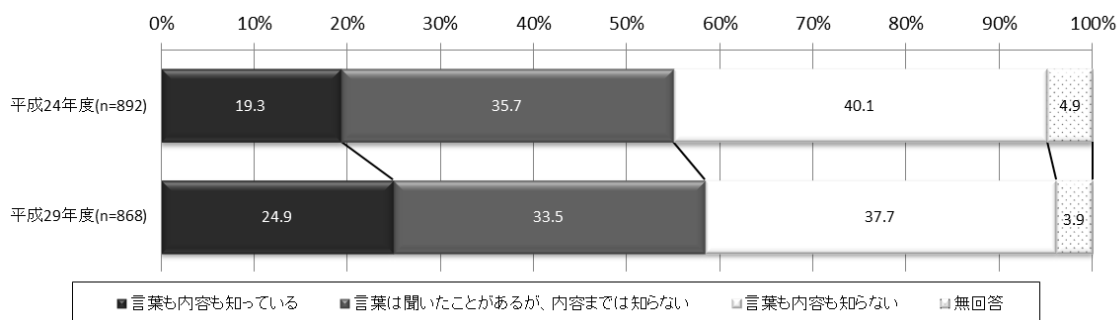
図表 4-3 ワーク・ライフ・バランスの認知度（年代別）



## 3) 経年比較

経年比較では、前回調査（平成24年度）と比較すると「言葉も内容も知っている」が5.6ポイント増加し、24.9%となった。また、「言葉も内容の知らない」が2.4ポイント減少し、37.7%となった。

図表 4-4 ワーク・ライフ・バランスの認知度（経年比較）



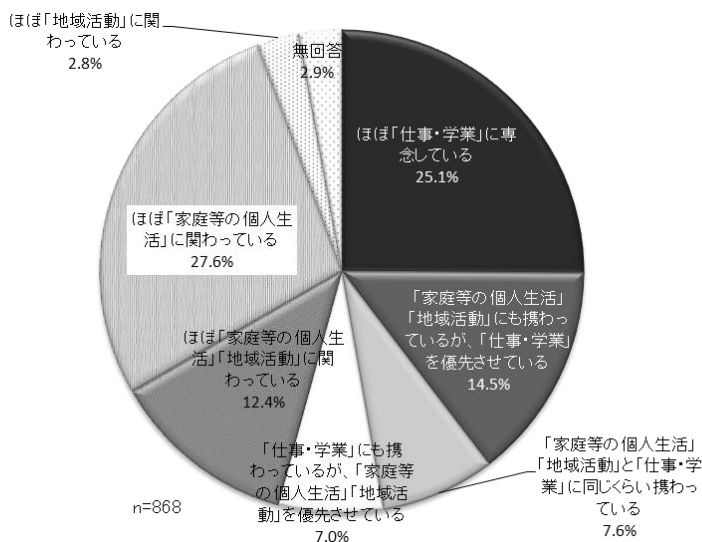
(2) 仕事・家庭・地域との関わり方

【問5 (1)】あなたの現在の日常生活の中で、「仕事・学業」「家庭等の個人生活」「地域・ボランティア等の活動（地域活動）」への関わり方は、次のうちどれですか。

日常生活の中で、「仕事・学業」「家庭等の個人生活」「地域・ボランティア等の活動（地域活動）」への関わり方は、「ほぼ『家庭等の個人生活』に関わっている」が27.6%と最も高く、次いで「ほぼ『仕事・学業』に専念している」(25.1%)、「『家庭等の個人生活』『地域活動』にも携わっているが、『仕事・学業』を優先させている」(14.5%)の順であった。

男性は「ほぼ『仕事・学業』に専念している」35.2%と「『家庭等の個人生活』『地域活動』にも携わっているが、『仕事・学業』を優先させている」17.9%を合わせると53.1%と過半数を占めている。一方、女性は「ほぼ『家庭等の個人生活』に関わっている」が33.0%と最も高くなっている。

図表4-5 仕事・家庭・地域との関わり方



項目	回答数(件)	構成比
ほぼ「仕事・学業」に専念している	218	25.1%
「家庭等の個人生活」「地域活動」にも携わっているが、「仕事・学業」を優先させている	126	14.5%
「家庭等の個人生活」「地域活動」と「仕事・学業」に同じくらい携わっている	66	7.6%
「仕事・学業」にも携わっているが、「家庭等の個人生活」「地域活動」を優先させている	61	7.0%
ほぼ「家庭等の個人生活」「地域活動」に関わっている	108	12.4%
ほぼ「家庭等の個人生活」に関わっている	240	27.6%
ほぼ「地域活動」に関わっている	24	2.8%
無回答	25	2.9%
サンプル数(n)	868	100.0%

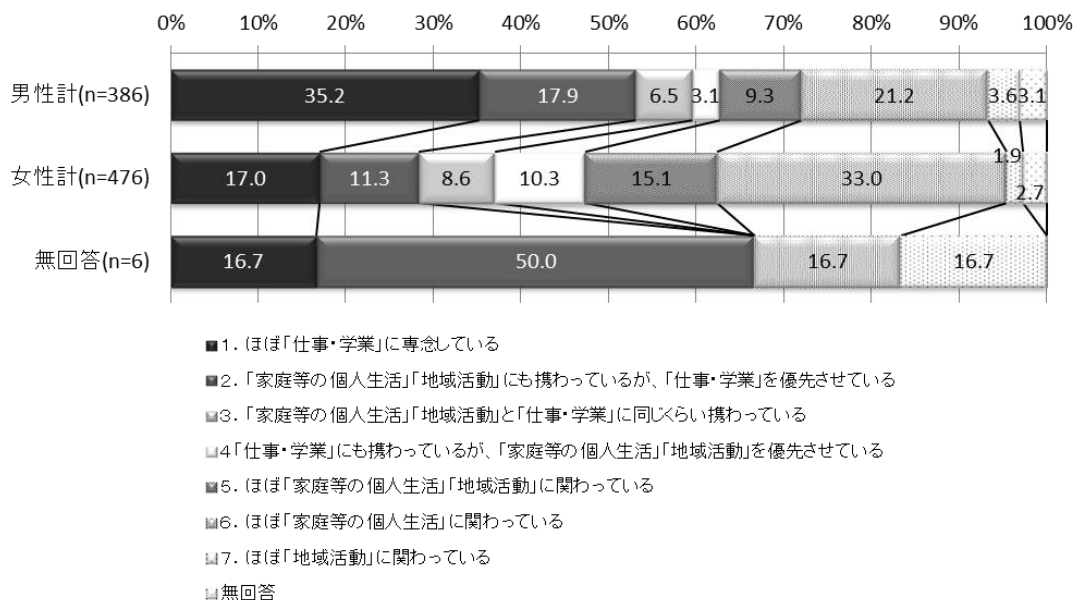
※ 「ほぼ『家庭等の個人生活』『地域活動』に関わっている」「ほぼ『家庭等の個人生活』に関わっている」「ほぼ『地域活動』に関わっている」は平成19年度調査・24年度調査では「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している」として調査



## 1) 性別

性別では、『主に仕事・学業をしている』が男性で53.1%となっており、女性の28.3%よりも24.8ポイント高くなっている。女性では「ほぼ『家庭等の個人生活』に関わっている」が最も高い33.0%となっており、次いで「ほぼ『仕事・学業』に専念している」17.0%、「ほぼ『家庭等の個人生活』『地域活動』に関わっている」15.1%の順となっている。

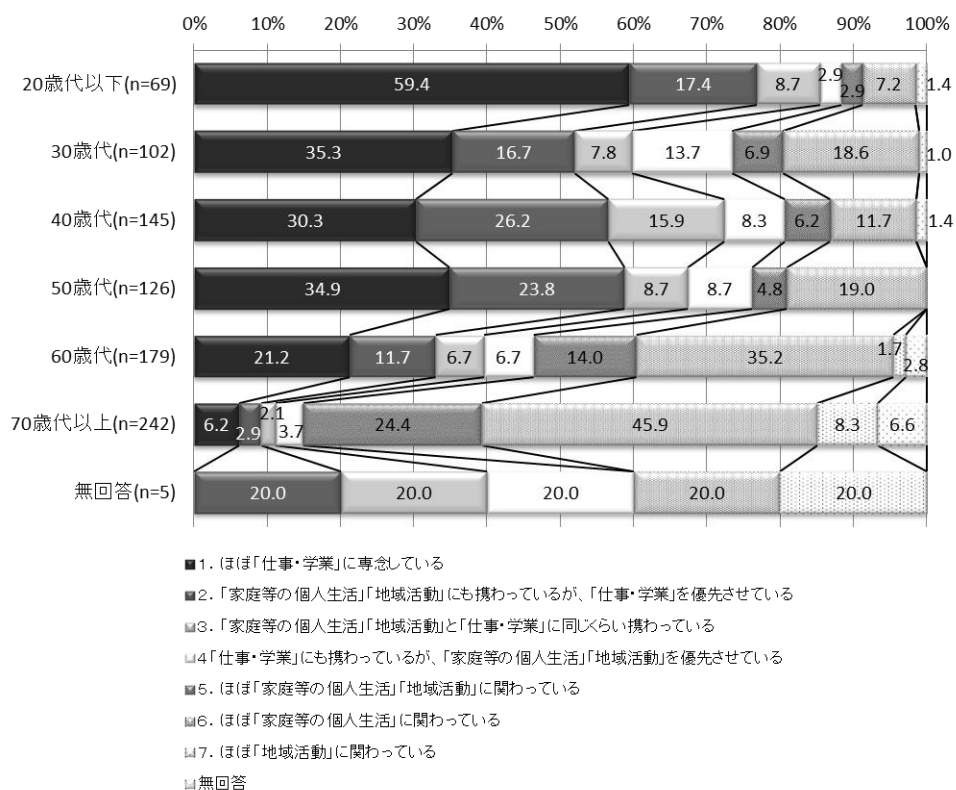
図表4-6 仕事・家庭・地域との関わり方（性別）



## 2) 年代別

年代別では、年代が高くなるにつれて『主に仕事・学業をしている』割合が低くなり、「家庭等の個人生活」が高くなる傾向がみられた。

図表4-7 仕事・家庭・地域との関わり方（年代別）



### 3) 経年比較

経年比較では、前回調査（平成 24 年度）より高くなったのは、「ほぼ『仕事・学業に専念』している」と『仕事・学業』にも携わっているが『家庭等の個人生活』『地域活動』を優先している」であり、4.7 ポイント高くなっている。

図表 4-8 仕事・家庭・地域との関わり方（経年比較）

四街道市	四街道市 H19	四街道市 H24	四街道市 H29	全国 H24	全国 H28	全国
サンプル数	823	892	868	3033	3059	サンプル数
1 ほぼ「仕事・学業」に専念している	26.6	20.4	25.1	26.1	25.5	(イ) 「仕事」を優先している
2 「家庭等の個人生活」「地域活動」にも携わっているが、「仕事・学業」を優先させている	15.2	22.2	14.5	21.1	21.6	(ウ) 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
3 「家庭等の個人生活」「地域活動」と「仕事・学業」に同じくらい携わっている	6.4	8.1	7.6	3.7	3.2	(キ) 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
				5.2	5.3	(オ) 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
				6.8	8.0	(エ) 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
4 「仕事・学業」にも携わっているが、「家庭等の個人生活」「地域活動」を優先させている	5.2	6.5	7.0	32.8	30.5	(フ) 「家庭生活」を優先している
5 ほぼ「家庭等の個人生活」「地域活動」に関わっている	30.5	32.7	12.4	2.7	4.6	(カ) 「地域・個人の生活」を優先している
6 ほぼ「家庭等の個人生活」に関わっている			27.6	2.7	4.6	(カ) 「地域・個人の生活」を優先している
7 ほぼ「地域活動」に関わっている	16.0	10.1	2.9	1.6	1.3	わからない
8 無回答			16.0	10.1	2.9	1.6

※全国調査結果について

内閣府が実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」『問 10 (2) 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。』

(ア) 「家庭生活」を優先している

(イ) 「仕事」を優先している

(ウ) 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している

(エ) 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している

(オ) 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している

(カ) 「地域・個人の生活」を優先している

(キ) 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している

(3) 「家庭等の個人生活」のための時間

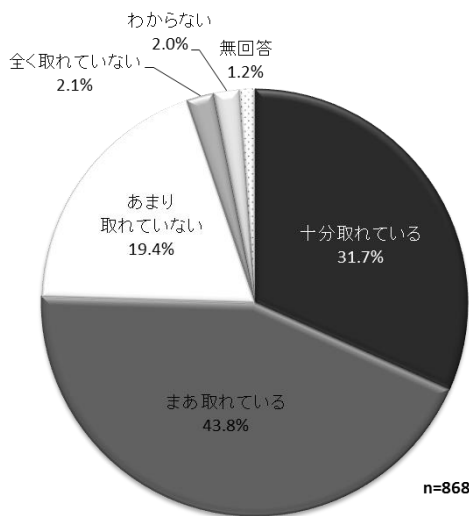
【問5 (2)】現在「家庭等の個人生活」のための時間は十分とれていると思いますか。

「家庭等の個人生活」のための時間が、「十分取れている」31.7%と「まあ取れている」43.8%を合わせると、全体の75.5%に達しており、性別においても差は見られなかった。

年代別では、年代が高くなるにつれて「家庭等の個人生活の時間」が取れている傾向がみられた。

経年比較では、前回調査（平成24年度）よりも「十分取れている」の割合がやや減少し、「あまり取れていない」はやや増加した。

図表4-9 「家庭等の個人生活」のための時間

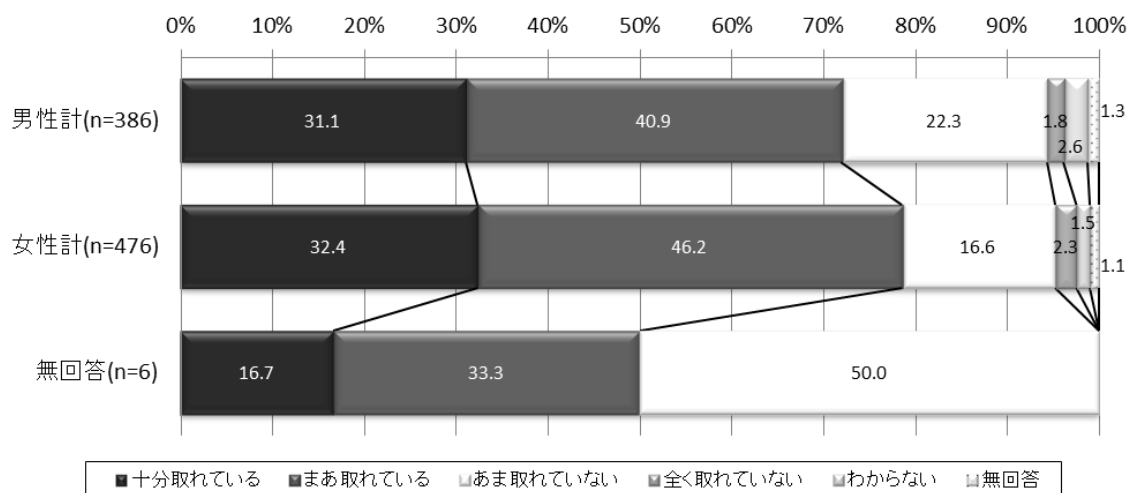


項目	回答数(件)	構成比
十分取れている	275	31.7%
まあ取れている	380	43.8%
あまり取れていない	168	19.4%
全く取れていない	18	2.1%
わからない	17	2.0%
無回答	10	1.2%
サンプル数(n)	868	100.0%

1) 性別

性別では、男女とも大きな差は無いものの、女性の『取れている』は78.6%となっており、男性(72.0%)よりも6.6ポイント高くなっている。また、男性は、『取れていない』が24.1%で、女性(18.9%)より5.2ポイント高くなっている。

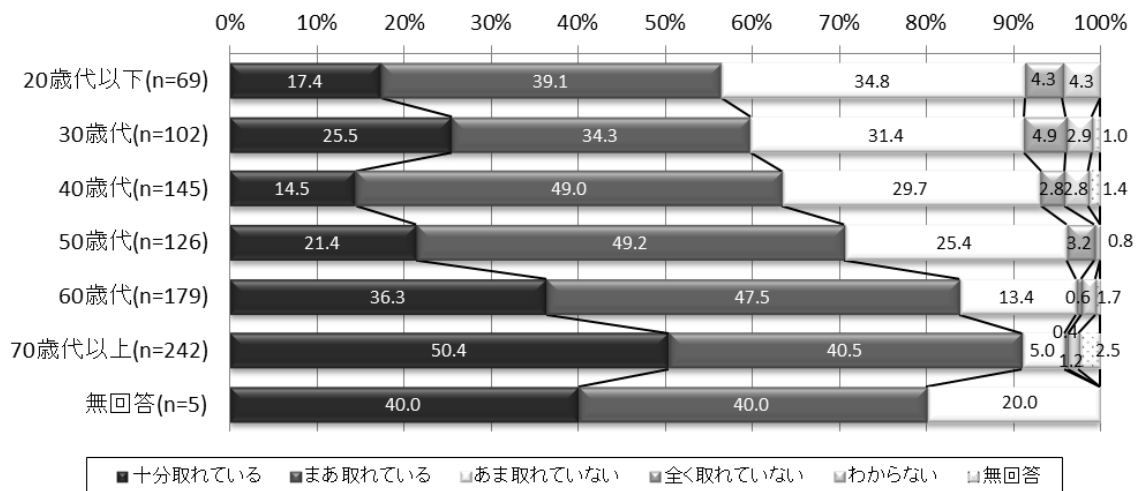
図表4-10 「家庭等の個人生活」のための時間（性別）



## 2) 年代別

年代別では、年代が高くなるにつれて家庭等の個人生活の時間が取れやすい傾向がみられた。

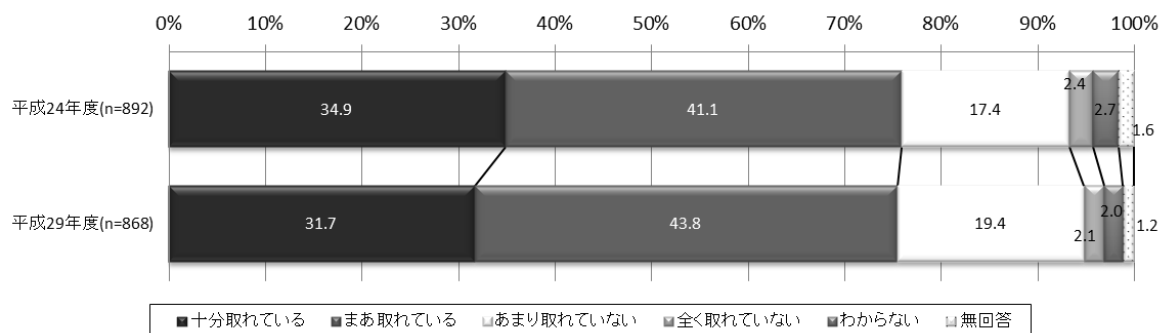
図表 4-1 1 「家庭等の個人生活」のための時間（年代別）



## 3) 経年比較

経年比較では、前回調査（平成24年度）よりも『取れている』の割合がやや減少し、『取れていない』はやや増加した。

図表 4-1 2 「家庭等の個人生活」のための時間（経年比較）



(4) 働きやすい環境づくり

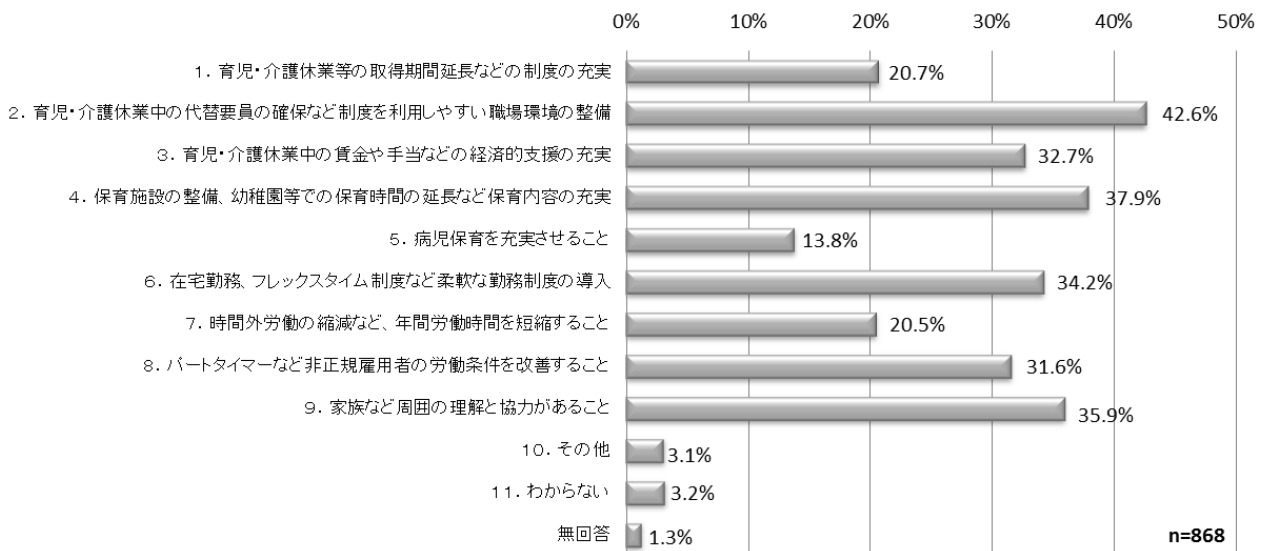
【問6】一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境づくりが必要だと思いますか。

仕事と家庭の両立のための環境として、「育児・介護休業中の代替要員の確保など制度を利用しやすい職場環境の整備」が42.6%と最も高く、「保育施設の整備、幼稚園等での保育時間の延長など保育内容の充実」(37.9%)、「家族など周囲の理解と協力があること」(35.9%)の順となっている。

性別では、男性は、1位2位が全体と同様だったものの、3位が「在宅勤務、タイム制度など柔軟な勤務制度の導入」となっており、働き方の改善が望まれていると思われる。一方、女性は2位が「家族など周囲の理解と協力があること」となっており、育児・介護休業中の負担軽減や保育施設の整備・保育内容の充実とともに、周囲の理解が必要であることがうかがえる。

年代別では、比較的全体と同様の結果であったものの、30歳代で「保育施設の整備、幼稚園等での保育時間の延長など保育内容の充実」が46.1%と最も多く、子育て世代が多いと思われる世代では保育環境のさらなる充実を求めることがうかがえる。

図表4-13 仕事と家庭の両立に必要な環境づくり



1) 性別・年代別

性別では、男性は、1位2位が全体と同様だったものの、3位が「在宅勤務、フレックスタイム制度など柔軟な勤務制度の導入」37.6%となっている。一方、女性は2位と3位が入れ替わり、2位が「家族など周囲の理解と協力があること」41.8%となっている。

年代別では、比較的全体と同様の結果であったものの、30歳代で、「保育施設の整備・保育内容の充実」が46.1%と最も多くなっている。

図表4-14 仕事と家庭の両立に必要な環境づくり（性別・年代別）

	回答者数	1. 育児・介護休業等の取得期間延長などの制度の充実	2. 育児・介護休業中の代替しやすいため職場環境の整備	3. 手当などの経済的支援の充実	4. 保育施設の整備・幼稚園等での保育時間の延長など保育内容の充実	5. 病児保育を充実させること	6. 在宅勤務、フレックスタイム制度など柔軟な勤務制度の導入	7. 時間外労働の削減など、年間労働時間を短縮すること	8. パートタイムなど非正規雇用者の労働条件を改善すること	9. 家族など周囲の理解と協力があること	10. その他	11. わからない	12. 無回答
全体	868	180	370	284	329	120	297	178	274	312	27	28	11
	100.0	20.7	42.6	32.7	37.9	13.8	34.2	20.5	31.6	35.9	3.1	3.2	1.3
1. 20歳代以下	69	23.2	46.4	37.7	33.3	11.6	36.2	26.1	21.7	27.5	10.1	2.9	0.0
2. 30歳代	102	21.6	42.2	40.2	46.1	25.5	37.3	23.5	20.6	35.3	4.9	1.0	1.0
3. 40歳代	145	13.1	42.8	35.9	32.4	13.1	41.4	22.1	25.5	37.9	2.8	2.8	1.4
4. 50歳代	126	23.8	43.7	29.4	40.5	14.3	40.5	17.5	31.7	39.7	3.2	1.6	0.0
5. 60歳代	179	22.9	44.1	34.1	41.3	14.0	30.2	17.9	38.0	34.6	2.8	3.9	1.1
6. 70歳代以上	242	21.1	39.3	27.3	35.1	9.5	27.3	20.7	38.0	36.8	0.4	5.0	2.5
7. 無回答	5	20.0	80.0	20.0	40.0	20.0	60.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
男性計	386	21.5	41.5	33.7	43.3	8.3	37.6	22.0	30.1	28.8	2.6	2.8	1.6
1. 20歳代以下	27	33.3	37.0	48.1	22.2	7.4	33.3	33.3	11.1	25.9	11.1	0.0	0.0
2. 30歳代	38	10.5	34.2	36.8	44.7	15.8	47.4	21.1	18.4	28.9	5.3	2.6	2.6
3. 40歳代	61	11.5	37.7	36.1	42.6	9.8	50.8	32.8	21.3	23.0	1.6	1.6	3.3
4. 50歳代	50	22.0	44.0	30.0	42.0	4.0	52.0	22.0	16.0	38.0	2.0	2.0	0.0
5. 60歳代	87	29.9	48.3	35.6	54.0	6.9	34.5	9.2	39.1	27.6	2.3	3.4	0.0
6. 70歳代以上	122	20.5	40.2	27.9	41.0	8.2	25.4	23.8	41.8	29.5	0.8	4.1	2.5
7. 無回答	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性計	476	20.4	43.1	32.1	33.8	18.3	31.3	19.3	32.8	41.8	3.4	3.6	1.1
1. 20歳代以下	42	16.7	52.4	31.0	40.5	14.3	38.1	21.4	28.6	28.6	9.5	4.8	0.0
2. 30歳代	64	28.1	46.9	42.2	46.9	31.3	31.3	25.0	21.9	39.1	4.7	0.0	0.0
3. 40歳代	82	14.6	46.3	35.4	25.6	15.9	34.1	14.6	29.3	47.6	3.7	3.7	0.0
4. 50歳代	76	25.0	43.4	28.9	39.5	21.1	32.9	14.5	42.1	40.8	3.9	1.3	0.0
5. 60歳代	92	16.3	40.2	32.6	29.3	20.7	26.1	26.1	37.0	41.3	3.3	4.3	2.2
6. 70歳代以上	119	21.8	37.8	26.9	29.4	10.9	29.4	16.8	33.6	44.5	0.0	5.9	2.5
7. 無回答	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
性別無回答	6	0.0	83.3	16.7	16.7	16.7	50.0	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0
3. 40歳代	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
6. 70歳代以上	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7. 無回答	3	0.0	100.0	0.0	33.3	33.3	66.7	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0

1位 2位 3位

(5) 家事等の分担

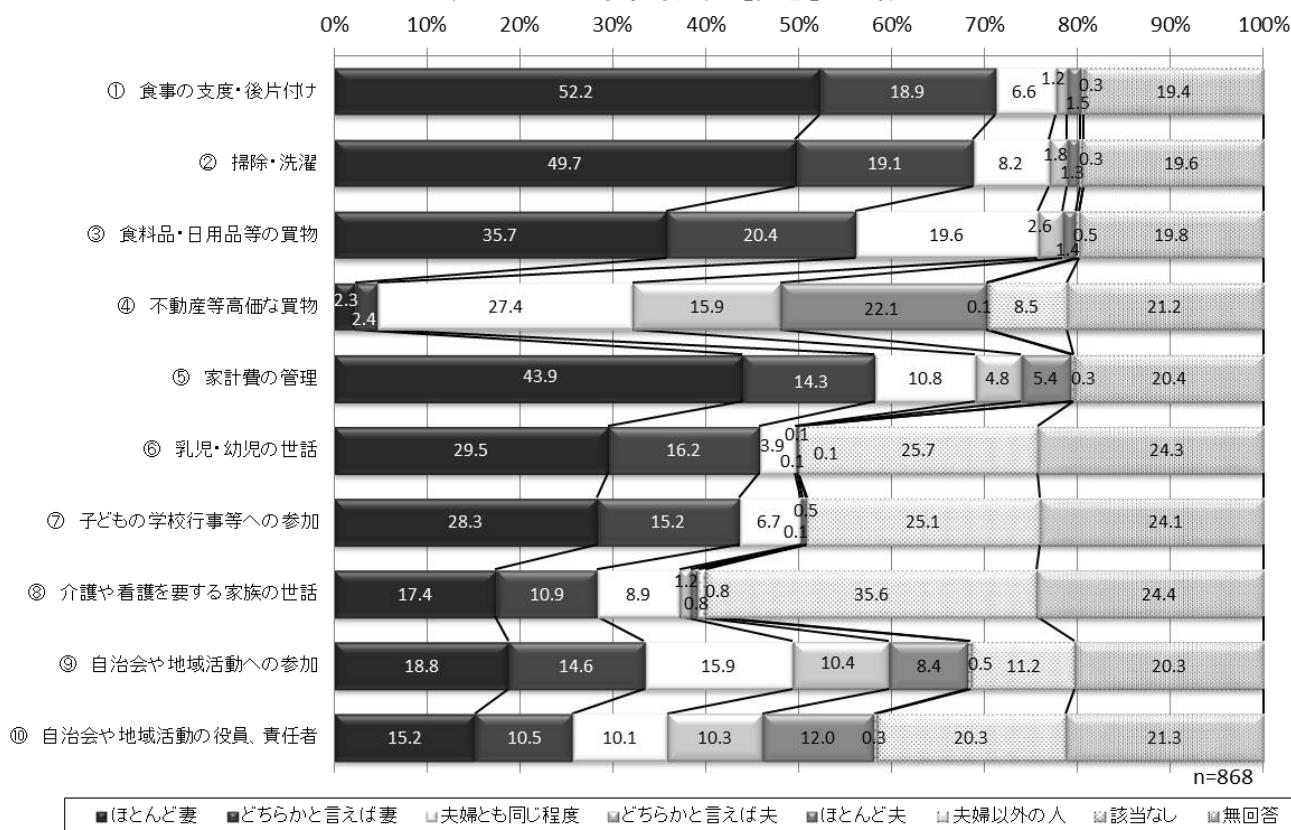
【問7 (1) 実態、(2) 理想】 次の①～⑩の家事等をどなたがしていますか。

家事等分担の実態では、家事等諸項目において「夫婦とも同じ程度」と回答した人の割合は、概ね女性よりも男性に高い傾向がみられ、男性自身の評価では家事を同じ程度担っているという認識である。

どの年代でも実態は妻が多くの子家事を分担しており、理想では「夫婦とも同じ程度」と回答した人の割合が高くなっている。

【実態】

図表 4-15 家事等分担【実態】(全体)

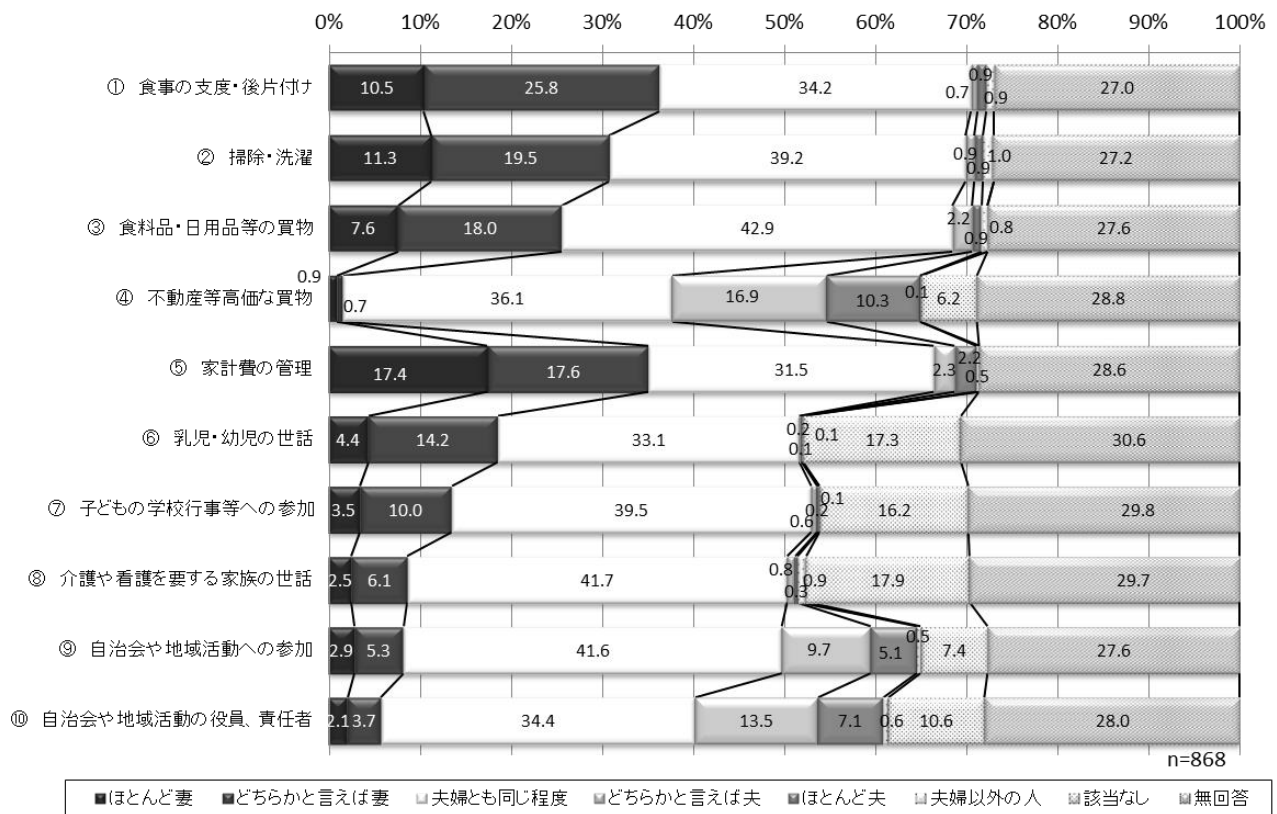


家事等	どなたが?	ほとんど妻	どちらかと言えば妻	夫婦とも同じ程度	どちらかと言えば夫	ほとんど夫	夫婦以外の人	該当なし	無回答	サンプル数 (n)
①食事の支度・後片付け	回答数(件)	453	164	57	10	13	3	-	168	868
	構成比	52.2%	18.9%	6.6%	1.2%	1.5%	0.3%	0.0%	19.4%	100.0%
②掃除・洗濯	回答数(件)	431	166	71	16	11	3	-	170	868
	構成比	49.7%	19.1%	8.2%	1.8%	1.3%	0.3%	0.0%	19.6%	100.0%
③食料品・日用品等の買物	回答数(件)	310	177	170	23	12	4	-	172	868
	構成比	35.7%	20.4%	19.6%	2.6%	1.4%	0.5%	0.0%	19.8%	100.0%
④不動産等高価な買物	回答数(件)	20	21	238	138	192	1	74	184	868
	構成比	2.3%	2.4%	27.4%	15.9%	22.1%	0.1%	8.5%	21.2%	100.0%
⑤家計費の管理	回答数(件)	381	124	94	42	47	3	-	177	868
	構成比	43.9%	14.3%	10.8%	4.8%	5.4%	0.3%	0.0%	20.4%	100.0%
⑥乳児・幼児の世話	回答数(件)	256	141	34	1	1	1	223	211	868
	構成比	29.5%	16.2%	3.9%	0.1%	0.1%	0.1%	25.7%	24.3%	100.0%
⑦子どもの学校行事等への参加	回答数(件)	246	132	58	1	4	0	218	209	868
	構成比	28.3%	15.2%	6.7%	0.1%	0.5%	0.0%	25.1%	24.1%	100.0%
⑧介護や看護を要する家族の世話	回答数(件)	151	95	77	10	7	7	309	212	868
	構成比	17.4%	10.9%	8.9%	1.2%	0.8%	0.8%	35.6%	24.4%	100.0%
⑨自治会や地域活動への参加	回答数(件)	163	127	138	90	73	4	97	176	868
	構成比	18.8%	14.6%	15.9%	10.4%	8.4%	0.5%	11.2%	20.3%	100.0%
⑩自治会や地域活動の役員、責任者	回答数(件)	132	91	88	89	104	3	176	185	868
	構成比	15.2%	10.5%	10.1%	10.3%	12.0%	0.3%	20.3%	21.3%	100.0%



【理想】

図表 4-16 家事等分担【理想】(全体)



家事等	どなたが?	ほとんど妻	どちらかと言えば妻	夫婦とも同じ程度	どちらかと言えば夫	ほとんど夫	夫婦以外の人	該当なし	無回答	サンプル数(n)
①食事の支度・後片付け	回答数(件)	91	224	297	6	8	8	-	234	868
	構成比	10.5%	25.8%	34.2%	0.7%	0.9%	0.9%	0.0%	27.0%	100.0%
②掃除・洗濯	回答数(件)	98	169	340	8	8	9	-	236	868
	構成比	11.3%	19.5%	39.2%	0.9%	0.9%	1.0%	0.0%	27.2%	100.0%
③食料品・日用品等の買物	回答数(件)	66	156	372	19	8	7	-	240	868
	構成比	7.6%	18.0%	42.9%	2.2%	0.9%	0.8%	0.0%	27.6%	100.0%
④不動産等高価な買物	回答数(件)	8	6	313	147	89	1	54	250	868
	構成比	0.9%	0.7%	36.1%	16.9%	10.3%	0.1%	6.2%	28.8%	100.0%
⑤家計費の管理	回答数(件)	151	153	273	20	19	4	-	248	868
	構成比	17.4%	17.6%	31.5%	2.3%	2.2%	0.5%	0.0%	28.6%	100.0%
⑥乳児・幼児の世話	回答数(件)	38	123	287	2	1	1	150	266	868
	構成比	4.4%	14.2%	33.1%	0.2%	0.1%	0.1%	17.3%	30.6%	100.0%
⑦子どもの学校行事等への参加	回答数(件)	30	87	343	5	2	1	141	259	868
	構成比	3.5%	10.0%	39.5%	0.6%	0.2%	0.1%	16.2%	29.8%	100.0%
⑧介護や看護を要する家族の世話	回答数(件)	22	53	362	7	3	8	155	258	868
	構成比	2.5%	6.1%	41.7%	0.8%	0.3%	0.9%	17.9%	29.7%	100.0%
⑨自治会や地域活動への参加	回答数(件)	25	46	361	84	44	4	64	240	868
	構成比	2.9%	5.3%	41.6%	9.7%	5.1%	0.5%	7.4%	27.6%	100.0%
⑩自治会や地域活動の役員、責任者	回答数(件)	18	32	299	117	62	5	92	243	868
	構成比	2.1%	3.7%	34.4%	13.5%	7.1%	0.6%	10.6%	28.0%	100.0%

①食事の支度・後片付け

家事等分担のうち、食事の支度・後片付けの実態では、『妻が行う（＝ほとんど妻＋どちらかといえば妻）』が71.1%となっており、調査した①から⑧の項目のうち最も高かった。一方、『夫が行う（＝ほとんど夫＋どちらかといえば夫）』は2.7%であった。また、「夫婦とも同じ程度」は6.6%に留まっている。

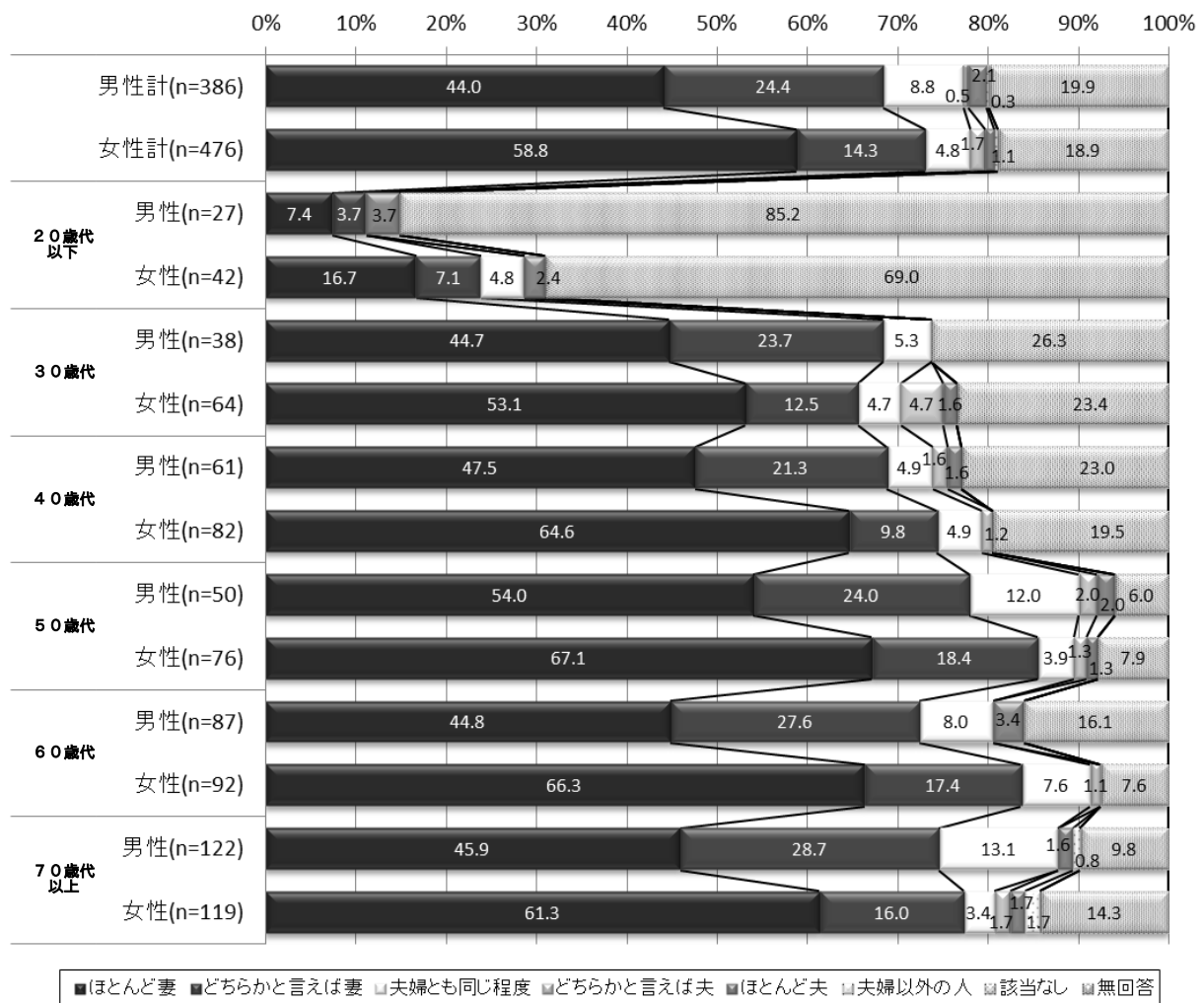
理想では、『妻が行う』が36.3%となっているものの、「夫婦とも同じ程度」が34.2%となっている。

1) 性別・年代別

性別では、実態では、『妻が行う』は、男性68.4%、女性73.1%と高くなっている。一方、理想では、「夫婦とも同じ程度」が、男性32.6%、女性35.5%と男女ともほぼ同様となっている。

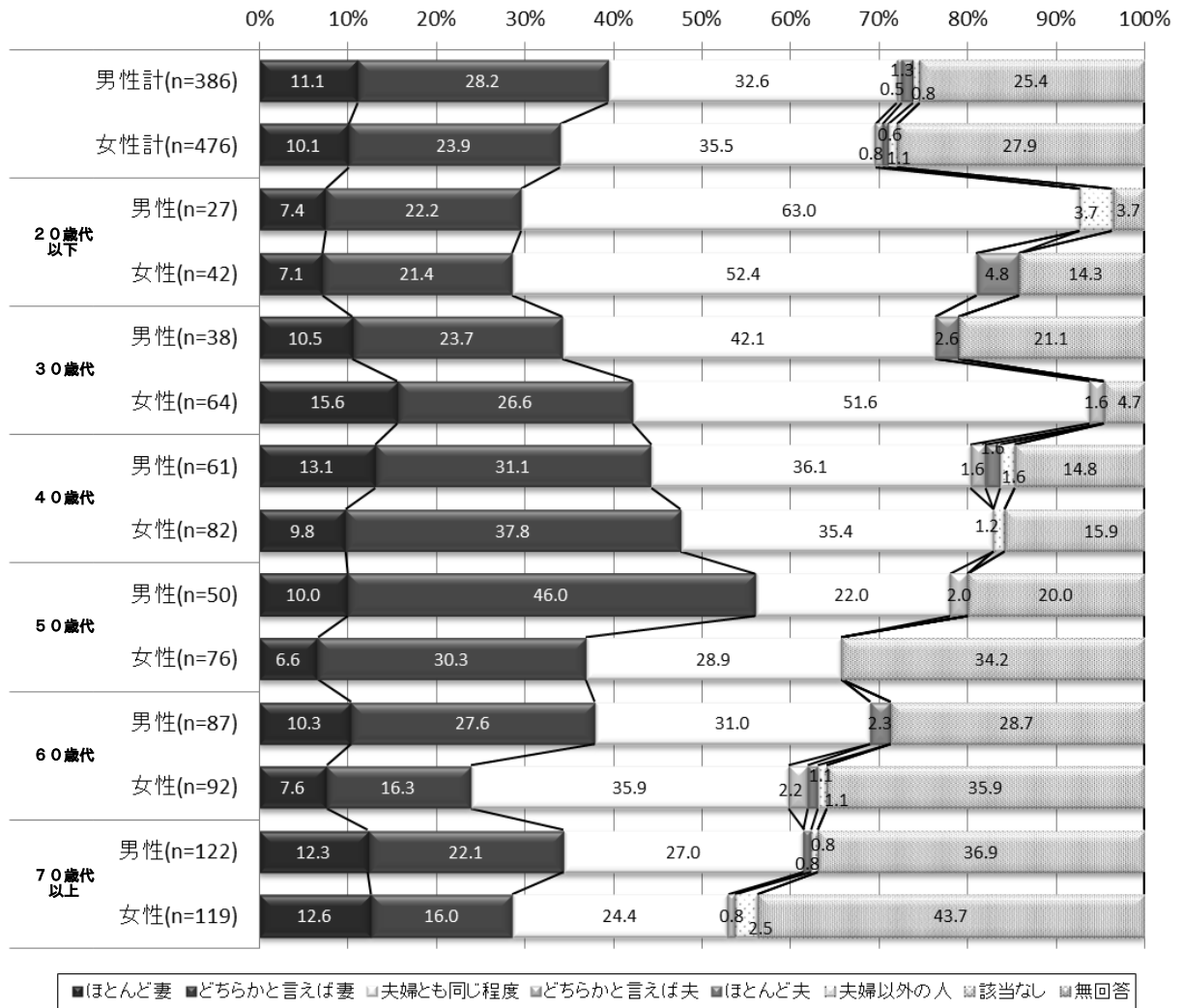
年代別では、理想として、年代が低くなるにつれて「夫婦とも同じ程度」と回答した割合が高くなっている。

○実態 図表4-17 ①食事の支度・後片付け（性別・年代別／実態）



○理想

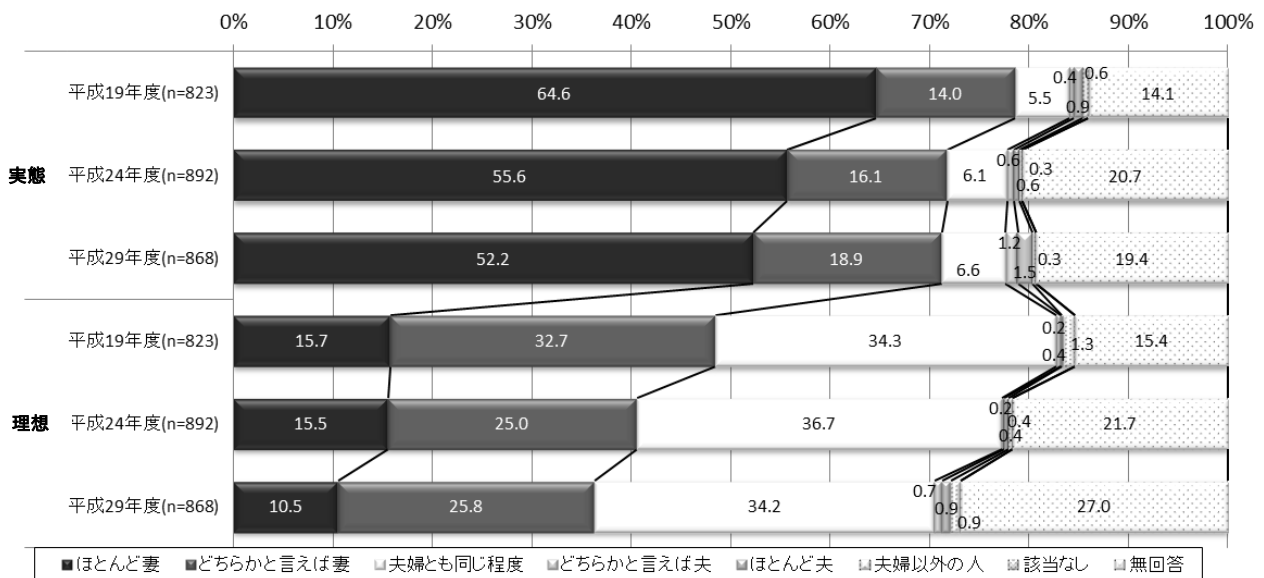
図表 4-18 ①食事の支度・後片付け（性別・年代別／理想）



2) 経年比較

経年比較では、実態、理想とも、『妻が行う』と回答した人の割合は、前々回調査（平成19年度）から経年で徐々に減少している。

図表 4-19 ①食事の支度・後片付け（経年比較）



②掃除・洗濯

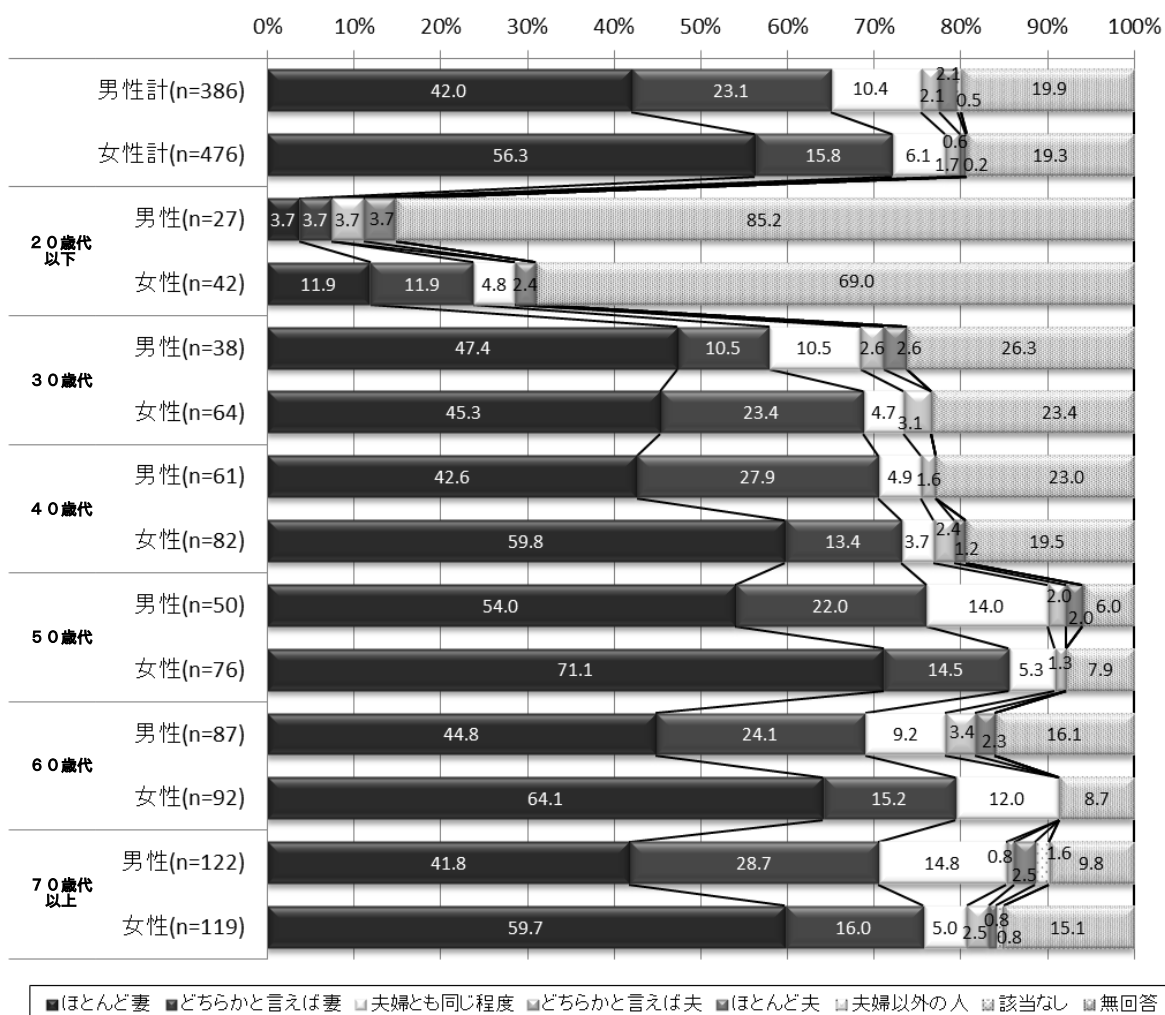
家事等分担のうち、掃除・洗濯の実態では、『妻が行う』が68.8%となっている。『夫が行う』は3.1%であり、『妻が行う』が大幅に上回っている。また、『夫婦とも同じ程度』は8.2%に留まっている。一方、理想では、「夫婦とも同じ程度」が39.2%と最も高くなっている。

1) 性別・年代別

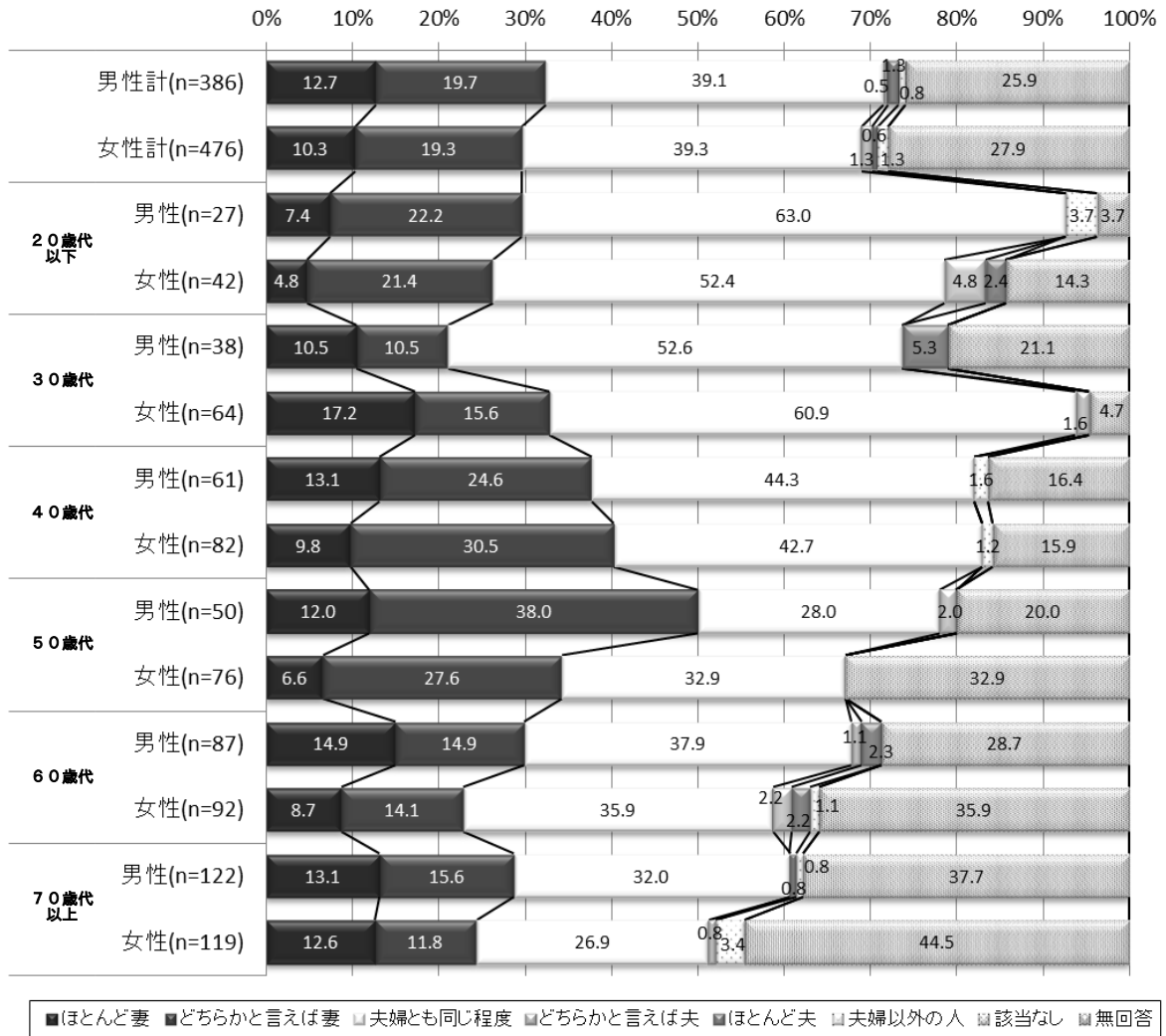
性別では、実態として、『妻が行う』は、男性65.1%、女性72.1%となっている一方、理想では、男性32.4%、女性29.6%となっている。また、理想では、「夫婦とも同じ程度」は、男性39.1%、女性39.3%となっている。

年代別では、30歳代、50歳代を除き。理想として「夫婦とも同じ程度」と回答した割合が女性よりも男性が上回る回答となっている。

○実態 図表4-20 ②掃除・洗濯（性別・年代別／実態）



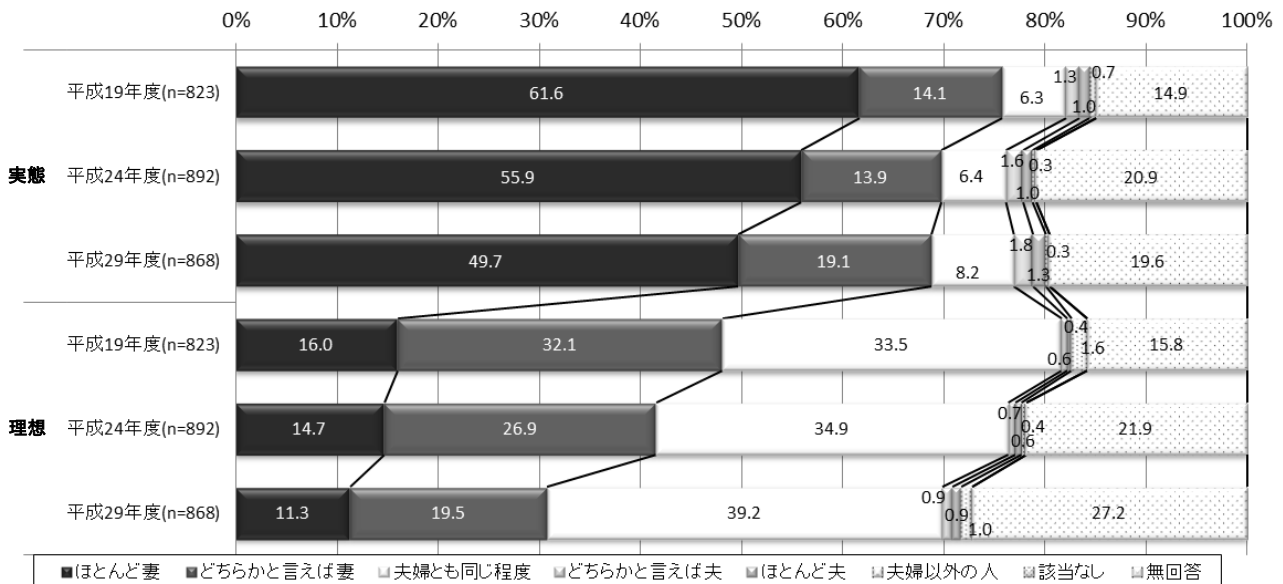
○理想 図表4-21 ②掃除・洗濯（性別・年代別／理想）



2) 経年比較

経年比較では、実態、理想とも『妻が行う』と回答した人の割合は、前々回調査（平成19年度）から徐々に減少している。また、理想において、『夫婦とも同じ程度』が徐々に増加している。

図表4-22 ②掃除・洗濯（経年比較）



③食料品・日用品等の買物

家事等分担のうち、食料品・日用品等の買物の実態では、『妻が行う』が 56.1%となっており、「夫婦とも同じ程度」は 19.6%となっている。

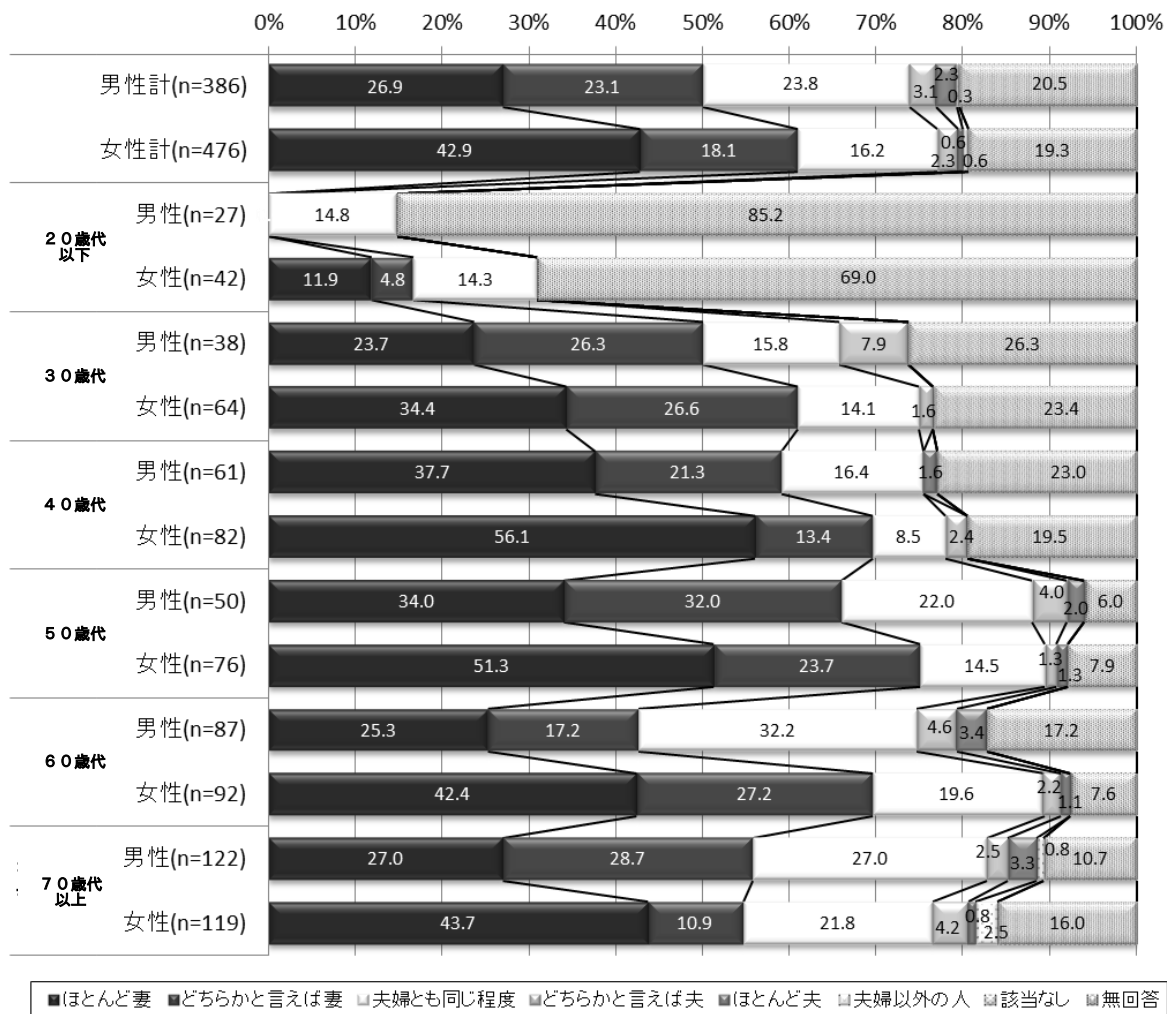
一方、理想では、「夫婦とも同じ程度」が 42.9%となっている。

1) 性別・年代別

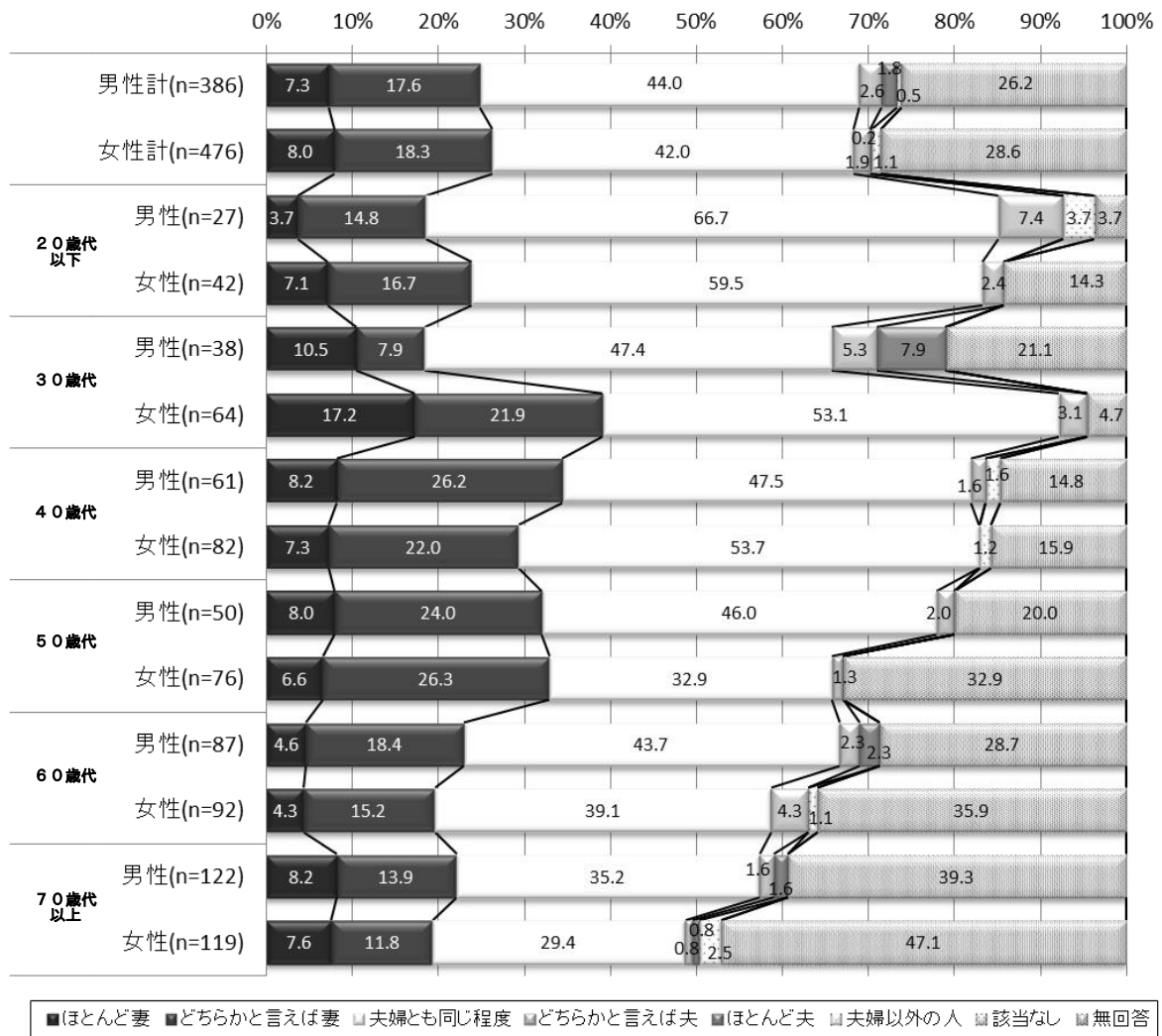
性別では、実態で、『妻が行う』は、男性 50.0%に対して、女性は 11.0 ポイント高い 61.0%となっている。一方、理想では、男性 24.9%、女性 26.3%となっており、性別による違いは見られない。

年代別では、理想として「夫婦とも同じ程度」と回答した割合は、概ね若い年代ほど高くなっている。

○実態 図表 4-23 ③食料品・日用品等の買物（性別・年代別／実態）



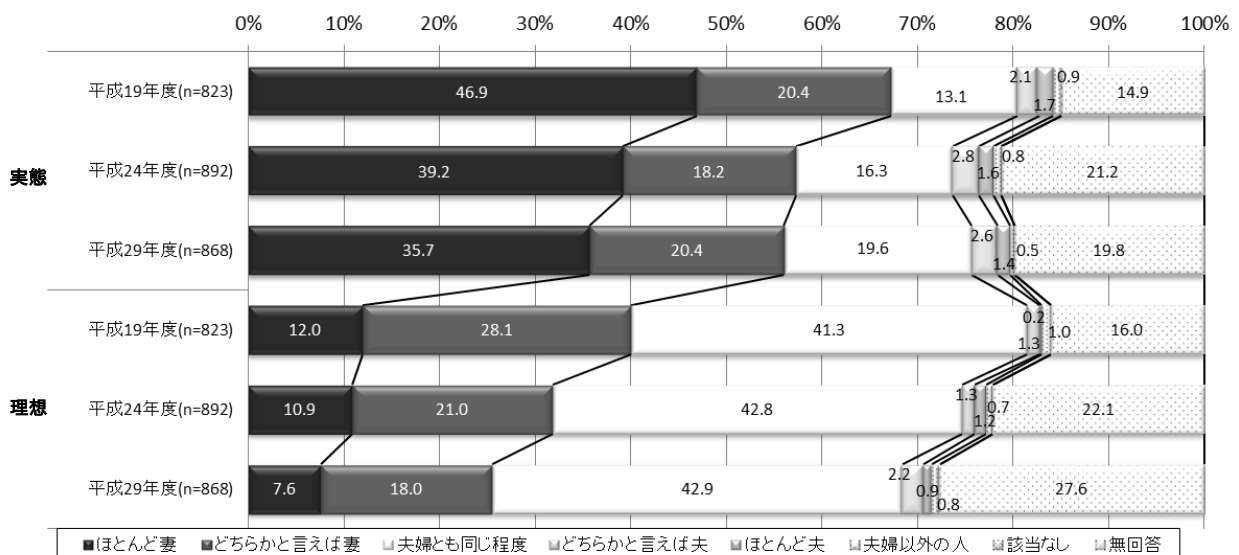
○理想 図表 4-2 4 ③食料品・日用品等の買物（性別・年代別／理想）



2) 経年比較

経年比較では、前々回調査（平成 19 年度）から、実態、理想のどちらにおいても、「夫婦とも同じ程度」の割合が高くなる。また、『妻が行う』については、実態、理想とも、割合が低くなる傾向にある。

図表 4-2 5 ③食料品・日用品等の買物（経年比較）





④不動産等高価な買物

家事等分担のうち、不動産等高価な買物の実態では、『夫が行う』は38.0%と調査した①から⑩の項目で最も高く、『妻が行う』が4.7%、「夫婦とも同じ程度」は27.4%となっている。  
 また、理想でも、『夫が行う』は調査した10項目で最も高く27.2%となっている。

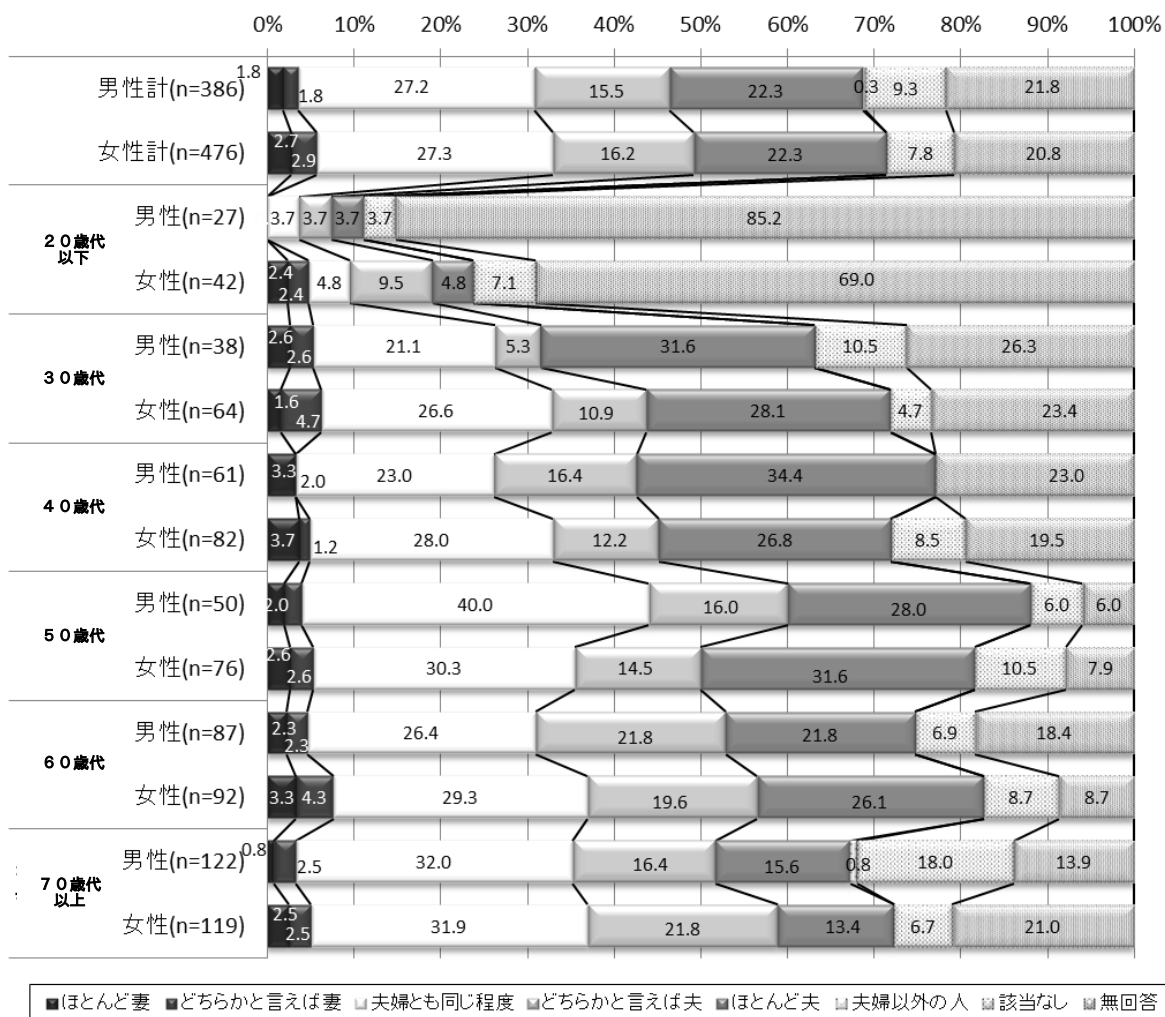
1) 性別・年代別

性別では、実態で、『夫が行う』は男性で37.8%、女性で38.5%となっている。また、「夫婦とも同じ程度」は男性で27.2%、女性で27.3%となっており、性別による違いは見られない。

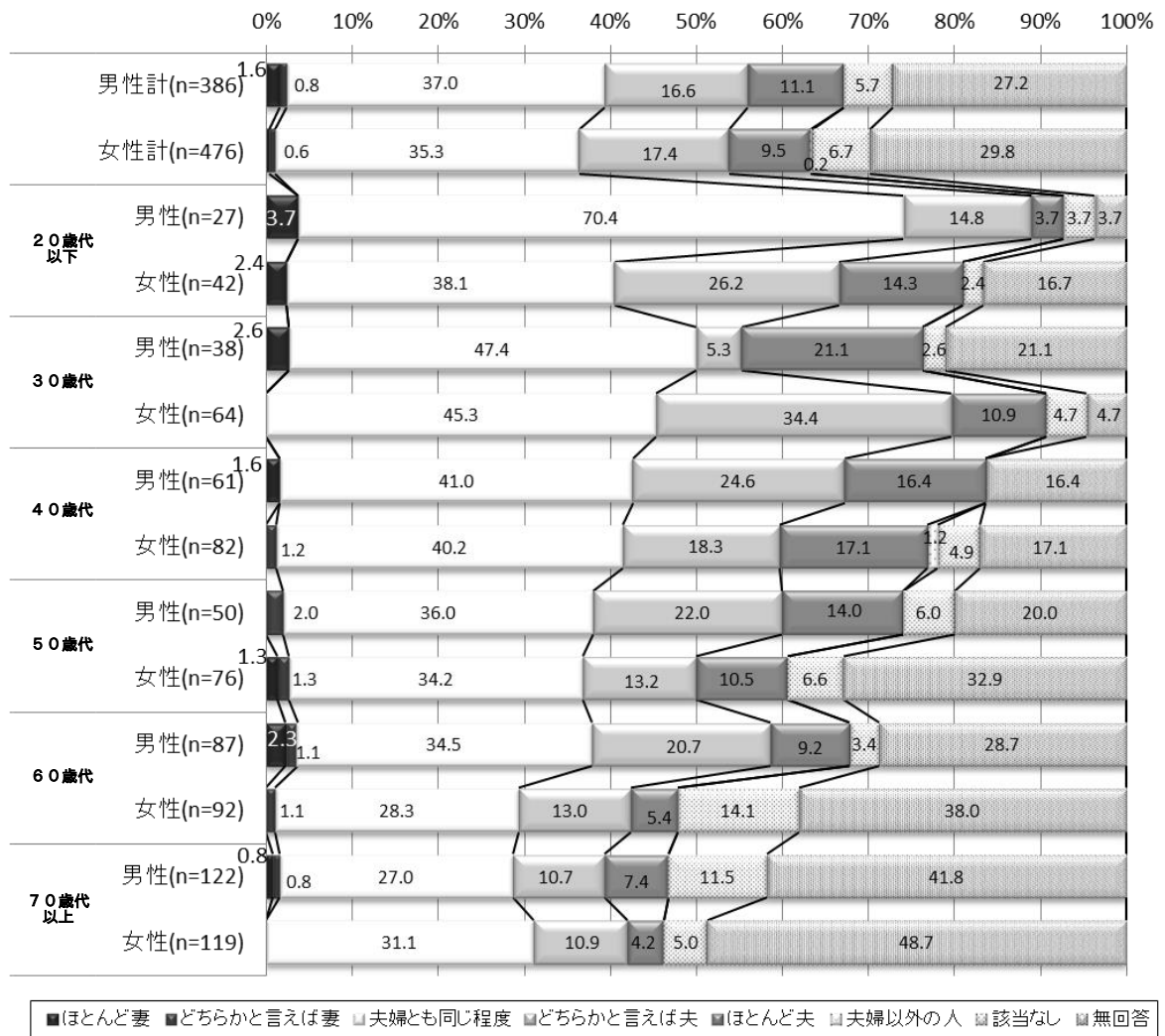
また、理想で、『夫が行う』は男性で27.7%、女性で26.9%、「夫婦とも同じ程度」は男性で37.0%、女性で35.3%となっており、こちらも性別による違いは見られない。

年代別では、理想で、年代が低くなるにつれて「夫婦とも同じ程度」と考える割合が高くなる傾向がある。

○実態 図表4-26 ④不動産等高価な買物（性別・年代別／実態）



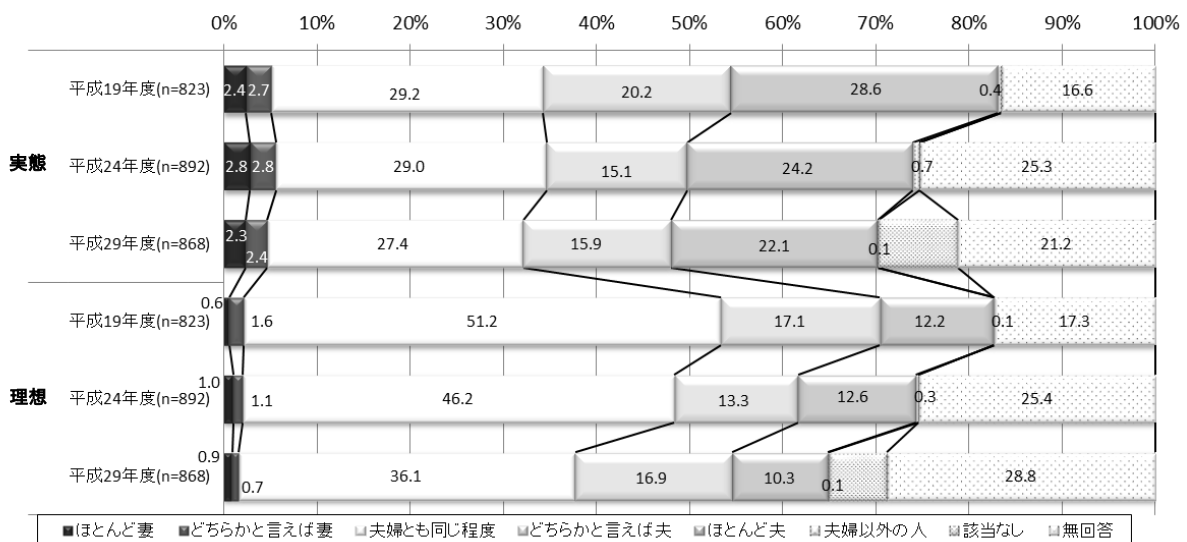
○理想 図表 4-27 ④不動産等高価な買物（性別・年代別／理想）



2) 経年比較

経年比較では、実態において、「夫婦とも同じ程度」と回答した人の割合は経年で見てもほぼ変わらないが、理想としては減少傾向にある。

図表 4-28 ④不動産等高価な買物（経年比較）



### ⑤家計費の管理

家事等分担のうち、家計費の管理の実態では、『妻が行う』が 58.2%となっている。『夫が行う』は 10.2%となっている。また、「夫婦とも同じ程度」は 10.8%となっている。

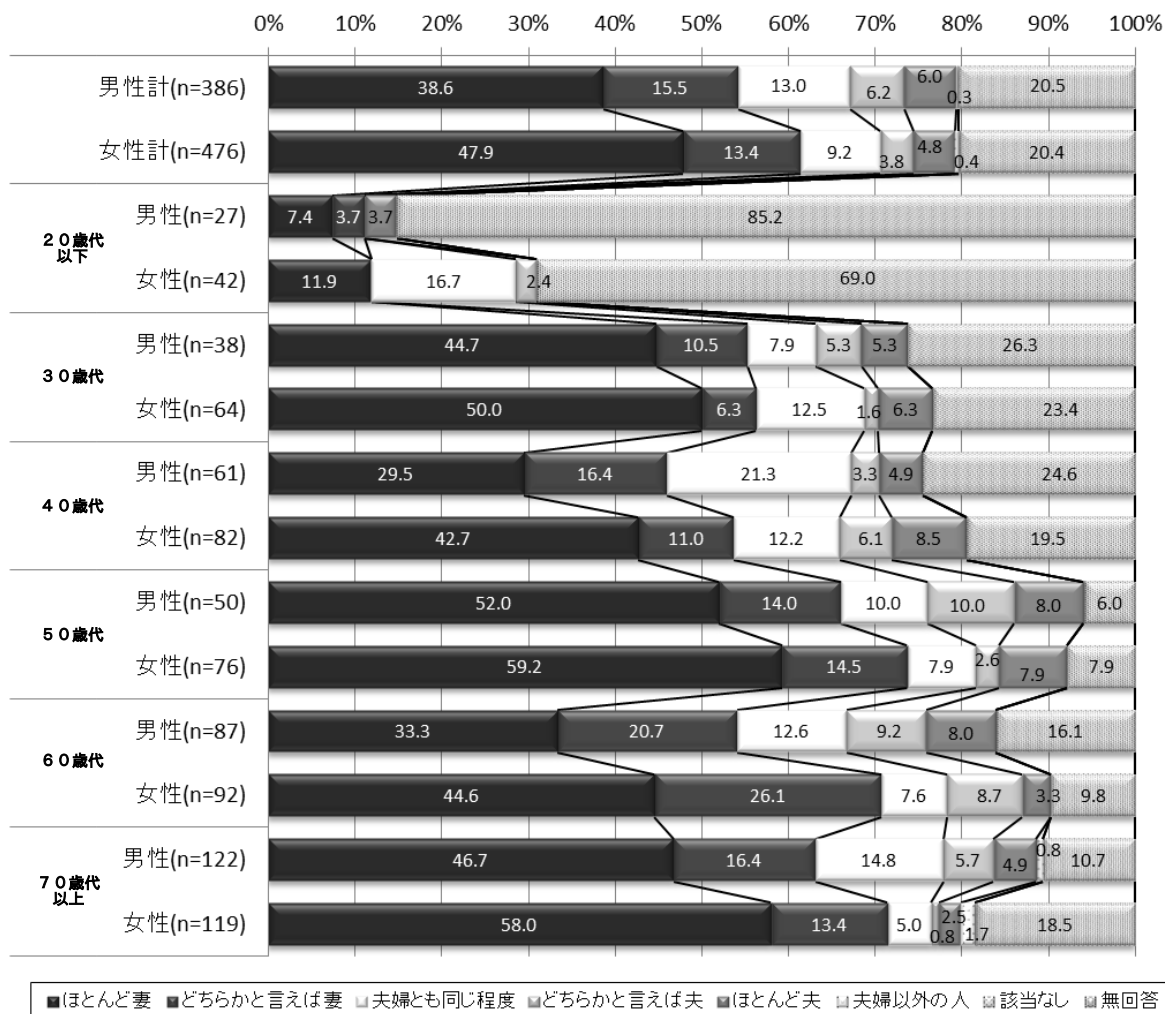
一方、理想では、『妻が行う』が 35.0%となっているものの、「夫婦とも同じ程度」が 31.5%となっている。

#### 1) 性別・年代別

性別では、実態で、『妻が行う』は、男性 54.1%、女性 61.3%となっている。一方、理想では、『妻が行う』は、男性 33.1%、女性 36.8%となっており、「夫婦とも同じ程度」は、男性 35.5%、女性 28.6%となっている。

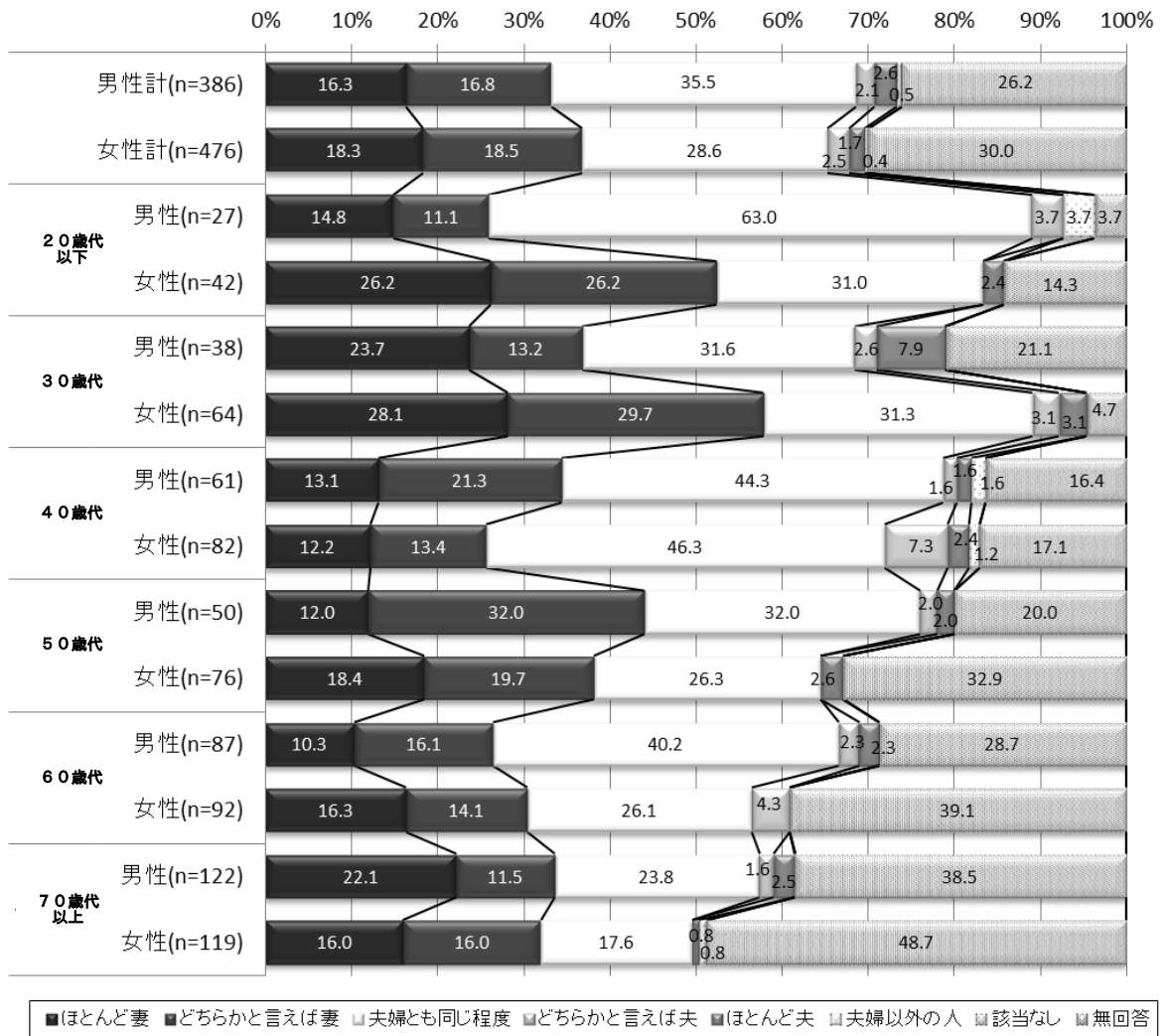
年代別では、20歳代以下及び30歳代の女性では、理想として『妻が行う』が50%を超えている。

○実態 図表4-29 ⑤家計費の管理（性別・年代別／実態）



○理想

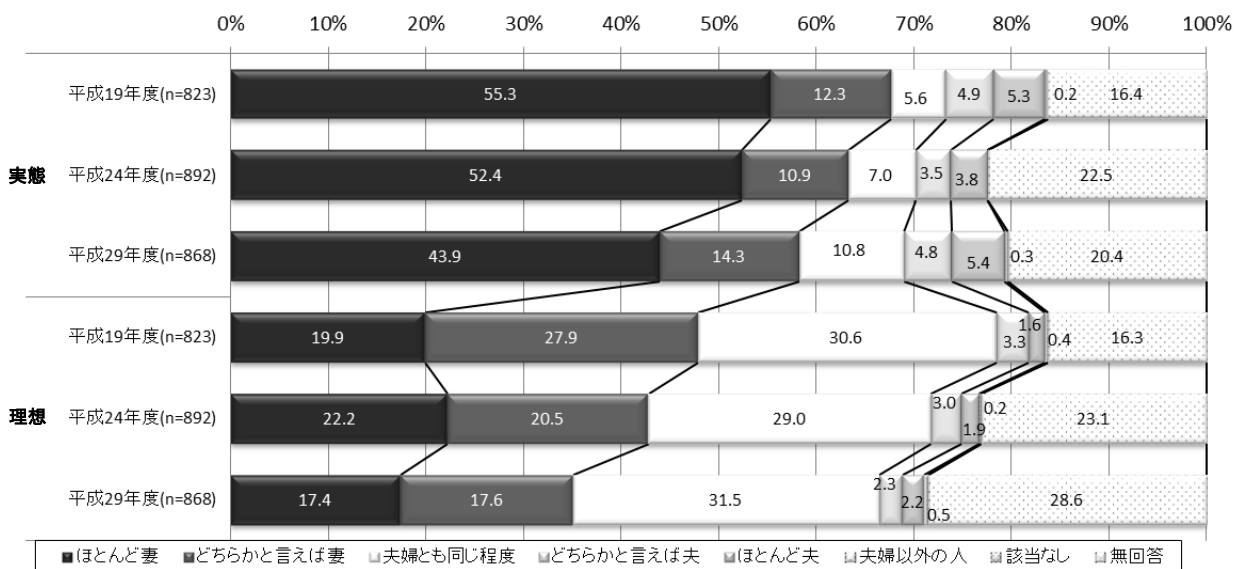
図表 4-30 ⑥家計費の管理（性別・年代別／理想）



2) 経年比較

経年比較では、前々回調査（平成 19 年度）より、実態、理想とも『妻が行う』が減少傾向にある。

図表 4-31 ⑤家計費の管理（経年比較）



⑥乳児・幼児の世話

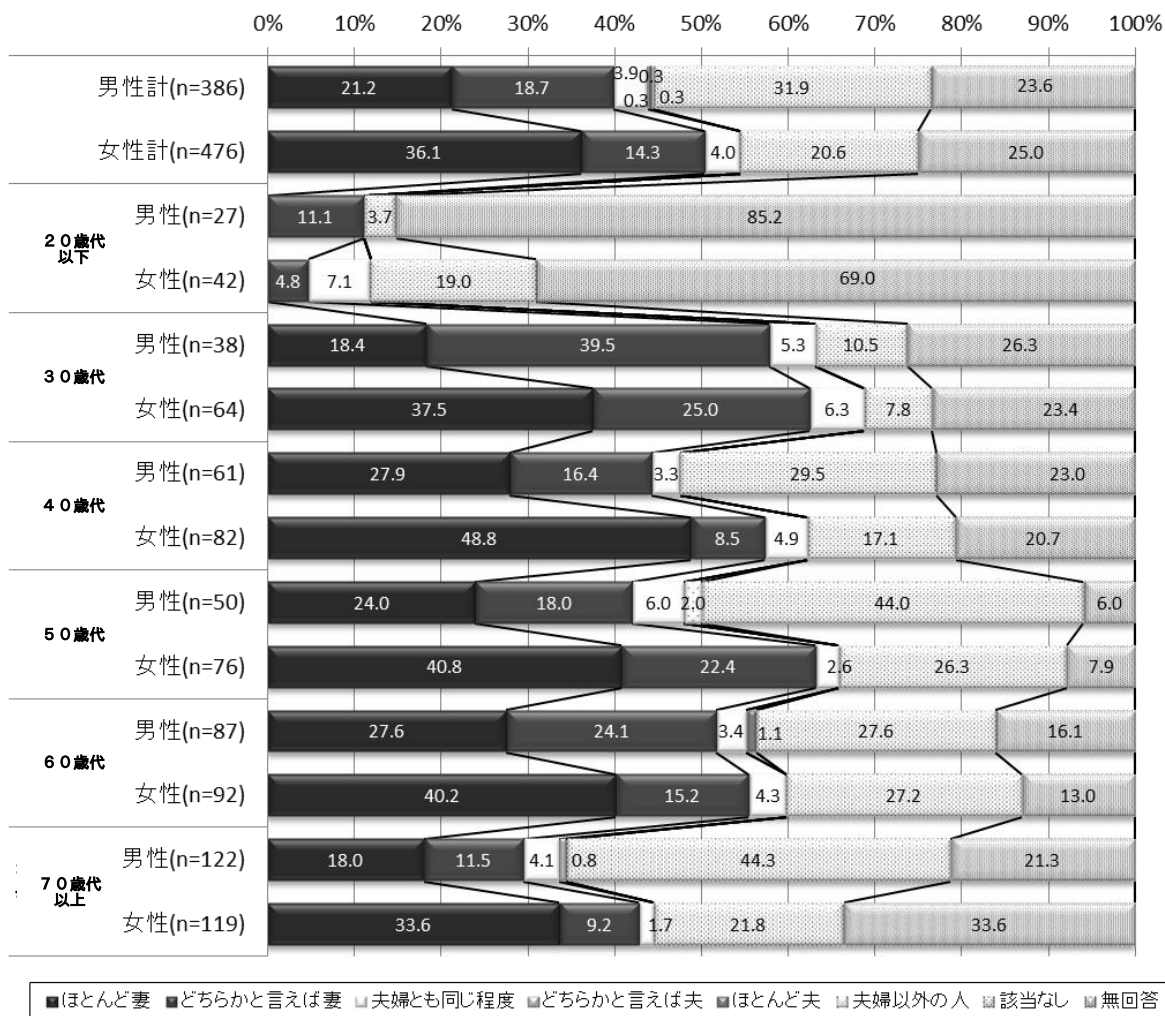
家事等分担のうち、乳児・幼児の世話の実態では、『妻が行う』が45.7%となっている。『夫が行う』は0.2%であり、『妻が行う』が大幅に上回っている。また、「夫婦とも同じ程度」は3.9%に留まっている。

一方、理想では、『妻が行う』が18.6%、「夫婦とも同じ程度」が33.1%となっている。

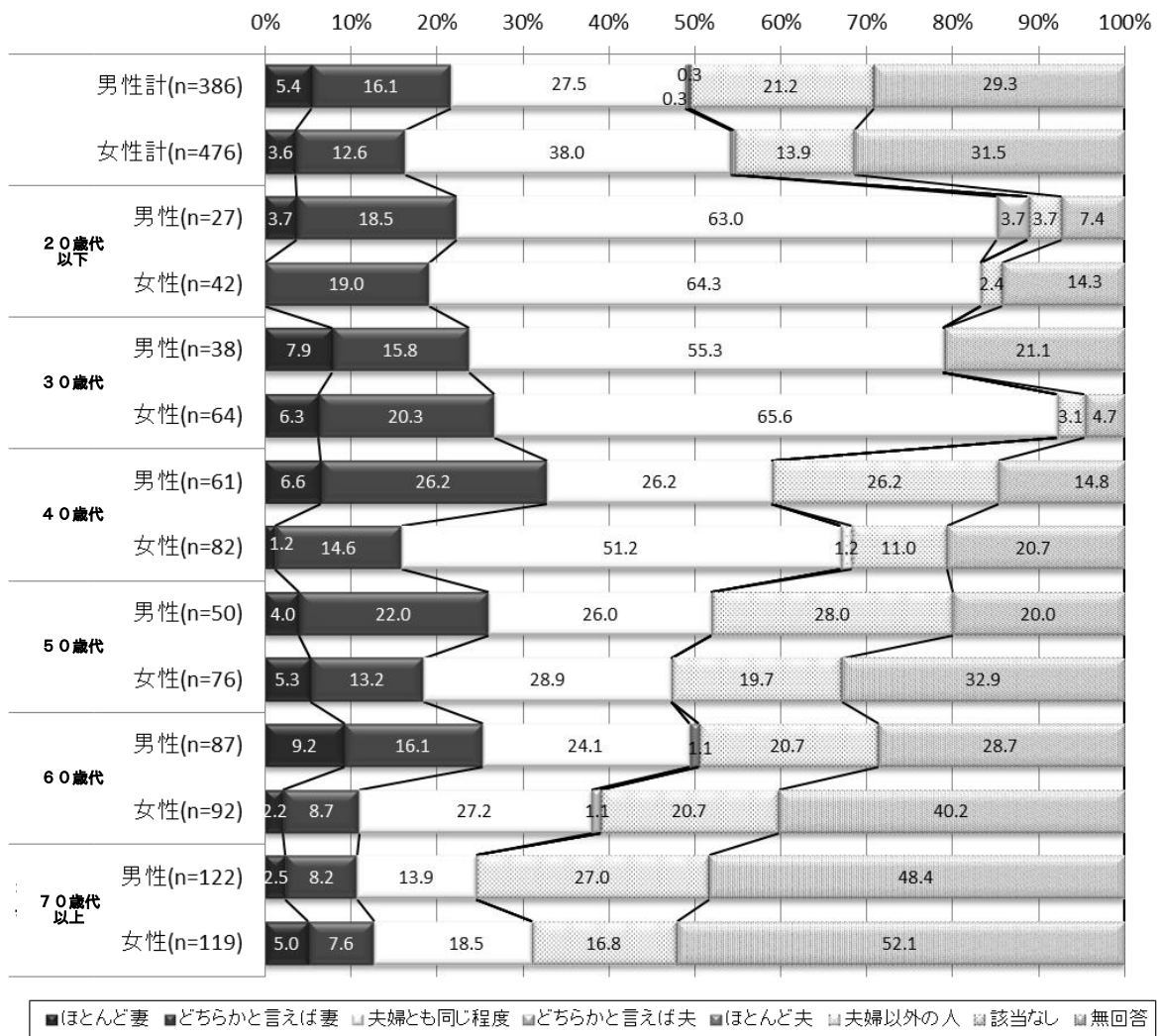
1) 性別・年代別

性別・年代別では、どの年代・性別においても、「夫婦とも同じ程度」と回答した人は、実態では10%に満たないが、理想では最も高い割合となっており、特に20歳代、30歳代女性においては60%を超えている。

○実態 図表4-32 ⑥乳児・幼児の世話（性別・年代別／実態）



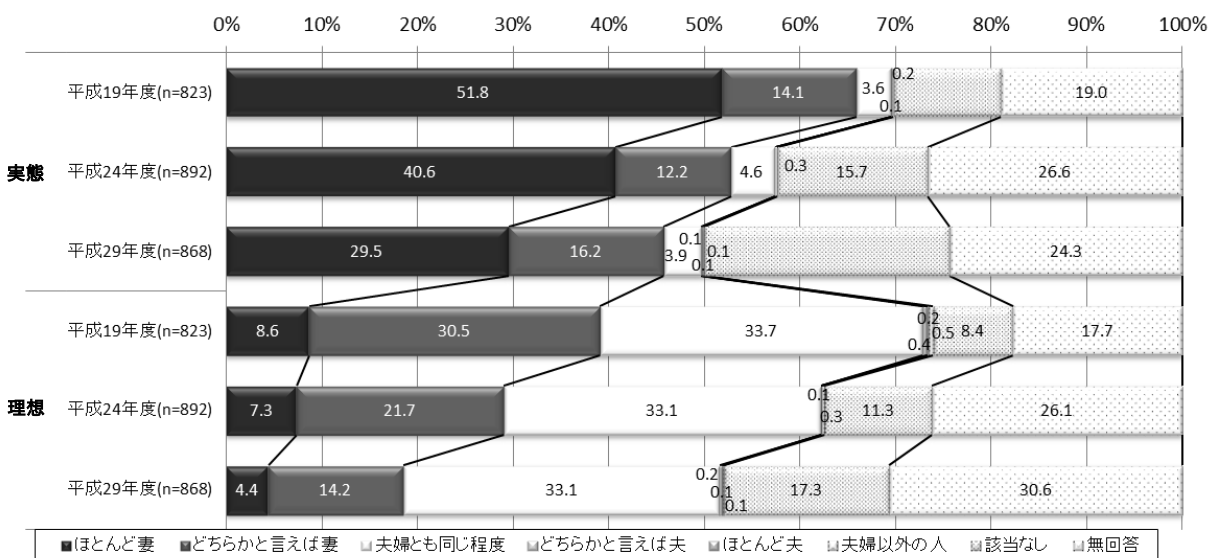
○理想 図表4-33 ⑥乳児・幼児の世話（性別・年代別／理想）



2) 経年比較

経年比較では、実態において、「ほとんど妻」が前々回調査（平成19年度）51.8%に対し、今回調査29.5%となっている。

図表4-34 ⑥乳児・幼児の世話（経年比較）



⑦子どもの学校行事等への参加

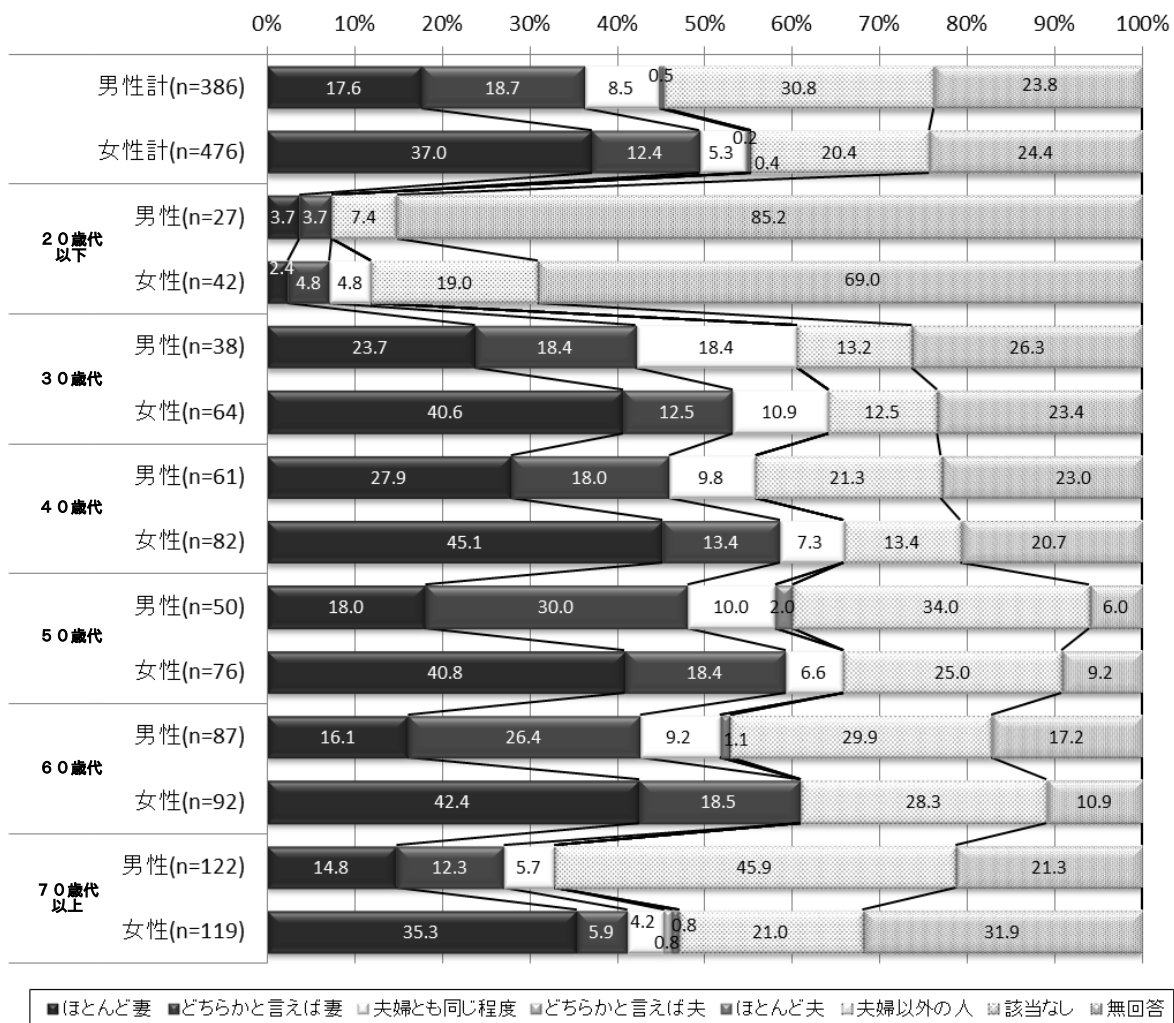
家事等分担のうち、子どもの学校行事等への参加では、実態で、「夫婦とも同じ程度」6.7%、『妻が行う』43.5%、『夫が行う』0.6%に対し、理想で、「夫婦とも同じ程度」39.5%、『妻が行う』13.5%、『夫が行う』が0.8%となっている。

経年比較では、実態における「ほとんど妻」の割合が徐々に減少し、前々回調査(平成19年度)48.4%に対し、今回調査は20.1ポイント低い28.3%となっている。

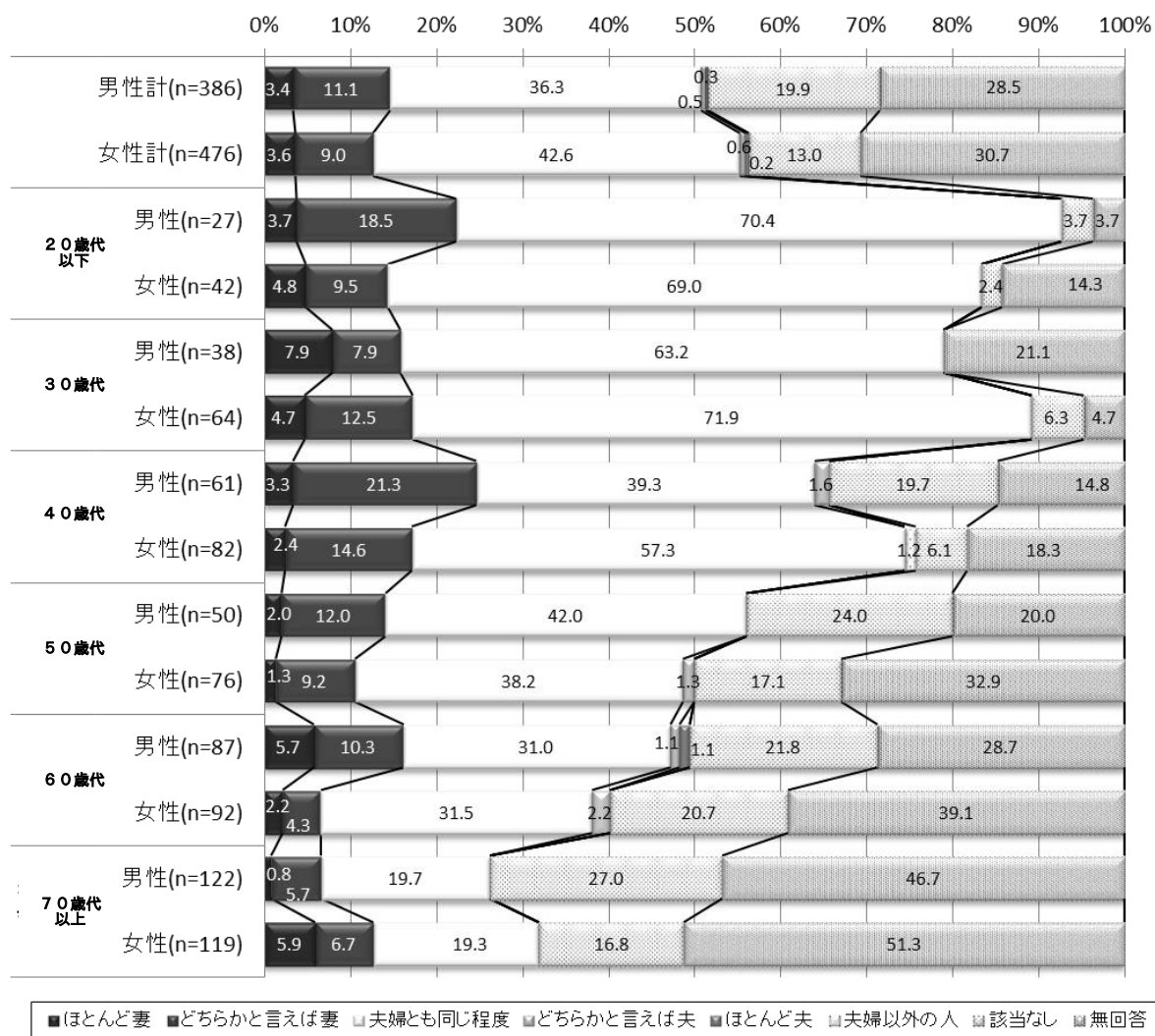
1) 性別・年代別

性別・年代別では、実態で、「ほとんど妻」と回答した人の割合は、男性17.6%に対して、女性37.0%と女性が19.4ポイント高くなっており、年代別に見ても、性別で開きがある。理想では、若い年代ほど「夫婦とも同じ程度」という回答をした割合が高くなる傾向がある。

○実態 図表4-35 ⑦子どもの学校行事等への参加(性別・年代別/実態)



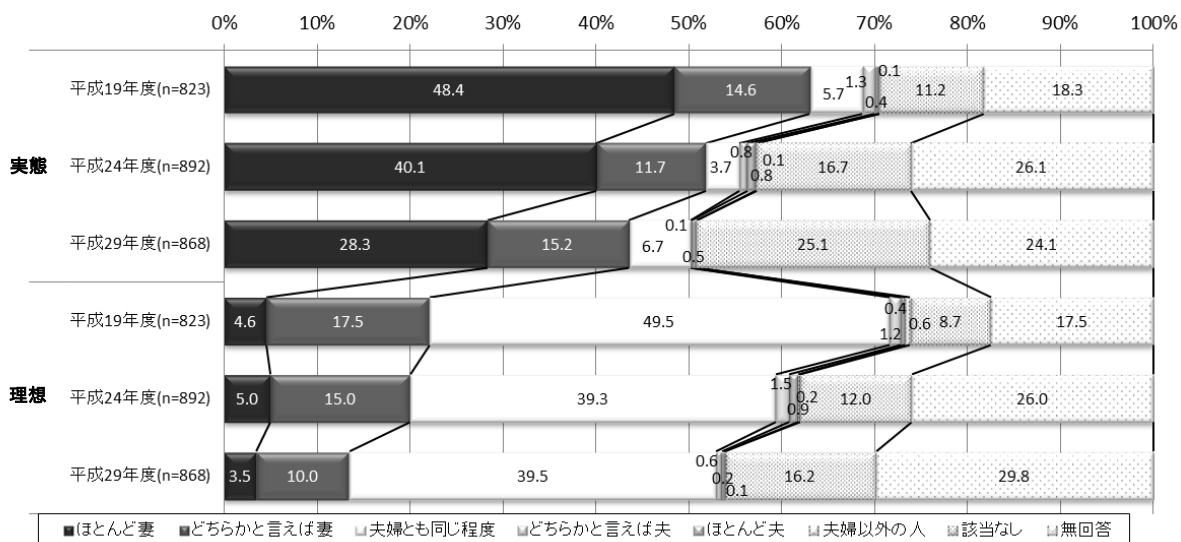
○理想 図表4-36 ⑦子どもの学校行事等への参加（性別・年代別／理想）



2) 経年比較

経年比較では、『妻が行う』が、実態、理想とも、前々回調査（平成19年度）から徐々に減少している。

図表4-37 ⑦子どもの学校行事等への参加（経年比較）





⑧介護や看護を要する家族の世話

家事等分担のうち、介護や看護を要する家族の世話の実態では、『妻が行う』が28.3%となっている。『夫が行う』は2.0%であり、『妻が行う』が大幅に上回っている。また、「夫婦とも同じ程度」は8.9%に留まっている。

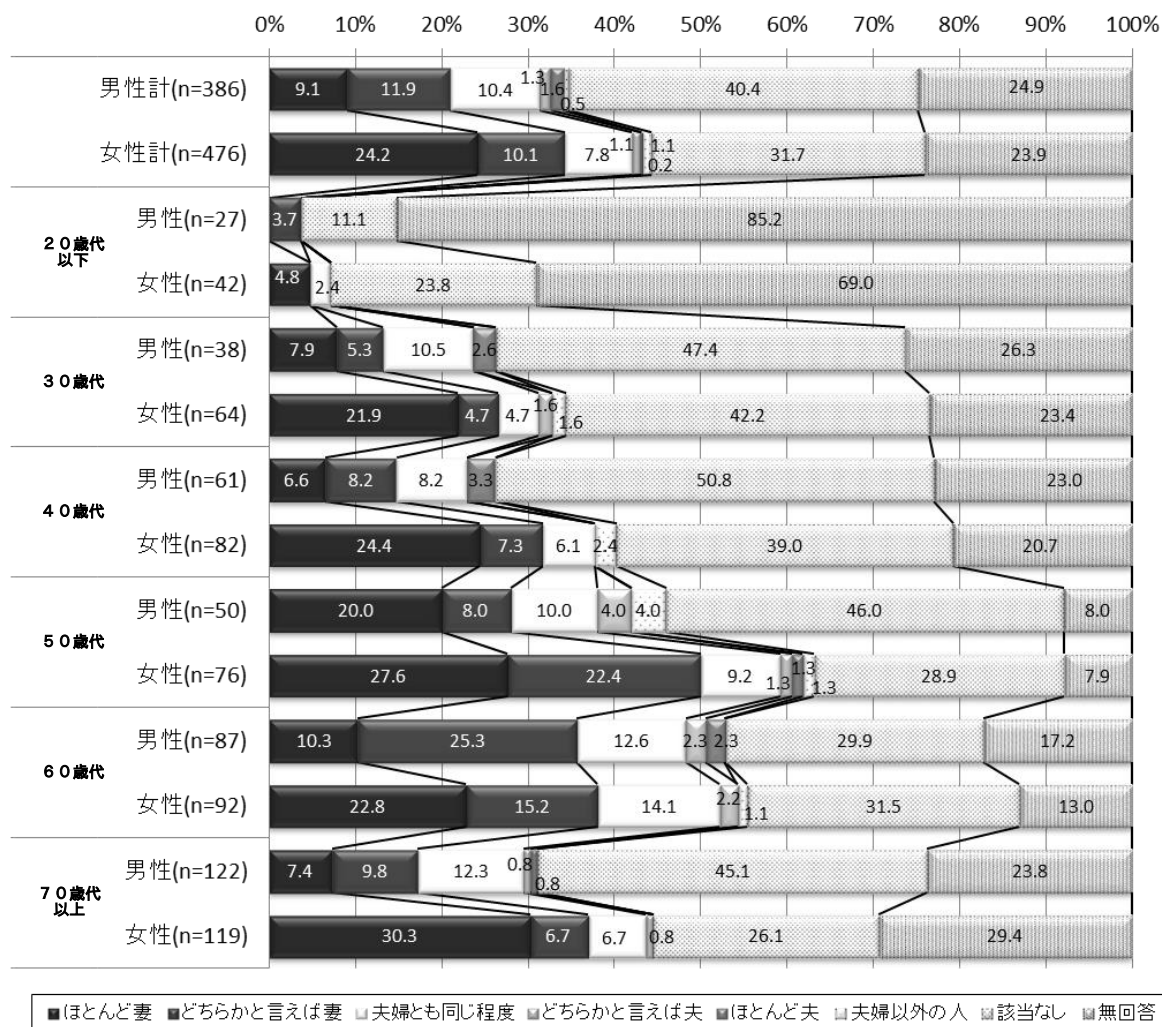
一方、理想では、「夫婦とも同じ程度」が41.7%となっており、『妻が行う』が8.6%となっている。

1) 性別・年代別

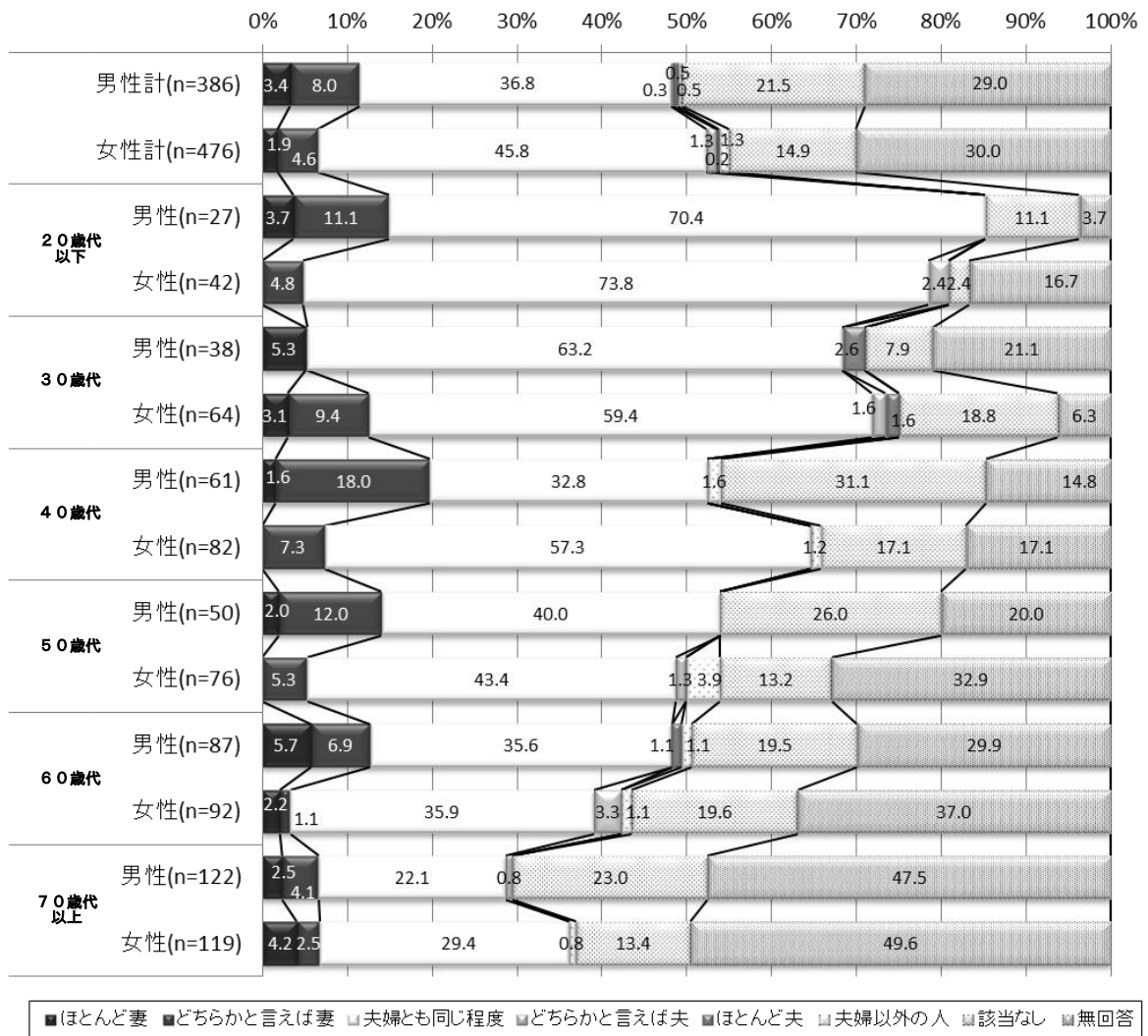
性別・年代別では、実態で、『妻が行う』は、男性21.0%、女性34.3%となっている。一方、理想では、「夫婦とも同じ程度」が男性36.8%、女性45.8%となっている。

理想として「夫婦とも同じ程度」と回答した人の割合は、若い年代ほど高い傾向となっている。

○実態 図表4-38 ⑧介護や看護を要する家族の世話（性別・年代別／実態）



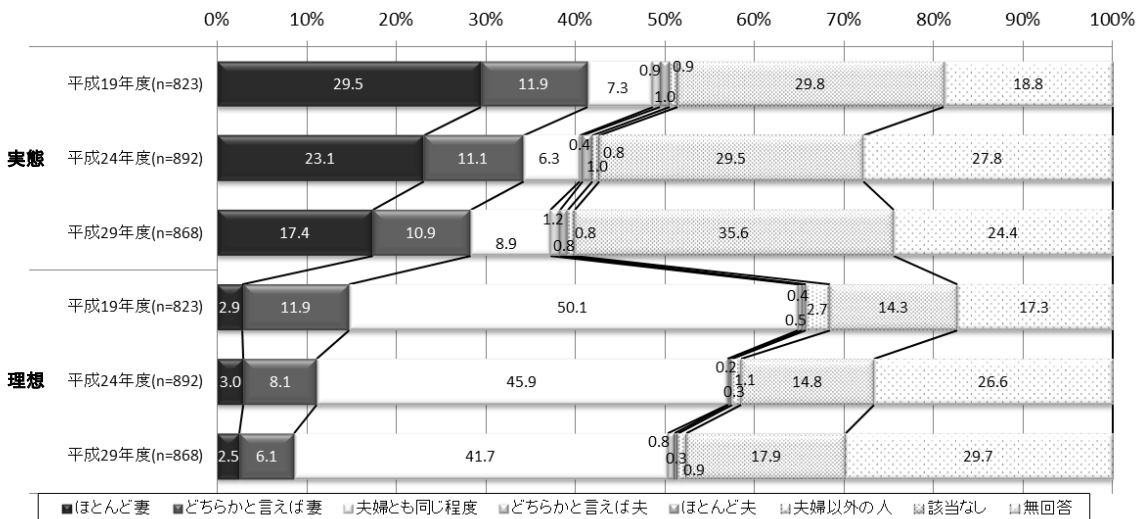
○理想 図表 4-39 ⑧介護や看護を要する家族の世話（性別・年代別／理想）



2) 経年比較

経年比較では、実態、理想とも、『妻が行う』が徐々に減少している。

図表 4-40 ⑧介護や看護を要する家族の世話（経年比較）



⑨自治会や地域活動への参加

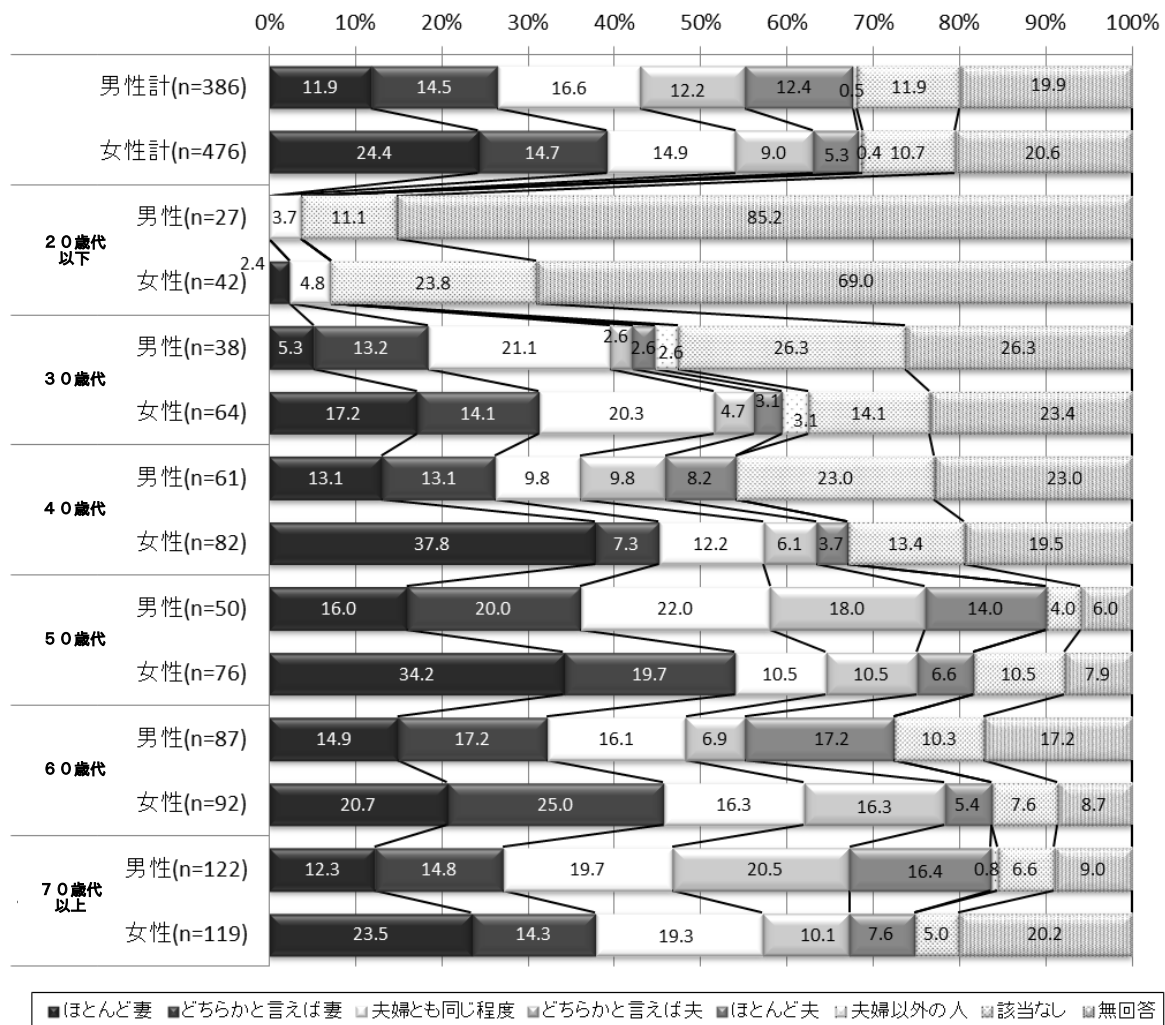
家事等分担のうち、自治会や地域活動への参加の実態では、『妻が行う』が 33.4%、『夫が行う』は 18.8%であり、「夫婦とも同じ程度」は 15.9%となっている。

一方、理想では、「夫婦とも同じ程度」が 41.6%となっている。

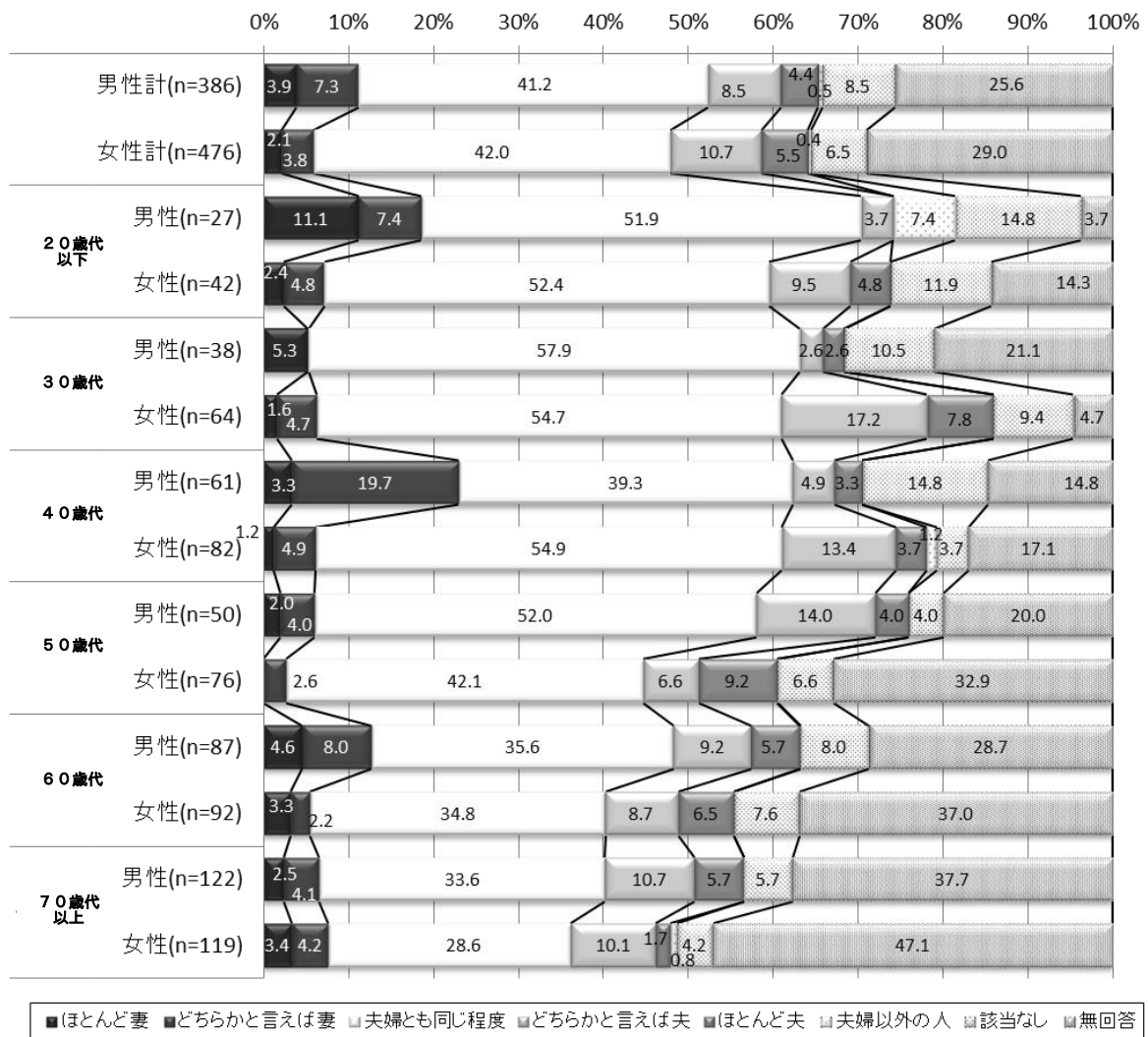
1) 性別・年代別

性別・年代別では、実態では、『妻が行う』は、50歳代女性において53.9%と最も高くなっており、各年代すべてにおいて、女性が回答した割合が高くなっている。一方、理想では、すべての性別・年代において「夫婦とも同じ程度」が最も高くなっている。

○実態 図表4-4-1 ⑨自治会や地域活動への参加（性別・年代別／実態）



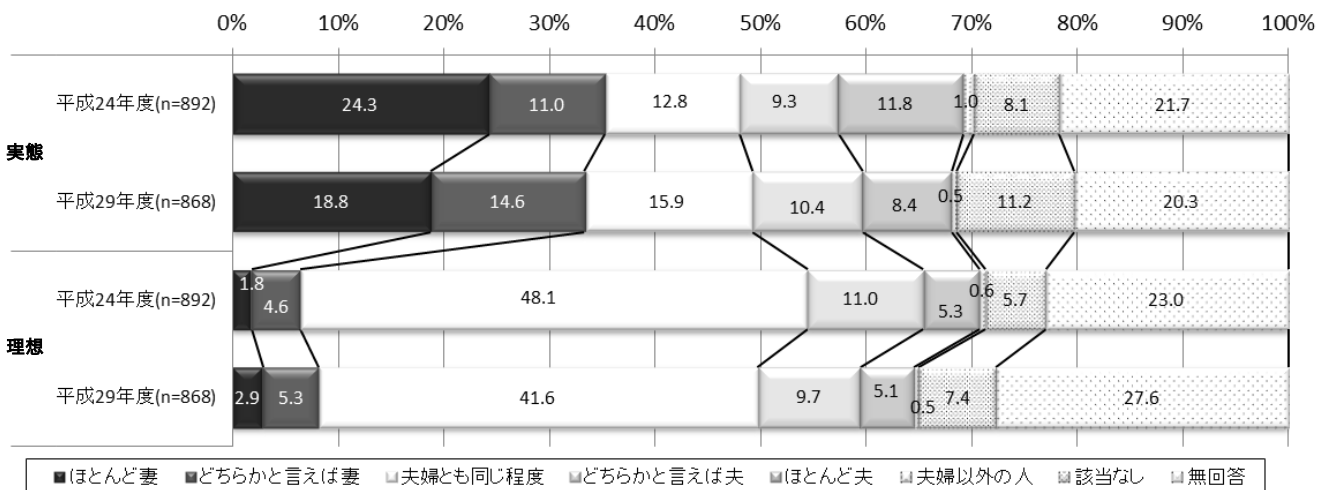
○理想 図表 4-4 2 ⑨自治会や地域活動への参加（性別・年代別／理想）



2) 経年比較

経年比較では、前回調査（平成 24 年度）と比較すると、実態において、「夫婦とも同じ程度」が増加している。

図表 4-4 3 ⑨自治会や地域活動への参加（経年比較）



⑩自治会や地域活動の役員、責任者

家事等分担のうち、自治会や地域活動の役員、責任者の実態では、『妻が行う』25.7%と『夫が行う』22.3%がほぼ同程度となっている。また、『夫婦とも同じ程度』は10.1%となっている。

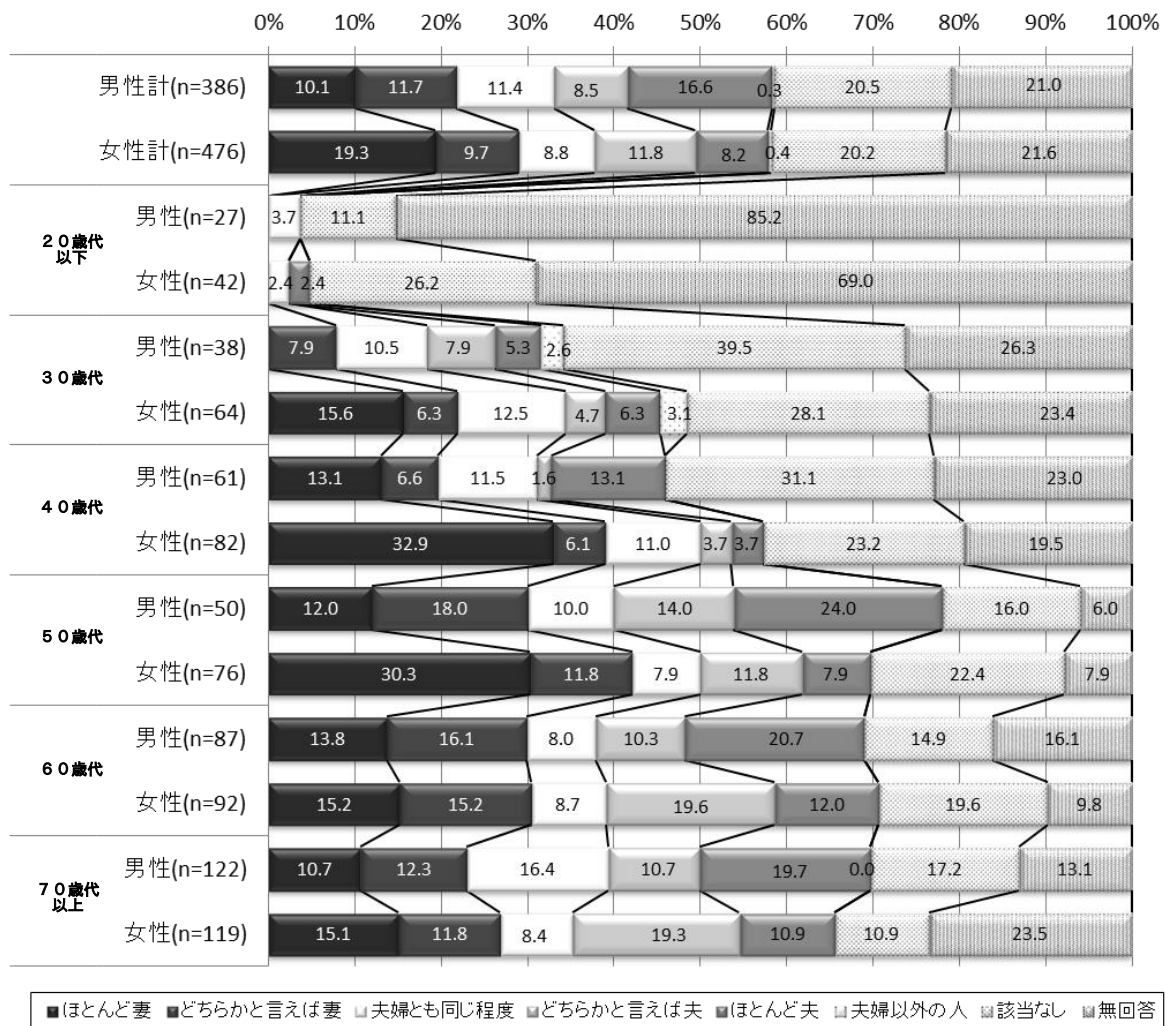
理想では、『妻が行う』が5.8%、『夫が行う』が20.6%に対し、『夫婦とも同じ程度』が34.4%となっている。

1) 性別・年代別

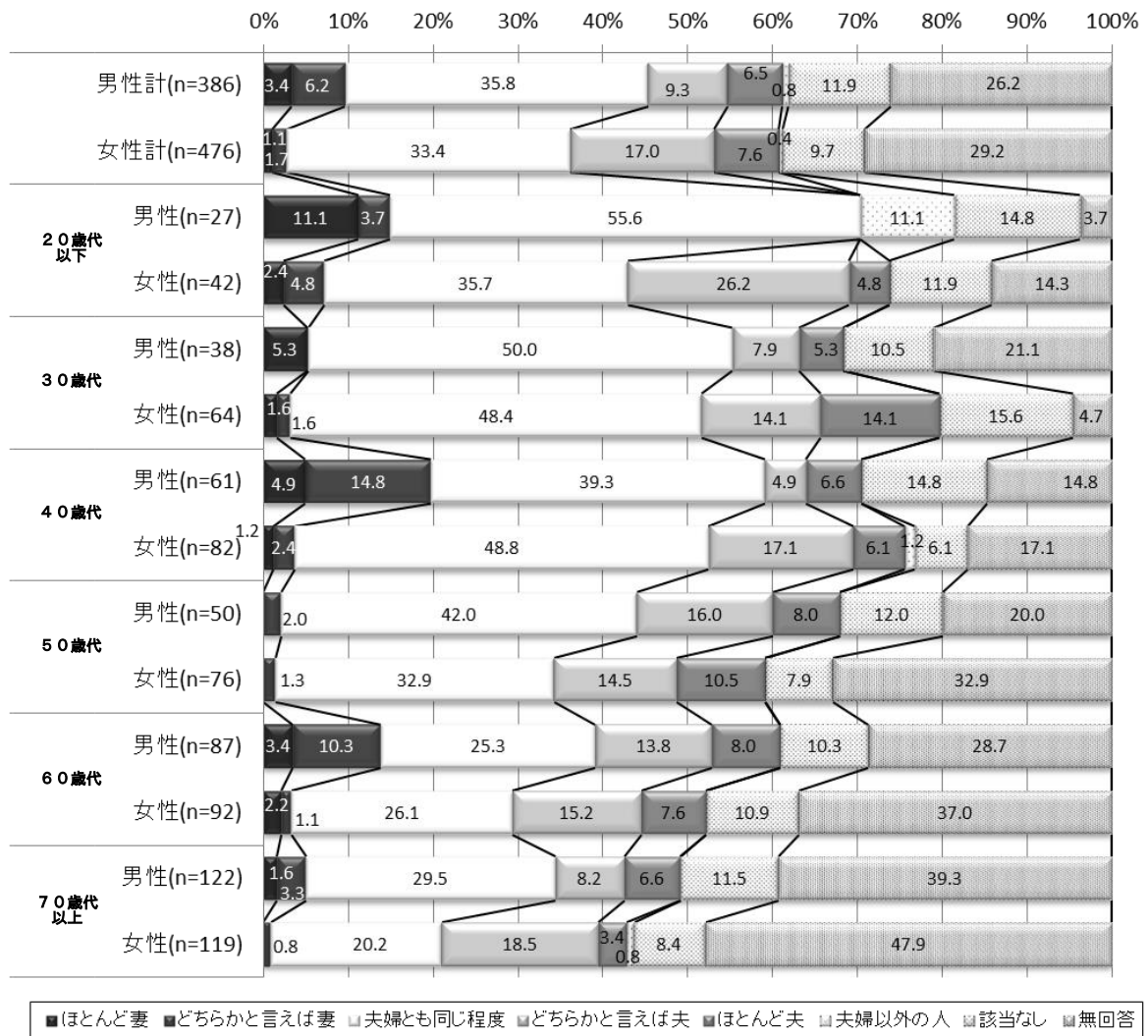
性別では、実態では、『妻が行う』が、男性 21.8%、女性 29.0%となっている。また、『夫が行う』が、男性 25.1%、女性 20.0%とほぼ同程度となっている。

理想で、『妻が行う』は、男性 9.6%、女性 2.8%、『夫が行う』は、男性 15.8%、女性 24.6%となっており、男性は妻に、女性は夫と回答している傾向がある。

○実態 図表 4-4 4 ⑩自治会や地域活動の役員、責任者（性別・年代別／実態）



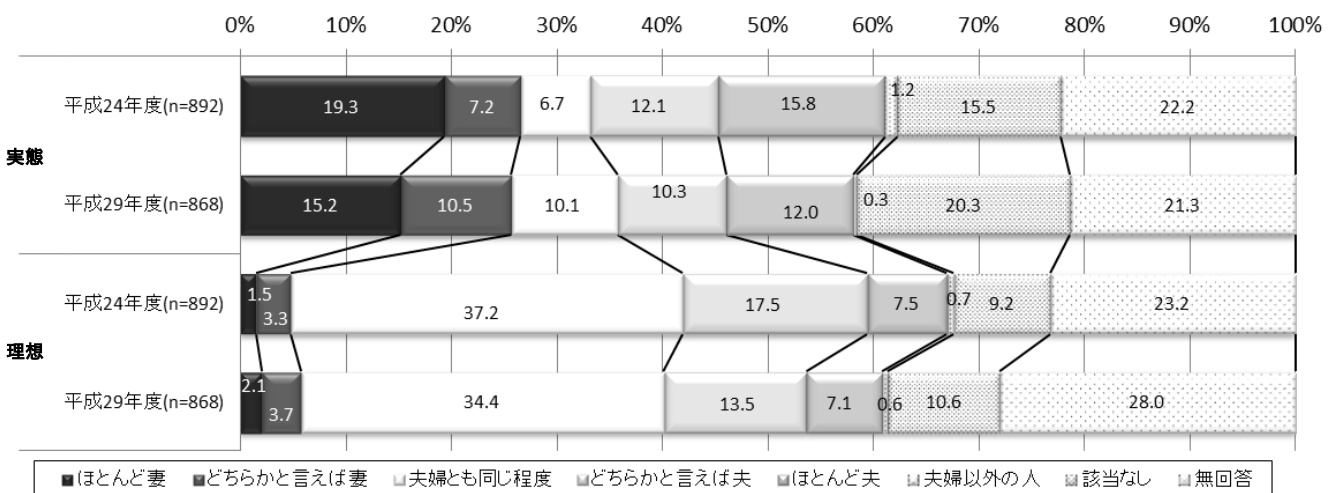
○理想 図表 4-4 5 ⑩自治会や地域活動の役員、責任者（性別・年代別／理想）



2) 経年比較

経年比較では、実態では、前回調査（平成 24 年度）と同様に、『妻が行う』と『夫が行う』がほぼ同程度の割合となっている。

図表 4-4 6 ⑩自治会や地域活動の役員、責任者（経年比較）



## 5. 防災・災害復興対策について

・【問8<複数回答>】防災・災害復興対策で女性の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。

### 要約

女性の視点に配慮した防災・災害復興対策として「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策など）」が最も回答が多く、東日本大震災から得た教訓がベースにあるものと思われる、3位となった「対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること」と合わせて避難所の設備等に女性の視点を取り入れることが必要であると思われる。

2番目に多く回答があった「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」では、災害時における社会的弱者への配慮が必要となっていると思われる。

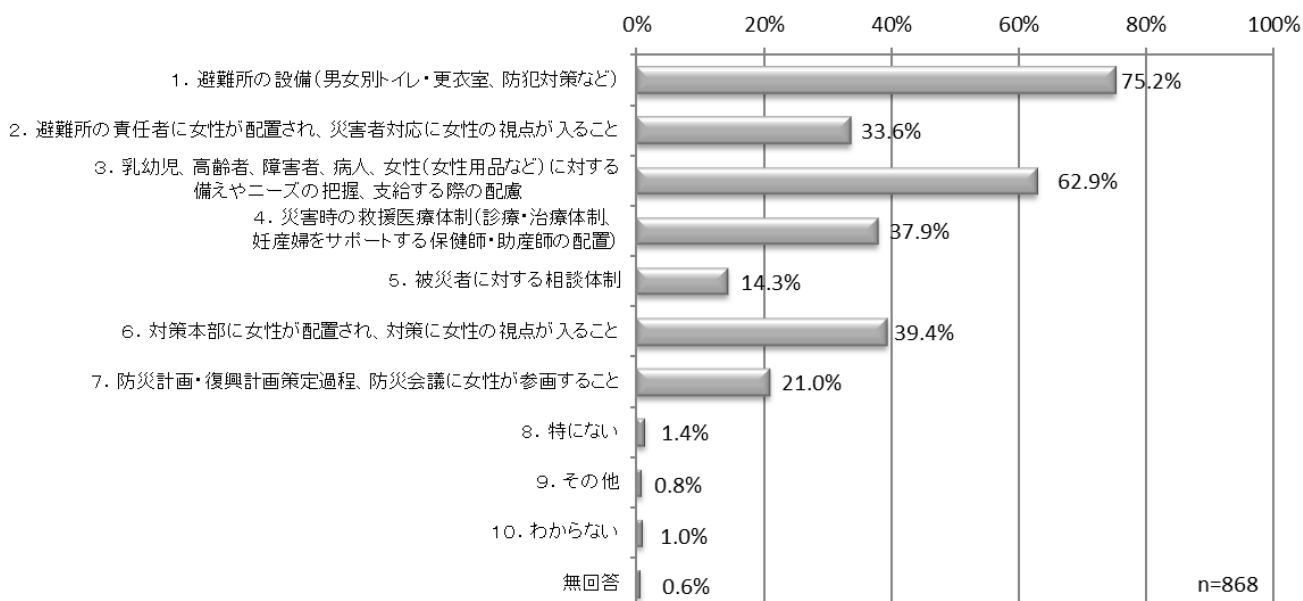
### (1) 女性の視点での防災・災害復興対策

【問8】防災・災害復興対策で女性の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。

女性の視点に配慮した防災・災害復興対策として「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室・防犯対策など）」と考える人の割合が75.2%と最も高くなっており、次いで「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」（62.9%）、「対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること」（39.4%）となっている。

30歳代40歳代は子育て世代が多いことから「災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」が3位となっている。

図表5-1 女性の視点で取り組む防災・災害復興対策



1) 性別・年代別

性別では、女性では全体の傾向と同じ項目が上位3位を占めたが、男性では「災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」が3位であった。

年代別では、20歳代以下で「避難所の責任者に女性が配置され、災害者対応に女性の視点が入ること」42.0%が3位であった。

図表5-2 女性の視点で取り組む防災・災害復興対策（性別・年代別）

	回答者数	1. 避難所の設備（男女別トイレ・更衣室）	2. 避難所の責任者に女性が配置され、災害者対応に女性の視点が入ること	3. 乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮	4. 災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）	5. 被災者に対する相談体制	6. 対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること	7. 防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること	8. 特になし	9. その他	10. わからない	11. 無回答
全体	868	65.3	29.2	54.6	32.9	12.4	34.2	18.2	12	7	9	5
	100.0	<b>75.2</b>	33.6	<b>62.9</b>	37.9	14.3	<b>39.4</b>	21.0	1.4	0.8	1.0	0.6
1. 20歳代以下	69	<b>63.8</b>	<b>42.0</b>	<b>63.8</b>	34.8	11.6	39.1	11.6	4.3	0.0	2.9	0.0
2. 30歳代	102	<b>79.4</b>	38.2	<b>74.5</b>	<b>42.2</b>	6.9	39.2	9.8	2.0	1.0	0.0	0.0
3. 40歳代	145	<b>81.4</b>	31.0	<b>65.5</b>	<b>39.3</b>	11.0	37.9	16.6	1.4	1.4	0.7	0.0
4. 50歳代	126	<b>76.2</b>	30.2	<b>65.1</b>	35.7	12.7	<b>42.1</b>	17.5	0.8	0.8	0.8	1.6
5. 60歳代	179	<b>73.2</b>	33.0	<b>59.8</b>	40.2	15.1	<b>48.0</b>	24.0	0.6	0.6	1.1	0.0
6. 70歳代以上	242	<b>74.0</b>	33.9	<b>57.0</b>	<b>36.4</b>	20.2	32.6	30.6	1.2	0.8	1.2	0.8
7. 無回答	5	80.0	0.0	80.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0
男性計	386	<b>76.9</b>	30.6	<b>59.3</b>	<b>39.9</b>	14.2	38.6	24.6	1.3	1.3	0.5	0.5
1. 20歳代以下	27	<b>63.0</b>	37.0	<b>59.3</b>	37.0	11.1	<b>44.4</b>	11.1	7.4	0.0	0.0	0.0
2. 30歳代	38	<b>84.2</b>	31.6	<b>65.8</b>	<b>52.8</b>	7.9	34.2	7.9	5.3	2.6	0.0	0.0
3. 40歳代	61	<b>83.6</b>	29.5	<b>59.0</b>	<b>44.3</b>	14.8	37.7	19.7	0.0	1.6	1.6	0.0
4. 50歳代	50	<b>76.0</b>	26.0	<b>60.0</b>	36.0	16.0	<b>46.0</b>	12.0	0.0	2.0	0.0	2.0
5. 60歳代	87	<b>75.9</b>	34.5	<b>60.9</b>	39.1	11.5	<b>49.4</b>	25.3	0.0	0.0	0.0	0.0
6. 70歳代以上	122	<b>75.4</b>	28.7	<b>55.7</b>	36.9	18.0	27.9	<b>40.2</b>	0.8	1.6	0.8	0.8
7. 無回答	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性計	476	<b>73.7</b>	36.3	<b>66.0</b>	36.6	14.1	<b>40.5</b>	18.1	1.5	0.4	1.5	0.4
1. 20歳代以下	42	<b>64.3</b>	<b>45.2</b>	<b>66.7</b>	33.3	11.9	35.7	11.9	2.4	0.0	4.8	0.0
2. 30歳代	64	<b>76.6</b>	<b>42.2</b>	<b>79.7</b>	35.9	6.3	<b>42.2</b>	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0
3. 40歳代	82	<b>79.3</b>	31.7	<b>72.0</b>	35.4	8.5	<b>39.0</b>	14.6	2.4	1.2	0.0	0.0
4. 50歳代	76	<b>76.3</b>	32.9	<b>68.4</b>	35.5	10.5	<b>39.5</b>	21.1	1.3	0.0	1.3	1.3
5. 60歳代	92	<b>70.7</b>	31.5	<b>58.7</b>	41.3	18.5	<b>46.7</b>	22.8	1.1	1.1	2.2	0.0
6. 70歳代以上	119	<b>72.3</b>	<b>39.5</b>	<b>58.0</b>	36.1	21.8	37.8	21.0	1.7	0.0	1.7	0.8
7. 無回答	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別無回答	6	83.3	16.7	50.0	16.7	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7
3. 40歳代	2	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6. 70歳代以上	1	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7. 無回答	3	66.7	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3

1位 2位 3位



## 6. 女性の就業のあり方や現状について

- ・【問9】女性(男性の場合は「妻・パートナー」)の働き方として、①理想の働き方、②現実の働き方、③これからの女性の働き方について、あてはまるものをお答えください。
- ・【問 10<複数回答>】(現在、仕事をされている方)職場で性別による格差を感じたことはありますか。

### 要約

女性の働き方として、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける」と回答した人の割合は、「現実の働き方」12.0%よりも「理想の働き方」33.2%、「理想の働き方」よりも「これからの女性の働き方」39.4%が高く、これからの女性の働き方として結婚・出産にかかわらず働き続けることへの期待と見受けられる。

職場での性別格差について、格差があるという事柄のうち、「配置や仕事の与え方に性別による格差がある」が14.3%と最も高く、「昇進・昇格で性別による格差がある」(12.2%)、「募集や採用に性別による格差がある」(10.0%)となっており、改善の余地が残されていると考えられる。

#### (1) 女性の就業のあり方

【問9】女性(男性の場合は「妻・パートナー」)の働き方として、①理想の働き方、②現実の働き方、③これからの女性の働き方について、あてはまるものをお答えください。

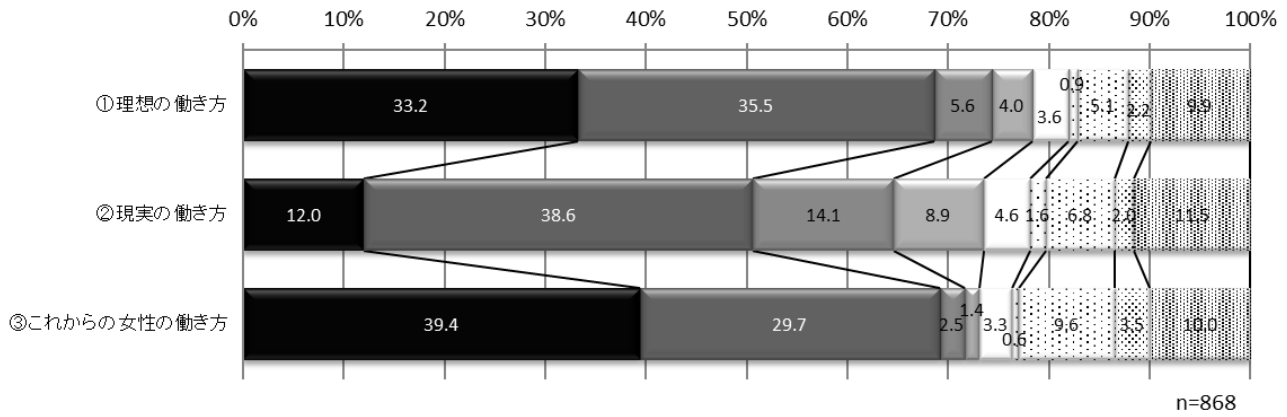
女性の理想の働き方としては、『働く方(=結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける+妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く)』は68.7%であった。しかし、女性の現実の働き方としては、「妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く」が38.6%と最も多く、次いで「妊娠・出産を機に家庭に入り、その後は家事や子育てに専念する」14.1%であった。

これからの女性の働き方では「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を持ち続ける」39.4%が最も多く、次いで「妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く」29.7%となっており、『働く方』は69.1%であった。

性別では、『働く方』が、理想の働き方、現実の働き方、これからの女性の働き方、すべてにおいて男性よりも女性の割合が高かった。

年代別では、30歳代から60歳代で、『働く方』が、現実で70%程度、理想で50%程度となっている。

図表 6-1 女性の働き方について（全体）



- 結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける
- 妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く
- 妊娠・出産を機に家庭に入り、その後は家事や子育てに専念する
- 結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する
- 結婚後または子育てが落ち着いてから、初めて仕事を持つ
- ずっと仕事を持たない
- わからない
- その他
- 無回答

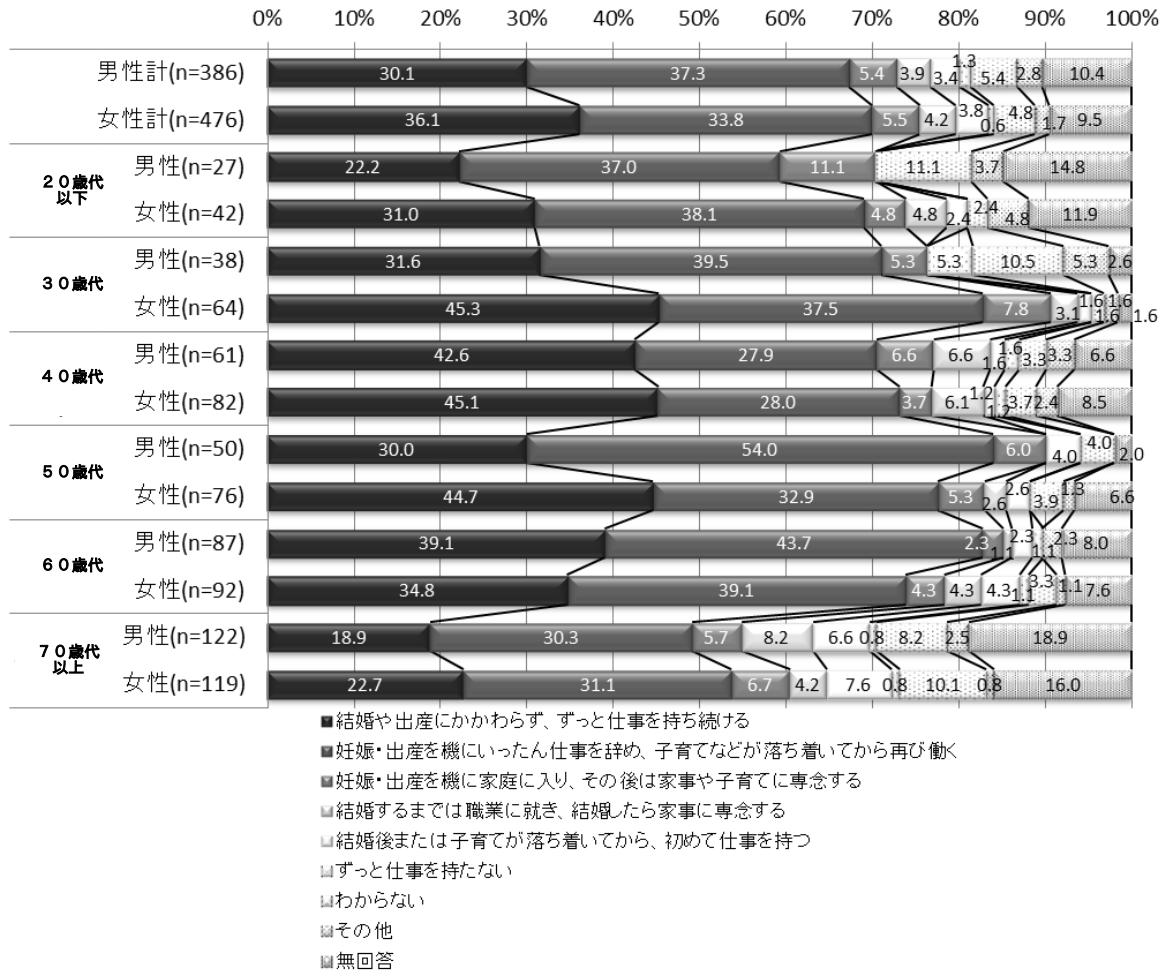
働き方	就業形態	結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける	妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く	妊娠・出産を機に家庭に入り、その後は家事や子育てに専念する	結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する	結婚後または子育てが落ち着いてから、初めて仕事を持つ	ずっと仕事を持たない	わからない	その他	無回答	サンプル数 (n)
		①理想の働き方	回答数(件)	288	308	49	35	31	8	44	19
	構成比	33.2%	35.5%	5.6%	4.0%	3.6%	0.9%	5.1%	2.2%	9.9%	100.0%
②現実の働き方	回答数(件)	104	335	122	77	40	14	59	17	100	868
	構成比	12.0%	38.6%	14.1%	8.9%	4.6%	1.6%	6.8%	2.0%	11.5%	100.0%
③これからの女性の働き方	回答数(件)	342	258	22	12	29	5	83	30	87	868
	構成比	39.4%	29.7%	2.5%	1.4%	3.3%	0.6%	9.6%	3.5%	10.0%	100.0%

①理想の働き方

1) 性別・年代別

性別では、『働く方』は、男性が67.4%、女性が69.9%と、ほぼ同程度の割合となっている。  
 年代別では、『働く方』の割合が、30歳代から60歳代において、70%を超えていた。

図表6-2 理想の働き方（性別・年代別）

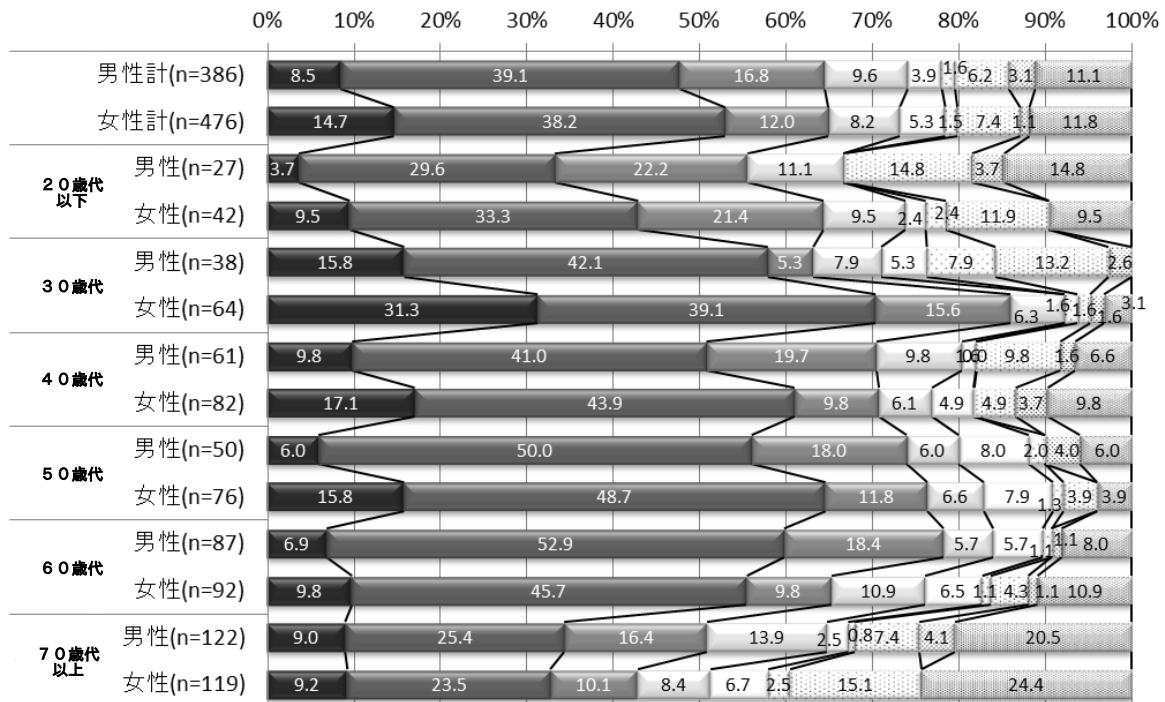


②現実の働き方

1) 性別・年代別

性別・年代別では、30歳代女性において「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける」が30%を超えており、『働く方』は70.4%となり、最も高くなっている。

図表 6-3 現実の働き方（性別・年代別）



- 結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける
- 妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く
- 妊娠・出産を機に家庭に入り、その後は家事や子育てに専念する
- 結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する
- 結婚後または子育てが落ち着いてから、初めて仕事を持つ
- ずっと仕事を持たない
- わからない
- その他
- 無回答

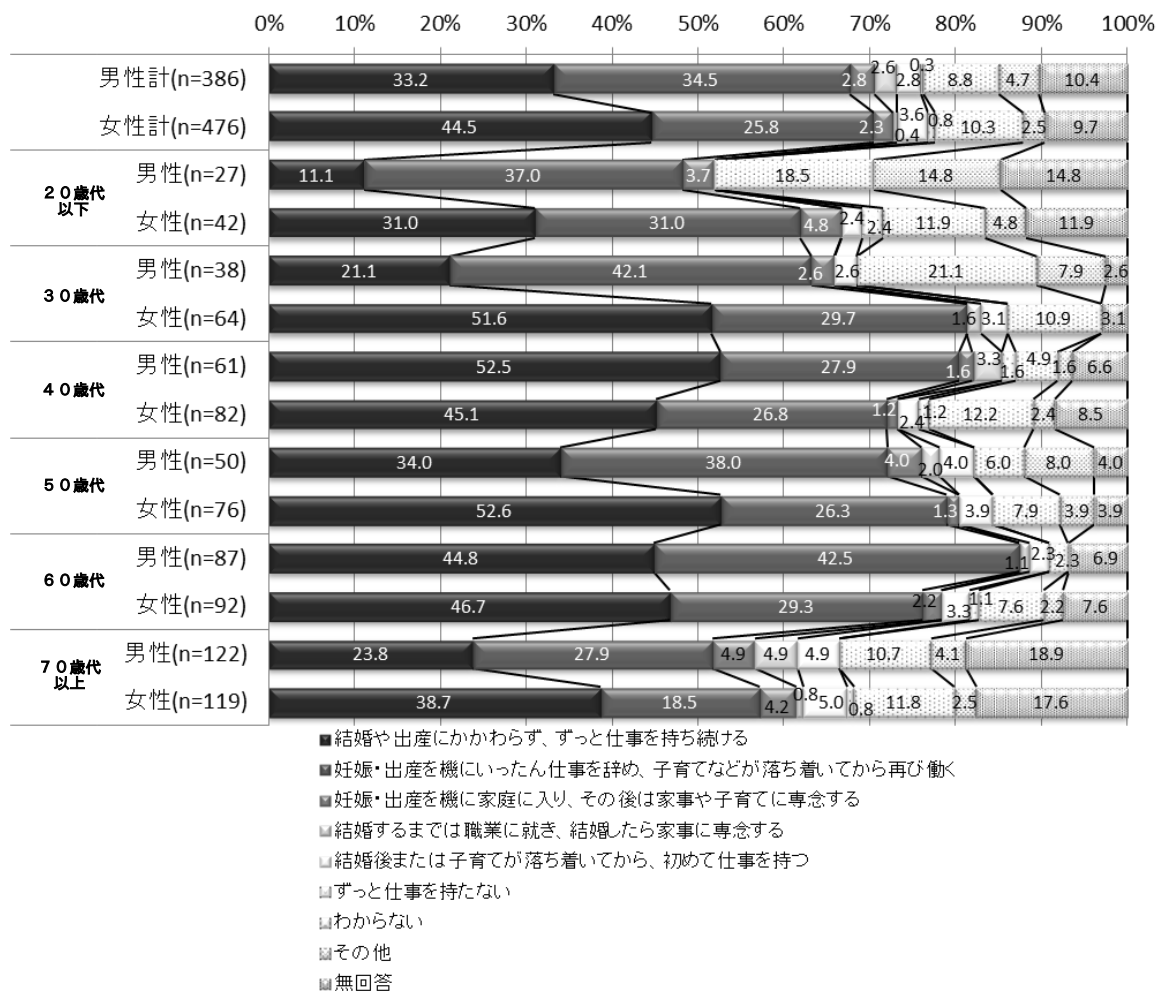
③これからの女性の働き方

1) 性別・年代別

性別・年代別では、40歳代を除き、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける」と回答した人の割合は、男性よりも女性が高くなっている。

40歳代から60歳代では、『働く方』が、70%を超えている。

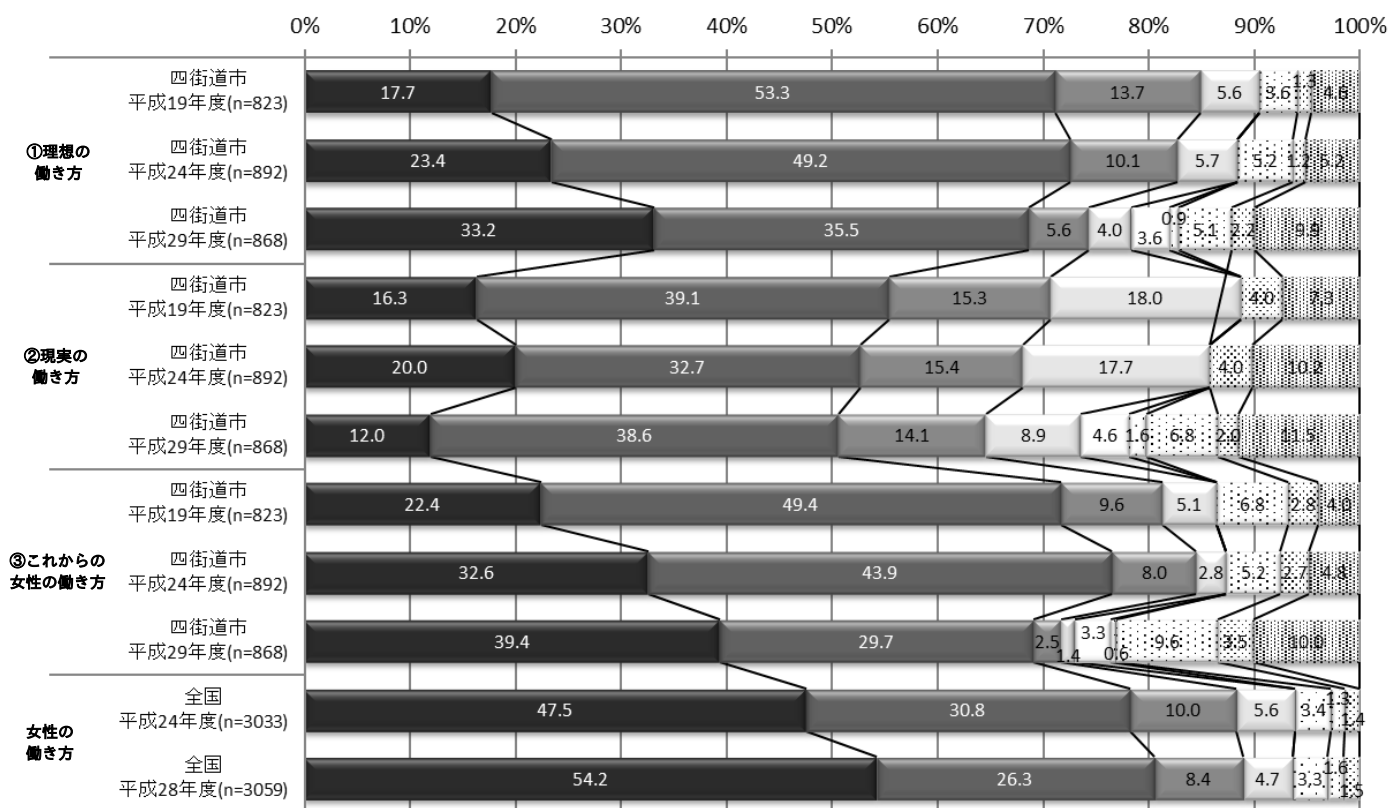
図表 6-4 これからの女性の働き方（性別・年代別）



(2) 女性の就業のあり方の時系列比較

経年比較では、理想の働き方として「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事をもち続ける」と考えている人の割合が、前々回調査（平成19年度）から徐々に高くなっており、全国調査における経年比較でも同じ傾向となっている。また、これからの女性の働き方においても、同様の傾向となっており、理想の働き方よりもさらに割合が高まっている。

図表6-5 女性の働き方について（経年比較）



- 結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事をもち続ける<(エ) 子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい>
- 妊娠・出産を機にいったん仕事を辞め、子育てなどが落ち着いてから再び働く<(オ) 子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい>
- 妊娠・出産を機に家庭に入り、その後は家事や子育てに専念する<(ウ) 子供ができるまでは、職業をもつ方がよい>
- 結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する<(イ) 結婚するまでは職業をもつ方がよい>
- 結婚後または子育てが落ち着いてから、初めて仕事を持つ
- ずっと仕事を持たない<(ア) 女性は職業をもたない方がよい>
- わからない<わからない>
- その他<その他>
- 無回答

< >内は全国調査の選択肢

※全国調査結果について

内閣府が実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」『Q4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうか考えですか。この中から1つだけお答えください。』

- (ア) 女性は職業をもたない方がよい
- (イ) 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- (ウ) 子供ができるまでは、職業をもつ方がよい
- (エ) 子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい
- (オ) 子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- わからない

(3) 職場における性別による格差

【問10】現在、仕事をされている方に伺います。職場で性別による格差を感じたことはありますか。

職場での性別による格差については、「性別による格差は感じない」と回答した人が24.3%と最も多いが、性別格差があるという事柄のうち、「配置や仕事の与え方に性別による格差がある」が14.3と最も高く、次いで「昇進・昇格で性別による格差がある」(12.2%)、「募集や採用に性別による格差がある」(10.0%)となっている。

性別では、男性で「募集や採用」15.5%、女性で「賃金・昇給」7.4%の調査項目に性別による格差があると回答した人の割合が高くなっている。

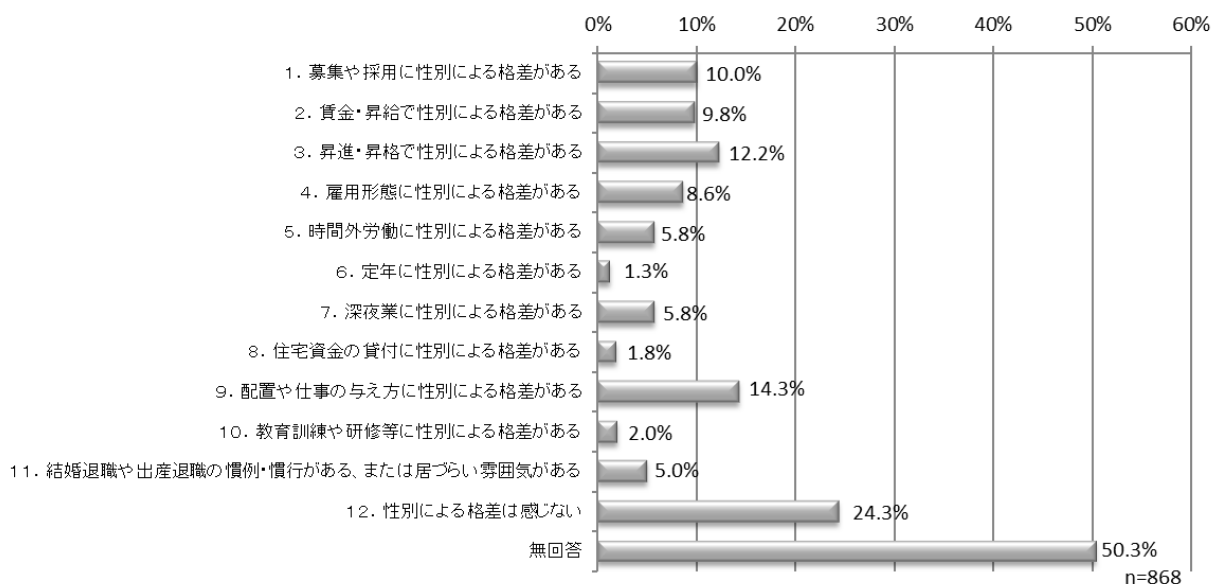
年代別では、40歳代では、「性別による格差は感じない」37.9%に次いで「昇進・昇格で性別による格差がある」25.5%が高くなっている。

前回調査(平成24年度)との比較では、性別格差あるという事柄において、すべての項目で格差があると回答した人の割合が高くなっている。

また、「性別による格差は感じない」との回答は、前々回調査(平成19年度)17.1%、前回調査(平成24年度)23.9%、本調査(平成29年度)24.3%となっており、割合が高くなる傾向がある。

(※仕事をしていない418サンプルを無回答として集計しているため、そのサンプルを除いた場合の「性別による格差は感じない」は46.7%となる。)

図表6-6 職場での性別による格差(全体)



※経年で比較するため、現在勤めていない418サンプルは前回調査同様に無回答とした。

1) 性別・年代別

性別では、男女とも全体と同様の傾向であるが、男性では「募集や採用」(15.5%)、女性では「賃金・昇給」(7.4%)に性別による格差があると回答した人の割合が高くなっている。

年代別では、ほかの年代に比べ40歳代で「昇進・昇格で性別による格差がある」(25.5%)が高くなっている。「性別による格差は感じない」は、50歳代より若い年代において比較的高くなっている。

図表6-7 職場での性別による格差(性別・年代別)

	回答者数	1. 募集や採用に性別による格差がある	2. 賃金・昇給で性別による格差がある	3. 昇進・昇格で性別による格差がある	4. 雇用形態に性別による格差がある	5. 時間外労働に性別による格差がある	6. 定年に性別による格差がある	7. 深夜業に性別による格差がある	8. 住宅資金の貸付に性別による格差がある	9. 配置や仕事の与え方に性別による格差がある	10. 教育訓練や研修等に性別による格差がある	11. 例えら・慣行がある、またはは慣行	12. 性別による格差は感じない	13. 無回答
全体	868 100.0	87 10.0	85 9.8	106 12.2	75 8.6	50 5.8	11 1.3	50 5.8	16 1.8	124 14.3	17 2.0	43 5.0	211 24.3	437 50.3
1. 20歳代以下	69	5.8	7.2	10.1	5.8	5.8	0.0	7.2	2.9	13.0	0.0	7.2	30.4	44.9
2. 30歳代	102	13.7	9.8	15.7	9.8	7.8	0.0	7.8	1.0	22.5	2.9	6.9	37.3	26.5
3. 40歳代	145	15.9	20.7	25.5	12.4	9.0	2.8	8.3	2.1	20.7	2.8	5.5	37.9	20.0
4. 50歳代	126	15.1	15.9	13.5	14.3	9.5	3.2	7.1	5.6	23.0	4.0	6.3	37.3	24.6
5. 60歳代	179	11.7	8.4	12.3	11.2	4.5	1.1	7.3	0.6	14.5	1.7	5.6	17.3	57.0
6. 70歳代以上	242	2.5	1.7	2.5	2.1	1.7	0.4	0.8	0.8	2.5	0.8	2.1	7.0	88.8
7. 無回答	5	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	40.0
男性計	386	15.5	12.2	16.1	12.2	10.4	1.3	9.1	1.6	19.9	2.3	6.2	23.3	43.3
1. 20歳代以下	27	3.7	3.7	7.4	3.7	3.7	0.0	3.7	3.7	18.5	0.0	7.4	25.9	51.9
2. 30歳代	38	28.9	15.8	21.1	18.4	21.1	0.0	13.2	0.0	44.7	7.9	7.9	26.3	15.8
3. 40歳代	61	21.3	19.7	29.5	14.8	16.4	1.6	14.8	0.0	24.6	1.6	6.6	39.3	6.6
4. 50歳代	50	24.0	20.0	20.0	18.0	22.0	2.0	14.0	6.0	32.0	2.0	4.0	40.0	10.0
5. 60歳代	87	20.7	16.1	21.3	18.4	8.0	2.3	12.6	1.1	21.8	3.4	10.3	20.7	37.9
6. 70歳代以上	122	4.1	3.3	4.1	4.1	2.5	0.8	1.6	0.8	4.1	0.8	3.3	8.2	86.1
7. 無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
女性計	476	5.3	7.4	8.6	5.7	1.9	1.3	2.9	2.1	9.5	1.5	4.0	25.4	56.1
1. 20歳代以下	42	7.1	9.5	11.9	7.1	7.1	0.0	9.5	2.4	9.5	0.0	7.1	33.3	40.5
2. 30歳代	64	4.7	6.3	12.5	4.7	0.0	0.0	4.7	1.6	9.4	0.0	6.3	43.8	32.8
3. 40歳代	82	9.8	19.5	20.7	9.8	3.7	3.7	3.7	3.7	17.1	2.4	4.9	37.8	30.5
4. 50歳代	76	9.2	13.2	9.2	11.8	1.3	3.9	2.6	5.3	17.1	5.3	7.9	35.5	34.2
5. 60歳代	92	3.3	1.1	3.3	4.3	1.1	0.0	2.2	0.0	7.6	0.0	1.1	14.1	75.0
6. 70歳代以上	119	0.8	0.0	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0	0.8	0.8	0.8	0.8	5.9	91.6
7. 無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
性別無回答	6	33.3	50.0	50.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	50.0
3. 40歳代	2	100.0	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
6. 70歳代以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
7. 無回答	3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7

1位 2位 3位



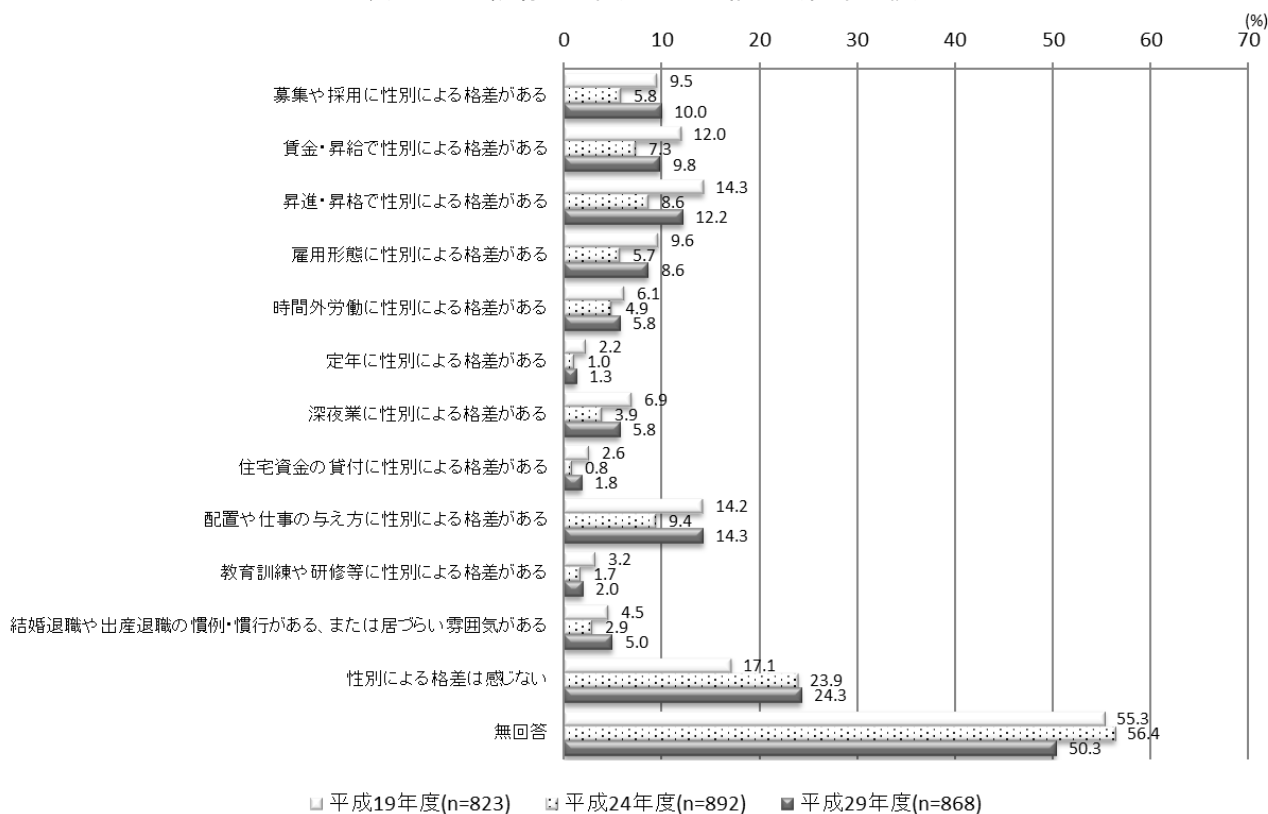
## 2) 経年比較

経年比較では、前回調査（平成 24 年度）との比較では、性別格差あるという事柄において、すべての項目で格差があると回答した人の割合が高くなっている。平成 19 年度調査結果との比較では、「募集や採用に性別による格差がある」「配置や仕事の与え方に性別による格差がある」「結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある」を除く項目で格差があると回答した人の割合が是正されている。

また、「性別による格差は感じない」との回答は、前々回調査（平成 19 年度）17.1%、前回調査（平成 24 年度）23.9%、本調査（平成 29 年度）24.3%となっており、割合が徐々に高くなっている。

(※今回調査で、仕事をしていない418サンプルを無回答として集計しているため、そのサンプルを除いた場合の「性別による格差は感じない」は46.7%となる。)

図表 6-8 職場での性別による格差（経年比較）



※経年で比較するため、現在勤めていない418サンプルは前回調査同様に無回答とした。

## 7. 子どもの性別による子育てのあり方について伺います

・【問 11】子どもの性別による子育てのあり方についてどう思いますか。

### 要約

子どもの性別による子育てのあり方については、『思う（＝そう思う＋どちらかといえばそう思う）』と考える人の割合が、「②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい」で 85.2%、「④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい」で 90.4%と高くなっている。

「①男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい」では、『思う』53.9%が、『思わない』18.3%を大きく上回っている。

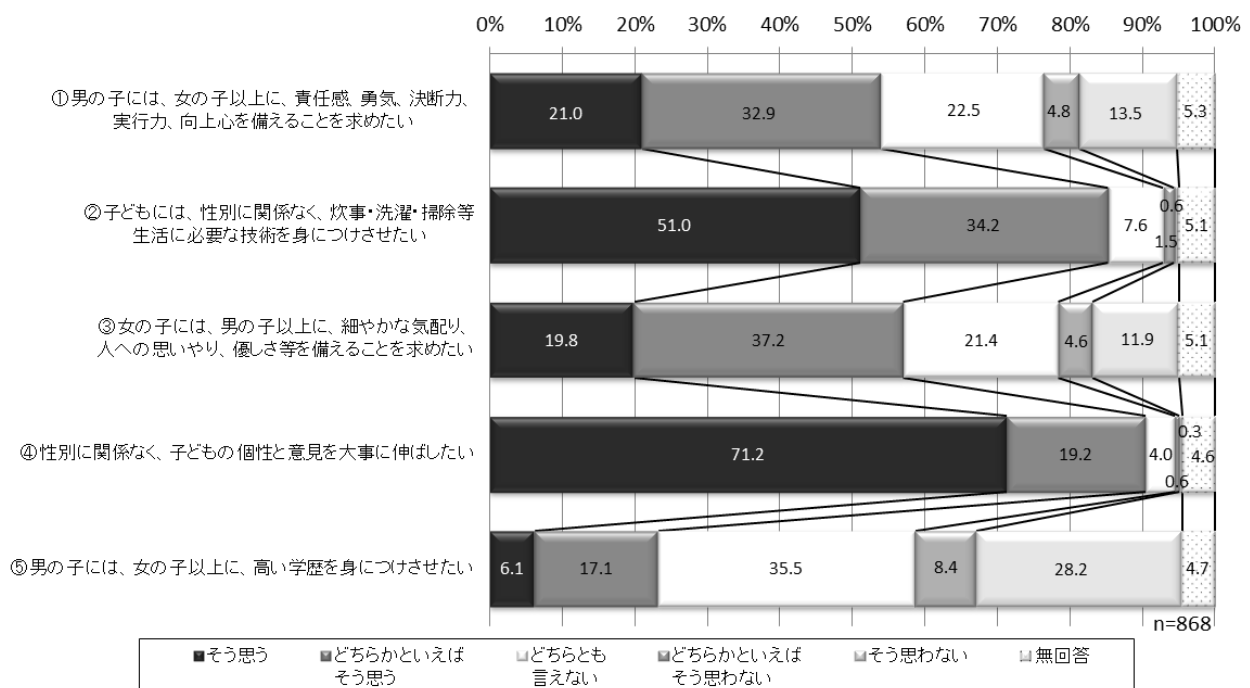
「③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい」では、『思う』57.0%が『思わない』16.5%を大きく上回っている。

「⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい」では、『思わない』36.6%が『思う』23.2%を上回っているものの、最も回答が多かったのは「どちらとも言えない」35.5%であった。

### (1) 子どもの性別と子育てのあり方

【問 11】子どもの性別による子育てのあり方についてどう思いますか。

図表 7-1 子どもの性別による子育てのあり方について（全体）



項目	近いもの	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	無回答	サンプル数 (n)
①男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい	回答数(件)	182	286	195	42	117	46	868
	構成比	21.0%	32.9%	22.5%	4.8%	13.5%	5.3%	100.0%
②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい	回答数(件)	443	297	66	13	5	44	868
	構成比	51.0%	34.2%	7.6%	1.5%	0.6%	5.1%	100.0%
③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい	回答数(件)	172	323	186	40	103	44	868
	構成比	19.8%	37.2%	21.4%	4.6%	11.9%	5.1%	100.0%
④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい	回答数(件)	618	167	35	5	3	40	868
	構成比	71.2%	19.2%	4.0%	0.6%	0.3%	4.6%	100.0%
⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい	回答数(件)	53	148	308	73	245	41	868
	構成比	6.1%	17.1%	35.5%	8.4%	28.2%	4.7%	100.0%

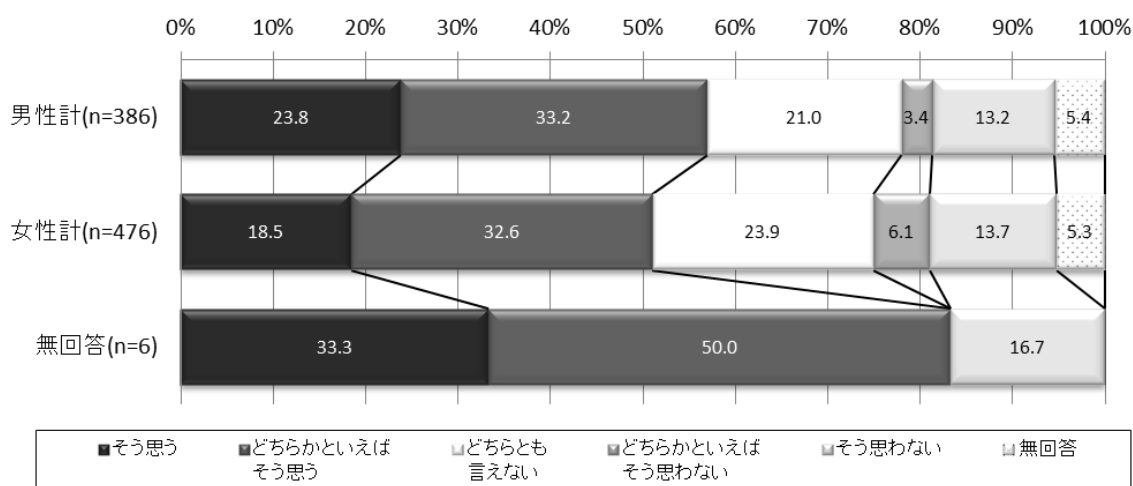
①男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい

『思う（そう思う 21.0%+どちらかといえばそう思う 32.9%）』53.9%が、『思わない（そう思わない 13.5%+どちらかといえばそう思わない 4.8%）』18.3%を上回っている一方、「どちらとも言えない」が22.5%となっている。

1) 性別

性別では、男性は、『思う』が57.0%となっている。女性においても、『思う』は51.1%と過半数となっている。一方、『思わない』は、男性が16.6%、女性は19.8%となっている。

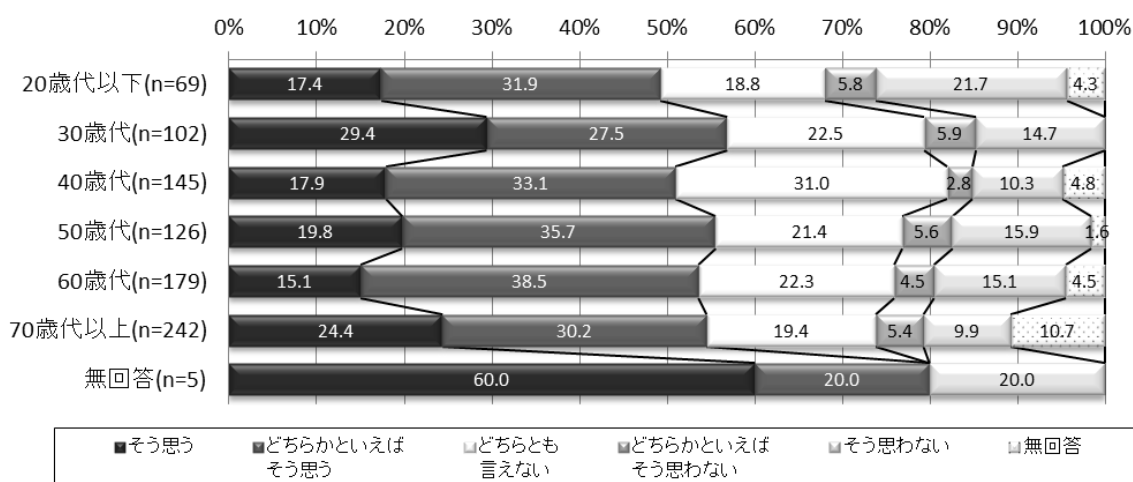
図表 7-2 ①男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい（性別）



2) 年代別

年代別では、20歳代以下を除いたどの年代においても、『思う』は過半数となっている。『思わない』は、20歳代以下が最も高く、27.5%となっている。

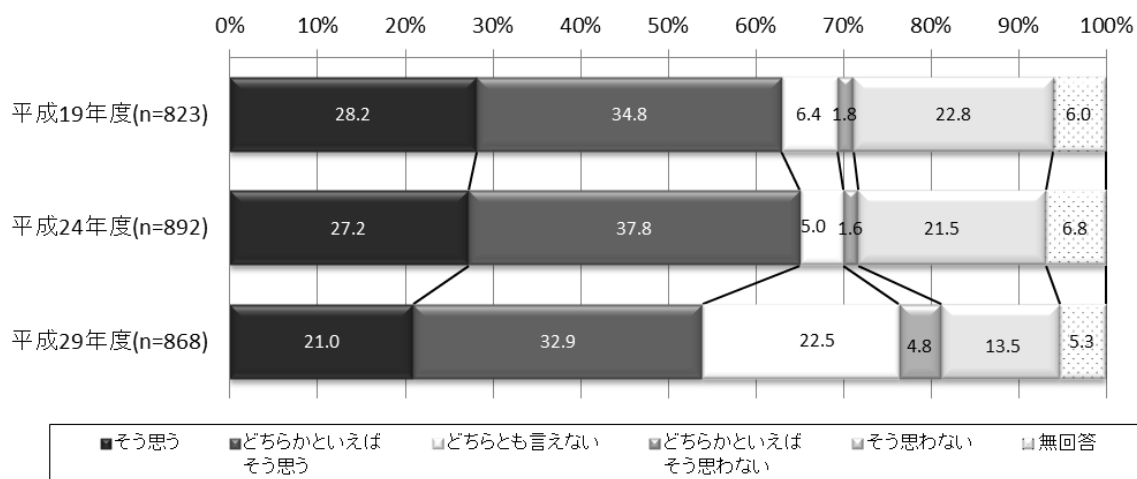
図表 7-3 ①男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい（年代別）



### 3) 経年比較

経年比較では、前回調査（平成 24 年度）と比較すると、「どちらとも言えない」が 17.5 ポイント増加して 22.5%となっており、『思う』が 11.1 ポイント減少して 53.9%となっている。

図表 7-4 ①男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい（経年比較）



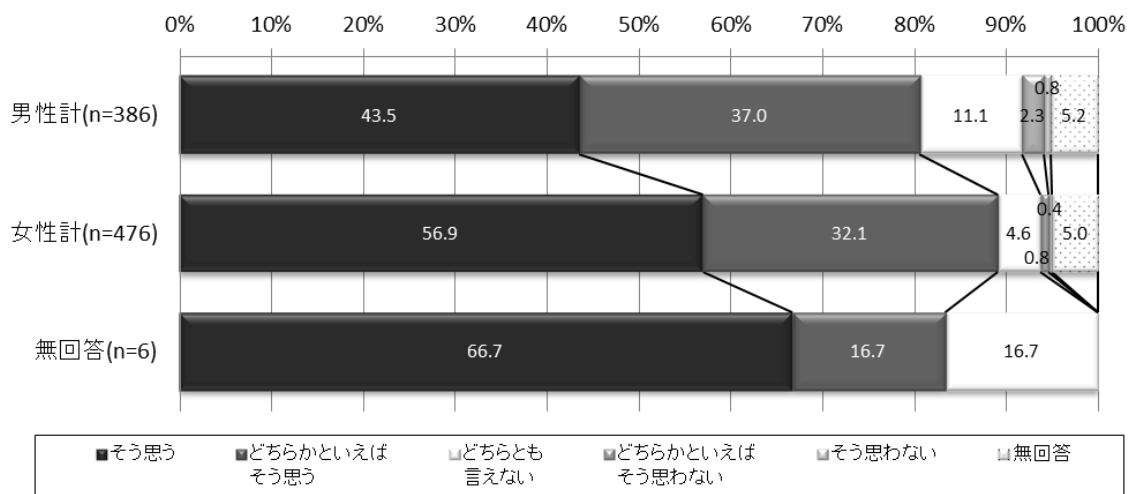
②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい

『思う（そう思う 51.0%+どちらかといえばそう思う 34.2%）』85.2%が、『思わない（そう思わない0.6%+どちらかといえばそう思わない1.5%）』2.1%を大きく上回っている。

1) 性別

性別では、男性は『思う（そう思う 43.5%+どちらかといえばそう思う 37.0%）』が80.5%となっているが、女性においては、「そう思う（56.9%）」と「どちらかといえばそう思う（32.1%）」を合わせると89.0%となり、男性よりもさらに8.5ポイント高くなっている。

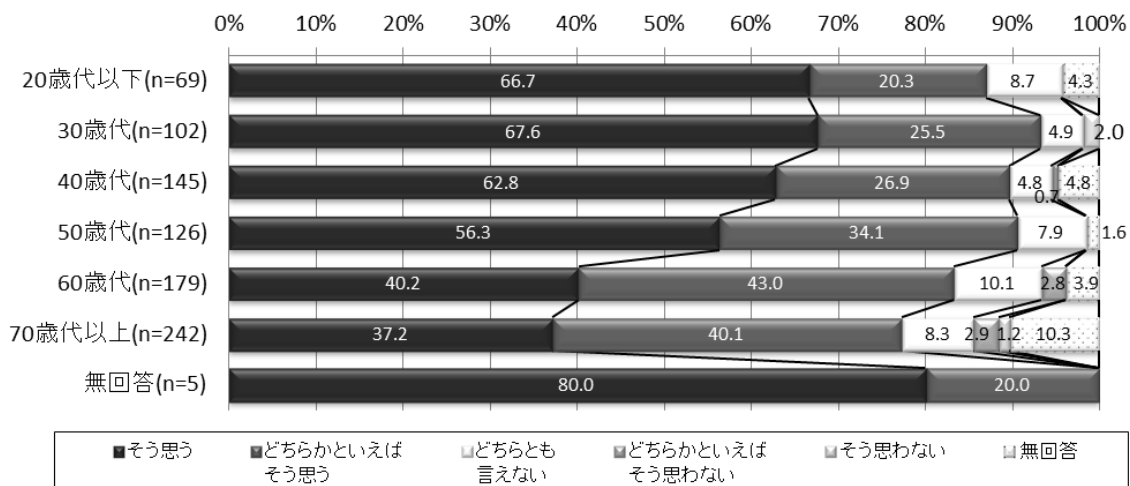
図表 7-5 ②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい（性別）



2) 年代別

年代別では、『思う』が70歳代以上で最も低い77.3%となっているが、年代が若くなるにつれて割合が高くなる傾向があり、最も高い30歳代では93.1%と高い割合となっている。

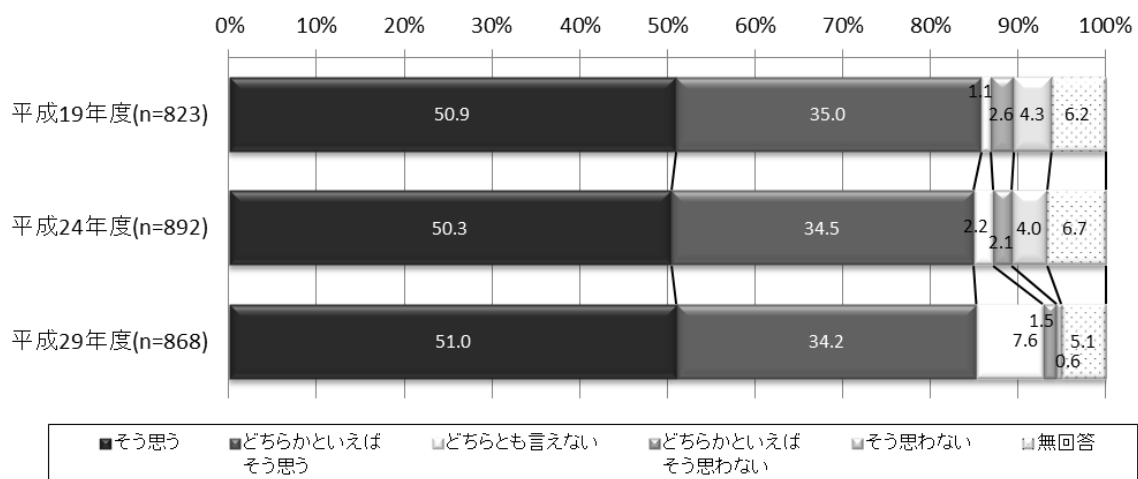
図表 7-6 ②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい（年代別）



3) 経年比較

経年比較では、『思う』がほぼ横ばいの90%程度と高くなっている。

図表7-7 ②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい（経年比較）



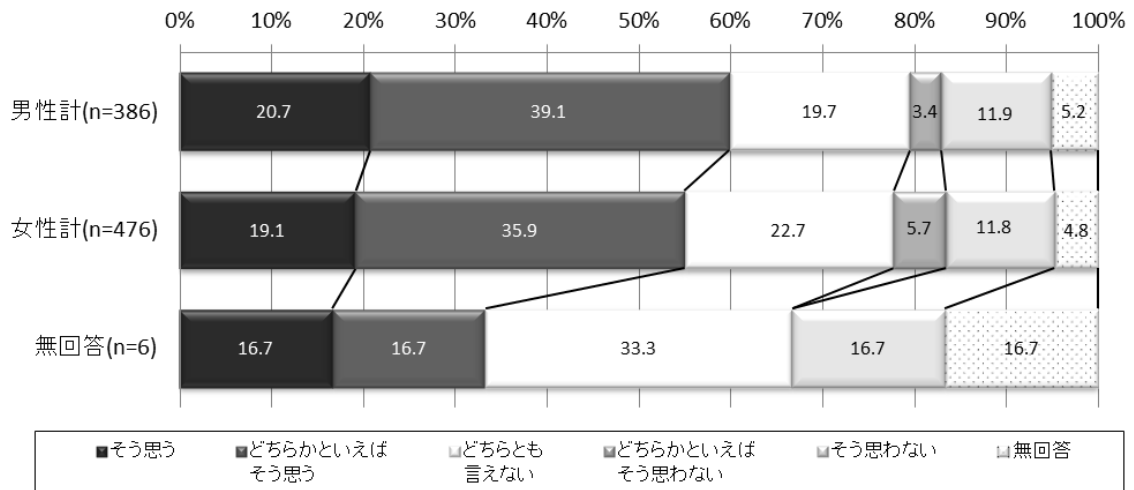
③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい

『思う（そう思う 19.8%+どちらかといえばそう思う 37.2%）』57.0%が、『思わない（そう思わない 11.9%+どちらかといえばそう思わない 4.6%）』16.5%を3倍程度上回っているが、「どちらとも言えない」が21.4%となっている。

1) 性別

性別では、男性では『思う（そう思う 20.7%+どちらかといえばそう思う 39.1%）』は59.8%であるのに対し、女性では『思う（そう思う 19.1%+どちらかといえばそう思う 35.9%）』は55.0%となっている。「どちらとも言えない」と思う人の割合は、男性19.7%、女性22.7%となっている。

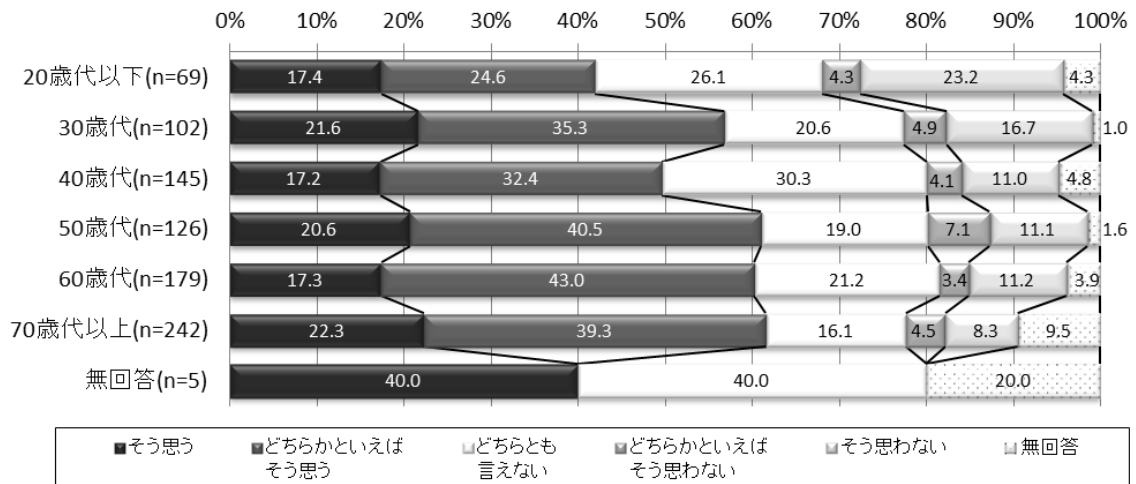
図表 7-8 ③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい（性別）



2) 年代別

年代別では、50歳代以上において、『思う』が60%を超えている。

図表 7-9 ③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい（年代別）

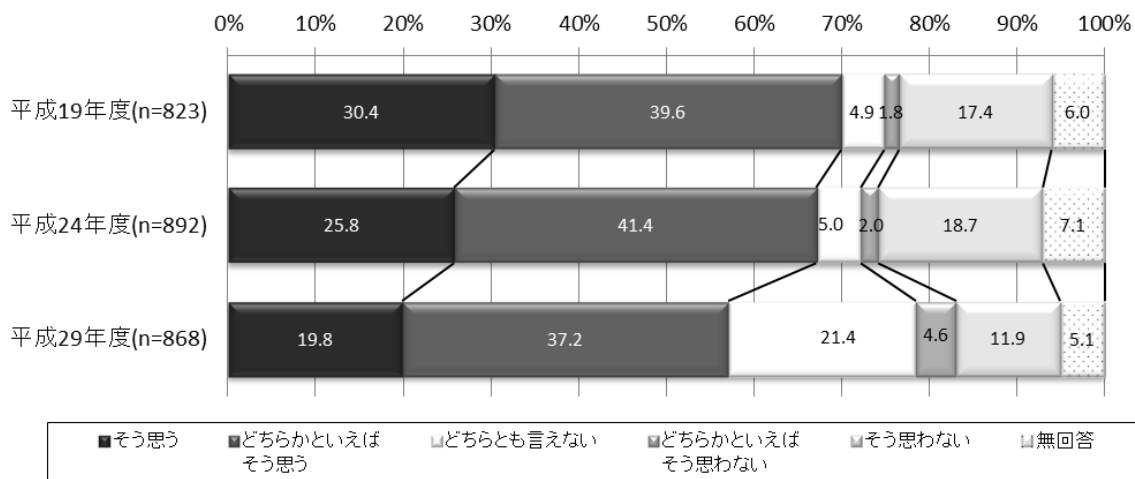




### 3) 経年比較

経年比較では、前々回調査（平成 19 年度）から、徐々に『思う』と考える人の割合が減少している。しかし、今回調査においては、「どちらともいえない」が 21.4%となっている。

図表 7-10 ③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい（経年比較）



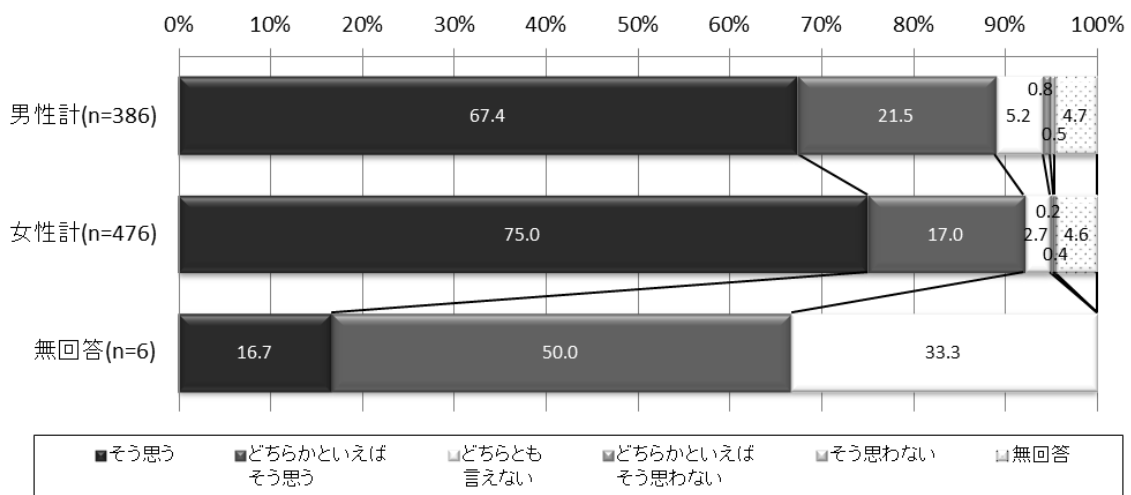
④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい

『思う（そう思う 71.2%+どちらかといえばそう思う 19.2%）』と回答した人の割合が 90.4%となっており、調査した①から⑤の項目の中で最も高かった。

1) 性別

性別では、『思う』と考える人の割合が、男性で 88.9%、女性で 92.0%と高い割合となっている。

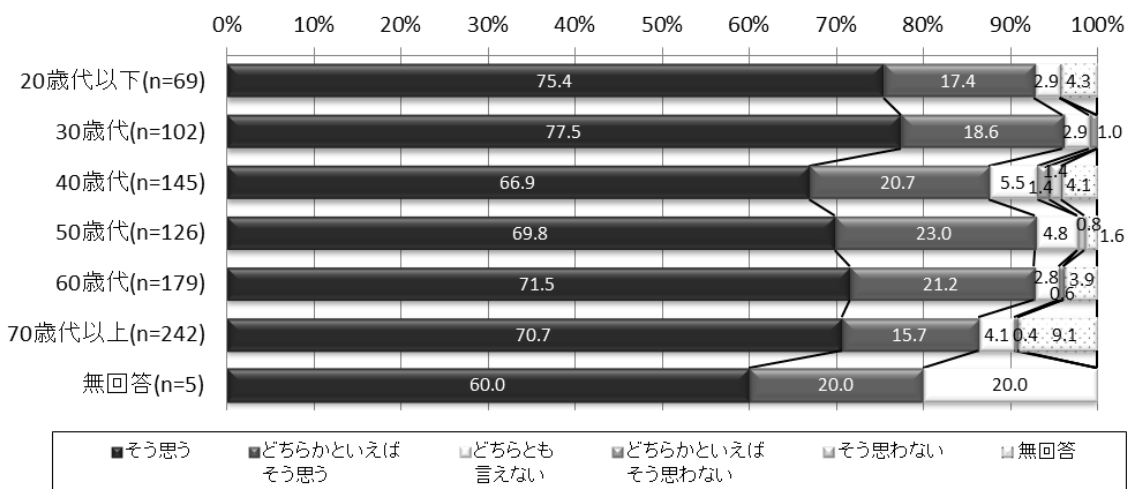
図表 7-1 1 ④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい（性別）



2) 年代別

年代別では、『思う』が、各年代とも 90%程度と高くなっている。

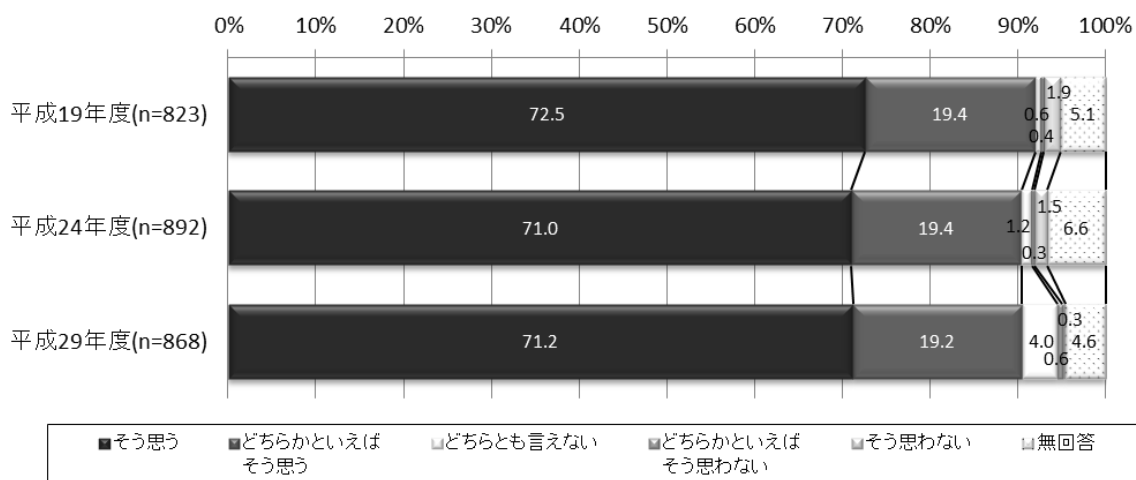
図表 7-1 2 ④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい（年代別）



### 3) 経年比較

経年比較では、前々回調査（平成 19 年度）、前回調査（平成 24 年度）とも『思う』がほぼ横ばいで高くなっている。

図表 7-1 3 ④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい（経年比較）



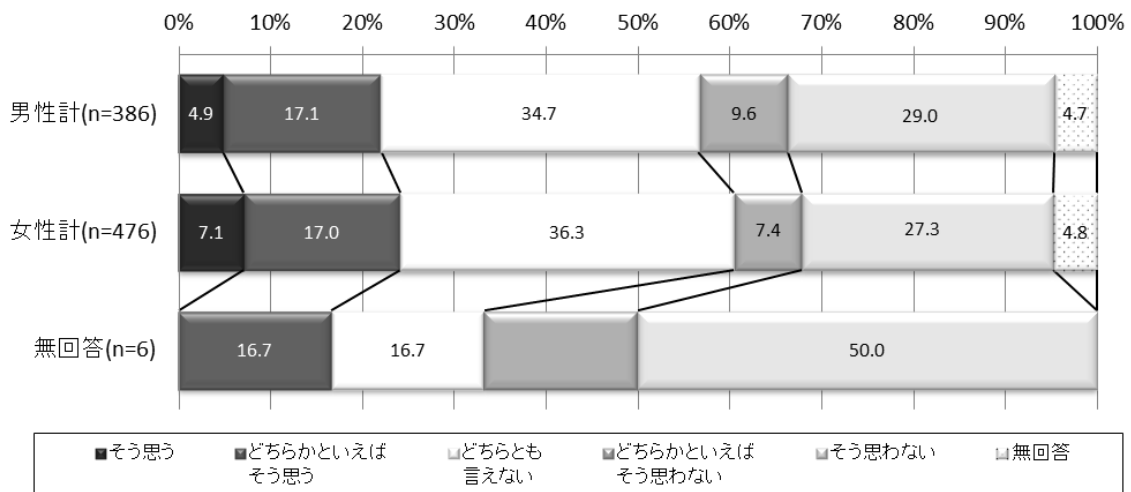
⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい

『思わない（そう思わない 28.2%+どちらかといえばそう思わない 8.4%）』が 36.6%となっており、「どちらとも言えない」は 35.5%、『思う（そう思う 6.1%+どちらかといえばそう思う 17.1%）』であった。

1) 性別

性別では、『思う』（男性 22.0%、女性 24.1%）、『思わない』（男性 38.6%、女性 34.7%）とも性別による違いは見られない。

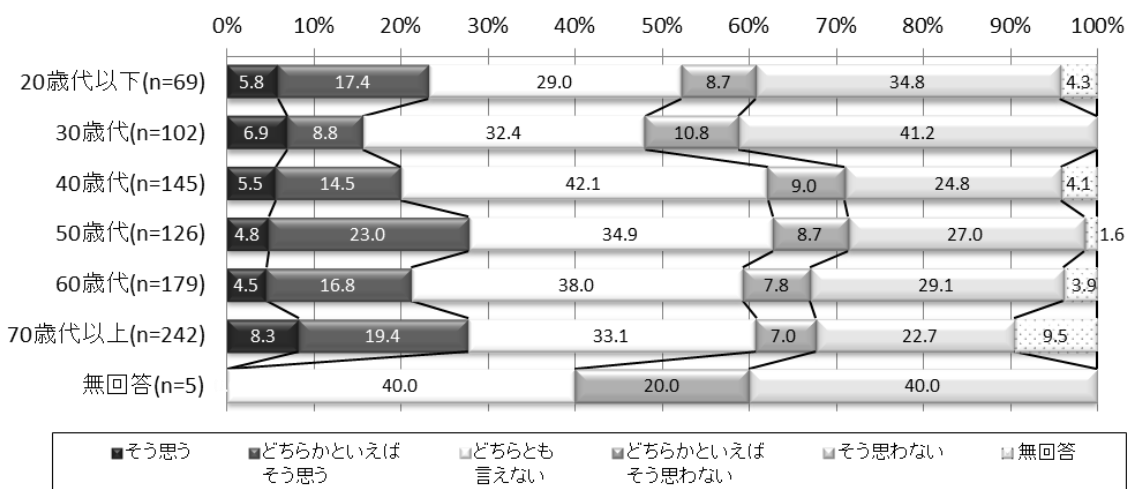
図表 7-1 4 ⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい（性別）



2) 年代別

年代別では、『思う』が 50 歳代、70 歳代以上でやや高くなっている。一方、『思わない』が 20 歳代以下で 43.5%、30 歳代で 52.0%と、他の年代に比べて高い割合となっている。

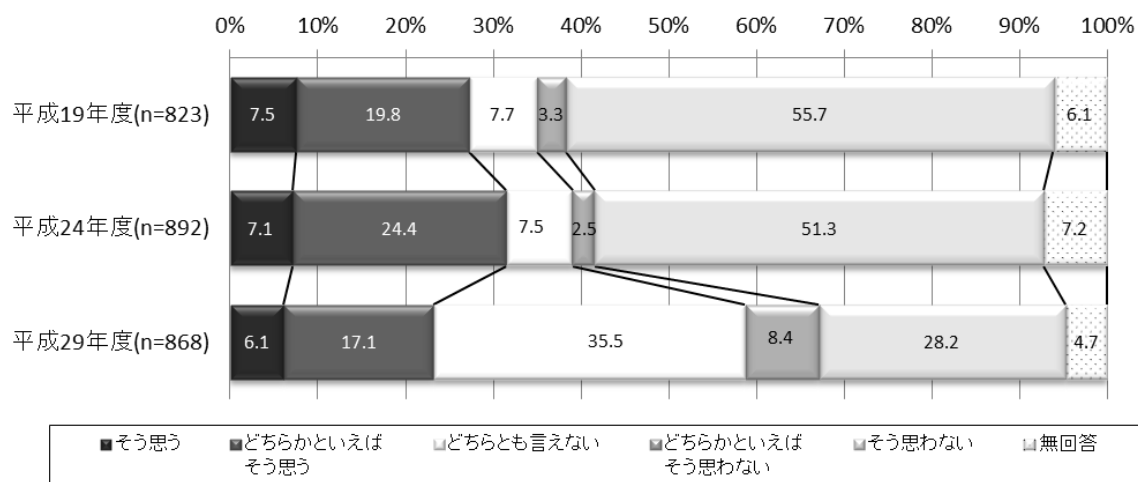
図表 7-1 5 ⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい（年代別）



### 3) 経年比較

経年比較では、前回調査（平成 24 年度）と比較すると、『思わない』が 17.2 ポイント減少し、36.6%となっている。また、「どちらとも言えない」が 28.0 ポイント増加した 35.5%となっている。

図表 7-1 6 ⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい（経年比較）



## 8. 女性の人権について

- ・【問 12<複数回答>】「女性の人権が侵害されている」と感じるのはどのような場合ですか。
- ・【問 13<複数回答>】セクシュアル・ハラスメントについて、これまでに、職場や学校、地域活動のそれぞれの場面において次のような経験をして不快・苦痛な思いをしたことがありますか。
- ・【問 14】ドメスティック・バイオレンス(DV)について、これまでに配偶者や恋人等から次の暴力行為を受けたことがありますか。

### 要約

女性の人権が侵害されていると感じるときは、「レイプ（強姦）、痴漢等の性暴力・性犯罪」が76.8%と最も高く、次いで「職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」（66.2%）、「ストーカー等の女性へのつきまとい・待ち伏せ行為」（58.4%）と続いている。2位となっているセクシュアル・ハラスメントは、経験をして不快・苦痛な思いをしたという回答が多いのは「職場で」となっており、その内容は「性的な冗談や会話につき合わされた」「宴会でお酌、デュエットを強要された」「不必要に身体を触られた」の順であった。職場に多い一因としては、年齢差や上下関係などが職場にはあるためと考えられる。

また、女性の人権が侵害されていると感じる調査項目のうち、ドメスティック・バイオレンス（DV）に該当する2項目については、「夫（パートナー）や交際相手などからの暴力」で51.6%、「夫婦間での一方的な性関係の強要」で29.6%となっている。

配偶者等や恋人からのドメスティック・バイオレンス（DV）の経験では、多くの人が「経験がない」と回答したものの、すべての暴力（精神的な暴力、肉体的な暴力、性的な暴力、経済的な暴力）で、引き続き対応が求められる。

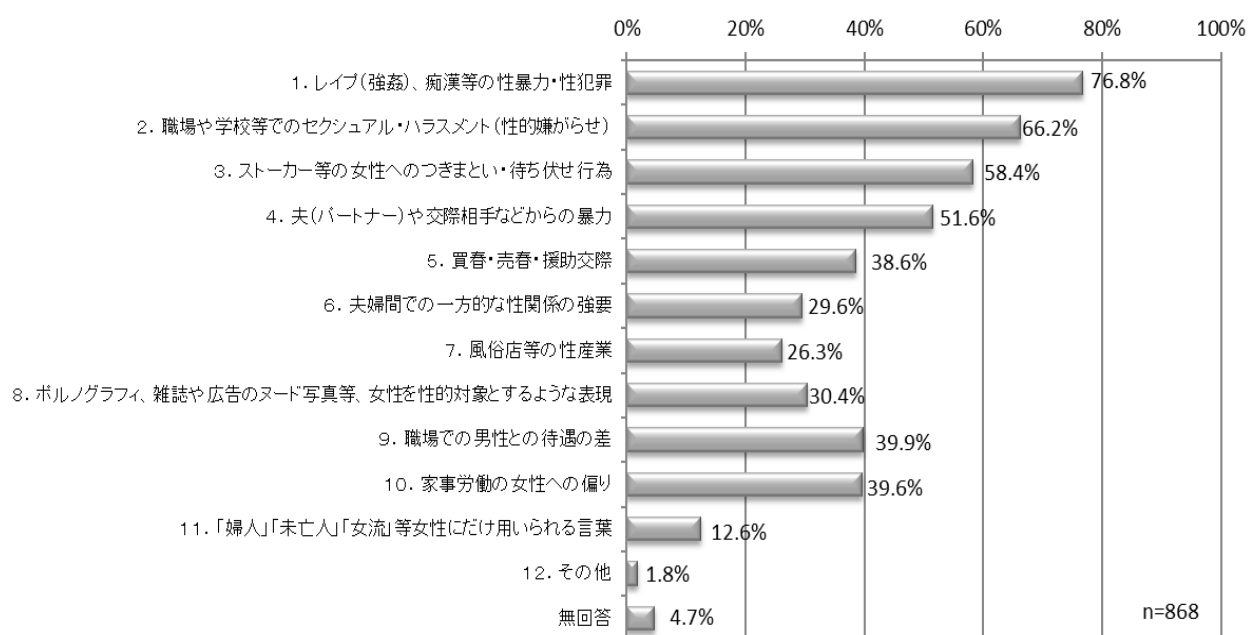
#### (1) 女性の人権が侵害されていると感じるとき

【問 12】「女性の人権が侵害されている」と感じるのはどのような場合ですか...

上位は「レイプ（強姦）、痴漢等の性暴力・性犯罪」（76.8%）、「職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」（66.2%）、「ストーカー等の女性へのつきまとい・待ち伏せ行為」（58.4%）の順であった。

女性の人権が侵害されていると感じる場合を性別に見てみると、「家事労働の女性への偏り」において、男性が29.8%、女性が47.7%と差が大きく、人権の考え方が性別によって異なり、受け止め方が異なることがわかる。

図表 8-1 女性の人権が侵害されていると感じる場合（全体）



項目	回答数(件)	比率
レイプ(強姦)、痴漢等の性暴力・性犯罪	667	76.8%
職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)	575	66.2%
ストーカー等の女性へのつきまとい・待ち伏せ行為	507	58.4%
夫(パートナー)や交際相手などからの暴力	448	51.6%
買春・売春・援助交際	335	38.6%
夫婦間での一方的な性関係の強要	257	29.6%
風俗店等の性産業	228	26.3%
ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真等、女性を性的対象とするような表現	264	30.4%
職場での男性との待遇の差	346	39.9%
家事労働の女性への偏り	344	39.6%
「婦人」「未亡人」「女流」等女性にだけ用いられる言葉	109	12.6%
その他	16	1.8%
無回答	41	4.7%
合計	4137	476.6%
サンプル数(n)	868	100.0%

1) 性別・年代別

性別では、女性で「家事労働の女性への偏り」において、20歳代以下で59.5%、30歳代で64.1%と他の年代に比べて高い割合となっている。

年代別では、「レイプ（強姦）、痴漢等の性暴力・性犯罪」は、すべての性別・年代において最も高い割合となっており、特に30歳代、40歳代の女性において90%近くとなっている。

図表8-2 女性の人権が侵害されていると感じる場合（性別・年代別）

	回答者数	1. レイプ（強姦）、痴漢等の性暴力・性犯罪	2. 職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	3. ストーカー等の女性へのつきまとい・待ち伏せ行為	4. 夫（パートナー）や交際相手などからの暴力	5. 買春・売春・援助交際	6. 夫婦間での一方的な関係の強要	7. 風俗店等の性産業	8. ポルノグラフィ、雑誌や広告の対象とするような表現	9. 職場での男性との待遇の差	10. 家事労働の女性への偏り	11. 「一人暮らし」「一人暮らし」「一人暮らし」にだけ用いられる言葉	12. その他	13. 無回答
全体	868	66.7	57.5	50.7	44.8	33.5	25.7	22.8	26.4	34.6	34.4	10.9	1.6	4.1
	100.0	<b>76.8</b>	<b>66.2</b>	<b>58.4</b>	51.6	38.6	29.6	26.3	30.4	39.9	39.6	12.6	1.8	4.7
1. 20歳代以下	69	<b>73.9</b>	<b>60.9</b>	<b>53.6</b>	<b>53.6</b>	31.9	37.7	23.2	24.6	52.2	52.2	20.3	1.4	2.9
2. 30歳代	102	<b>80.4</b>	<b>64.7</b>	51.0	48.0	26.5	22.5	12.7	16.7	37.3	<b>52.9</b>	10.8	4.9	2.9
3. 40歳代	145	<b>80.7</b>	<b>69.0</b>	<b>56.6</b>	50.3	36.6	28.3	20.0	20.0	32.4	39.3	8.3	4.1	2.1
4. 50歳代	126	<b>79.4</b>	<b>68.3</b>	<b>60.3</b>	57.9	39.7	35.7	19.0	23.8	32.5	40.5	11.1	0.8	2.4
5. 60歳代	179	<b>73.7</b>	<b>70.4</b>	<b>57.0</b>	50.3	41.9	26.3	35.2	34.1	40.2	34.1	10.6	0.0	2.8
6. 70歳代以上	242	<b>74.4</b>	<b>63.2</b>	<b>63.6</b>	50.8	43.4	30.6	33.9	44.6	45.9	34.7	15.7	1.2	10.3
7. 無回答	5	100.0	40.0	80.0	60.0	60.0	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
男性計	386	<b>72.5</b>	<b>63.0</b>	<b>56.0</b>	50.0	34.2	26.2	22.3	25.1	36.3	29.8	10.1	2.3	6.2
1. 20歳代以下	27	<b>74.1</b>	<b>66.7</b>	51.9	51.9	33.3	37.0	25.9	22.2	<b>55.6</b>	40.7	18.5	3.7	7.4
2. 30歳代	38	<b>68.4</b>	<b>50.0</b>	<b>44.7</b>	<b>44.7</b>	18.4	21.1	5.3	5.3	23.7	34.2	2.6	7.9	7.9
3. 40歳代	61	<b>68.9</b>	<b>65.6</b>	<b>54.1</b>	47.5	27.9	21.3	14.8	9.8	27.9	26.2	9.8	4.9	3.3
4. 50歳代	50	<b>76.0</b>	<b>68.0</b>	<b>58.0</b>	<b>58.0</b>	34.0	34.0	18.0	24.0	24.0	26.0	6.0	0.0	6.0
5. 60歳代	87	<b>73.0</b>	<b>66.7</b>	<b>56.3</b>	52.9	39.1	21.8	28.7	29.9	37.9	27.6	8.0	0.0	1.1
6. 70歳代以上	122	<b>73.0</b>	<b>60.7</b>	<b>59.8</b>	46.7	39.3	27.9	27.9	36.9	44.3	31.1	13.9	1.6	10.7
7. 無回答	1	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性計	476	<b>80.0</b>	<b>69.1</b>	<b>60.1</b>	52.9	42.0	32.8	29.6	34.7	43.1	47.7	14.7	1.5	3.6
1. 20歳代以下	42	<b>73.8</b>	<b>57.1</b>	54.8	54.8	31.0	38.1	21.4	26.2	50.0	<b>59.5</b>	21.4	0.0	0.0
2. 30歳代	64	<b>87.5</b>	<b>73.4</b>	54.7	50.0	31.3	23.4	17.2	23.4	45.3	<b>64.1</b>	15.6	3.1	0.0
3. 40歳代	82	<b>89.0</b>	<b>70.7</b>	<b>57.3</b>	51.2	43.9	34.1	24.4	28.0	35.4	48.8	7.3	3.7	1.2
4. 50歳代	76	<b>81.6</b>	<b>68.4</b>	<b>61.8</b>	57.9	43.4	36.8	19.7	23.7	38.2	50.0	14.5	1.3	0.0
5. 60歳代	92	<b>73.9</b>	<b>73.9</b>	<b>57.6</b>	47.8	44.6	30.4	41.3	38.0	42.4	40.2	13.0	0.0	4.3
6. 70歳代以上	119	<b>75.6</b>	<b>66.4</b>	<b>67.2</b>	55.5	47.1	33.6	39.5	52.1	47.9	38.7	17.6	0.8	10.1
7. 無回答	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
性別無回答	6	100.0	50.0	83.3	50.0	50.0	0.0	16.7	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0
3. 40歳代	2	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
6. 70歳代以上	1	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7. 無回答	3	100.0	33.3	66.7	33.3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

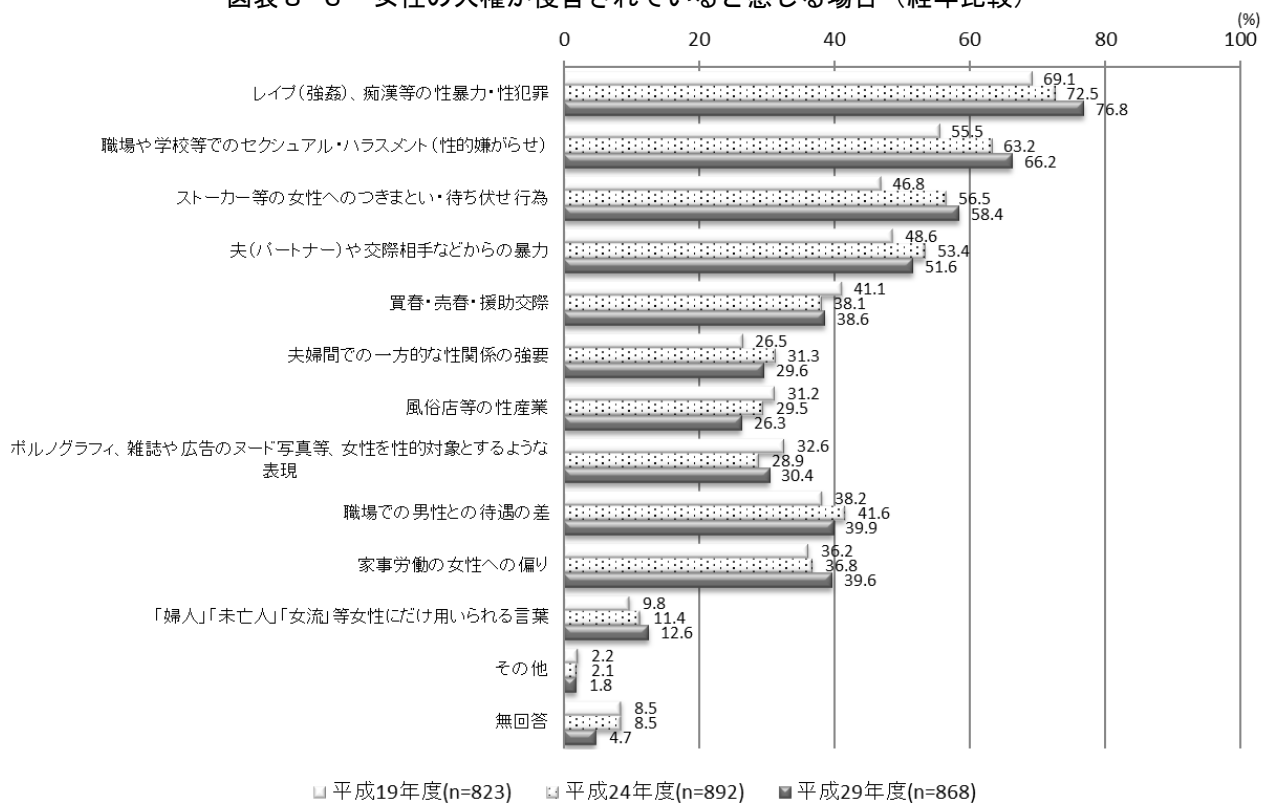
1位 2位 3位



## 2) 経年比較

経年比較では、前回調査（平成24年度）に比べ、「レイプ（強姦）、痴漢等の性暴力・性犯罪」「職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」「ストーカー等の女性へのつきまとい・待ち伏せ行為」「買春・売春・援助交際」など7項目において割合が増加した。

図表8-3 女性の人権が侵害されていると感じる場合（経年比較）



(2) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無

【問13】セクシュアル・ハラスメントについて、これまでに、職場や学校、地域活動のそれぞれの場面において次のような経験をして不快・苦痛な思いをしたことがありますか。

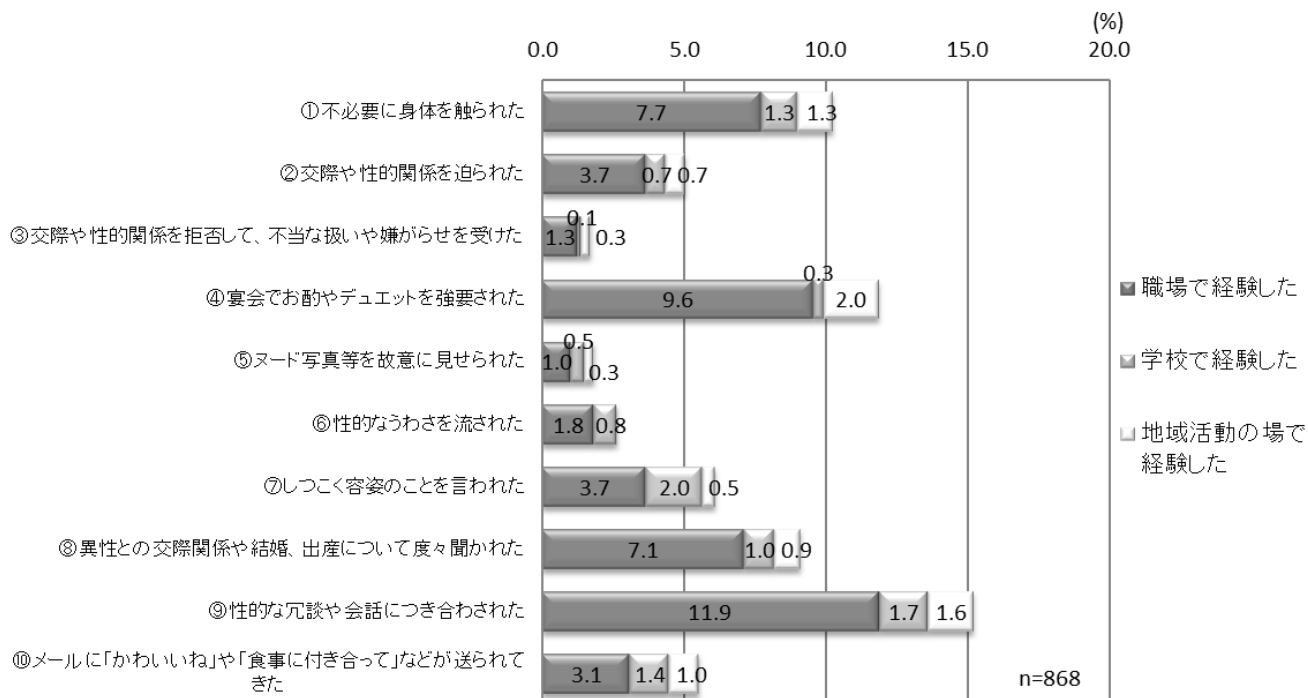
セクシュアル・ハラスメントの経験については、職場や学校、地域活動のそれぞれの場面で経験した中で、「性的な冗談や会話につき合わされた」が15.2%と最も多く、次いで「宴会でお酌やデュエットを強要された」(11.9%)、「不必要に身体を触られた」(10.3%)の順であった。経験した場所では各項目とも職場が多かった。

性別にみると、男性からの回答もみられ、これは男性が直接セクシュアル・ハラスメントを経験したことに加えて、女性が被害にあっていることに対して不快・苦痛な思いをしたことが反映されていると思われる。

各内容とも30歳代と20歳代以下においてセクシュアル・ハラスメントの経験があると回答しており、調査項目④の宴会でのセクシュアル・ハラスメントでは20歳代以下は少なく、30歳代、40歳代、50歳代の順が多かった。

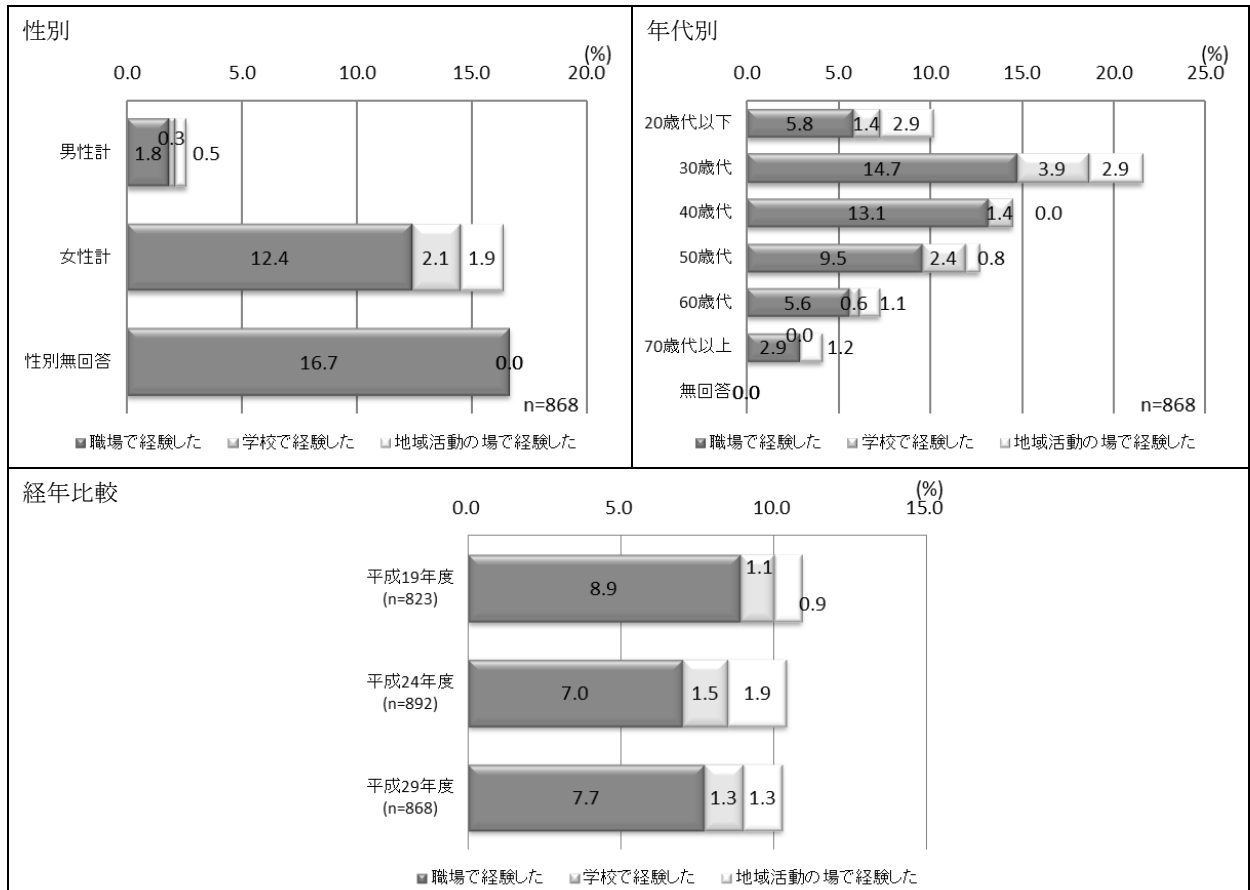
前々回調査(平成19年度)及び前回調査(平成24年度)での「①不必要に身体を触られた」、前々回調査(平成19年度)の「⑤ヌード写真等を故意に見せられた」を除いた項目ではセクシュアル・ハラスメントの経験が増加した。

図表8-4 セクシュアル・ハラスメントの経験(全体)

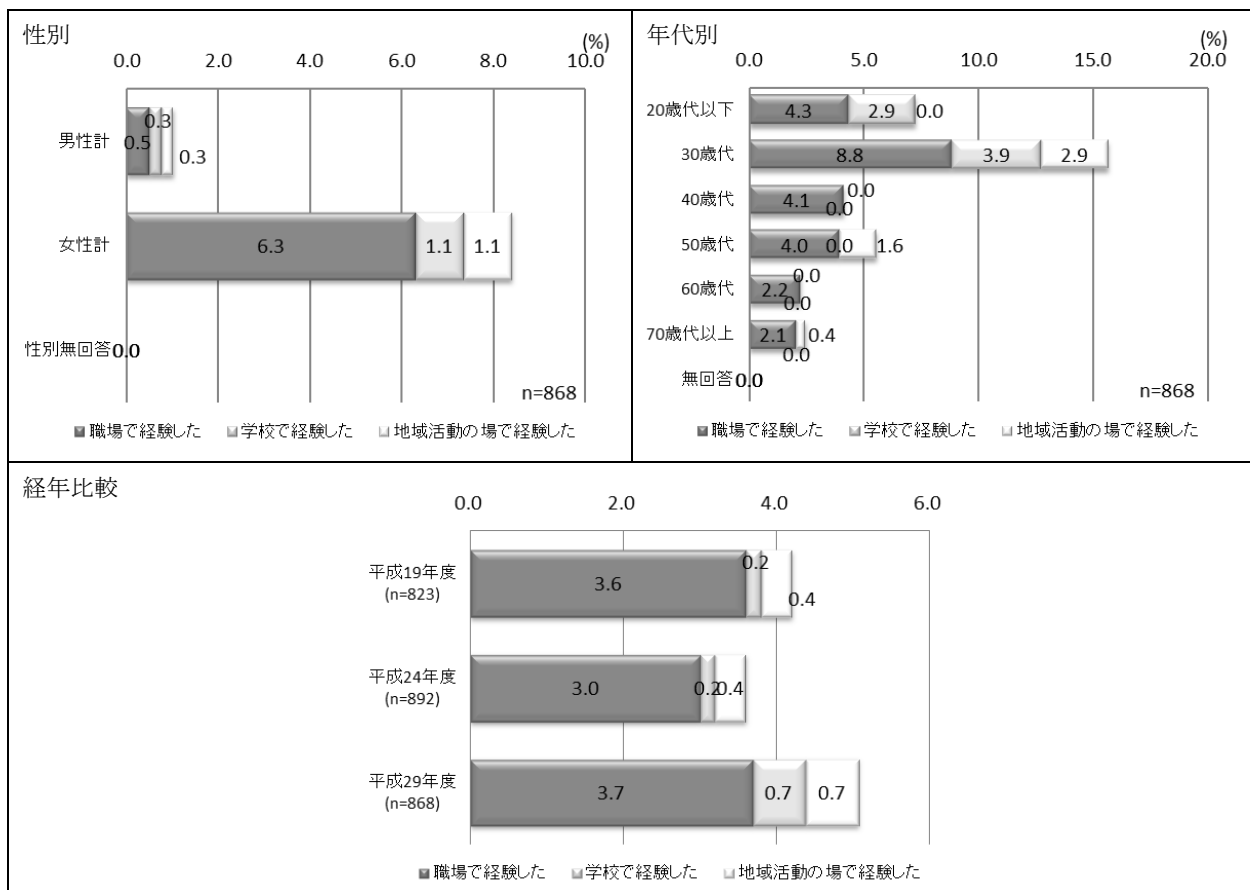


割合	合計	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	い	あ		
		不必要に身体を触られた	交際や性的関係を迫られた	交際や性的関係を拒否して、不当な扱いや嫌がらせを受けた	宴会やお酌やデユエントを強要された	ヌード写真等を故意に見せられた	性的なうわさを流された	しつこく容姿のことを言われた	異性との交際関係や結婚、出産について度々聞かれた	性的な冗談や会話につき合わされた	メールに「かわいいね」や「食事につき合って」などが送られてきた			いずれも経験はない	無回答
職場で経験した	全体	862	7.7	3.7	1.3	9.6	1.0	1.9	3.7	7.2	11.8	3.1	79.4	20.6	
	計	386	1.8	0.5	-	2.6	0.3	0.8	1.0	2.1	3.9	-	93.5	6.5	
	男性	20歳代以下	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
		30歳代	38	7.9	2.6	-	7.9	-	2.6	10.5	5.3	7.9	-	78.9	21.1
		40歳代	61	3.3	1.6	-	1.6	-	-	-	3.3	8.2	-	90.2	9.8
		50歳代	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
		60歳代	87	1.1	-	-	5.7	-	1.1	-	3.4	6.9	-	92.0	8.0
		70歳代以上	122	0.8	-	-	0.8	0.8	0.8	-	0.8	0.8	-	96.7	3.3
		無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	女性	計	476	12.4	6.3	2.3	15.3	1.7	2.7	5.9	11.3	18.3	5.7	67.9	32.1
		20歳代以下	42	9.5	7.1	7.1	14.3	4.8	7.1	9.5	19.0	26.2	19.0	61.9	38.1
		30歳代	64	18.8	12.5	4.7	26.6	-	1.6	10.9	21.9	31.3	14.1	50.0	50.0
		40歳代	82	19.5	6.1	1.2	25.6	3.7	3.7	11.0	20.7	24.4	6.1	53.7	46.3
		50歳代	76	15.8	6.6	-	21.1	1.3	3.9	6.6	13.2	23.7	5.3	59.2	40.8
		60歳代	92	9.8	4.3	2.2	8.7	1.1	1.1	2.2	3.3	14.1	1.1	76.1	23.9
70歳代以上		119	5.0	4.2	1.7	4.2	0.8	1.7	0.8	1.7	4.2	-	88.2	11.8	
無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-		
学校で経験した	全体	862	1.3	0.7	0.1	0.3	0.5	0.8	2.0	1.0	1.7	1.4	94.4	5.6	
	計	386	0.3	0.3	0.3	-	0.3	0.3	0.5	0.3	0.3	-	98.4	1.6	
	男性	20歳代以下	27	-	-	3.7	-	-	-	-	-	-	-	96.3	3.7
		30歳代	38	-	2.6	-	-	-	2.6	-	2.6	-	-	97.4	2.6
		40歳代	61	1.6	-	-	-	-	-	1.6	-	-	-	96.7	3.3
		50歳代	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
		60歳代	87	-	-	-	-	1.1	-	-	-	1.1	-	98.9	1.1
		70歳代以上	122	-	-	-	-	-	-	0.8	-	-	-	99.2	0.8
		無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	女性	計	476	2.1	1.1	-	0.6	0.6	1.3	3.2	1.7	2.9	2.5	91.2	8.8
		20歳代以下	42	2.4	4.8	-	-	2.4	-	9.5	7.1	16.7	9.5	73.8	26.2
		30歳代	64	6.3	4.7	-	-	1.6	7.8	6.3	6.3	9.4	9.4	79.7	20.3
		40歳代	82	1.2	-	-	1.2	-	1.2	3.7	1.2	-	1.2	91.5	8.5
		50歳代	76	3.9	-	-	2.6	-	-	5.3	-	1.3	1.3	88.2	11.8
		60歳代	92	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	98.9	1.1
70歳代以上		119	-	-	-	-	0.8	-	-	-	-	-	99.2	0.8	
無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-		
地域の場で経験した	全体	862	1.3	0.7	0.3	2.0	0.3	-	0.5	0.9	1.6	1.0	95.0	5.0	
	計	386	0.5	0.3	0.3	0.3	0.3	-	0.8	0.5	0.8	0.3	97.7	2.3	
	男性	20歳代以下	27	-	-	-	-	-	-	-	-	3.7	-	96.3	3.7
		30歳代	38	-	-	2.6	2.6	2.6	-	-	-	5.3	-	92.1	7.9
		40歳代	61	-	-	-	-	-	-	1.6	1.6	-	1.6	96.7	3.3
		50歳代	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
		60歳代	87	1.1	-	-	-	-	-	2.3	1.1	-	-	97.7	2.3
		70歳代以上	122	0.8	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	99.2	0.8
		無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	女性	計	476	1.9	1.1	0.4	3.4	0.4	-	0.2	1.3	2.3	1.7	92.9	7.1
		20歳代以下	42	4.8	-	-	2.4	-	-	-	2.4	2.4	2.4	95.2	4.8
		30歳代	64	4.7	4.7	-	1.6	3.1	-	-	4.7	6.3	3.1	87.5	12.5
		40歳代	82	-	-	-	3.7	-	-	-	-	2.4	1.2	95.1	4.9
		50歳代	76	1.3	2.6	1.3	3.9	-	-	-	2.6	2.6	3.9	90.8	9.2
		60歳代	92	1.1	-	-	4.3	-	-	1.1	-	1.1	-	92.4	7.6
70歳代以上		119	1.7	-	0.8	3.4	-	-	-	-	0.8	0.8	95.0	5.0	
無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-		

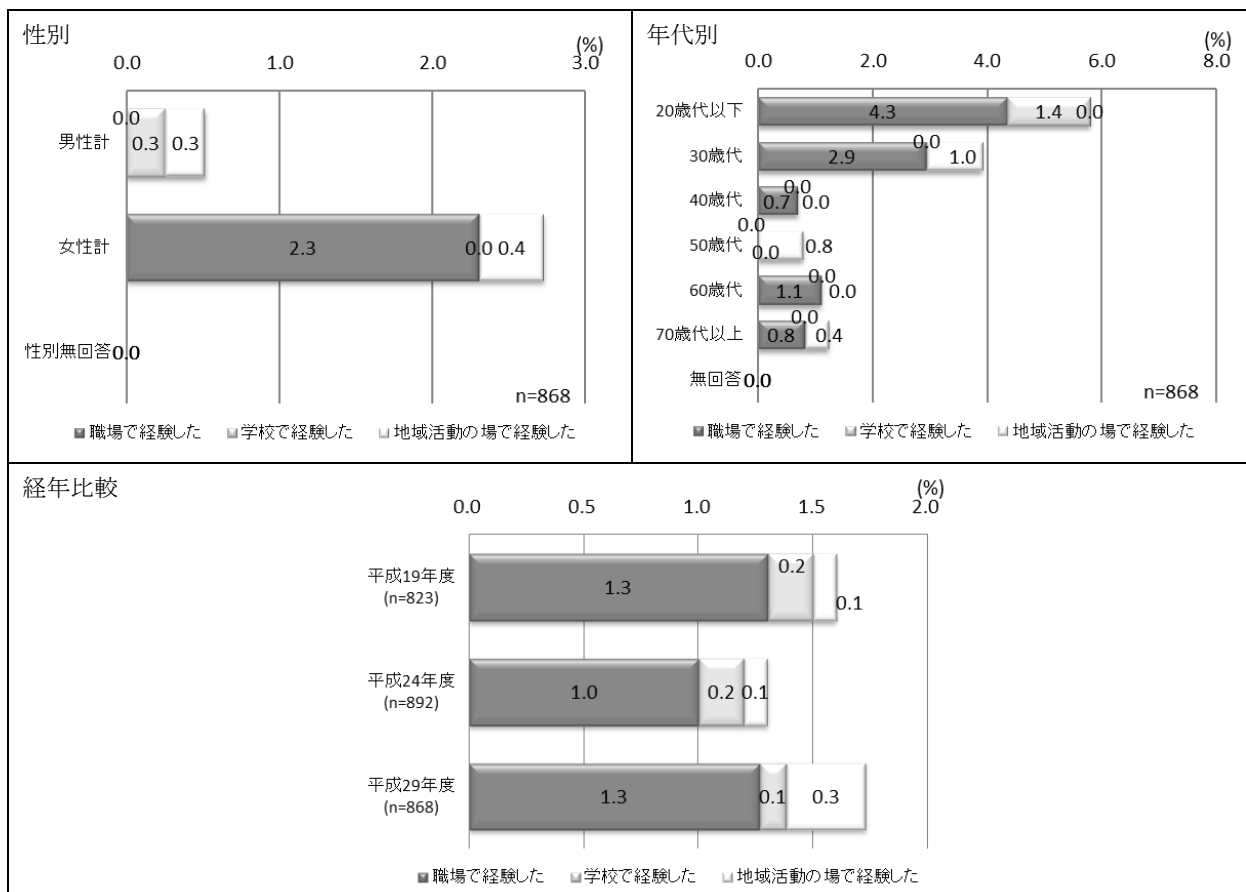
図表 8-5 ①不必要に身体を触られた



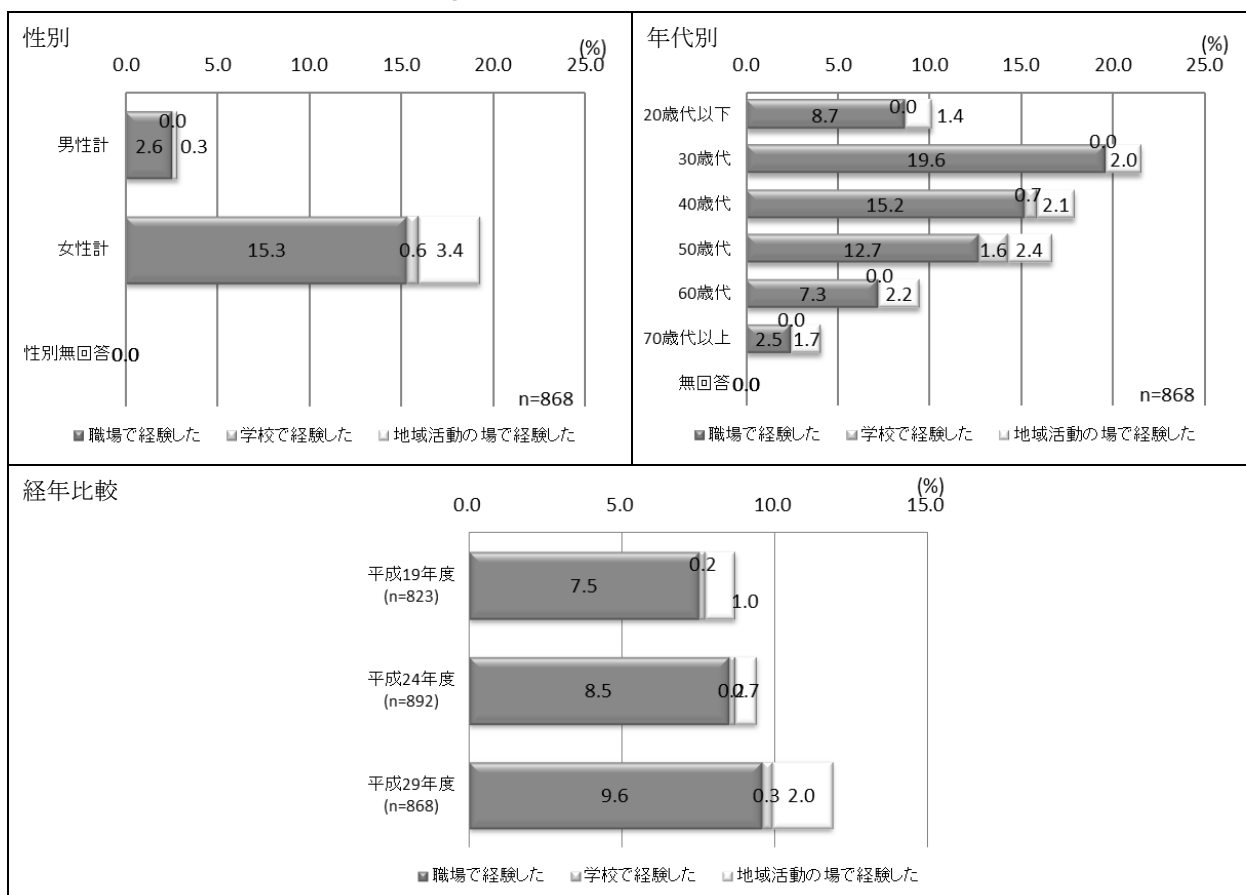
図表 8-6 ②交際や性的関係を迫られた



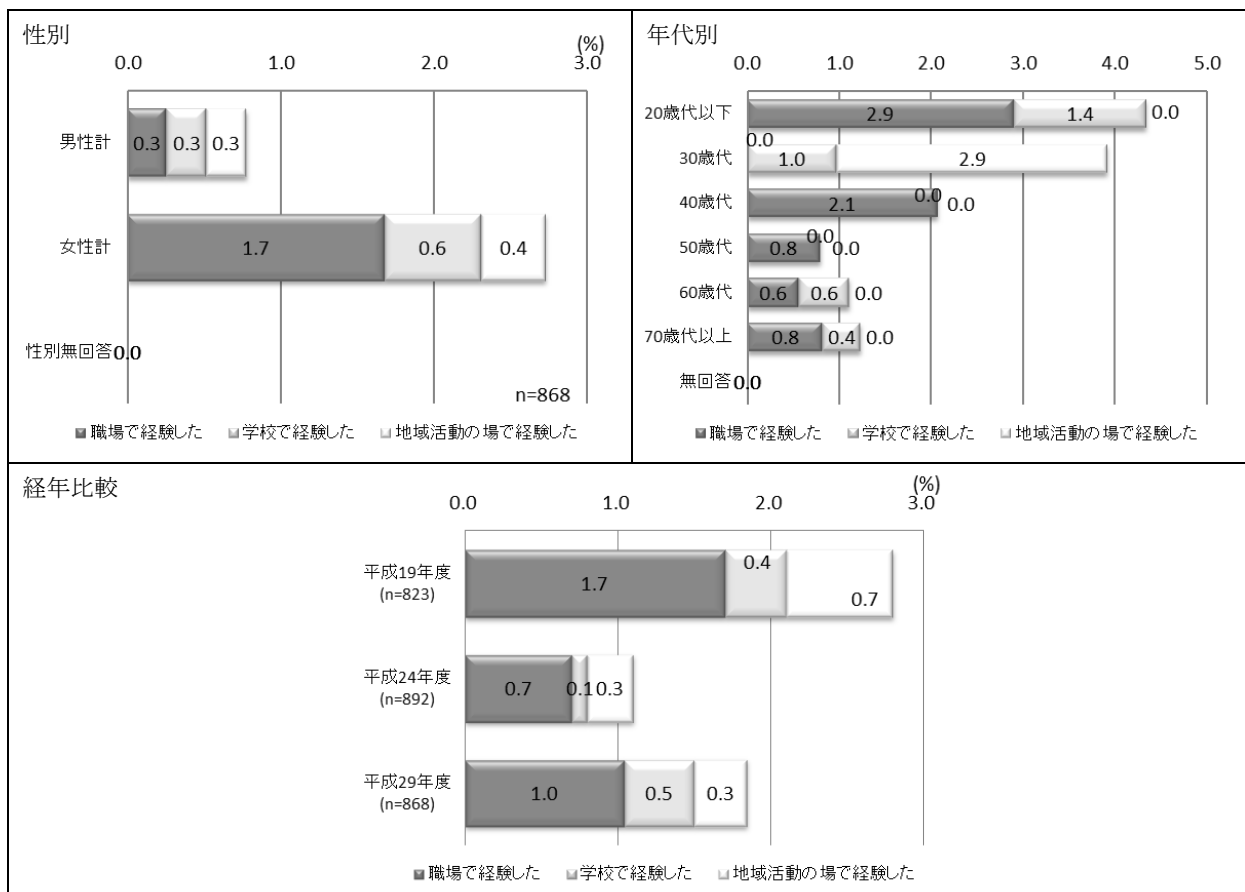
図表 8-7 ③交際や性的関係を拒否して、不当な扱いや嫌がらせを受けた



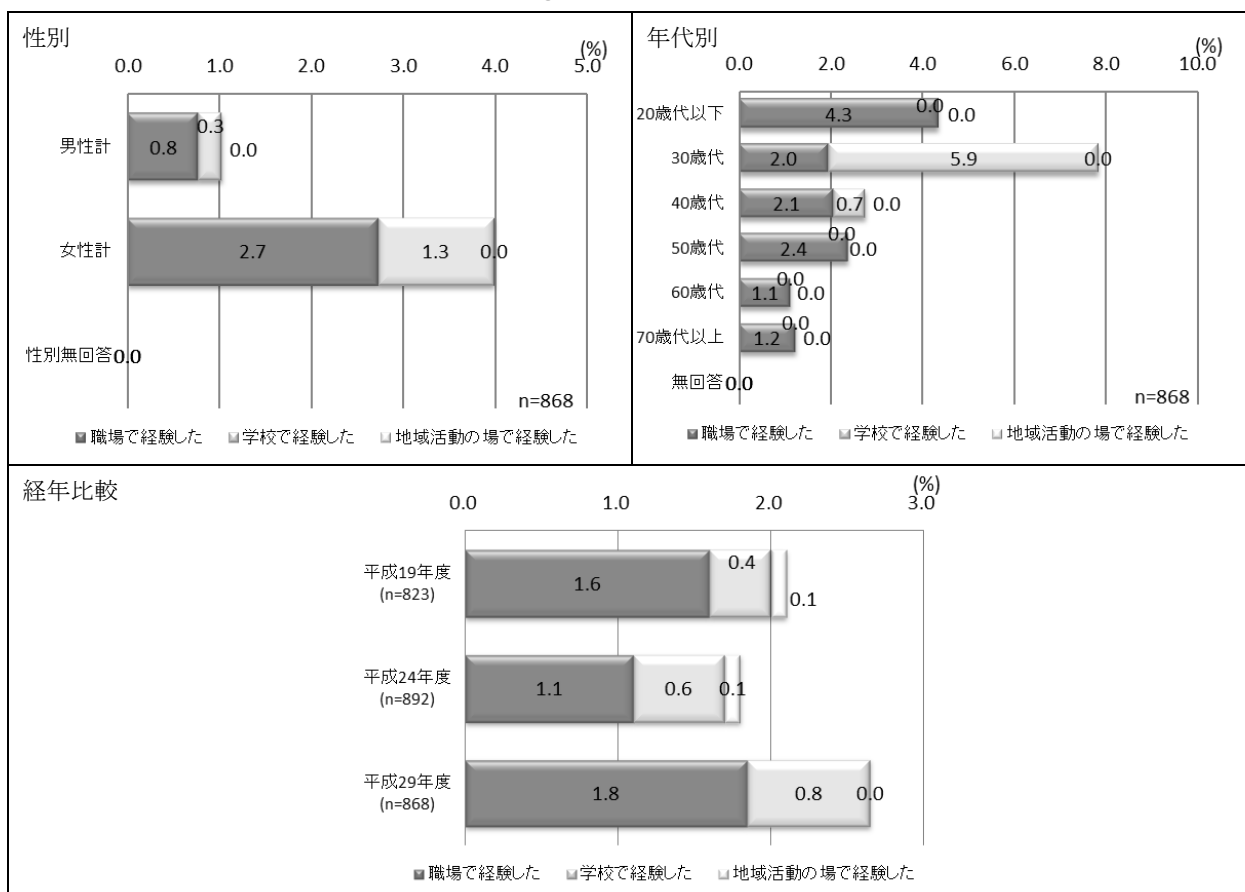
図表 8-8 ④宴会でお酌やデュエットを強要された



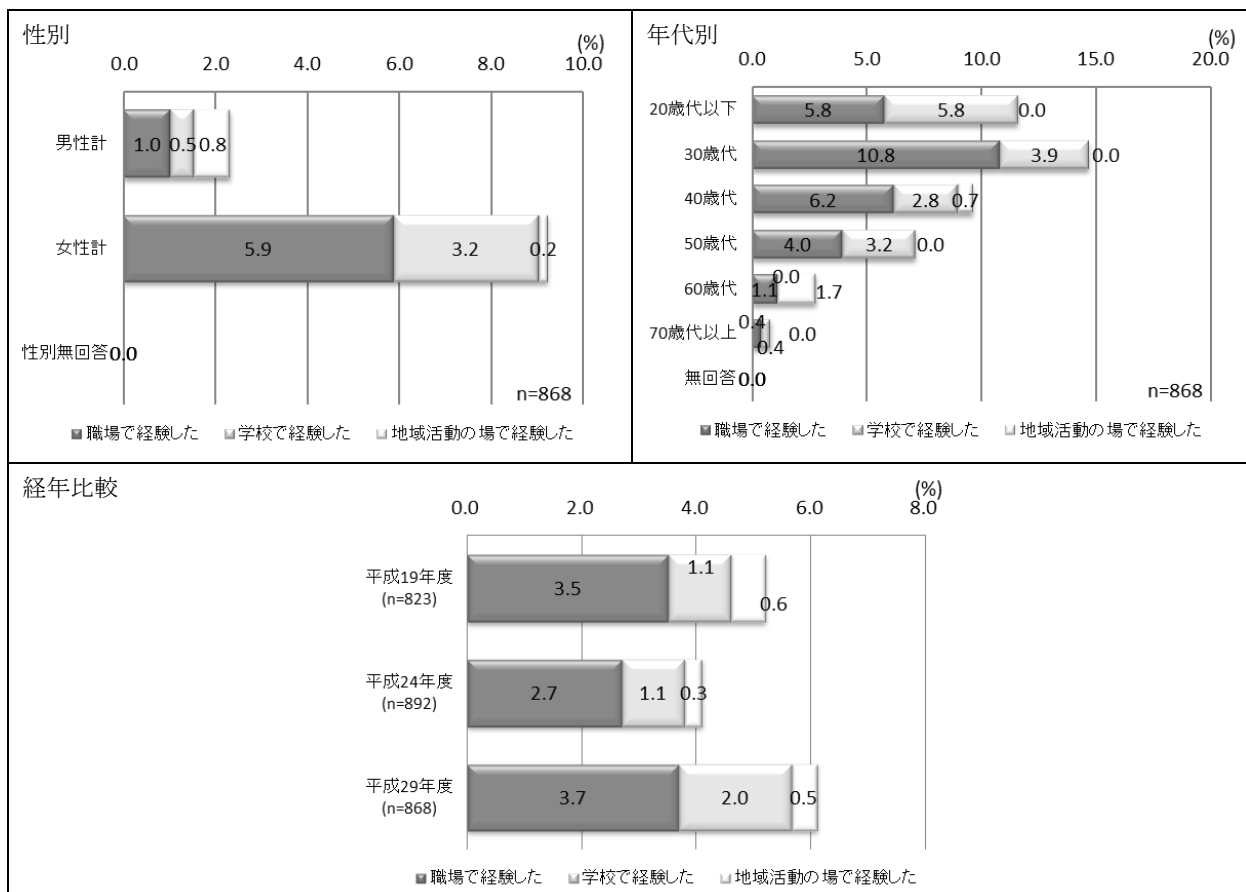
図表 8-9 ⑤ヌード写真等を故意に見せられた



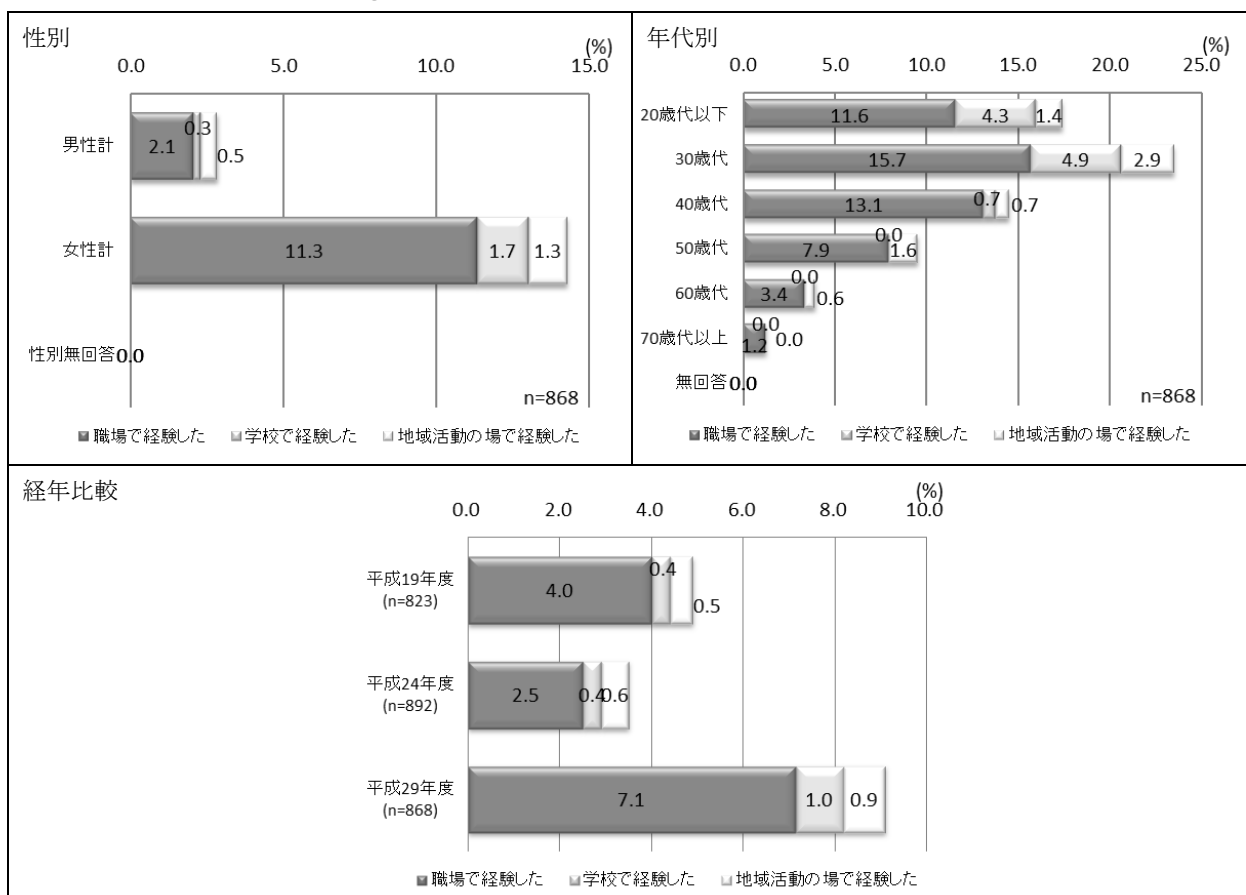
図表 8-10 ⑥性的なうわさを流された



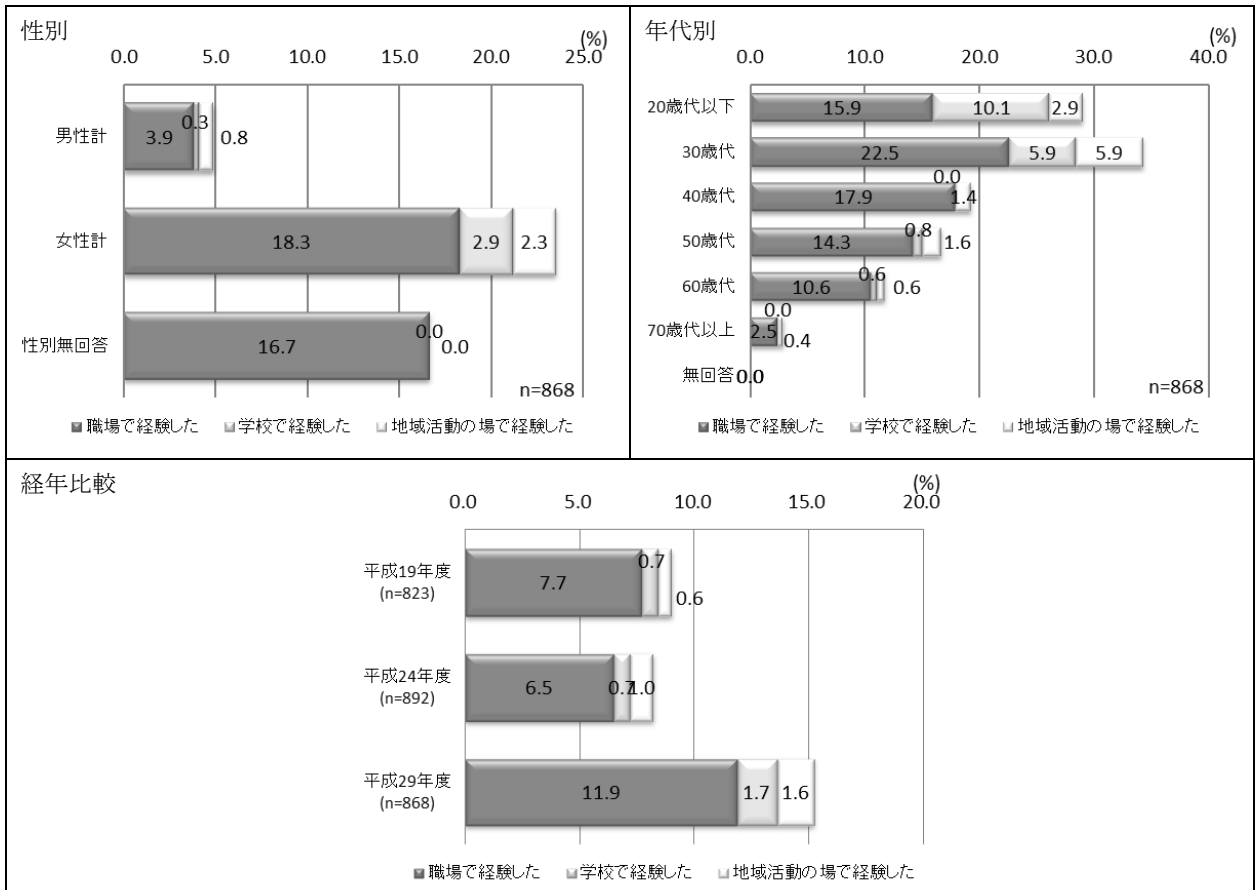
図表 8-11 ⑦しつこく容姿のことを言われた



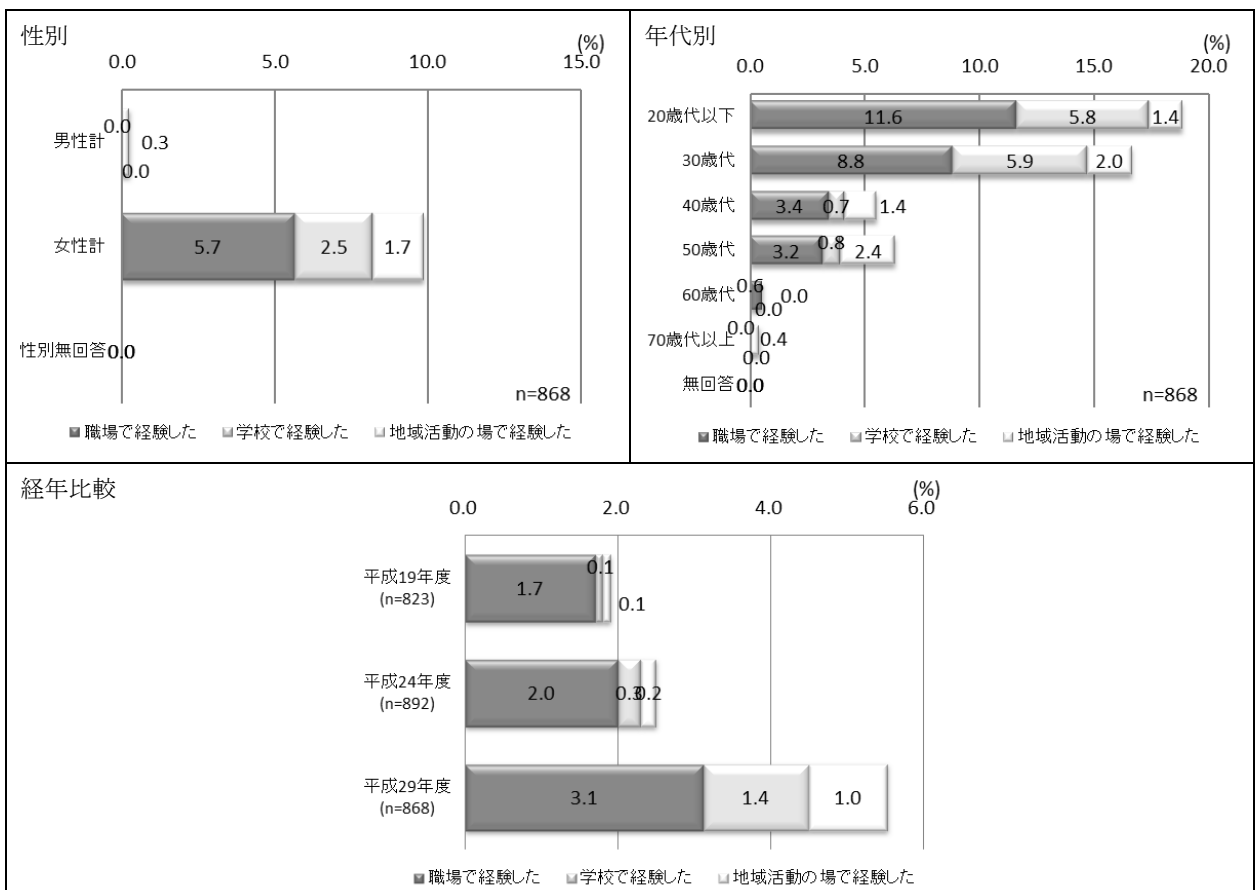
図表 8-12 ⑧異性との交際関係や結婚、出産について度々聞かれた



図表 8-13 ⑨性的な冗談や会話につき合わされた



図表 8-14 ⑩メールに「かわいいね」や「食事に付き合って」などが送られてきた



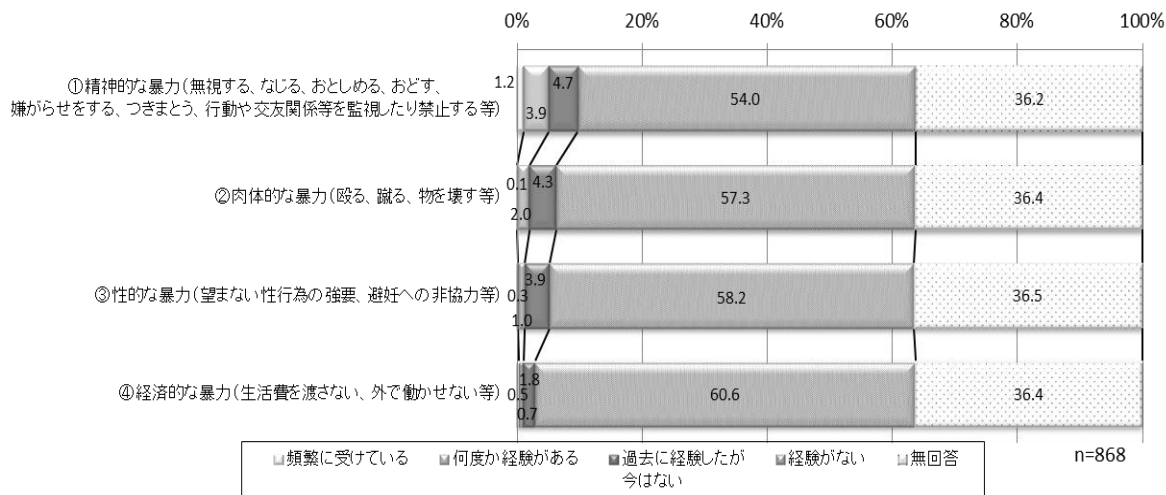


(3) ドメスティック・バイオレンス (DV) の経験の有無

【問14】ドメスティック・バイオレンス (DV) について、これまでに配偶者や恋人等から次の暴力行為を受けたことがありますか。

ドメスティック・バイオレンスの経験については、「過去に経験したが今はない」が最も多いものの、暴力行為を受けた経験がある人の割合は、「①精神的な暴力」4.7%、「②肉体的な暴力」4.3%、「③性的な暴力」3.9%、「④経済的な暴力」1.8%であった。なお、「頻繁に受けている」と「何度か経験がある」「過去に経験したが今はない」を合わせると、「精神的な暴力」が9.8%で最も多く、次いで「肉体的な暴力」の6.4%であった。

図表 8-15 ドメスティック・バイオレンスの経験

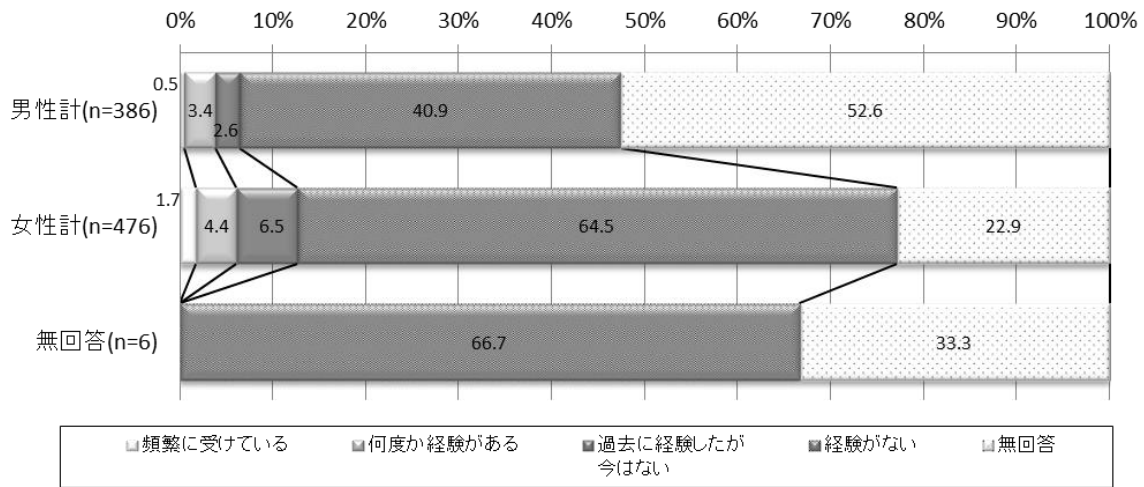


項目	経験	頻繁に受けている	何度か経験がある	過去に経験したが今はない	経験がない	無回答	サンプル数 (n)
		回答数 (件)	回答数 (件)	回答数 (件)	回答数 (件)	回答数 (件)	
①精神的な暴力(無視する、なじる、おとしめる、おどす、嫌がらせをする、つきまとう、行動や交友関係等を監視したり禁止する等)	回答数 (件)	10	34	41	469	314	868
	構成比	1.2%	3.9%	4.7%	54.0%	36.2%	100.0%
②肉体的な暴力(殴る、蹴る、物を壊す等)	回答数 (件)	1	17	37	497	316	868
	構成比	0.1%	2.0%	4.3%	57.3%	36.4%	100.0%
③性的な暴力(望まない性行為の強要、避妊への非協力等)	回答数 (件)	3	9	34	505	317	868
	構成比	0.3%	1.0%	3.9%	58.2%	36.5%	100.0%
④経済的な暴力(生活費を渡さない、外で働かせない等)	回答数 (件)	4	6	16	526	316	868
	構成比	0.5%	0.7%	1.8%	60.6%	36.4%	100.0%

① 精神的な暴力（無視する、なじる、おとしめる、おどす、嫌がらせをする、つきまとう、行動や交友関係等を監視したり禁止する等）

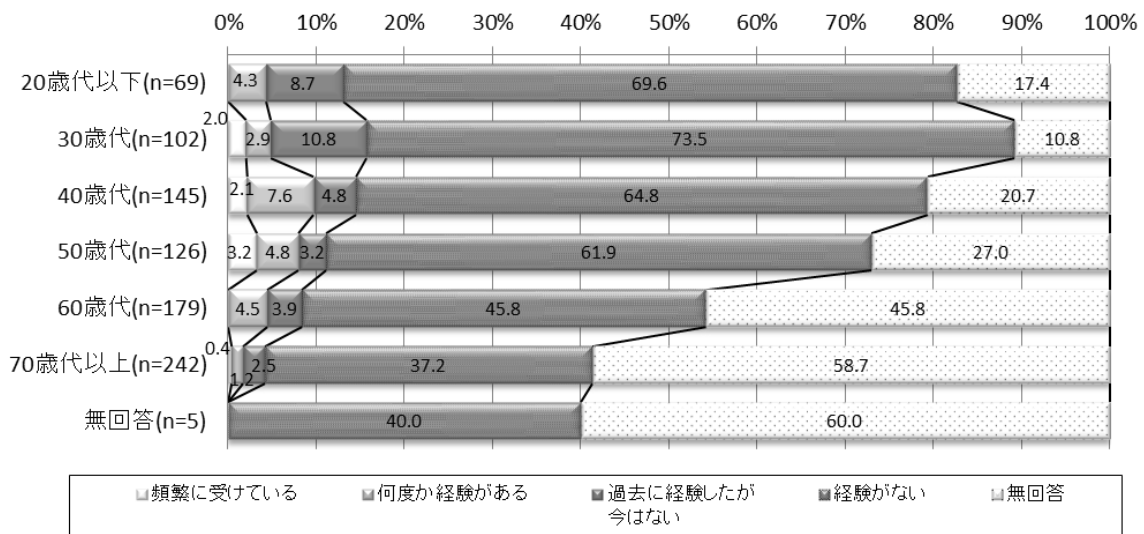
1) 性別

図表 8-16 精神的な暴力（性別）



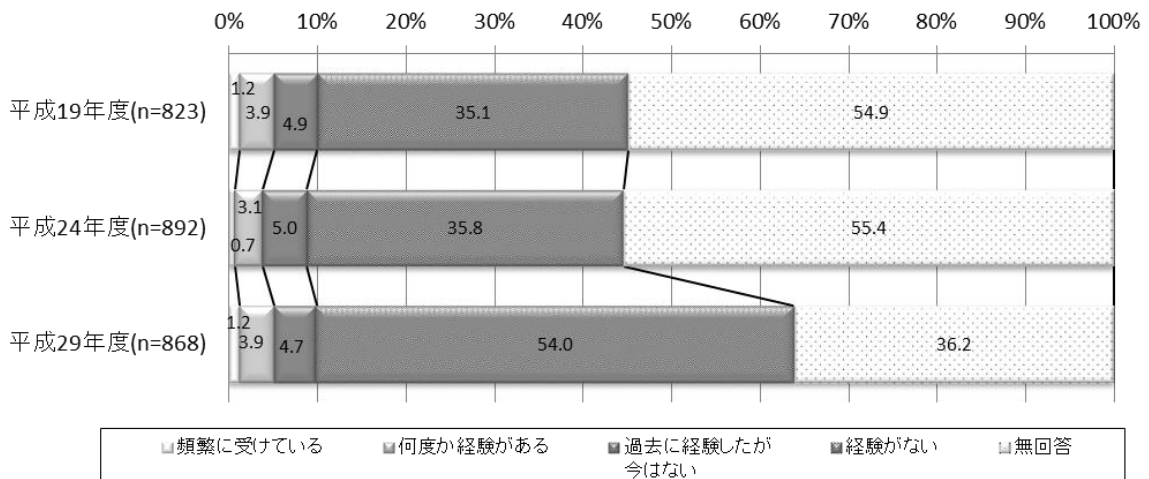
2) 年代別

図表 8-17 精神的な暴力（年代別）



3) 経年比較

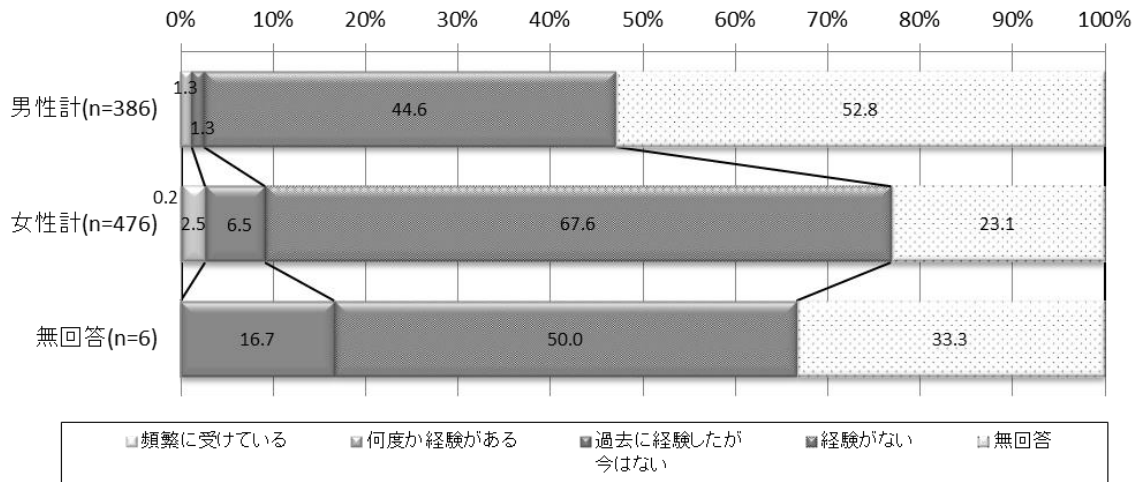
図表 8-18 精神的な暴力（経年比較）



② 肉体的な暴力（殴る、蹴る、物を壊す等）

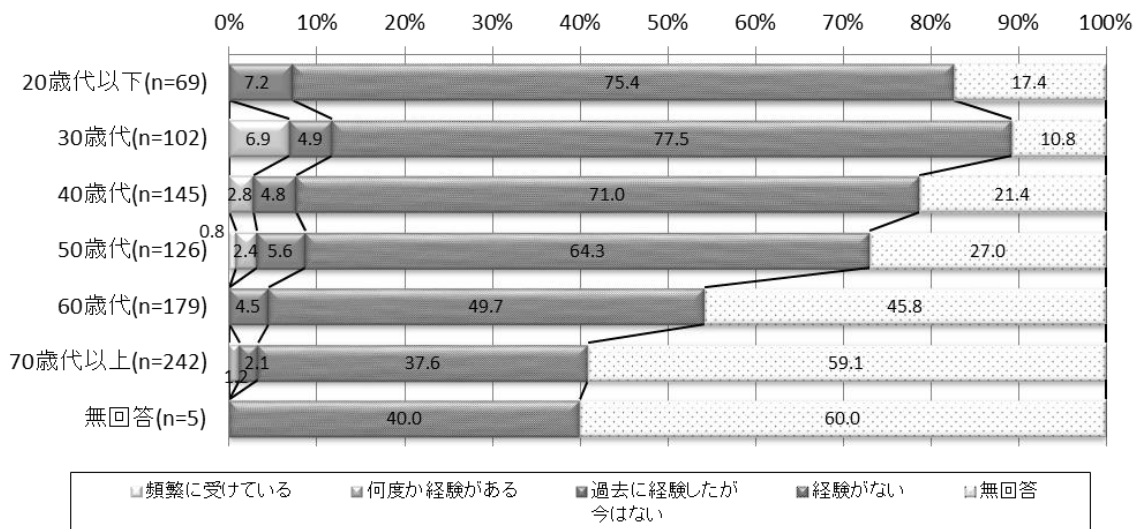
1) 性別

図表 8-19 肉体的な暴力（性別）



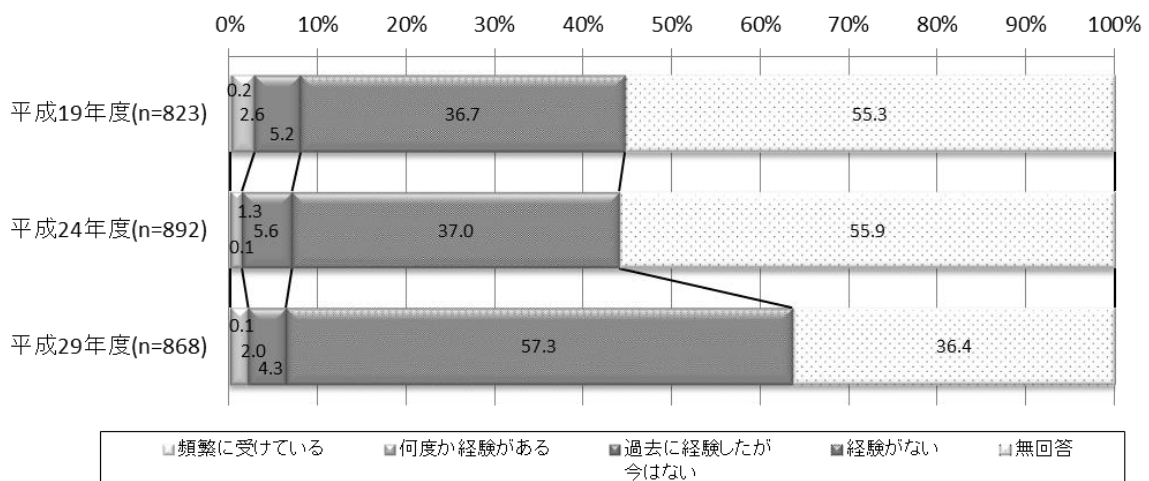
2) 年代別

図表 8-20 肉体的な暴力（年代別）



3) 経年比較

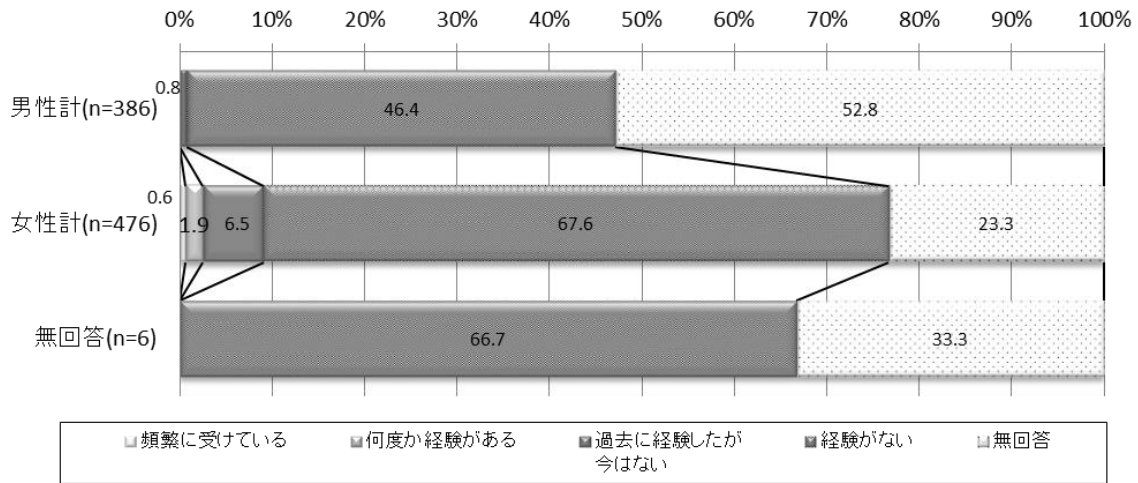
図表 8-21 肉体的な暴力（経年比較）



③ 性的な暴力（望まない性行為の強要、避妊への非協力等）

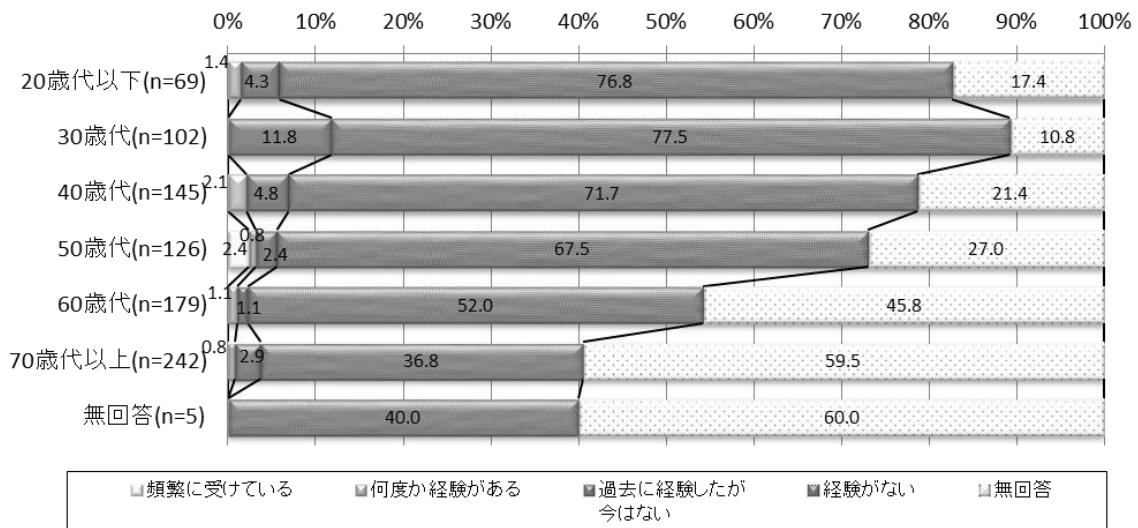
1) 性別

図表 8-2 2 性的な暴力（性別）



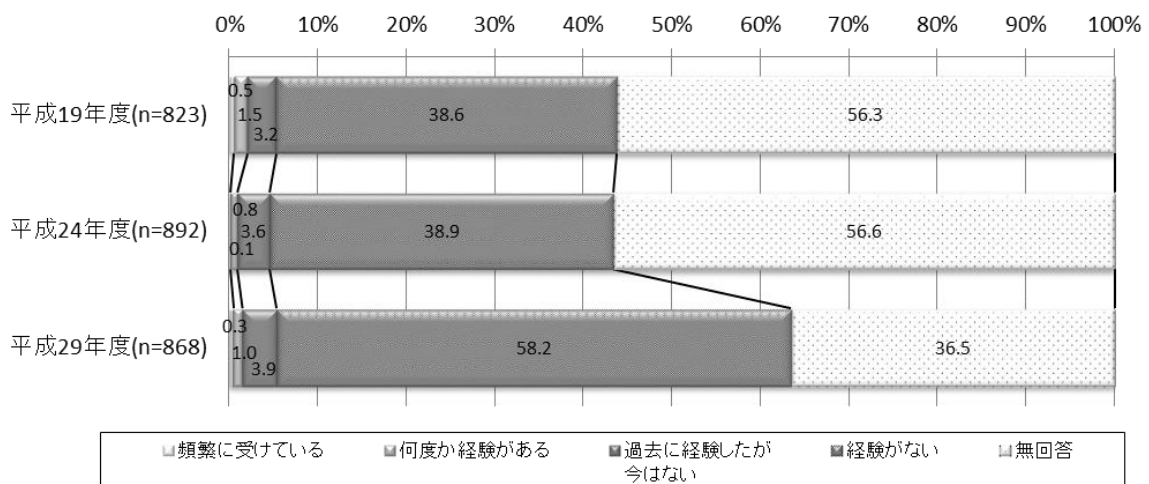
2) 年代別

図表 8-2 3 性的な暴力（年代別）



3) 経年比較

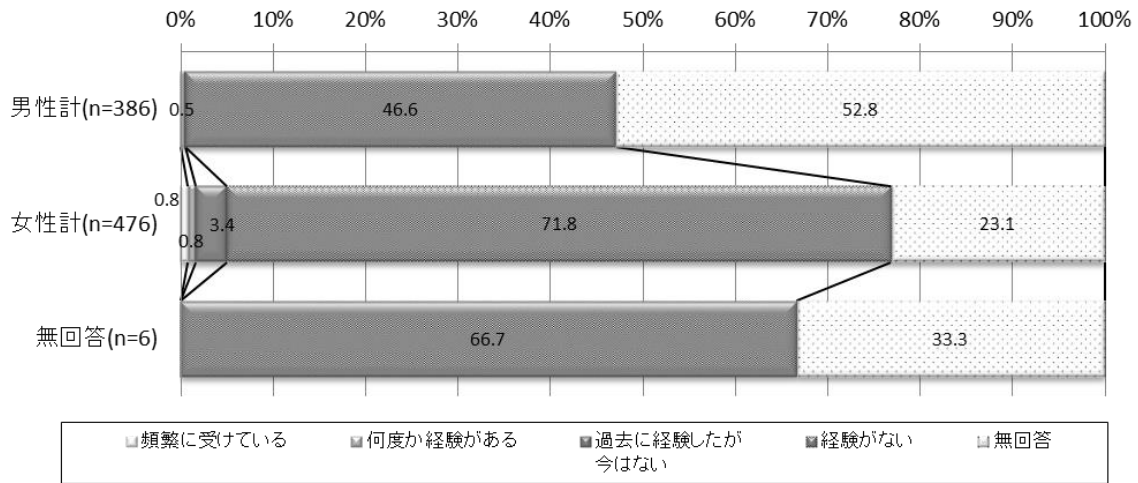
図表 8-2 4 性的な暴力（経年比較）



④ 経済的な暴力（生活費を渡さない、外で働かせない等）

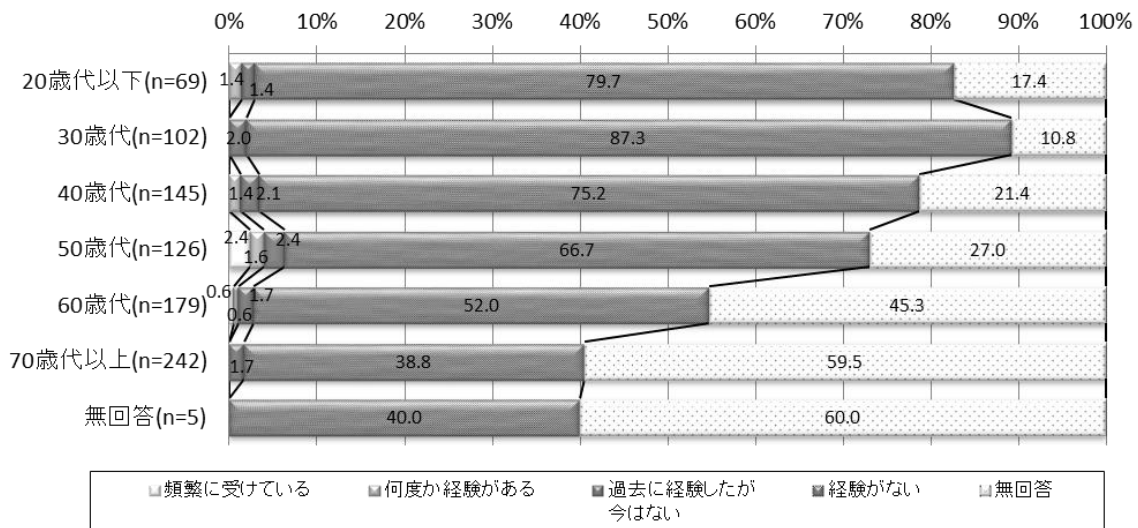
1) 性別

図表 8-25 経済的な暴力（性別）



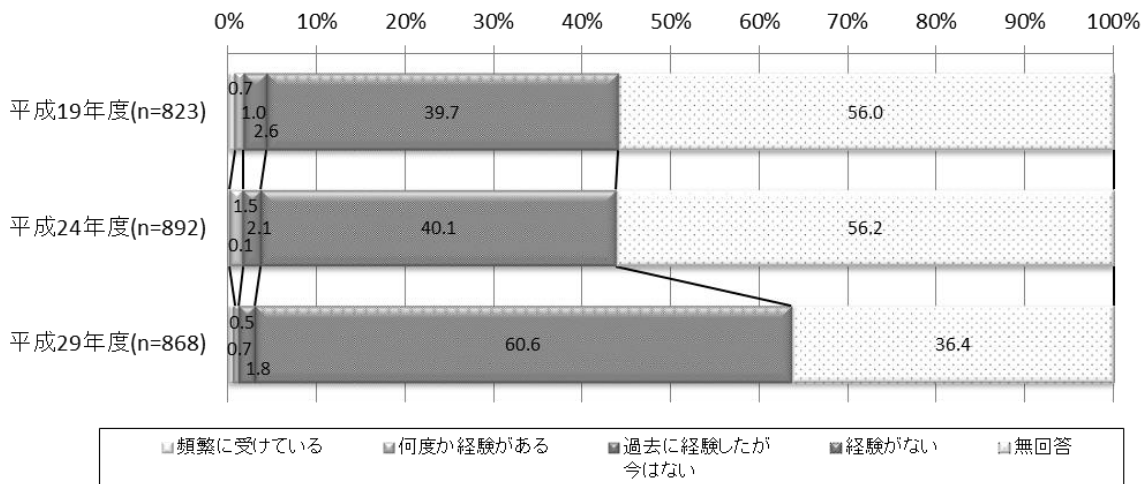
2) 年代別

図表 8-26 経済的な暴力（年代別）



3) 経年比較

図表 8-27 経済的な暴力（経年比較）



## 9.男女共同参画に関する法律やことば等について

・【問 15】次の法律やことば等をこれまでに見たり聞いたりしたことがありますか。

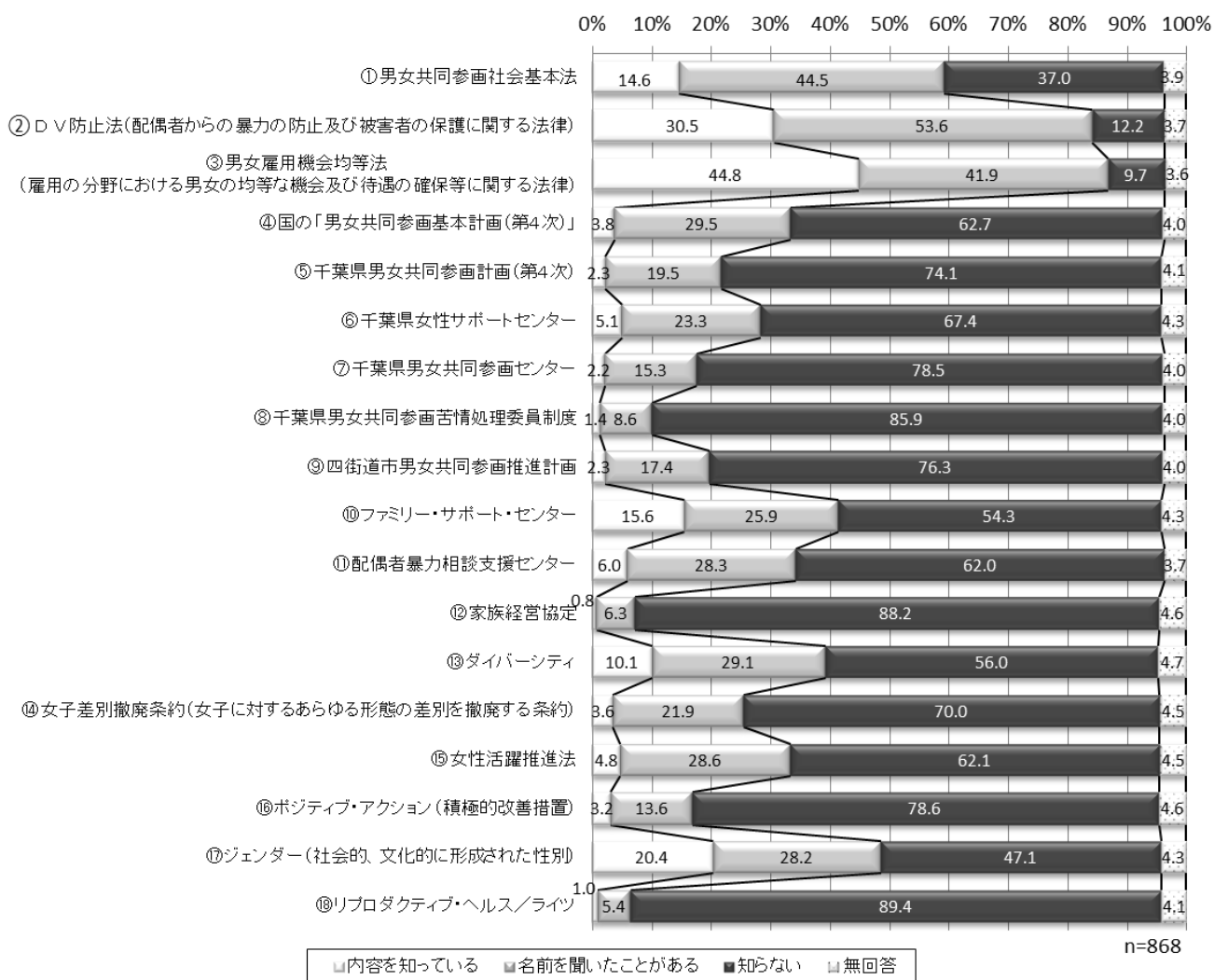
### 要約

男女共同参画に関する法律やことば等の調査 18 項目のなかで、「内容を知っている」と回答があった上位 3 位は「③男女雇用機会均等法」(44.8%)、「②DV防止法」(30.5%)、「⑰ジェンダー」(20.4%)であった。また、『知っている (=内容を知っている+名前を聞いたことがある)』と回答があった上位 3 位は「③男女雇用機会均等法」(86.7%)「②DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)」(84.1%)、「①男女共同参画社会基本法」(59.1%)、となっている。

### (1) 男女共同参画に関する法律やことば等の認知

・【問 15】 次の法律やことば等をこれまでに見たり聞いたりしたことがありますか。

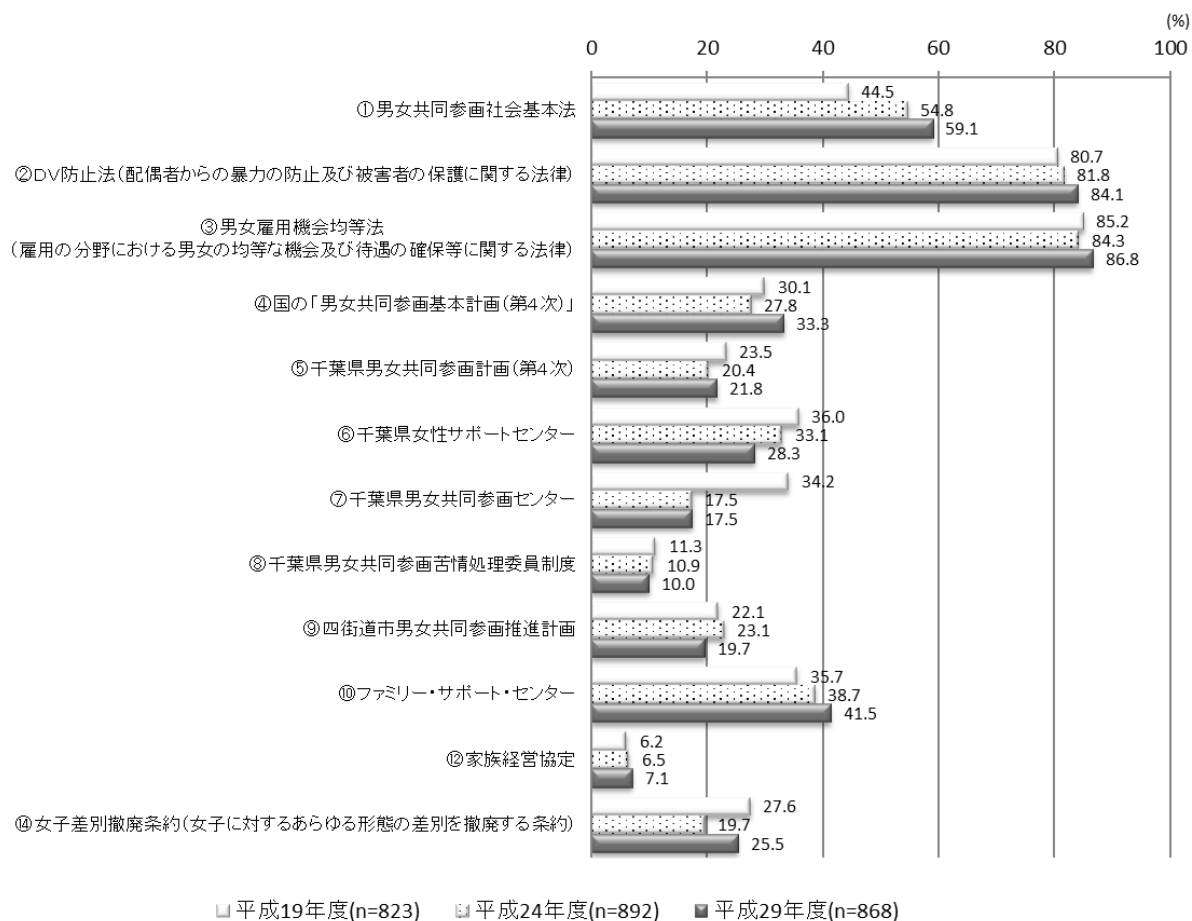
図表 9-1 男女共同参画に関する法律やことば等の認知度 (全体)



項目	認知度	内容を 知っている	名前を聞いた ことがある	知らない	無回答	サンプル数 (n)
	①男女共同参画社会基本法	回答数(件)	127	386	321	34
	構成比	14.6%	44.5%	37.0%	3.9%	100.0%
②DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)	回答数(件)	265	465	106	32	868
	構成比	30.5%	53.6%	12.2%	3.7%	100.0%
③男女雇用機会均等法(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)	回答数(件)	389	364	84	31	868
	構成比	44.8%	41.9%	9.7%	3.6%	100.0%
④国の「男女共同参画基本計画(第4次)」	回答数(件)	33	256	544	35	868
	構成比	3.8%	29.5%	62.7%	4.0%	100.0%
⑤千葉県男女共同参画計画(第4次)	回答数(件)	20	169	643	36	868
	構成比	2.3%	19.5%	74.1%	4.1%	100.0%
⑥千葉県女性サポートセンター	回答数(件)	44	202	585	37	868
	構成比	5.1%	23.3%	67.4%	4.3%	100.0%
⑦千葉県男女共同参画センター	回答数(件)	19	133	681	35	868
	構成比	2.2%	15.3%	78.5%	4.0%	100.0%
⑧千葉県男女共同参画苦情処理委員制度	回答数(件)	12	75	746	35	868
	構成比	1.4%	8.6%	85.9%	4.0%	100.0%
⑨四街道市男女共同参画推進計画	回答数(件)	20	151	662	35	868
	構成比	2.3%	17.4%	76.3%	4.0%	100.0%
⑩ファミリー・サポート・センター	回答数(件)	135	225	471	37	868
	構成比	15.6%	25.9%	54.3%	4.3%	100.0%
⑪配偶者暴力相談支援センター	回答数(件)	52	246	538	32	868
	構成比	6.0%	28.3%	62.0%	3.7%	100.0%
⑫家族経営協定	回答数(件)	7	55	766	40	868
	構成比	0.8%	6.3%	88.2%	4.6%	100.0%
⑬ダイバーシティ	回答数(件)	88	253	486	41	868
	構成比	10.1%	29.1%	56.0%	4.7%	100.0%
⑭女子差別撤廃条約(女子に対するあらゆる形態の差別を撤廃する条約)	回答数(件)	31	190	608	39	868
	構成比	3.6%	21.9%	70.0%	4.5%	100.0%
⑮女性活躍推進法	回答数(件)	42	248	539	39	868
	構成比	4.8%	28.6%	62.1%	4.5%	100.0%
⑯ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	回答数(件)	28	118	682	40	868
	構成比	3.2%	13.6%	78.6%	4.6%	100.0%
⑰ジェンダー(社会的、文化的に形成された性別)	回答数(件)	177	245	409	37	868
	構成比	20.4%	28.2%	47.1%	4.3%	100.0%
⑱リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	回答数(件)	9	47	776	36	868
	構成比	1.0%	5.4%	89.4%	4.1%	100.0%

1) 経年比較

図表 9-2 男女共同参画に関する法律やことば等の認知度（経年比較）  
 （「内容を知っている」「名前を聞いたことがある」の合計）



※④国の「男女共同参画計画（第4次）」は平成19年度調査では（第2次）、平成24年度調査では（第3次）として調査  
 ※⑤「千葉県男女共同参画計画（第4次）」は平成19年度調査では（第2次）、平成24年度調査では（第3次）として調査  
 ※⑦「千葉県男女共同参画センター」は平成19年度調査では「ちば県民共生センター」として調査



## Ⅱ. その他意見・自由意見

問 3(2). 男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
男性	50 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	男性だからやらない、女性だから出来ない、を無くす意識が必要
男性	50 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	色々な事案が男性目線になっていると考えます。改めるべき！
女性	50 歳代	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	介護、子育てに係る時間が主に女性が負担していると思う。もっと男女の負担を平等にすべき
男性	70 歳代以上	無職	結婚している（事実婚含む）	社会の様々な固定観念の改革への啓発
男性	40 歳代	正規雇用者	無回答	女性が政治のトップとなり、女性が作る女性の社会を築くこと。男性のつくる女性社会は全く意味が無い。
男性	60 歳代	農林業	結婚している（事実婚含む）	細部にわたってまで行政が関与することだろうか
女性	40 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	性差があるので全てにおいて平等は無理。男女と言わずすべての人が自分のできることをやれば良い。男女の平等を言っていること自体不平等。
男性	70 歳代以上	無職	結婚している（事実婚含む）	男女の差別と区別を混同しない
女性	40 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	①働く意志がある人に対して出産前から保育園の予約ができる制度を整備すべき。②病中保育制度を早急に整備すべき。③PTA、自治会活動等をすべて見直し縮小すべき。④高齢者の働ける環境を整備すべき。（高齢者を健康にし介護による女性社会進出を妨げないようにしていく）
男性	50 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	女性の社会参画に対する覚悟や意識改革が必要。
男性	40 歳代	正規雇用者	結婚したが、離別・死別している	現在平等になっている認識があるため、特に研修などは必要ないと思う
女性	70 歳代以上	自営業	結婚している（事実婚含む）	子ども達は未来を支える大切な存在ですので、赤ちゃんから高齢者まで受け皿を漏らさずに、居場所が安心できる処を確保してほしいです。親も子ども安心できるように。よりよい社会づくりのために。
男性	20 歳代以下	学生	結婚していない	まず、昔から続いている男が偉いみたいな風潮を無くさないと始まらないと思う
女性	50 歳代	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	子育てのみに目を向けないこと
男性	70 歳代以上	無職	結婚している（事実婚含む）	性急な取り組みは新たな問題を招く。地道な推進策でマスコミを活用していく

問 6. 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境づくりが必要だと思いますか。

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
女性	20 歳代以下	非正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	まだ少数ではありますが、子どもを連れて出勤できる企業が増えています。仕事と家庭を切り離さず、同時に進行できる環境を実現できることが必要だと思います。
男性	60 歳代	無職	結婚している（事実婚含む）	年金生活者には不明です
女性	50 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	職住近接
女性	60 歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚している（事実婚含む）	仕事中心の生活から家庭中心の生活に意識改革できるよう、市の自然環境や文化の充実をはかる。
男性	60 歳代	無職	結婚している（事実婚含む）	制度はあるが、それを利用することは罪悪であるという企業風土の改善
男性	30 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	国民全員の育児への理解を深めるための教育、独身者に対する不公平感のない制度
女性	50 歳代	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	病児保育、障害者介護の受け入れ可能場所を増やす
女性	60 歳代	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	男性が育児や介護をすること、休暇を取ることが出来るのが当たり前という環境や意識。
男性	70 歳代以上	無職	結婚している（事実婚含む）	核家族社会の現状に対応した公的、地域的なサポート体制の充実
女性	30 歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚している（事実婚含む）	男性が育休を取りやすいよう制度を作る
女性	30 歳代	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	妊娠・出産をきっかけに仕事を辞め、長いブランクがあっても、また仕事に復帰できる環境があると良い。（「休業」という形式ではなく）一度辞めて何年かブランクがあると就職が難しい。
女性	40 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	勤務時間を 9 時-15 時と学校と同等か少し短いくらいにする。
女性	40 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	介護生活にならないように 70 歳くらいまで働ける者は働けるように働き口を用意してやる。
男性	40 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	全ての人の意識改革→文化なので時間がかかる！
女性	30 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	上の世代が考え方を変えること。男性が仕事を休むのは難しいです。
女性	40 歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚している（事実婚含む）	パートナーの病気でいきなり主として働かなければならなくなったとき、経済的支援と資格を取るための学費などの支援があると良い。
女性	50 歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚したが、離別・死別している	子供や家族の看病で夫が休める環境

問 8. 防災・災害復興対策で女性の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
男性	70 歳代以上	無職	結婚している（事実婚含む）	市、地域の防災体制がどのように構成されているか不明だが男女共に協力し合う体制作りを心がける必要がある。
男性	30 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	男女それぞれ身体の違いがあるため 1~7 全てにおいて女性の視点を入れるため、女性を同数配置するべきと考えます
男性	50 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	女性の配置のみならず子供から年配までが目配り、心配りのできる人の配置
男性	40 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	女性の視点を入れた防災マップを市民に配布

問 9①. 女性(男性の場合は「妻・パートナー」)の働き方として、①理想の働き方について、あてはまるものをお答えください。

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
男性	60 歳代	無職	結婚している(事実婚含む)	価値観で決めればよい
男性	40 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	個人の自由
女性	60 歳代	無職	結婚している(事実婚含む)	仕事は辞めずに育休を長くさせてほしい
女性	50 歳代	専業主婦(夫)	結婚している(事実婚含む)	他人から決められることなく、自分や家族の在り方、意志で決める。
男性	無回答	正規雇用者	結婚していない	当人の希望に沿うべき
男性	30 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	Bの就業形態の「仕事を辞め」ではなく「休職」が理想と考えます。
女性	20 歳代以下	学生	結婚していない	仕事をしつつも子育てもする
男性	60 歳代	農林業	結婚している(事実婚含む)	本人が決めることであり上述のものに縛られる必要はない
女性	40 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	個人の好きなように働くことが良い
女性	30 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	妊娠・出産を機にいったん仕事の量を減らし落ち着いたら再び働く。
男性	70 歳代以上	非正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	個人の自由だと思う
女性	40 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	勤労の義務、男女平等というなら男女とも働ける環境条件が整うと良い
男性	40 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	どちらの方法も選べるようにすべき。仕事を続けるのも子育てに専念することも大事。子育てに専念できるサポートも必要
男性	70 歳代以上	無職	結婚している(事実婚含む)	家庭環境(収入、健康状態、家族構成等)および各家庭の主義主張に則して労働の有無、方法について選択すれば良い
女性	70 歳代以上	専業主婦(夫)	結婚している(事実婚含む)	女性男性を区別して考えるのではなく、能力に合った個人にあった仕事の仕方を考えていくべきと思う
女性	50 歳代	正規雇用者	結婚していない	仕事をもち働き続けたければ働ける、家庭に張りたければ入る自由を選べる

問 9②. 女性(男性の場合は「妻・パートナー」)の働き方として、②現実の働き方について、あてはまるものをお答えください。

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
男性	無回答	正規雇用者	結婚していない	当人の希望に沿うべき
女性	60 歳代	無職	結婚している(事実婚含む)	子育てが落ち着いてから、パートタイムで働く。(子どもが学校に行っている間)
女性	40 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	個人の好きなように働くことが良い
男性	50 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	女性自身がどう働きたいのかを尊重する
男性	70 歳代以上	無職	結婚している(事実婚含む)	家庭環境(収入、健康状態、家族構成等)および各家庭の主義主張に則して労働の有無、方法について選択すれば良い

問 9③. 女性(男性の場合は「妻・パートナー」)の働き方として、③これからの女性の働き方について、あてはまるものをお答えください。

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
女性	20 歳代 以下	非正規雇用者	結婚している(事実婚 含む)	A~F どれでもいいと思いますが、大切なのは「本人が望んだ 働き方か」だと思います。
男性	40 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚 含む)	個人の自由
女性	50 歳代	専業主婦(夫)	結婚している(事実婚 含む)	他人から決められることではなく、自分や家族の在り方、意志 で決める。
女性	60 歳代	専業主婦(夫)	結婚している(事実婚 含む)	どのように働くのがベストなのかは各々違います
男性	70 歳代 以上	無職	結婚している(事実婚 含む)	全体に働くことを要求する傾向はそうしたくない人々を追い 詰める感じがする
男性	50 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚 含む)	その人の考え次第で仕事に就くも就かないも自由
男性	無回答	正規雇用者	結婚していない	当人の希望に沿うべき
男性	70 歳代 以上	無職	結婚している(事実婚 含む)	固定観念にとらわれず自由な選択ができるような環境を形成 すべく取り組む必要あり
女性	40 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚 含む)	個人の好きなように働くことが良い
男性	50 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚 含む)	女性自身がどう働きたいのかを尊重する
女性	70 歳代 以上	専業主婦(夫)	結婚している(事実婚 含む)	各家族により話し合いができる状態であれば選べるような・・・
女性	40 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚 含む)	各々の生き方で選択できるよう様々な条件が整うと良い
女性	70 歳代 以上	無職	結婚していない	人それぞれの考えで A~E まで選択すれば良いと思います
男性	30 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚 含む)	自由だと思う。その際平等であれば
男性	70 歳代 以上	無職	結婚している(事実婚 含む)	家庭環境(収入、健康状態、家族構成等)および各家庭の主義 主張に則して労働の有無、方法について選択すれば良い
男性	20 歳代 以下	学生	結婚していない	自分のやりたいことをやらせてあげた方が良いと思います
男性	20 歳代 以下	学生	結婚していない	女性が決めるべきだと思います
男性	50 歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚 含む)	妊娠・出産を機に仕事を離れ(休み)、子育てなどが落ち着いた ら復職する(パートタイム勤務から入り、その後正規に)
女性	20 歳代 以下	学生	結婚していない	“女性の”就業というくくりで話が上がらないぐらい、個人の 自由で働ける働き方
女性	50 歳代	専業主婦(夫)	結婚している(事実婚 含む)	ずっと仕事をするのもよし、仕事をせずボランティアや地域活 動をするなど、自由に選択できれば良いと思う。(今は働いて いないと「なぜ?」と思われることがあるので)
男性	70 歳代 以上	無職	結婚している(事実婚 含む)	当事者に任せる
男性	20 歳代 以下	学生	結婚していない	働き方は人それぞれなので性別のみで働き方の形を固定づけ る必要はないと思う。

問 12. 「女性の人権が侵害されている」と感じるのはどのような場合ですか。

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
男性	30 歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚していない	女性に限らず上記全ては男女共に人権侵害だと思う
女性	40 歳代	専業主婦 (夫)	結婚している (事実婚含む)	子供を産めない人への言葉
女性	40 歳代	専業主婦 (夫)	結婚している (事実婚含む)	近年には男の子に対する性暴力の報道もありました。女性に限らず性的な暴力、犯罪は殺人と同じくらいの罪になればと思っています。
男性	30 歳代	正規雇用者	結婚している (事実婚含む)	物理的な力で被害を受ける場合に特に女性の人権が侵害されていると感じます。
女性	30 歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚している (事実婚含む)	育休等出産育児に関する内容など子供の体調不良時は母親ばかり仕事を休むなど
女性	30 歳代	専業主婦 (夫)	結婚している (事実婚含む)	女性だけ制服を着ている会社がある。(銀行など)
男性	40 歳代	正規雇用者	結婚している (事実婚含む)	男性へのセクハラも存在するがなぜ女性をターゲットとした問いにしてあるのでしょうか?
女性	70 歳代以上	専業主婦 (夫)	結婚している (事実婚含む)	女性自身が女性としての性を誇張して生きている人たちが存在していること (芸能界や性産業に従事する)

## ◆自由意見

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
女性	20歳代以下	非正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	女性が男性に虐げられてきた歴史はありますが、どうか男性は女性を差別してきた悪いやつというイメージは広めないでほしいと思います。「女は家事」と決めつけられて苦しんだ女性もいるでしょうが、「家事が好き」という女性も必ずいます。VIのような「女性の働き方」として「女性」をひとまとめにしてしまっただけでは、それこそ「多様性」は失われてしまうと思います。女性も社会（企業）で活躍しよう！！というポジティブな動きの中で家庭の中で家事・子育てに専念している女性たちが居心地悪くなってしまっただけでは悲しいことです。誰を好きでも、どのような生き方を幸せと思っても、他人を傷つけたりするものでなければ、みんなが認められる社会を作っていきたいと思っています。また、性犯罪＝女性が被害者という図式もそろそろ意識的に控えるべきかと思っています。もちろん力の差もあって女性被害者が圧倒的に多いかと思いますが、ハリウッドでも話題になっているように男性でもセクハラ被害に遭いますし、レイプもされます。傷ついた人に男女の差はないと思います。女性が虐げられた歴史のせいで、男性が不当に虐げられるようなことがないように祈っています。
女性	60歳代	自営業	結婚している（事実婚含む）	制度を整えることも大切ですが、広報・啓蒙により意識付けすることが大切だと思います。
女性	50歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	性によってではなく、個人の考え方や性向で生活する手段が選べる、選ぶことが可能となっていることが男女共同参画社会なのだろうと思っています。「女の子」と小さいころ大人から言われたことが何回もあり、その度に「変」と思いました。また、職場で忙しいときにもお茶出しをさせられ（男の人はそれは無いのに）、大いに不満でしたが声に出せず自分のふがいなさに腹が立ったのを覚えています。男の人は女の人の不満を推察することが現状その面では恵まれているので出来ないのだろうと考えます。だからこそ、教育、啓蒙の必要を感じます。
女性	60歳代	無職	結婚している（事実婚含む）	これからは益々女性の活躍の場を社会の中で期待したいです
男性	60歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	女、男とも生まれながらの本能が違う。すべてを平等と考える事は無理がある。
女性	60歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚している（事実婚含む）	言葉だけの男女共同参画社会で終わらないでほしいです。他者との違いを認め合う社会、性別、年齢、障害等での差別をしない社会。市役所に行くと障害のある方々がたくさん働いているような街は男女の差別も少ない地域だと思います。
男性	60歳代	無職	結婚している（事実婚含む）	制度、法律が多数あり過ぎる。1つにまとめて、又、強制力を持った制度でなければ浸透しないと思う。
男性	30歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	男女と掲げることで反発を生むこともあると思う。性別に関わらず平等な社会を目指すべきだと思う。
女性	40歳代	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	このアンケートが少しでも参考になれば幸いです。なかなか難しいと思いますが「性別に関わらず誰もが個人として尊重され、個性を発揮できる社会」になったら夢が広がるかもしれないですね。
男性	70歳代以上	無職	結婚している（事実婚含む）	内容については特に意見は無い。大変な作業だなという感じを強く受けた。何人体制で期間はどのくらいで推進するのか頭が下がります。
女性	50歳代	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	男女共同、平等、均等など、わざわざ取り上げる必要ない世の中、社会が理想だと思います。しかし、言うのは簡単、実現は難しいのでしょうか？
男性	60歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	もっと男女共同参画に関する広報・啓蒙を推進してほしい。
女性	30歳代	正規雇用者	結婚していない	今回のようなアンケートを実施することは、とても良いことだと思います。自分自身も考える良い機会となりました。市民の声を聞いて下さりありがとうございます。
男性	30歳代	正規雇用者	結婚していない	今の社会位で良いと思う。野生生物でも雄雌で役割が違っているので。完全に平等にするのは逆に不自然では？

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
女性	60歳代	非正規雇用者	結婚したが、離別・死別している	少しずつ変わっているとは思いますが、この国ではヨーロッパやアメリカなどにはまだまだ遅れていると感じます。
女性	70歳代以上	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	この取り組みに大いに賛同しています。出来る協力はしていきたいです。
女性	70歳代以上	無職	結婚したが、離別・死別している	世の中は男と女で成り立っているのだから、半数である女性の参画は当然であるし、是非推進していただきたい。
男性	20歳代以下	アルバイト・パートタイマー	結婚していない	レディースデイはあるのにメンズデイが無いのは何故だろう。男女には性差があるので完全な平等は難しいと思った。なので、それを考慮した働き方ができる社会が増えれば働く女性は安心して子供を持てるし、活躍できるのではと考えた。
女性	50歳代	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	男女共同参画社会、この言葉は今まで知りませんでした。男女が対等で差別なく扱われ、活動できるようにしていくことは当たり前権利として推進していくことは必至であると思います。そのために、国や地域を挙げて広報、啓発を声を大にしてしっかりと、わかりやすく進めていただきたいと思います。
男性	30歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	男女平等、ハラスメントの絶無が提起される一方で、旧態依然とした考えから抜け出せない男性が相当数いることが問題。特に50代60代、会社の上層部や公務所の上級官職にある者でもこうした人種はまだ多く、通り一遍の議論や施策の形骸化、マンネリ化が懸念される。大切なことは今後の新しい若い世代に参画社会の意義や男女平等について正しい教養を身につかせ、そうした風潮を強固にしていくことである。
女性	70歳代以上	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	男女共同参画に向け、女性の職業選択の幅を広げたり、保育のバックアップももちろん大切ですが、それと並行して男性の働き方、考え方が変わらなければ、法律などができても実際には使えず、歯がゆい思いをする人が多いのではと思います。豊かさは経済的な成長の中にだけあるかの様に思いがちですがそうではない面もあることに気付く時期ではないでしょうか。
女性	70歳代以上	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	カタカナ言葉ではなく、日本語を使ってほしいです。理解が難しいです。参画も？です。
女性	40歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚している（事実婚含む）	男女平等と女性優遇は根本的に異なると思うが、女性を特別扱いする方向性に違和感があるので、個性優先の社会になると良い。
男性	70歳代以上	無職	結婚している（事実婚含む）	向き不向きがあり、紙に書いて実現できないのではないですか。できることから1つずつやってみた方が良いと思います。
女性	30歳代	農林業	結婚している（事実婚含む）	長い間「男女共同参画」と言われてきているが、なかなか実現されないし、現実的に難しいところがあると思います。女性は出産育児で一時的に必ず家庭に入らなくてはならない時期があります。子供も大事、仕事も大事、家事も大事。いつになったら男女共同参画などと暮らしやすい日常が来るのか期待していいのかわかりません。
男性	70歳代以上	無職	結婚している（事実婚含む）	家事（掃除・洗濯・炊事）は大変な仕事量。会社等はいろいろ忙しくても時間が来れば一定の区切り（休息）がついて一息付ける。家事（育児を含め）には終わりが無い。一生働きづめである。家庭でのしつけ等主婦の仕事量を夫は長く理解して協業に努めなければならない。
女性	30歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	「性別にかかわらず」ということはLGBT等の性的マイノリティへの支援も視野に入れているということでしょうか。他自治体でもLGBTに対する取り組みが行われていますが、四街道市でも考えているのでしょうか。
女性	70歳代以上	無職	結婚している（事実婚含む）	男女共同参画に関する法律、言葉、ほとんど判りませんでした。この機会に少し勉強をしたいと反省をいたしました。ありがとうございました。
男性	60歳代	無職	結婚している（事実婚含む）	国・自治体の積極的な取り組みは大切だが、それ以上に国民・市民の認知不足が問題。時間をかけて改善されることを望む。

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
女性	40 歳代	非正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	社会は男女平等が定着しつつある気がしますが、家庭内では中々理解がもらえない。家族協力ナシでは厳しいのが現実です。
女性	40 歳代	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	あえて、“男”“女”等強調せずとも1人1人が全て人権を持っていて個々の個性や得意なことを生かして社会が出来ていく、という思いが当たり前になったら良いのになあ、と感じました。
女性	70 歳代以上	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	女性が出産育児によりフルタイムで働くことが難しいのは社会の大きな損失です。まず職場において男性が率先して女性の負担を理解し協力し合い進んで相談に乗ってくれるような雰囲気づくりが大切だと思います。
女性	60 歳代	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	ヨーロッパでは子育てしやすい環境や男女共同の意識があつてうらやましく思う。議会でも女性の議員数も男性対比で示されるという日本では男性の意識の変革が必要だと思う。
男性	20 歳代以下	無職	結婚していない	私自身の捉え方の違いなのかもしれませんが「女性に関して・・・」や「男女の権利に関して・・・」などと露骨に女性が弱者である前提のアンケートはどうなのかと思います。現に私は平成生まれですが、昭和の頃は当たり前だったことなのでは？と思っていつも疑問に思っています。昔は昔今は今と言われるたらそれまでですが、逆に現代だと「ガールズデイ」だったり、男性より女性の方が同じサービスや食べ物を食べるのに料金差があつたりでむしろ女性の方が優遇を受けていると思います。Ⅷに「女性の権利」とありますが、その中の買春・売春や性的な産業については女性にしかできない稼ぎ方ということでここに関してもある意味優位な意味での差別だと思います。また、進路に関しても「どーせどっかの家庭に入るんだから適当に推薦で受かればいいや、ハハハ」みたいな輩も目にします。「普通」という曖昧な言葉で状況を言い表すことは良くないですが、全くもって男女が平等になった「普通」の世になったら逆に不便になることも多々あると思います。（絶対に）なので、結局波音立てずに現状維持が良いと私は考えます。そもそもこんなアンケートに力をいれないでその分他のことに使うべきなのでは？
女性	50 歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚している（事実婚含む）	天皇や総理が女性にならない限りその他のことで男女平等・・・みたいな風潮には日本は何をしても絶対ならないと思う。
男性	30 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	男女が社会的に立場が均等であると考えますが、男女の本質も考慮すべきと考えます。
男性	40 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	女性の労働参加を後押しするばかりでなく、男性が家庭生活やプライベートを大切にしやすいような環境づくりもしていただきたい。男性が家庭生活に関することで女性に余裕ができれば女性は働きに出やすくなると思います。
女性	20 歳代以下	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	男と女は違うんだから平等にってする必要ないと思う。平等っていう意識はあった方が良いけど、男が～とか、女だから～じゃなくてお互いに長所を生かしていけばいいと思う。問 12、13 に関しては女性ばかりライトアップされがちだけど、男性にもあることをちゃんと考えないといけないと思う。私たち 20 代より、50 代とか 60 代とかの人の方が平等意識が少ないと思う。（時代的にしかたないかもだけど）そういう人たちが上にいる間は男女平等にって言うてもうわべだけかなと思う。
男性	50 歳代	非正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	性別に関係なく機会を均等にすることが重要であり、また、個々の要望にしっかり向き合うことが大事である。女性を優遇したり、型にはめた画一的な対応をしたりすることは必ずしも共同参画社会とはならない。また、男性女性の特権を生かすことも忘れてはならない。



性別	年代	職業	配偶者	その他意見
女性	30 歳代	専業主婦 (夫)	結婚している (事実婚含む)	10 年間建築業界で技術職 (建築士) として働いてきたが、業界全体として女性が少数であるために、産休や育休が未整備である企業はまだ多い。会社や現場ではトイレが男女共同である場合もある。子育て支援や保育所の整備も急ぐべきだとは思うが、それだけで女性が働きやすくするというわけではない。上記のような問題は、企業努力だけでは改善しない場合が多いので、国や行政もかかわっていくべきと考えます。
男性	50 歳代	正規雇用者	結婚している (事実婚含む)	国の政策だから云々ではなく、四街道市がどう取り組むのか、具体策を挙げてほしい。この手のアンケートは結果の集計だけ見せられてそれで終わりにになっている場合が多く、意味がないのでは？議員の半分以上を女性にする等、政治が変わらないのなら市民の意識も生活も変わらないと思います。
女性	20 歳代以下	学生	結婚していない	ちょうど私が今学校で学んでいることも女性の社会への参加などについて、何故女性は仕事と育児がうまく両立できないのか、保育園難民は何故いるのかについて、話をしました。また問題になったばかりのこのことについても今後政府や自治体がどう対処していくのか、もっと女性が働きやすい環境になることを願います。
女性	50 歳代	自営業	結婚している (事実婚含む)	「子育て」の観点では男女平等を考えるのは難しいと思う。女性からしか子供は産まれず、母は子にとって特別な存在であることは理屈ではないからだ。男女平等を望む問題ではないと考えている。「待機児童」解決については、保育園を増やすのではなく、経済的な目的で母親が働かなくてもよくなるよう世の中が変わることを望む。何もかも男女共同参画というのは難しいし、あまりにも広域にわたるテーマであり、条件や場合によりアンケートの回答も変わるためこのようなアンケートで個人の意見を推し量るのは無理があると考えます。
男性	70 歳代以上	無職	結婚している (事実婚含む)	男女共同参画社会の実現を求めます。
男性	20 歳代以下	正規雇用者	結婚している (事実婚含む)	まだ女性が働きやすい環境が整いきれていないと思います。女性の社会進出を促進するためにも保育園を充実させ、社内制度も整えていく必要があると思います。
女性	40 歳代	正規雇用者	結婚していない	皆それぞれで考え方も生き方も違うので、性別はあまり関係ないと思います。良い事に向かって意見を言い合える市、国になりたいです。
男性	60 歳代	農林業	結婚している (事実婚含む)	人はそれぞれに特性があるのと同様、男女の差異による特性があると思うのですが、人により何がなんでも同一でなければならぬと考えている人たちがいるように思えます。行政はそれらをしっかりと見極めることが大切だと考えます。
女性	20 歳代以下	正規雇用者	結婚していない	身体的能力の差により、同じ労働を命じられた際、女性の方が大変なことも多い。同じ労働条件で働くということだが、男女間の差別をなくすことにはつながらないと思います。(男性メインの住宅系の営業職についています)女性が働き続けることができる会社、社会になることを望んでいます。
女性	40 歳代	正規雇用者	結婚している (事実婚含む)	女性を優遇するのも差別だと思えます。女性と男性と同じように扱うということが不平等である。独身の女性はそれで良いと思う (力仕事等適性は別として) が、子供がいる女性を優遇しすぎるのが差別だと思えます。男性でも子育てしている方も多くいますので、子育て世帯への援助として施策を展開してほしいと思います。
男性	60 歳代	正規雇用者	結婚している (事実婚含む)	周知の底上げが肝要
男性	40 歳代	正規雇用者	結婚している (事実婚含む)	本活動は基本的に女性が弱者であるとの認識から発足しているのでしょうか？男性には男性向きの仕事、女性には女性向きの仕事があることも事実であり、例えば女性が仕事等、男性向きの仕事に就いた場合、評価がされづらいことがあることは致し方ないことである。まずは評価基準を明確にすることから始めてはいかがでしょうか。

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
女性	70歳代以上	自由業	結婚している(事実婚含む)	男女ともに平等であることの啓発活動を学校教育の中で徹底させることを望みます。
女性	40歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	◎一人一人の労働時間(就業時間)を短くしないと楽しい生活が送れないと思う。◎「四街道市男女共同参画(市民)」各施策に取り組んでいると表紙に書かれているが、具体的なことを何一つ知らない。このアンケートの封筒にどのような施策をしているのか記載した資料があるともっと良かったと思う。
女性	70歳代以上	専業主婦(夫)	結婚している(事実婚含む)	社会、職場に於いて、家庭に於いてまだまだ日本は男尊女卑の態度、思想から抜け出てはいません。男の思想の低下が男性には判っていないようです。これからは女性の知恵を借りつつ女性をリーダーとしてサポートする姿勢が必要かと思えます。
女性	30歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚している(事実婚含む)	男女平等に社会に出て働けば子どもを多く産みたいと思う人が沢山いると思う。幼稚園も預けられるのは17:30まで。夏休みの小学生の預け先は?女性がまず社会で平等でいられるのは子どもを安心して預けられる場所がない限りいつまでも実現は不可能だと思う。保育園の数を増やしたところで。助かるのはその保育園に入れた人達だけ。何百人と困っている人はいる。
男性	70歳代以上	無職	結婚している(事実婚含む)	男女平等は大賛成ですが男女の区別は不可欠です。混同しないようにしてください。
女性	70歳代以上	無職	結婚している(事実婚含む)	問9②に関して、能力や適性があれば誰が何をしても良いのでは?問9③に関して、今の時代は共働きしないと生活ができないようです。
女性	50歳代	専業主婦(夫)	結婚している(事実婚含む)	問10について:現在は働いておりませんが4年前まで病院で看護師をしていましたので、左記のようなことはほぼ感じませんでした。職種で大きく変わるのではないのでしょうか?今回のアンケートを受けさせていただき、男女差別と男女共同参画社会の区別が微妙なところにあると思いました。そもそも「男女」という言葉に男が先にきているのもおかしく感じてしまう。でもこれは昔からの言葉で文化的なことでもあるので、すべて否定できないと思う。「差別」と「共同参画」がごちゃごちゃにならないように、啓蒙・啓発活動も必要だと思う。今回のようなアンケートも知らせる意味が大きく啓蒙になっていると思う。
女性	50歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	男女共同参画と銘打っている事態不平等だと思う。女性のように男性は子どもは産めないし、男性のような力仕事を女性が担うのは筋肉の付き方が違うため無理だし、それぞれの性にあった社会の実現こそ男女共同参画社会ではないか。働き方、子育ては個々の経済的理由等によって変わるため、同一に統一するのは無理ではないか。
男性	40歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	問9②について:ケースバイケース、環境にもよる。
男性	70歳代以上	無職	結婚している(事実婚含む)	私は現役時代には会社では男女平等で能力により仕事に携わっていて、且つ、私の職務はこのような体制管理の立場にあったので多少理解しているが、全体的には周知されていない。政府の行政指導では中々国民に周知できないので地域自治体が主体となり、啓発に努めるべきである。
男性	70歳代以上	無職	結婚している(事実婚含む)	とにかく教育です。もちろん大人にも。次に保育施設の充実が必要です。
男性	60歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	◎第3次四街道市男女共同参画推進計画の内容が市民に理解されているとは思わない。◎広く市民に理解できるように要望する。
男性	70歳代以上	無職	結婚している(事実婚含む)	男性への質問としては無理な面があるように思いました。ご一考をお願いいたします。
女性	40歳代	正規雇用者	結婚したが、離別・死別している	男性女性とそれぞれ得意分野があり、全てを平等にするというのは難しいと思いますが、うまく間をとって良い社会になるといいと思います。
女性	40歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚している(事実婚含む)	どちらがということではなくお互いが相手を思いやる世の中になったらいいと思う。声の大きい人の意見が通るより皆の声を出し合える様になってほしい。

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
男性	30 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	女性には優秀な人が多いので、女性がもっと活躍できる社会になれば、日本はもっと良くなると思う。
女性	20 歳代以下	学生	結婚していない	将来、結婚・出産・育児のために仕事を辞めたくないです。保育面でのさらなる充実が必要かと思います。
女性	30 歳代	正規雇用者	結婚していない	問9②について：出産休暇などを活用。問9③について：出産休暇などを活用できるところが増えれば働ける。
女性	40 歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚している（事実婚含む）	日本は伝統的に性差別が続いているので、難しいですが改善されてほしいです。身の回りでもDVと思われていないことが原因だと思います。性差別ではなくそれぞれの得意とする役割分担ができるようになれば良いかと思います。
女性	40 歳代	非正規雇用者	結婚していない	社会全体に於いて男女の負担が均等でない場合、どちらか一方にストレスがかかり、例えば、家庭内において不調和が生じるため、子どもや高齢者への虐待、教育現場での「いじめ」等に繋がる。これらの防止のためにも「男女共同参画」がより一層進むことが重要である。
男性	40 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	主婦の地位向上も必要と思われる。例えば夫の職場から給料を分割して払う等。主夫の社会的地位の確立も必要で地域にうまく入るサポートをしていくべき。平等だけではなく体力的に弱い立場の女性を守る制度も必要。
女性	30 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	出産後の復職について、保育所の拡充は進んでいると感じていますが、小学校の学童（保育）については、保育所と比べて長期休暇中の朝の登所開始時間が遅い。また、定期的な父母会（月1回）もあり、親の負担が大きくなり、仕事のウェイトを減らさなくてはならない状況にあり、WLBがとりにくくなっています。
女性	70 歳代以上	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	地域・家庭での一人一人の交わり、かかわりが大切だと思います。
男性	50 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	◎男女共同参画社会の実現に向けてですが、現実の社会での余裕もお金もない状況では何も考えられない人々が多いのではないのでしょうか？◎時間があればご協力できれば良いと思います。◎現実を考えた場合、将来の生活等に不安を思う人が多いと思います。まずは現実、それから将来と考えた場合、自分の生活以外に他の事を考える余裕はないと思います。例えば選挙の投票率が50%以下であり、他人事であることではないのか？そんな形では男女共同参画社会の実現は何かを考えて進めないとうまくいかないと思います。
男性	70 歳代以上	無職	結婚している（事実婚含む）	この件、先進欧米諸国に比べ、日本は大きな遅れとなっているのが実態と思う。国はもっと国民に意識改革を進めることが必要と思う。このこととして先ず地方の行政から発信していくことが必要であると思う。
女性	40 歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚している（事実婚含む）	不妊治療助成金など人口増加のための支援をしてほしい。子育て支援の前に不妊助成だと思う。
女性	70 歳代以上	自営業	結婚している（事実婚含む）	いじめや自殺が無く幼児から老人まで居場所のあるコミュニティにしてほしいです。相談もサポートもとても大切なのではないのでしょうか？
女性	60 歳代	専業主婦（夫）	結婚している（事実婚含む）	シングルマザーで子育てをしている家庭が多くなっている現状・・・子供たちの貧困が無くなるよう、女性の仕事への働き方が充実するように願っています。
男性	50 歳代	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	「性別にかかわらず、誰もが尊重され、個性を發揮できる社会」を目指すことは賛同できる。そのためには、仕事をしている女性やその家族を対象とする施策ばかりではなく、専業主婦やパートタイム勤務の女性が個性を發揮して生き生きと暮らせる社会にしていくための施策やモデルを提示してほしい。
女性	70 歳代以上	正規雇用者	結婚している（事実婚含む）	以前、参画会議に参加しましたが、あまりにも平等を主張しすぎるかなと思いました。肉体的に違いがあるので。現在は仕事にも女性進出が目覚ましく出てきており、私どもの会社にも子育て中に別の資格を取り、入社している方もおります。DINKSを強調する余り、一生の子育ては取り返せないのでは、仕事も中断し、また仕事を始めるのも男性女性の別なくあるのでは。

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
男性	70歳代以上	自営業	結婚している(事実婚含む)	公共的・社会的・実質的に推進。
女性	70歳代以上	無職	結婚したが、離別・死別している	男性は仕事、女性は家事・育児と言われて育った年代の者ですが、これからの社会、男女共同参画社会の実現は大変良いことだと思います。現在の我が家の子供たちを見ておりまして、まだまだこの実現には程遠いかなと感じております。これからの社会、こうして前向きに考えていただければもっとより良い社会になるのではないのでしょうか？それには一人一人の努力も必要ですね！
女性	30歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	働く母として保育園の整備や学童(保育)の充実をしてもらっている点は評価しています。まだ子供が小さいので学童保育は利用していませんが、今後も小6まで預かってもらえる体制は続けてほしいと思います。働く親が預け先がなく退職しなくてはならない状況がないようにこれからもサポートをお願いしたいです。
男性	50歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	◎実現に向けてまず、現状がどうなっているかの認識が必要と思慮します。制度とかのほかには今の現状(何がどのように具体的な問題を抱えているのか)を「知るための情報提供をさらにお願いします。◎共同参画社会の基礎は普通に生活ができることとあります。引き続き雇用機会の拡充(保育体制を含む)の取り組みをお願いします。
女性	30歳代	自由業	結婚していない	未婚でフリーランスで活動しているため、社会で特に不都合を感じていませんが、周りから話を聞いたり、日本の政治への女性の関わり率などをみると、まだまだ古い考えが根強く残っていると思います。
女性	50歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚したが、離別・死別している	学校のPTA活動に男性の参加が少ない。役員は女性ばかり。男性が役員なので休みの希望するなんて聞いたこともない。役員決めに男性が参加しているのを見たことない。世のお母さんたちは「役員になったらどうしよう。大変だな」と思うことはあるが、父親はそんなことを心配したことないでしょう。いや、考えたことすらない人がほとんどだと思う。女性が働きにくいわけである。
女性	20歳代以下	学生	結婚していない	女性が働きやすくなる社会になればいいなと思います。
女性	40歳代	アルバイト・パートタイマー	結婚している(事実婚含む)	若い人より年配男性の方が女性軽視の傾向がある。例として、レジの前で自分の前に並んでいる女性のお客さんがお金を払うのに手こずっていると、待ちきれずに文句を言う、不機嫌になる年配男性が多い。「譲り合い」「ゆとりのある行動・生活」をとりあげたポスターを作成し、掲示板やお店に貼ってほしい。
女性	60歳代	専業主婦(夫)	結婚している(事実婚含む)	形だけのやっているアピールに終わることなく女性の働きやすい社会の実現に向け活躍されることを祈念します。
男性	60歳代	無職	結婚していない	若いお母さんの子育てが少しでも楽になることが、男女平等にも人口減少抑制にも繋がると思います。それにつけても、洗濯機も掃除機も紙おむつもレトルト食品もなく、5人10人と子育てをし、舅や姑の介護をした昔の女の人のすごさを改めて思う今日この頃です。
男性	20歳代以下	学生	結婚していない	まず真意を確かめるべきだと思います。「女性の人権が侵害されている」とありますが本当でしょうか？女性が逆にそれを利用し男性の人権を侵害していると自分は良く耳にします。より良い社会を目指すなら、色々な視点から物事を見て多くの賛同を得て初めて成り立つものだと思います。マスメディアなどの放送の姿勢も現状から変えるべきだと考えます。
男性	40歳代	正規雇用者	結婚している(事実婚含む)	世の中一般的に男女平等化が進んでいるが、自治体が一定の水準まで達していない気がする。市役所等の対応を含めて感じた言動有り。今後は一般企業の成功事例を真似し、市全体で取り組む必要がある。企業を多く誘致し、活性のあるまちづくりをした後共同参画の機会を増やしてほしい。問9について：個々の理想像があり一概に判断できない。

性別	年代	職業	配偶者	その他意見
女性	20歳代以下	正規雇用者	結婚していない	家事・育児で仕事をあきらめなくてはならないのは、女性ばかりであるため、その際にやめなくても済むような対策をとってほしい。自宅での仕事が可能、短時間勤務になったときの賃金補償、保育園に入りやすくする。1番は女性と男性がお互いに理解し合おうとする気持ちが必要です。必要だと思います。
男性	70歳代以上	無職	結婚している（事実婚含む）	個人が具体的に活動を実施する、目標を持つことが必要と思慮する。
男性	70歳代以上	アルバイト・パートタイマー	結婚している（事実婚含む）	夫婦が希望すれば2人以上の子供を出産し、夫婦で子育てできる社会と職場と法整備。出産により産休・育児休暇等夫婦ともにハンディを負わない。

## 【調査票】

# 四街道市男女共同参画市民意識調査

日ごろより、市政にご協力をいただき、ありがとうございます。

現在市では、第3次四街道市男女共同参画推進計画により「性別にかかわらず、だれもが個人として尊重され、個性を発揮できる社会」をめざして、各施策に取り組んでいます。

このアンケート調査は、「男女共同参画社会」の形成に対して、市民の皆様の意識や実態を把握し、今後の男女共同参画施策の参考とさせていただくことを目的とするものです。

アンケート調査の実施にあたり、市内にお住まいの18歳以上の方から2,000人を無作為に抽出しましたところ、あなたを対象とさせていただくことになりました。

このアンケートは、無記名ですべて統計的に処理いたしますので、お答えをいただいた皆様にご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところ、誠に恐れ入りますが、アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成29年10月

四街道市長 佐渡 斉

### 【記入にあたってのお願い】

- ◆ お答えは、この調査（封筒）のあて名の方ご本人がご記入ください。
- ◆ お答えは、このアンケート調査票に直接ご記入ください。
- ◆ 黒のボールペンまたはHBより濃い鉛筆でご記入ください。
- ◆ お答えは、四角の枠に記載されている選択肢の中から最もあてはまる数字を選んで○を付けていただく、選択式です。
- ◆ お答えが「その他」にあてはまる場合、（ ）内に具体的にご記入ください。
- ◆ アンケート調査票は、無記名式ですので、住所・氏名の記入は一切必要ありません。

### 【返送期限に関するお願い】

- ◆ ご記入いただいたアンケート調査票は、同封の返信用封筒に入れて、

11月17日（金曜）までに

郵便ポストへ投函してください。（※切手を貼る必要はありません。）

### ＜本調査に関する問い合わせ先＞

四街道市役所 経営企画部 政策推進課

TEL：043-421-6161 FAX：043-424-8920

## I. あなたご自身について伺います

(統計処理を行うために必要な情報です。回答日現在でお答えください。)

※ 次の①～④それぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

① 性別	1. 男性	2. 女性
② 年代	1. 20歳代以下 2. 30歳代 3. 40歳代	4. 50歳代 5. 60歳代 6. 70歳代以上
③ ご職業 (兼務の場合は 主なもの)	1. 農林業 2. 自営業(商・工・サービス業など) 3. 正規雇用者(会社員・商店・医療施設等職員・サービス業・公務員など) 4. 非正規雇用者(派遣社員・契約社員・嘱託など) 5. アルバイト・パートタイマー 6. 自由業(画家・作家など) 7. 学生 8. 専業主婦(夫) 9. 無職 10. その他( )	
④ 配偶者等 パートナー	1. 結婚している(事実婚含む) 2. 結婚していない 3. 結婚したが、離別・死別している	

## II. 男女平等に対するお考えについて伺います

問1. 次の①～⑧の場面で、男女の地位は現在において平等になっていると思いますか。それぞれの場面において、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

場面 \ 項目	A. 男性優遇	B. どちらかといえ ば 男性優遇	C. 平等	D. どちらかといえ ば 女性優遇	E. 女性優遇
①社会全体として	1	2	3	4	5
②家庭生活の中で	1	2	3	4	5
③職場で	1	2	3	4	5
④教育の中で	1	2	3	4	5
⑤政治の場で	1	2	3	4	5
⑥法律や制度の上で	1	2	3	4	5
⑦社会通念・慣習・しきたり等において	1	2	3	4	5
⑧区・自治会、PTAなどの地域活動の場で	1	2	3	4	5

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 賛成         | 4. どちらかといえば反対 |
| 2. どちらかといえば賛成 | 5. 反対         |
| 3. どちらともいえない  |               |

### Ⅲ. 男女共同参画の取組について伺います

「男女共同参画社会」とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意志によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義されています。(男女共同参画基本法第2条)

問3(1). 市の男女共同参画推進計画でめざしている「性別にかかわらず、だれもが個人として尊重され、個性を発揮できる社会」の実現についてどのように思いますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

- |                |          |                   |       |
|----------------|----------|-------------------|-------|
| 1. とても良いことだと思う | } 問3(2)へ | 4. あまり良いことだと思わない  | } 問4へ |
| 2. まあ良いことだと思う  |          | 5. まったく良いことだと思わない |       |
| 3. どちらともいえない   |          |                   |       |

問3(2). 問3(1)で1～3を選んだ方に伺います。男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあてはまる数字すべてに○をつけてください。

- |  |   |
|--|---|
| 1. 男女共同参画に関する広報・啓発を推進する                |   |
| 2. 社会教育などにおいて、男女平等・男女共同参画に関する学習機会を充実する |   |
| 3. 学校教育において、男女平等の教育を推進する               |   |
| 4. 女性や男性の生き方・悩みに関する相談など相談の場を充実する       |   |
| 5. 市としての政策・方針決定の場へ女性の参画を拡充する           |   |
| 6. 子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う               |   |
| 7. 仕事と家庭の両立のための事業所への意識啓発を行う            |   |
| 8. 男女の平等と相互の理解・協力についての意識啓発や研修を実施する     |   |
| 9. 支援を必要とする高齢者や障害者などに対するサービスの利用を促進する   |   |
| 10. 職場における男女の均等な取扱いについて、周知徹底を行う        |   |
| 11. 女性のチャレンジ支援を推進する(起業、リーダー養成、地域活動など)  |   |
| 12. 異性や子どもに対する暴力防止対策や被害者支援を推進する        |   |
| 13. 防災や復興支援などにおいて、男女共同参画を推進する          |   |
| 14. その他(具体的に: _____)                   | ) |
| 15. 特にない                               |   |



#### IV. 「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」について伺います

ワーク・ライフ・バランスとは「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」と定義されています。(内閣府)

問4. 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
3. 言葉も内容も知らない

問5(1). あなたの現在の日常生活の中で、「仕事・学業」「家庭等の個人生活」「地域・ボランティア等の活動(地域活動)」への関わり方は、次の1~7のうちどれにあてはまりますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

- ・「仕事」…自営業主、家族従業者、雇用者として週1時間以上働いていること。  
常勤、パート、アルバイト、派遣、嘱託など働き方は問わない。
- ・「学業」…学生
- ・「家庭等の個人生活」…家事(食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買物など)、子育て、余暇、介護、看護など
- ・「地域活動」…自治会やPTA、ボランティアなど

1. ほぼ「仕事・学業」に専念している
2. 「家庭等の個人生活」「地域活動」にも携わっているが、「仕事・学業」を優先させている
3. 「家庭等の個人生活」「地域活動」と「仕事・学業」に同じくらい携わっている
4. 「仕事・学業」にも携わっているが、「家庭等の個人生活」「地域活動」を優先させている
5. ほぼ「家庭等の個人生活」「地域活動」に関わっている
6. ほぼ「家庭等の個人生活」に関わっている
7. ほぼ「地域活動」に関わっている

問5(2). 現在「家庭等の個人生活」のための時間は十分とれていると思いますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

1. 十分取れている
2. まあ取れている
3. あまり取れていない
4. 全く取れていない
5. わからない

問6. 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境づくりが必要だと思いますか。次の中からあてはまる数字を3つまで選んで○をつけてください。

- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| 1. 育児・介護休業等の取得期間延長などの制度の充実            |  |
| 2. 育児・介護休業中の代替要員の確保など制度を利用しやすい職場環境の整備 |  |
| 3. 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援の充実          |  |
| 4. 保育施設の整備、幼稚園等での保育時間の延長など保育内容の充実     |  |
| 5. 病児保育を充実させること                       |  |
| 6. 在宅勤務、フレックスタイム制度など柔軟な勤務制度の導入        |  |
| 7. 時間外労働の縮減など、年間労働時間を短縮すること           |  |
| 8. パートタイマーなど非正規雇用者の労働条件を改善すること        |  |
| 9. 家族など周囲の理解と協力があること                  |  |
| 10. その他（具体的に： _____）                  |  |
| 11. わからない                             |  |

問7. 現在、配偶者等パートナーと暮らしている方に伺います。（これまでに配偶者等パートナーと暮らした経験のない方は問7(2)へお進みください。）

※「夫」、「妻」には配偶者以外のパートナーを含む。

問7(1). 【実態】①～⑩の家事等をどなたがしていますか。（またはどなたがしていましたか。）

①～⑩のそれぞれの項目について、次の中からあてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

家事等	どなたが？						
	A. ほとんど妻	B. どちらかと言えは妻	C. 夫婦とも同じ程度	D. どちらかと言えは夫	E. ほとんど夫	F. 夫婦以外の人	G. 該当なし
① 食事の支度・後片付け	1	2	3	4	5	6	
② 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	
③ 食料品・日用品等の買物	1	2	3	4	5	6	
④ 不動産等高価な買物	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 家計費の管理	1	2	3	4	5	6	
⑥ 乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 子どもの学校行事等への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 介護や看護を要する家族の世話	1	2	3	4	5	6	7
⑨ 自治会や地域活動への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑩ 自治会や地域活動の役員、責任者	1	2	3	4	5	6	7

問7(2).【理想】①～⑩の家事等をどなたにしてほしいですか。①～⑩のそれぞれの項目について、次の中からあてはまる数字に1ずつつ〇をつけてください。

家事等 どなたに?	A. ほとんど妻	B. えは妻 どちらかと言	C. 程度 夫婦とも同じ	D. えは夫 どちらかと言	E. ほとんど夫	F. 夫婦以外の人	G. 該当なし
① 食事の支度・後片付け	1	2	3	4	5	6	
② 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	
③ 食料品・日用品等の買物	1	2	3	4	5	6	
④ 不動産等高価な買物	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 家計費の管理	1	2	3	4	5	6	
⑥ 乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 子どもの学校行事等への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 介護や看護を要する家族の世話	1	2	3	4	5	6	7
⑨ 自治会や地域活動への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑩ 自治会や地域活動の役員、責任者	1	2	3	4	5	6	7

## V. 防災・災害復興対策について伺います

問8. あなたは、防災・災害復興対策で女性の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。次の中からあてはまる数字を3つまで選んで〇をつけてください。

1. 避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策など）
2. 避難所の責任者に女性が配置され、災害者対応に女性の視点が入ること
3. 乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品など）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮
4. 災害時の救援医療体制（診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）
5. 被災者に対する相談体制
6. 対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること
7. 防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること
8. 特にない
9. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
10. わからない

## VI. 女性の就業のあり方や現状について伺います

問9. 女性（男性の場合は「妻・パートナー」）の働き方として、①理想の働き方、②現実の働き方、③これからの女性の働き方について、A～Hの就業形態であてはまる数字を次の中から1つずつ選んで○をつけてください。

働き方	就業形態							
	A. 結婚や出産にかかわらず、 ずっと仕事を持ち続ける	B. 妊娠・出産を機にいったん仕 事を辞め、子育てなどが落ち 着いてから再び働く	C. 妊娠・出産を機に家庭に入り、 その後は家事や子育てに専 念する	D. 結婚するまでは職業に就き、 結婚したら家事に専念する	E. 結婚後または子育てが落ち着 いてから、初めて仕事を持つ	F. ずっと仕事を持たない	G. わからない	H. その他
①理想の働き方	1	2	3	4	5	6	7	8
②現実の働き方	1	2	3	4	5	6	7	8
③これからの 女性の働き方	1	2	3	4	5	6	7	8

### 【その他記入欄】

①その他	
②その他	
③その他	

問10. 現在、仕事をされている方に伺います。（現在、仕事をされていない方は問11へお進みください。）職場で次のようなことがありますか。（あると感じますか。）次の中からあてはまる数字すべてに○をつけてください。

1. 募集や採用に性別による格差がある
2. 賃金・昇給で性別による格差がある
3. 昇進・昇格で性別による格差がある
4. 雇用形態に性別による格差がある
5. 時間外労働に性別による格差がある
6. 定年に性別による格差がある
7. 深夜業に性別による格差がある
8. 住宅資金の貸付に性別による格差がある
9. 配置や仕事の与え方に性別による格差がある
10. 教育訓練や研修等に性別による格差がある
11. 結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある
12. 性別による格差は感じない

## Ⅶ. 子どもの性別による子育てのあり方について伺います

問 11. 子どもの性別や子育てのあり方についてどう思いますか。次の①～⑤それぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

項目	A. そう思う	B. どちらかといえば そう思う	C. どちらとも言えない	D. どちらかといえば そう思わない	E. そう思わない
①男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい	1	2	3	4	5
②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい	1	2	3	4	5
③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり、優しさ等を備えることを求めたい	1	2	3	4	5
④性別に関係なく、子どもの個性と意見を大事に伸ばしたい	1	2	3	4	5
⑤男の子には、女の子以上に、高い学歴を身につけさせたい	1	2	3	4	5

## Ⅷ. 女性の人権について伺います

問 12. 「女性の人権が侵害されている」と感じるのはどのような場合ですか。次の中からあてはまる数字すべてに○をつけてください。

1. レイプ（強姦）、痴漢等の性暴力・性犯罪
2. 職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）
3. ストーカー等の女性へのつきまとい・待ち伏せ行為
4. 夫（パートナー）や交際相手などからの暴力
5. 買春・売春・援助交際
6. 夫婦間での一方的な性関係の強要
7. 風俗店等の性産業
8. ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真等、女性を性的対象とするような表現
9. 職場での男性との待遇の差
10. 家事労働の女性への偏り
11. 「婦人」「未亡人」「女流」等女性にだけ用いられる言葉
12. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問 13. セクシュアル・ハラスメントについて伺います。(お答えいただける方のみで結構です。) これまでに、職場や学校、地域活動のそれぞれの場面において、①～⑩のような経験をして不快・苦痛な思いをしたことがありますか。①～⑩それぞれの項目について、あてはまる数字すべてに○をつけてください。

※セクシュアル・ハラスメントは、社会的な力関係を濫用して相手の心と身体を傷つけ、ひいては働く権利や学ぶ権利をも脅かす行為です。次に示す①～⑩の項目は、セクシュアル・ハラスメントと見なされます。

項目	A. した 職場で経験	B. した 学校で経験	C. た 場で経験した 地域活動の	D. 経験はない
①不必要に身体を触られた	1	2	3	4
②交際や性的関係を迫られた	1	2	3	4
③交際や性的関係を拒否して、不当な扱いや嫌がらせを受けた	1	2	3	4
④宴会でお酌やデュエットを強要された	1	2	3	4
⑤ヌード写真等を故意に見せられた	1	2	3	4
⑥性的なうわさを流された	1	2	3	4
⑦しつこく容姿のことを言われた	1	2	3	4
⑧異性との交際関係や結婚、出産について度々聞かれた	1	2	3	4
⑨性的な冗談や会話につき合わされた	1	2	3	4
⑩メールに「かわいいね」や「食事に付き合って」などが送られてきた	1	2	3	4

問 14. ドメスティック・バイオレンス（DV）について伺います。(お答えいただける方のみで結構です。) これまでに配偶者や恋人等から次の①～④の暴力行為を受けたことがありますか。①～④それぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

※ドメスティック・バイオレンスは、配偶者や恋人等日常をともにする相手から受ける肉体的・精神的な暴力行為で、言葉による暴力や性行為の強要、物の破壊なども含みます。

項目	A. 頻繁に受けている	B. 何度か経験がある	C. 過去に経験したが 今はない	D. 経験がない
①精神的な暴力（無視する、なじる、おとしめる、おどす、嫌がらせをする、つきまとう、行動や交友関係等を監視したり禁止する等）	1	2	3	4
②肉体的な暴力（殴る、蹴る、物を壊す等）	1	2	3	4
③性的な暴力（望まない性行為の強要、避妊への非協力等）	1	2	3	4
④経済的な暴力（生活費を渡さない、外で働かせない等）	1	2	3	4

## IX. 男女共同参画に関する法律やことば等について伺います

問 15. 次の①～⑱の項目をこれまでに見たり聞いたりしたことがありますか。①～⑱それぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ○を付けてください。

項 目	認 知 度		
	A. 内容を 知っている	B. 名前を 聞いた ことがある	C. 知らない
①男女共同参画社会基本法	1	2	3
②DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）	1	2	3
③男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）	1	2	3
④国の「男女共同参画基本計画（第4次）」	1	2	3
⑤千葉県男女共同参画計画（第4次）	1	2	3
⑥千葉県女性サポートセンター	1	2	3
⑦千葉県男女共同参画センター	1	2	3
⑧千葉県男女共同参画苦情処理委員制度	1	2	3
⑨四街道市男女共同参画推進計画	1	2	3
⑩ファミリー・サポート・センター	1	2	3
⑪配偶者暴力相談支援センター	1	2	3
⑫家族経営協定	1	2	3
⑬ダイバーシティ	1	2	3
⑭女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別を撤廃する条約）	1	2	3
⑮女性活躍推進法	1	2	3
⑯ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
⑰ジェンダー（社会的、文化的に形成された性別）	1	2	3
⑱リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3

◎男女共同参画社会の実現に向け、ご意見やご要望をお聞かせください。

アンケートは以上です。

お忙しいところ最後までご協力いただきまして、誠にありがとうございました。